

# 本書の構成

---

## 本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書で使用している表記について説明しています。

---

## 第 1 章 ServerView の概要

この章では、ServerView の概要、管理形態、システム要件について説明しています。ServerView をお使いになる前に必ずお読みください。

---

## 第 2 章 インストール

この章では、ServerView コンソールのインストール方法について説明しています。

---

## 第 3 章 ServerView の使用方法

この章では、ServerView によるサーバ監視機能の使用方法について説明しています。

---

## 第 4 章 他のソフトウェアとの連携

この章では、他のソフトウェアとの連携について説明しています。

---

## 付録

この章では、トラブルシューティングや各種リスト、技術情報などの補足情報について説明しています。

# 本書をお読みになる前に

## 本書の表記

### ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

### ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

### ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

### ■ 「CD/DVD ドライブ」の表記について

本書では、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブなどを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。お使いの環境に合わせて、ドライブ名を読み替えてください。

### ■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

diskcopy a: a:  
      ↑   ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。

- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。

- CD/DVD ドライブのドライブ文字は、お使いの環境によって異なるため、本書では【CD/DVD ドライブ】で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせてドライブ文字を入力してください。

【CD/DVD ドライブ】 :¥setup.exe

## ■ Linux の操作について

お使いのバージョンにより、CD/DVD ドライブおよびフロッピーディスク ドライブへのマウントコマンドが異なります。本書で「/mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/」、「mnt または media/floppy」と記載している操作については、お使いのバージョンにより、以下の操作に読み替えてください。

- RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(IPF) の場合  
/media/cdrecorder、/media/floppy
- RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64)/RHEL-AS4(EM64T)/ES4(EM64T) の場合  
/media/cdrom、/media/floppy

### 重要

- ▶ RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) の場合、マウント処理は以下の手順で行ってください。

```
# mkdir /media/cdrom
# mount /dev/cdrom /media/cdrom
または
# mkdir /media/floppy
# mount /dev/floppy /media/floppy
```

- RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86) の場合  
/mnt/cdrom、/mnt/floppy

## ■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ■ PRIMERGY スタートアップディスクについて

ご購入時の状態によって、製品に添付されているディスクが以下のいずれかのディスクになります。

- PRIMERGY スタートアップディスク
- PRIMERGY スタートアップディスク for Linux

本書では、いずれのディスクも「PRIMERGY スタートアップディスク」と表記しています。お手持ちのディスクに読み替えてください。

## ■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V™	Windows Server 2008 または Windows Server 2008 (64-bit)	Windows
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft® Windows® Small Business Server 2003	Windows Server 2003	
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2 Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64	
Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Server	
Microsoft® Windows® Server Network Operating System Version 4.0 Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP	
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System 4.0	Windows NT 4.0	
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	Red Hat Linux	Linux
	RHEL5(x86)	
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	RHEL5(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)	RHEL-AS4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)	RHEL-ES4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)	RHEL-AS4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)	RHEL-ES4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86)	RHEL-AS3(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for Itanium)	RHEL-AS3(IPF)	
Red Hat Enterprise Linux ES (v.3 for x86)	RHEL-ES3(x86)	
SUSE® Linux® Enterprise Server 9 for x86	SUSE Linux	
	SLES9(x86)	
Intel LANDesk® Server Manager	LDSM	

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記
リモートサービスボード (PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 )	リモートサービスボード

## 参考情報

### ■ ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerView をお使いになる前に、必ずお読みください。  
「ソフトウェア説明書」は、"S2\_Hints.txt"、"Hints.txt"、"Agent\_Hints.txt" というファイル名で、PRIMERGY スタートアップディスクに格納されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

### ■ 機種による制限事項、サポート OS について

お使いの機種によっては一部機能が制限される場合があります。機種ごとの制限事項については、「ソフトウェア説明書」(Agent\_Hints.txt) 内に記載されています。ServerView をお使いになる前に、ご確認ください。

本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください。

### ■ ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、インターネット情報ページ  
(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>) に記載されています。

### ■ 商標

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。  
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。  
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。  
SUSE は米国 Novell, Inc. の一部門である SUSE LINUX AG の登録商標です。  
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。  
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2008

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。



# 目 次

## 第 1 章 ServerView の概要

1.1 ServerViewとは .....	12
1.1.1 ハードウェアの監視 .....	13
1.1.2 異常発生の通知／サーバ状況の確認 .....	15
1.1.3 自動再構築 & 再起動 .....	16
1.1.4 Systemwalkerとの連携 .....	16
1.1.5 リモート管理 .....	16
1.1.6 リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理 .....	17
1.1.7 リモートマネジメントコントローラを使用した高度なサーバ管理 .....	17
1.1.8 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理） .....	17
1.1.9 留意事項 .....	17
1.2 ServerViewのコンポーネント .....	18
1.3 システム要件 .....	19

## 第 2 章 インストール

2.1 インストールの流れ .....	24
2.2 インストール前の確認 .....	26
2.2.1 [Windows] TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール .....	26
2.2.2 [Windows] バインド順序の変更 .....	32
2.2.3 [Windows] Service Pack の適用 .....	33
2.2.4 データベースエンジンのインストール .....	33
2.2.5 Web サーバのインストール .....	36
2.2.6 [Linux] SELINUX の設定を確認する .....	39
2.2.7 [Linux] RPM のチェック .....	39
2.3 インストール .....	40
2.3.1 [Windows] ServerView Windows コンソールのインストール .....	40
2.3.2 [Windows] ServerView AlarmService のインストール（監視対象サーバ）	48
2.3.3 [Linux] ServerView Linux コンソールのインストール .....	55
2.4 インストール後の設定 .....	64
2.4.1 Web ブラウザのインストール .....	65
2.4.2 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール .....	66
2.4.3 オプション装置の割り込み（MIB）情報の登録 .....	68
2.4.4 [Windows] IIS の設定 .....	69
2.4.5 [Linux] 各サービスの設定 .....	72
2.4.6 インストール後のコンピュータ情報変更 .....	75
2.4.7 SNMP 設定の変更方法 .....	76
2.4.8 必要ないアラームを抑止する .....	77
2.4.9 [Windows] データベースが使用する最大メモリ容量を設定する .....	77

<b>2.5 アンインストール.....</b>	<b>79</b>
2.5.1 [Windows] ServerView Windows コンソールのアンインストール .....	79
2.5.2 [Linux] ServerView Linux コンソールのアンインストール .....	81
<b>2.6 アップデートインストール.....</b>	<b>82</b>

## 第3章 ServerView の使用方法

<b>3.1 ServerView S2の起動と終了 .....</b>	<b>84</b>
3.1.1 ServerView S2 の起動 .....	84
3.1.2 ServerView S2 のメニュー（機能一覧） .....	88
3.1.3 監視対象サーバの登録 .....	90
3.1.4 サーバ設定の確認／変更 .....	93
3.1.5 ユーザ／パスワード設定 .....	97
3.1.6 単位設定 .....	98
3.1.7 電源制御 .....	98
<b>3.2 サーバの監視 .....</b>	<b>101</b>
3.2.1 サーバの状態確認 .....	101
3.2.2 サーバの各監視項目の詳細確認 .....	104
3.2.3 構成情報の表示 .....	109
3.2.4 アクション .....	114
3.2.5 オペレーティングシステムの情報表示 .....	116
3.2.6 外部記憶装置の状態確認 .....	117
3.2.7 ベースボードの状態確認 .....	122
3.2.8 コンポーネントの状態確認 .....	126
3.2.9 リモートマネージャ .....	130
3.2.10 コンポーネントステータス .....	131
<b>3.3 ブレードサーバの監視 .....</b>	<b>132</b>
<b>3.4 異常発生時の対処 (ASR) .....</b>	<b>136</b>
3.4.1 設定方法 .....	136
<b>3.5 アラームサービス.....</b>	<b>143</b>
3.5.1 アラームサービスの起動 .....	143
3.5.2 アラームモニタ .....	145
3.5.3 アラーム設定の起動と操作の流れ .....	152
3.5.4 アラーム設定（アラームルールの作成） .....	156
3.5.5 アラーム設定（フィルタルールの設定） .....	172
3.5.6 アラーム設定（共通設定） .....	175
3.5.7 アラーム設定例 .....	176
3.5.8 MIB の登録（MIB インテグレータ） .....	183
<b>3.6 パフォーマンスマネージャ .....</b>	<b>185</b>
3.6.1 パフォーマンスマネージャの起動 .....	186
3.6.2 しきい値の定義／変更 .....	187
3.6.3 しきい値セットの新規作成／編集 .....	191
3.6.4 レポートの定義／変更 .....	192
3.6.5 レポートセットの新規作成／編集 .....	194
3.6.6 サーバへの適用 .....	195

3.6.7 レポートの参照／設定 .....	195
3.6.8 相違点の確認と解消 .....	204
<b>3.7 アーカイブデータの管理 .....</b>	<b>205</b>
3.7.1 アーカイブマネージャの起動 .....	205
3.7.2 アーカイブデータを作成する .....	206
3.7.3 アーカイブデータ取得のタスク設定 .....	207
3.7.4 アーカイブデータの表示／比較／削除 .....	209
3.7.5 アーカイブデータのログ .....	213
3.7.6 インポートアーカイブ .....	214
<b>3.8 パワーモニタ .....</b>	<b>215</b>
<b>3.9 ServerView コンソールのシステムサービス .....</b>	<b>218</b>
3.9.1 ServerView コンソールのシステムサービスの起動方法 .....	218
3.9.2 ServerView コンソールのシステムサービスの停止方法 .....	222

## 第4章 他のソフトウェアとの連携

<b>4.1 Systemwalker連携 .....</b>	<b>228</b>
4.1.1 Systemwalker と ServerView 連携による管理 .....	228
4.1.2 Systemwalker との連携による機能 .....	229
4.1.3 Systemwalker との連携手順 .....	230
<b>4.2 Network Node Manager</b>	
<b>(hp OpenView / 日立 JP1) 連携 237</b>	
4.2.1 連携できる NNM のバージョン .....	237
4.2.2 概要 .....	237
4.2.3 NNM との連携手順 .....	238
<b>4.3 信号灯制御プログラムとの連携 (ラック管理) .....</b>	<b>243</b>
4.3.1 概要 .....	243
4.3.2 信号灯制御プログラムの設定 .....	245
4.3.3 ServerView 監視対象への信号灯追加／設定 .....	246
4.3.4 アラーム設定 .....	247
4.3.5 信号灯の消灯 .....	251
<b>4.4 RAID Manager 連携 .....</b>	<b>252</b>
4.4.1 RAID Manager 連携の概要 .....	252
4.4.2 ServerView RAID Manager (Web クライアント) の起動方法 .....	253

## 付 錄

<b>A トラブルシューティング .....</b>	<b>256</b>
A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング .....	256
A.2 ServerView S2 のトラブルシューティング .....	257
A.3 アラームサービスのトラブルシューティング .....	266
A.4 その他 .....	273
<b>B アイコンリスト .....</b>	<b>279</b>
B.1 Server List .....	279
B.2 ServerView メニュー .....	280

B.3 Mylex の Device View ウィンドウ .....	281
B.4 DPT Disk Array Devices ウィンドウ .....	281
B.5 ネットワークインターフェースウィンドウ .....	282
B.6 バスとアダプタウィンドウ .....	282
B.7 アラームモニタ画面 .....	283
B.8 ブレードサーバのステータス .....	283
B.9 その他のアイコン .....	285
<b>C トランザクションリスト.....</b>	<b>286</b>
<b>D 技術情報.....</b>	<b>287</b>
D.1 エージェントと ServerView コンソール .....	287
D.2 Management Information Base .....	288
D.3 SNMP の基本原理 .....	289
D.4 アクセス権設定 .....	292
D.5 パフォーマンスマネージャにおけるリソースについて .....	300
D.6 ServerView コンソールのプロセス（デーモン）について .....	302

## 第1章

# ServerView の概要

この章では、ServerView の機能、管理形態、システム要件について説明します。

1.1 ServerView とは .....	12
1.2 ServerView のコンポーネント .....	18
1.3 システム要件 .....	19

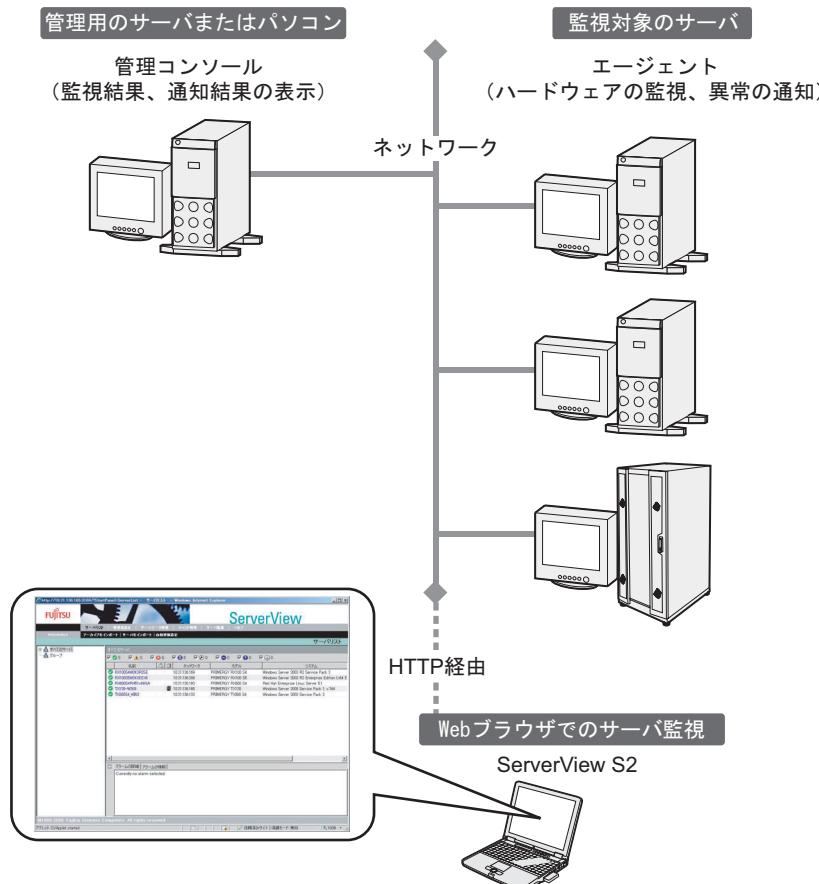
## 1.1 ServerView とは

ServerView は、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを、ネットワーク経由で監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバが常時監視下に置かれ、異常が検出された場合には、サーバの管理者にリアルタイムに通知されます。

ここでは、ServerView の機能を紹介します。

ServerView には複数のコンポーネントがあり、監視対象のサーバで実際に監視を行ったり、異常を通知したりするソフトウェアを「ServerView エージェント」と呼び、監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンで、監視結果を参照したり、監視対象サーバをコントロールしたりするソフトウェアを「ServerView コンソール」と呼びます。

ServerView コンソールには、Web ブラウザでサーバの監視を行う ServerView S2 の機能があり、ServerView コンソールをインストールしていないサーバ、またはパソコンからでもサーバの監視が行えます。ServerView コンソールと ServerView エージェントの両方をインストールするか、または、それぞれを個別にインストールするか、ネットワーク構成やサーバの OS に合わせて選択できます。



## ■ サーバの監視方法

サーバの状態を確認したり、サーバ監視のための設定を行ったりするには、「ServerView S2」を使用します。

ServerView コンソールの機能「ServerView S2」を使用すると、Web ブラウザを使用して監視対象サーバを監視できます。

ServerView S2 の起動や操作方法については「第 3 章 ServerView の使用方法」(→ P.83) を参照してください。

## ■ ServerView の機能

ServerView をインストールすることで、サーバの確実な運用を支援する、以下のような機能が利用できます。

- ハードウェアの監視 (→ P.13)
- 異常発生の通知／サーバ状況の確認 (→ P.15)
- 自動再構築 & 再起動 (→ P.16)
- 他のソフトウェア (LDSM、Systemwalker など) との連携 (→ P.16)
- リモート管理 (→ P.16)
- リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理 (→ P.17)
- リモートマネジメントコントローラを使用した高度なサーバ管理 (→ P.17)
- 信号灯制御プログラムとの連携 (ラック管理) (→ P.17)

### 1.1.1 ハードウェアの監視

---

ServerView は、サーバ本体のハードウェアコンポーネント、および搭載オプション装置の監視を行います。

## ■ 監視できるハードウェア

ServerView で監視できる、サーバ本体のハードウェアコンポーネント、およびオプション装置は、以下のとおりです。

これらの監視は ServerView エージェントをインストールすることにより、自動的に開始されます。監視項目に対しての特別な設定は必要ありません。

ただし、以下の場合は監視対象サーバに ServerView AlarmService がインストールされている必要があります。

- RAID 監視 (RAID Manager 連携)
- REMCS 連携

REMCS については、『REMCS エージェント運用ガイド』を参照してください。

## ● サーバ本体のハードウェアコンポーネント

機種により、監視できるハードウェアコンポーネントは異なります。

表：ハードウェアコンポーネント

監視できるコンポーネント	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	CPU・筐体内の温度
CPU	搭載 CPU 情報の表示、エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファン
筐体	筐体の開閉
メモリ	搭載情報の表示
電源	故障

## ● オプション装置

オプションで MIB ファイルが提供されている場合には、「2.4.3 オプション装置の割り込み (MIB) 情報の登録」(→ P.68) を参照して割り込み情報を登録してください。

表：オプション装置

監視できるオプション装置	監視概要
オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスクユニット	デバイス情報の表示
SCSI カード	カード情報の表示
SAS カード	カード情報の表示
LAN カード	インターネット情報の表示／イーサネット MAC 統計情報の表示
SCSI アレイコントローラカード	ドライブ一覧の表示／カード情報の表示／デバイス情報の表示
SAS アレイコントローラカード	ドライブ一覧の表示／カード情報の表示／デバイス情報の表示
IDE-RAID コントローラカード	ドライブ一覧の表示／カード情報の表示／デバイス情報の表示
SATA アレイコントローラカード	ドライブ一覧の表示／カード情報の表示／デバイス情報の表示

### POINT

#### SCSI アレイコントローラカードを監視する場合

- ▶ SCSI アレイコントローラカードに添付されている SCSI-RAIDmanager (ServerView RAID Manager、GAM (Global Array Manager)、StorageManager) のインストールが必要です。

#### SAS アレイコントローラカードを監視する場合

- ▶ SAS アレイコントローラカードに添付されている SAS-RAIDmanager (ServerView RAID Manager、GAM (Global Array Manager)) のインストールが必要です。

#### IDE-RAID コントローラカードを監視する場合

- ▶ IDE-RAID コントローラカードに添付されている IDE-RAIDmanager (PROMISE Fasttrak、PAM (PROMISE ARRAY MANAGEMENT)) のインストールが必要です。

#### SATA アレイコントローラカードを監視する場合

- ▶ SATA アレイコントローラカードに添付されている SATA-RAIDmanager (ServerView RAID Manager) のインストールが必要です。

## 1.1.2 異常発生の通知／サーバ状況の確認

ServerView は、異常の発生を ServerView コンソールに通知したり、サーバの状況を確認したりするための手段を提供します。

管理者は、サーバの現在の状況とトラブルの原因を確実に把握でき、トラブルに早期に対応できます。

通知するアラームの内容などは、柔軟に設定することが可能になっており、システムの運用形態に合わせて詳細に設定できます。

### ■ 異常発生の通知

ServerView は、サーバのハードウェアに異常を発見すると、監視プログラム（エージェント）がサーバのイベントログにイベントを格納し、SNMP トрапを通知します。

管理者は、ServerView のアラームサービスを使用して、アラームの参照、編集、通知方法の設定などを行えます。詳細は「3.5 アラームサービス」（→ P.143）を参照してください。

また、管理者は「しきい値」と呼ばれる監視基準を独自に設定でき、設定したしきい値を超えたら通知を行うよう、ServerView を設定できます（なお、しきい値の設定の有無にかかわらず、機種ごとに設定されている初期値での監視は常に行われています）。

しきい値の設定については、「3.6 パフォーマンスマネージャ」（→ P.185）を参照してください。

### POINT

- ▶ ServerView Windows エージェントが格納するイベントログは、以下のとおりです。  
ログの種類：アプリケーション  
ソース名：ServerView Agents
- ▶ ServerView Linux エージェントが格納するシステムログは、以下のとおりです。  
先頭の文字列が「Serverview:」

### ■ サーバ状況の確認

ServerView は、サーバ状況を確実に把握するための、以下の機能を備えています。

#### ● バージョン管理機能

サーバのハードウェアコンポーネント、ソフトウェアの一覧を ServerView コンソール画面で確認できます。これらのバージョンを確認することで、サーバの各コンポーネントの状況を把握できます。バージョン管理は、アーカイブマネージャで行います。詳細は、「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」（→ P.205）を参照してください。

#### ● アーカイブ機能

ServerView のアーカイブサービスを利用して、サーバの状況を定期的に「アーカイブデータ」として記録できます。記録したアーカイブデータとトラブル発生後のアーカイブデータを比較することで、トラブルの原因を調査することができます。

アーカイブデータの作成や比較などの操作は、「アーカイブマネージャ」で行います。詳細は「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」（→ P.205）を参照してください。

### ● レポート機能

レポート作成では、選択した項目に対して、一定の期間定期的に測定した値を記録して、評価のために、表またはグラフの形で表示できます。これにより、サーバを長期的に監視することができます。詳細は「3.6 パフォーマンスマネージャ」(→ P.185) を参照してください。

### ● 消費電力表示機能

パワーモニタでは、サーバが消費する電力量を表およびグラフの形で表示できます。詳細は「3.8 パワーモニタ」(→ P.215) を参照してください。

## 1.1.3 自動再構築 & 再起動

ServerView は、「ASR (Automatic Server Reconfiguration & Restart : 自動再構築 & 再起動)」と呼ばれる、異常発生時にサーバを自動的に再起動したりシャットダウンしたりする機能を備えています。この機能を使用することで、異常が発生したサーバを安全にシャットダウンしたり、再起動後に異常箇所のみを使用不能にしてサーバ運用を継続したりすることができます。

ASR の設定方法については、「3.4 異常発生時の対処 (ASR)」(→ P.136) を参照してください。

## 1.1.4 Systemwalker との連携

ServerView は、統合管理ソフトウェア Systemwalker の統合管理サーバに SNMP トランプルを送信し、Systemwalker と連携して動作できます。

Systemwalker と連携することで、より統合的なサーバ管理が可能になります。ServerView での監視結果を Systemwalker の統合管理サーバに送信したり、Systemwalker から ServerView コンソールを起動したりできます。

Systemwalker との連携方法については、「4.1 Systemwalker 連携」(→ P.228) を参照してください。

## 1.1.5 リモート管理

ServerView に添付されている「RemoteControlService」のインストールと、サーバの BIOS 拡張機能を設定することにより、サーバの管理者のパソコンからサーバの再起動やシャットダウン、BIOS セットアップなどを行えます。管理者は、サーバの設置場所に移動することなく、サーバの管理を行えます。

RemoteControlService のインストール方法、BIOS の設定方法などについては、『ServerView ユーザーズガイド (RemoteControlService 編)』を参照してください。

### 重要

- ▶ RemoteControlService は、BIOS セットアップなどサーバ運用にかかる重要な設定をパソコンから操作できてしまいます。サーバの管理者など、十分な知識を持った方のみ、操作を行ってください。

## 1.1.6 リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理

リモートサービスボード（RSB : Remote Service Board）は、専用の CPU・OS・通信インターフェース・電源を備えたオプションの拡張カードです。サーバの状態にかかわらず動作し、サーバがダウンしてサーバ単独で異常状態の通知ができない状態でも、監視や情報の通知を行います。サーバの管理者は、パソコンの Web ブラウザから、RSB を通じてサーバの状況を把握し、強制的に電源を入れたり、リセットしたりするなどの復旧作業を行えます。RSB を使用するためには、ドライバのインストールなど事前に準備が必要です。詳細については、『リモートサービスボードユーザーズガイド』を参照してください。

## 1.1.7 リモートマネジメントコントローラを使用した高度なサーバ管理

リモートマネジメントコントローラは、ベースボード（On Board）に搭載される Baseboard Management Controller（BMC）にリモートサービスボード（RSB）の機能を付加し、リモート環境からサーバの状態確認や設定、電源制御などを行える機能です。サーバの管理者は、パソコンの Web ブラウザから、リモートマネジメントコントローラを通じてサーバの状況を把握し、強制的に電源を入れたり、リセットしたりするなどの復旧作業を行えます。リモートマネジメントコントローラを使用するためには、事前に専用ツールなどを使用した設定作業が必要です。詳細については、『リモートマネジメントコントローラユーザーズガイド』を参照してください。

## 1.1.8 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理）

信号灯制御プログラムとの連携により、ラックに搭載された PRIMERGY サーバの状態を信号灯（パトライト製）に表示し、視覚的にサーバの状態管理が行えます。複数サーバ、複数ラックの管理も行えます。

## 1.1.9 留意事項

### ● セキュリティについて

ServerView コンソール（ServerView S2、AlarmService）の扱う情報の中には、管理者名などの個人情報や、その他の重要情報が含まれています。外部からアクセスできるドメインに設置する装置には、ServerView コンソールをできるだけインストールしないようお勧めします。インストールする場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意いただくと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

### POINT

- ▶ 設定例については、「D.4 アクセス権設定」（→ P.292）を参照してください。

## 1.2 ServerView のコンポーネント

ServerView には、以下のコンポーネントが含まれています。

表：ServerView コンソールとエージェントのコンポーネント

コンポーネント名	役割
ServerView コンソール	
ServerView Windows コンソール ・ ServerView S2 ・ AlarmService	すべての監視対象サーバの状態を一括監視／集中管理できます。監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンにインストールします。 ・ ServerView S2 Web ブラウザでサーバを管理するクライアント機能を提供します。 ・ AlarmService エージェントからの SNMP トランプを受信し、イベントアクションを実行します。
ServerView Linux コンソール ・ ServerView S2 ・ AlarmService	すべての監視対象サーバの状態を一括監視／集中管理できます。監視対象サーバにインストールします。 ・ ServerView S2 Web ブラウザでサーバを管理するクライアント機能を提供します。 ・ AlarmService エージェントからの SNMP トランプを受信し、イベントアクションを実行します。
ServerView エージェント	
ServerView Windows エージェント エージェント	監視対象サーバにインストールします。 ハードウェアの監視を行います。
ServerView Linux エージェント エージェント	監視対象サーバにインストールします。 ハードウェアの監視を行います。

### POINT

- ▶ 対応 OS の詳細については、「1.3 システム要件」(→ P.19) を参照してください。

## 1.3 システム要件

ServerView を使用するための、システム要件は以下のとおりです。

### ■ ServerView Windows コンソール（サーバまたはパソコンへのインストール）

パソコンにあるいはサーバに、ServerView Windows コンソールをインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

表 : ServerView Windows コンソールインストール時システム要件

パソコンのシステム		動作条件
ハ ド ウ エ ア	パソコン	IBM PC 互換機
	プロセッサ	Pentium® 以上
	使用メモリ	1024MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 1GB 以上
	ディスプレイ	XGA (1024 × 768) 以上の解像度
	LAN カード	必要 (オンボード LAN でも可)
	マウス	必要
ソ フ ト ウ エ ア	OS	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Server 2008</li> <li>• Windows Server 2003 R2</li> <li>• Windows Server 2003</li> <li>• Windows XP</li> </ul>
	Web サーバ	<p>以下のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Internet Information Server</li> <li>• ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース) (ServerView のインストール時に選択すると自動インストールされます。)</li> <li>• Apache2.0</li> <li>• Apache2.2</li> </ul>
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP (サービスおよびトラップ) が動作していること
	Web ブラウザ	<p>以下のものがインストールされていること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Internet Explorer 6.0 以降</li> <li>• Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.5.0_14 以降 (PRIMERGY スタートアップディスク 内からインストールできます。)</li> </ul>
	データベース	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft SQL Server 2005</li> <li>• Microsoft SQL Server 2005 Express</li> <li>• Microsoft SQL Server 2000 SP4</li> <li>• MSDE 2000 SP4 (Microsoft Desktop Engine) (ServerView のインストール時に選択するとインストールされます。)</li> </ul>
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

#### 重要

- ▶ ServerView V3.40 以降では、Microsoft VirtualMachine は未サポートです。
- ▶ RAID 監視 (RAID Manager 連携) または REMCS 連携を行う場合には、監視対象サーバに必ず AlarmService をインストールしてください。正しくインストールされていない場合には、システムログにエラーが記録されず連携できません。

## ■ ServerView Linux コンソール（サーバへのインストール）

サーバに、ServerView Linux コンソール（ServerView S2／AlarmService）をインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

表：ServerView Linux コンソールインストール時システム要件

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	128MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 162MB 以上（/opt : 60MB、/var : 92MB、/etc : 3MB、/usr : 7MB）
	ディスプレイ	SVGA（800×600）以上の解像度（推奨：1024×768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
ソフトウェア	OS	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RHEL5(x86)</li> <li>• RHEL5(Intel64)</li> <li>• RHEL-AS4(x86)</li> <li>• RHEL-ES4(x86)</li> <li>• RHEL-AS4(EM64T)</li> <li>• RHEL-ES4(EM64T)</li> <li>• SLES9(x86)</li> </ul>
	Web サーバ	Apache（RPM を利用してインストールします。）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	インストール時に atd（サービス）が動作していること
Web ブラウザ	RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) の場合	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mozilla FireFox 1.5.0.9 以降</li> <li>• Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.5.0_14 以降 [注1]</li> </ul>	
パッケージ (RPM)	RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) 以外の Red Hat Linux の場合	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mozilla V1.3 以降</li> <li>• Mozilla FireFox 1.0.4 以降</li> <li>• Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.5.0_14 以降 [注1]</li> </ul>	
	SLES9 (x86) の場合	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mozilla V1.7.8 以降</li> <li>• Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.5.0_14 以降 [注1]</li> </ul>	
	Red Hat Linux の場合	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• net-snmp</li> <li>• net-snmp-utils</li> <li>• compat-libstdc++</li> <li>• (i386 または x86_64)</li> <li>• httpd</li> <li>• gnome-libs [注2]</li> <li>• rpm</li> <li>• gawk</li> <li>• openssl (i686 または x86_64) [注3]</li> <li>• mod_ssl</li> <li>• at</li> <li>• unixODBC</li> </ul>		
SUSE Linux の場合		<ul style="list-style-type: none"> <li>• net-snmp</li> <li>• apache2</li> <li>• gnome-libs</li> <li>• rpm</li> <li>• gawk</li> <li>• openssl</li> <li>• at</li> <li>• unixODBC</li> </ul>
データベース	PostgreSQL (SMAWPpgsql パッケージ)	
	PostgreSQL (SMAWPpgsql パッケージ) は、ServerView Linux コンソールに同梱されています。ServerView Linux コンソールのインストール時に、自動でインストールされます。	
	アカウント	
シェル	スーパーユーザ	
	スーパーユーザのログインシェル、およびインストール時のシェルが "Bash" であること	

[注 1] : PRIMERGY スタートアップディスクからインストールできます。

[注 2] : RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) は、対象外です。

[注 3] : RHEL-AS4(EM64T)/RHEL-ES4(EM64T) は、必須です。

## 重要

- ▶ ServerView S2、および AlarmService は、個別で使用することはできません。両方をインストールする必要があります。
- ▶ RAID 監視（RAID Manager 連携）または REMCS 連携を行う場合には、監視対象サーバに必ず ServerView S2 および AlarmService をインストールしてください。正しくインストールされていない場合には、システムログ（syslog）にエラーが記録されず連携できません。

## ■ ServerView Windows エージェント（サーバへのインストール）

サーバに、ServerView Windows エージェントをインストールするときのシステム要件については、『ServerView ユーザーズガイド（Windows エージェント編）』を参照してください。

## 重要

- ▶ ServerView Windows エージェントは、PRIMERGY シリーズ専用です。PRIMERGY シリーズ以外のサーバにはインストールしないでください。

## ■ ServerView Linux エージェント（サーバへのインストール）

サーバに、ServerView Linux エージェントをインストールするときのシステム要件については、『ServerView ユーザーズガイド（Linux エージェント編）』を参照してください。

## 重要

- ▶ ServerView Linux エージェントは、PRIMERGY シリーズ専用です。PRIMERGY シリーズ以外のサーバにはインストールしないでください。

## ■ ServerView S2 の表示条件

ServerView S2 の Web 画面を表示するための Web ブラウザ、および Java の条件を示します。

### ● Web ブラウザ

表：Web ブラウザの条件

OS	ブラウザ
Windows	Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64)	Mozilla FireFox 1.5.0.9 以降
RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(EM64T)/ES4(EM64T) RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mozilla V1.3 以降</li> <li>• Mozilla FireFox 1.0.4 以降</li> </ul>
SLES9(x86)	Mozilla V1.7.8 以降

### ● Java

Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.5.0\_14 以降  
(PRIMERGY スタートアップディスク 内からインストールできます。)

## 重要

- ▶ ServerView V3.40 以降では、Microsoft VirtualMachine は未サポートです。

## ■ ServerView が使用するプロトコルとポート番号

ServerView 関連プログラムでは、以下のプロトコルとポートを使用します。

表 : ServerView が使用するプロトコルとポート番号

コンポーネント	通信方向	コンポーネント	使用するプロトコル（ポート番号）
ServerView S2、 AlarmService	↔	ServerView Agent	SNMP [注1] (TCP/UDP 161)
	←		SNMP TRAP (TCP/UDP 162)
	↔		SERVERVIEW-RM [注2] (TCP/UDP 3172)
	↔	PING	ICMP [注3]
	↔	SMTP Server	SMTP (TCP/UDP 25 (デフォルト) [注4])
	↔	RSB	SNMP [注1] (TCP/UDP 161)
	←		SNMP TRAP (TCP/UDP 162)
	↔	iRMC/BMC	IPMI over LAN [注3]
Linux の場合	↔	PostgreSQL DB [注5]	PostgreSQL [注6] (TCP/UDP 9212)
Windows の場合	↔	Microsoft SQL DB	MS-SQL-S [注6] (TCP/UDP 1433) MS-SQL-M [注6] (TCP/UDP 1434)
Web Browser	↔	ServerView S2、 AlarmService	HTTP (TCP 80) IIS 使用時
	↔		HTTP (TCP 3169) ServerView Web-Server 使用時
	↔		HTTPS (TCP 443) IIS 使用時 (SSL)
	↔		HTTP (TCP 3170) ServerView Web-Server 使用時 (SSL)
	↔		HTTPS (TCP 443)
	↔	RSB/iRMC	HTTP (TCP 80)
	↔		HTTPS (TCP 443)

[注1] : ServerView では「SNMP version 1」にのみ対応しています。

[注2] : ServerView Agent V4.20 以降で ServerView Remote Connector サービスが使用します。

[注3] : このプロトコルにはポート番号の概念はありません。

[注4] : 設定により変更できます。

[注5] : ServerView に同梱されているデータベースです。

[注6] : ローカル環境内でのみでのアクセスとなります。

## **第2章**

# **インストール**

この章では、ServerView コンソールのインストール方法を説明します。

2.1 インストールの流れ .....	24
2.2 インストール前の確認 .....	26
2.3 インストール .....	40
2.4 インストール後の設定 .....	64
2.5 アンインストール .....	79
2.6 アップデートインストール .....	82

## 2.1 インストールの流れ

ServerView コンソールのインストールは、以下の流れで行います。

### POINT

- ▶ ServerView エージェントのインストールについては、『ServerView ユーザーズガイド (Windows エージェント編)』または『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』を参照してください。

#### インストール前の確認

インストール前に、次の確認を行います。

##### Windows の場合

- ・TCP/IPとSNMPサービスのインストール
- ・バインド順序の変更
- ・ServicePackの適用
- ・データベースエンジンのインストール
- ・Webサーバのインストール

##### Linux の場合

- ・Webサーバのインストール
- ・SELINUXの設定を確認する
- ・RPMのチェック
- ・データベースエンジンのインストール

#### インストール

ネットワーク構成に応じて、必要なコンポーネントをインストールします。

- ・シングルサーバ環境の場合は、OSの種類によってインストールするコンポーネントが異なります。
- ・マルチサーバ環境の場合は、OSの種類、通常のサーバ/ブレードサーバ、監視方法によってインストールするコンポーネントが異なります。

##### シングルサーバ環境



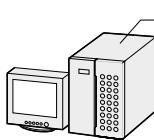
- Windows の場合
- ▶ ServerView Windows エージェント
  - ▶ ServerView Windows コンソール

- Linux の場合
- ▶ ServerView Linux エージェント
  - ▶ ServerView Linux コンソール

##### マルチサーバ環境

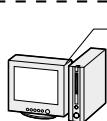
###### 管理用のサーバまたはパソコン: 管理コンソール

###### Windows の場合



###### 管理をサーバで行う場合

- ▶ ServerView Windows コンソール



###### 管理をパソコンで行う場合

- ▶ ServerView Windows コンソール

###### 監視対象のサーバ: エージェント

###### 通常のサーバの場合

- Windows の場合
- ▶ ServerView Windows エージェント
  - ▶ ServerView AlarmService \*1

###### Linux の場合

- ▶ ServerView Linux エージェント
- ▶ ServerView Linux コンソール

###### ブレードサーバの場合

- Windows の場合
- ▶ ServerView Windows エージェント
  - ▶ ServerView AlarmService \*1

###### Linux の場合

- ▶ ServerView Linux エージェント
- ▶ ServerView Linux コンソール

\*1: ServerView AlarmServiceは、RAID監視 (RAID Manager連携) またはREMCS連携を行う場合に、インストールします。

(次ページへ)

(前ページから)



### インストール後の設定

インストール後、OSのコンポーネントをインストールしたり、各種設定を行ったりします。

#### Windows の場合

- ・Webブラウザのインストール
- ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール
- ・オプション装置の割り込み（MIB）情報の登録
- ・Webサービスの拡張
- ・インストール後のコンピュータ情報変更
- ・SNMP設定の変更
- ・不要ないアラームの抑止
- ・データベースが使用する最大メモリ容量を設定

#### Linux の場合

- ・Webブラウザのインストール
- ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール
- ・オプション装置の割り込み（MIB）情報の登録
- ・各サービスの設定
- ・インストール後のコンピュータ情報変更
- ・SNMP設定の変更
- ・不要ないアラームの抑止

## 2.2 インストール前の確認

ServerView コンソールをインストールする前に、以下の事項を確認してください。

確認する項目は、OS により異なります。

表：インストール前の確認

確認項目	参照先	Windows	Linux
TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール	→ P.26	○	—
バインド順序の変更	→ P.32	○	—
Service Pack の適用	→ P.33	○	—
データベースエンジンのインストール	→ P.33	○	○
Web サーバのインストール	→ P.36	○	○
SELINUX の設定確認	→ P.39	—	○
RPM のチェック	→ P.39	—	○

○：確認を行います。 —：確認は不要です。

### 2.2.1 [Windows] TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール

ServerView が正しく動作するためには、監視対象のサーバに、TCP/IP プロトコルと SNMP サービスがインストールされている必要があります。

以下の説明では、SNMP サービスのコミュニティ名の例を「public」として記述しています。必要に応じてコミュニティ名を変更してください。コミュニティ名の変更については、「付録 D 技術情報」(→ P.287) を参照してください。

#### ■ Windows Server 2008 の場合

- 1 コントロールパネルを起動します。
- 2 [プログラムと機能] アイコンをダブルクリックします。
- 3 [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。
- 4 [SNMP の機能] にチェックを付け、[OK] をクリックします。  
[SNMP の機能] の下位にある [WMI SNMP プロバイダ] にチェックを付ける必要はありません。
- 5 コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 6 [コンピュータの管理] をダブルクリックします。

- 7** 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。
- 8** 右側のウィンドウで [SNMP Service] をクリックします。
- 9** 「操作」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
- 10** [全般] タブの、「スタートアップの種類」項目が「自動」に設定されていることを確認します。  
「自動」になっていなかった場合は、「自動」に設定してください。
- 11** [トラップ] タブをクリックします。
- 12** 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。  
存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、[一覧に追加] をクリックします。
- 13** 「トラップ送信先」の [追加] をクリックします。
- 14** ServerView Windows コンソールをインストールするサーバのホスト名、または IP アドレスを入力し、[追加] をクリックします。  
シングルサーバ環境で ServerView Windows コンソールをインストールする場合、自分自身のホスト名、または IP アドレスを入力します。複数の ServerView Windows コンソールを運用する場合には、それぞれのホスト名、または IP アドレスを入力します。
- 15** [セキュリティ] タブをクリックします。
- 16** 「public」をクリックし、[編集] をクリックします。
- 17** 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択し、[OK] をクリックします（「読みとり、書き込み」を推奨）。  
「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合  
以下の操作でコミュニティを追加します。
  - [追加] をクリックします。
  - 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します（「読みとり、書き込み」を推奨）。
  - 「コミュニティ」に「public」と入力し、[追加] をクリックします。
- 18** SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。
- すべてのホストのパケットを受け付ける場合
- 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
- 指定したホストのパケットのみを受け付ける場合
- 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
  - [追加] をクリックします。

3. ServerView をインストールするサーバのホスト名、または IP アドレスを入力し、  
[追加] をクリックします。  
ServerView Windows エージェントをインストールするサーバでは、必ずループ  
バックアドレス（127.0.0.1）を含めてください。

**19** [OK] をクリックします。

## ■ Windows Server 2003 の場合

- 1** コントロールパネルを起動します。
- 2** [ネットワーク接続] をダブルクリックします。
- 3** 「詳細設定」メニュー → 「オプションネットワークコンポーネント」の順にクリックします。
- 4** 以下のいずれかの操作を行います。  
「オプションネットワークコンポーネントウィザード」の「管理とモニタツール」のチェック状態によって操作が異なります。

### 「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合

1. 「管理とモニタツール」をクリックし、「詳細」をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」がチェックされているかを確認します。  
チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 5 に進んでください。

### 「管理とモニタツール」がチェックされていなかった場合

以下の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」をチェックします。
2. 「詳細」をクリックし、「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」がチェックされていることを確認し、[OK] をクリックします。
3. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で [次へ] をクリックします。  
メッセージに従って操作します。

- 5** コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 6** [コンピュータの管理] をクリックします。
- 7** 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。
- 8** 右側のウィンドウで [SNMP Service] をクリックします。
- 9** 「操作」メニュー → 「プロパティ」の順にクリックします。

- 10** [全般] タブの、「スタートアップの種類」項目が「自動」に設定されていることを確認します。  
「自動」になっていなかった場合は、「自動」に設定してください。
- 11** [トラップ] タブをクリックします。
- 12** 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、[一覧に追加]をクリックします。
- 13** 「トラップ送信先」の [追加] をクリックします。
- 14** ServerView Windows コンソールをインストールするサーバのホスト名、または IP アドレスを入力し、[追加] をクリックします。  
シングルサーバ環境で ServerView Windows コンソールをインストールする場合、自分自身のホスト名、または IP アドレスを入力します。複数の ServerView Windows コンソールを運用する場合には、それぞれのホスト名、または IP アドレスを入力します。
- 15** [セキュリティ] タブをクリックします。
- 16** 「public」をクリックし、[編集] をクリックします。
- 17** 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択し、[OK] をクリックします（「読みとり、書き込み」を推奨）。  
「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合  
以下の操作でコミュニティを追加します。
1. [追加] をクリックします。
  2. 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します（「読みとり、書き込み」を推奨）。
  3. 「コミュニティ」に「public」と入力し、[追加] をクリックします。
- 18** SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。
- すべてのホストのパケットを受け付ける場合
1. 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
- 指定したホストのパケットのみを受け付ける場合
1. 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
  2. [追加] をクリックします。
  3. ServerView をインストールするサーバのホスト名、または IP アドレスを入力し、[追加] をクリックします。  
ServerView Windows エージェントをインストールするサーバでは、必ずループバックアドレス（127.0.0.1）を含めてください。
- 19** [OK] をクリックします。

## POINT

- ▶ Windows Server 2003 ではメッセージの PopUp (Messenger) の初期設定は無効になっています。ServerView の監視機能でメッセージの PopUp を行う場合は以下の手順で設定を行います。
  1. 「スタート」ボタン→「管理ツール」の順にクリックします。
  2. 「コンピュータの管理」をクリックします。
  3. 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。
  4. 右側のウィンドウで [Messenger] をクリックします。
  5. 「操作」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
  6. 「[全般] タブをクリックします。
  7. 「スタートアップの種類」の「自動」を選択し、[OK] をクリックします。

## ■ Windows 2000 Server の場合

- 1** コントロールパネルを起動します。
- 2** [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。
- 3** 「詳細設定」メニュー→「オプションネットワークコンポーネント」の順にクリックします。
- 4** 以下のいずれかの操作を行います。  
「オプションネットワークコンポーネントウィザード」の「管理とモニタツール」のチェック状態によって操作が異なります。

### 「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合

1. 「管理とモニタツール」をクリックし、「詳細」をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」がチェックされているかを確認します。  
チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 5 に進んでください。

### 「管理とモニタツール」がチェックされていなかった場合

以下の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」をチェックします。
2. 「詳細」をクリックし、「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」がチェックされていることを確認し、[OK] をクリックします。
3. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で [次へ] をクリックします。
4. メッセージに従って操作します。

- 5** コントロールパネルから [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 6** [コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックします。
- 7** 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。
- 8** 右側のウィンドウで [SNMP Service] をクリックします。

- 9** 「操作」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
- 10** [全般] タブの、「スタートアップの種類」項目が「自動」に設定されていることを確認します。  
「自動」になっていなかった場合は、「自動」に設定してください。
- 11** [トラップ] タブをクリックします。
- 12** 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。  
存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、[一覧に追加] をクリックします。
- 13** 「トラップ送信先」の [追加] をクリックします。
- 14** ServerView Windows コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、[追加] をクリックします。  
シングルサーバ環境で ServerView Windows コンソールをインストールする場合は、自分自身のホスト名、IP アドレスを入力します。  
複数の ServerView Windows コンソールを運用する場合には、それぞれのホスト名、IP アドレスを入力します。
- 15** [セキュリティ] タブをクリックします。
- 16** 「public」をクリックします。
- 17** [編集] をクリックします。
- 18** 「コミュニティ権利」から「READ\_WRITE」または「READ\_CREATE」をクリックし、[OK] をクリックします（「READ\_WRITE」を推奨）。  
「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合  
以下の操作でコミュニティを追加します。  
 1. [追加] をクリックします。  
 2. 「コミュニティ権利」から、「READ\_WRITE」または「READ\_CREATE」をクリックします（「READ\_WRITE」を推奨）。  
 3. 「コミュニティ」に「public」と入力します。  
 4. [追加] をクリックします。
- 19** SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。
- すべてのホストのパケットを受け付ける場合  
 1. 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
- 指定したホストのパケットのみを受け付ける場合  
 1. 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。  
 2. [追加] をクリックします。

3. ServerView をインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、[追加] をクリックします。  
ServerView Windows エージェントをインストールするサーバでは、必ずループ バックアドレス（127.0.0.1）を含めてください。

**20** [OK] をクリックします。

## 2.2.2 [Windows] バインド順序の変更

---

複数枚の LAN カードを搭載するなどして、サーバに複数の IP アドレスが存在する場合、ServerView はネットワークのバインドで設定された順序に従って、IP アドレスを検索します。

バインド順序は、ServerView コンソールとの通信を行うアダプタを最初に検索するよう、設定してください。

ネットワークのバインド順序を変更する手順は、以下のとおりです。

- 1** コントロールパネルを起動します。
- 2** 「ネットワーク接続」をダブルクリックします。  
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
- 3** 「ネットワーク接続」画面で、「詳細設定」メニューの「詳細設定」をクリックします。  
「詳細設定」画面が表示されます。
- 4** [アダプタとバインド] タブをクリックします。
- 5** 変更したい接続をクリックして、右にある矢印ボタンで順序を変更します。

### POINT

- ▶ サーバ監視に使用する IP アドレスが、複数のアドレス（仮想 LAN（VPN）など）を割り当てたアダプタを使用する場合、ServerView の動作はサポートされません。  
サーバ監視に使用する IP アドレスは、実 IP アドレスのみを割り当てたアダプタを使用してください。

### 2.2.3 [Windows] Service Pack の適用

ServerView の各コンポーネントをインストールするすべてのサーバおよびパソコンに、Service Pack を適用してください。ただし、Windows Server 2008 および Windows Server 2003 の場合は必要ありません。  
Windows 2000 Server の場合、Service Pack 4 以降を適用します。

#### 重要

- ▶ Service Pack は必ず適用してください。Service Pack を適用しない場合、動作は保証できません。  
すでに Service Pack が適用されている場合には、再度適用の必要はありません。
- ▶ 必ず SNMP サービスがインストールされていることを確認してから、Service Pack を適用してください。

### 2.2.4 データベースエンジンのインストール

ServerView コンソールを利用するため、ServerView コンソールをインストールするサーバまたはパソコンに、データベースエンジンのインストールが必要です。  
ServerView コンソールがサポートするデータベースソフトは、以下のとおりです。

#### ● OS が Windows の場合（以下のいずれか）

- Microsoft SQL Server 2005
- Microsoft SQL Server 2005 Express
- Microsoft SQL Server 2000 SP4
- MSDE 2000 SP4 (Microsoft Desktop Engine)

サポートするデータベースエンジンがインストールされていなかった場合、ServerView Windows コンソールのインストール時に、Microsoft SQL Server 2005 Express、または MSDE 2000 SP4 が自動的にインストールされます。

すでにデータベースエンジンがインストールされていた場合、ServerView Windows コンソールは、OS およびインストール済みのデータベースエンジンの種類によって、以下の表のとおりに動作します。

表：ServerView のインストーラがインストールするデータベース

インストール済み データベースエンジン		Windows Server 2008	Windows Server 2003 Windows 2000 Server Windows XP
日本語版	Microsoft SQL Server 2005 (Express 以外のエディション)	×	×
	Microsoft SQL Server 2000 SP4	—	×
	Microsoft SQL Server 2000 SP3 以前	—	[注 1]
	インスタンス名が「SQLSERVIEW」	Microsoft SQL Server 2005 Express	×
		MSDE 2000 SP4	—
		MSDE 2000 SP3 以前	—
	インスタンス名が「SQLSERVIEW」以外	Microsoft SQL Server 2005 Express	Microsoft SQL Server 2005 Express
		MSDE 2000 SP4	MSDE 2000 SP4
		MSDE 2000 SP3 以前	—
日本語版以外のデータベースエンジン		日本語版以外のデータベースエンジンがインストールされていた場合は、未サポートです。	

× : ServerView は新規にデータベースをインストールしません。既存のデータベースを使用して動作します。

— : 該当のデータベースエンジンは、Windows Server 2008 にインストールできません。

[注 1] : この環境に ServerView Windows コンソールをインストールする場合、インストール済みのデータベースエンジンをアップグレードする必要があります。

[注 2] : この環境に ServerView Windows コンソールをインストールする場合、「SQLSERVIEW」というインスタンス名で、インストール済みのものと同じデータベースエンジンをインストールしてください。

## POINT

- ▶ Microsoft SQL Server 2005 Express および MSDE 2000 SP4 は、500 台以下のサーバを監視するのに適しています。  
それ以上の数のサーバを監視する場合、Microsoft SQL Server 2005、または Microsoft SQL Server 2000 をインストールすることを推奨します。
- ▶ Microsoft SQL Server 2005 Express が ServerView コンソールのデータベースとして使用される場合、タスクマネージャに以下のタスクが追加されます。
  - JobServerViewClear\_xactn\_tables
  - JobServerViewDaily
  - JobServerViewHourly
  - JobServerViewLongInterval

## ● OS が Linux の場合

- PostgreSQL (SMAWPpgsql パッケージ)  
ServerView Linux コンソールのインストール時に自動でインストールされます。

## ■ [Windows] Microsoft SQL Server 2005、Microsoft SQL Server 2000

Microsoft SQL Server 2005、または Microsoft SQL Server 2000 を使用する場合は、ServerView をインストールする前にインストールしておきます。

Microsoft SQL Server 2005、または Microsoft SQL Server 2000 のインストール時には、「インスタンス名」画面で、「インスタンス名」に「SQLSERVERVIEW」と入力してください。

Microsoft SQL Server 2000 をインストールした場合は、インストール後に、Microsoft SQL Server 2000 Service Pack 4 以降を適用してください。

## ■ [Windows] Microsoft SQL Server 2005 Express

ServerView Windows コンソールは、Microsoft SQL Server 2005 Express を同梱しています。

サポートするデータベースエンジンがインストールされていなかった場合で、かつ OS が Windows Server 2008 の場合、ServerView Windows コンソール／ServerView AlarmService のインストール時に、Microsoft SQL Server 2005 Express のインストールを選択すると、自動的にインストールされます。

また、別途用意した Microsoft SQL Server 2005 Express を使用する場合は、ServerView をインストールする前にインストールしておきます。

この場合、Microsoft SQL Server 2005 Express のインストール時に、以下の設定を行ってください。

- 「接続コンポーネント」を「ローカルハードドライブにインストール」に変更
- 「名前付きインスタンス」を "SQLSERVERVIEW" に変更
- 「ビルトインシステムアカウントを使用する」を「ローカルシステム」に変更

上記の設定を行わない場合、その後の ServerView コンソールのインストールに失敗します。

## ■ [Windows] MSDE 2000 SP4 (Microsoft Desktop Engine)

ServerView Windows コンソールは、MSDE 2000 SP4 を同梱しています。

サポートするデータベースエンジンがインストールされていなかった場合で、かつ OS が

Windows Server 2003、または Windows 2000 Server、Windows XP の場合、ServerView Windows コンソール／ServerView AlarmService のインストール時に、MSDE 2000 SP4 のインストールを選択すると、自動的にインストールされます。

また、別途用意した MSDE 2000 SP4 を使用する場合は、ServerView をインストールする前にインストールしておきます。

この場合、MSDE 2000 SP4 のインストール時に、インストーラ実行時の引数を「INSTANCENAME="SQLSERVERVIEW"」と設定してください。

## ■ [Linux] PostgreSQL

ServerView Linux コンソールのインストール時に、ServerView Linux コンソールに同梱している PostgreSQL (SMAWPpgsql) パッケージが自動でインストールされます。

### ☞ 重要

- ▶ PostgreSQL (SMAWPpgsql パッケージ) は、ポート 9212 を使用します。他のサービスすでに使用されている場合、ServerView Linux コンソールはインストールできません。

### POINT

- ▶ PostgreSQL (SMAWPpgsql パッケージ) は、OS 標準添付の PostgreSQL と共存可能です。

## 2.2.5 Web サーバのインストール

以下の機能は Web ブラウザ上から利用するため、サーバに Web サーバソフトのインストールが必要です。

- アラームサービス（「■ 異常発生の通知」（→ P.15）参照）
- アーカイブ機能（「● アーカイブ機能」（→ P.15）参照）

ServerView がサポートする Web サーバソフトは、以下のとおりです。

- OS が Windows の場合（以下のいずれか）
  - ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース)
  - Microsoft Internet Information Server (IIS)
  - Apache2.0
  - Apache2.2
- OS が Linux の場合（以下のいずれか）
  - Red Hat Linux : httpd
  - SUSE Linux : apache2

### POINT

- ▶ Linux 監視対象サーバ（OS が Linux）に ServerView Linux コンソール（ServerView S2 / AlarmService）をインストールしない場合は、Linux 監視対象サーバに Web サーバのインストールは不要です。
- ▶ ServerStart により ServerView を自動インストールする場合、ServerView Web-Server または IIS を選択可能です。

## ■ [Windows] ServerView Web-Server

ServerView Windows コンソール／ServerView AlarmService のインストール時に、ServerView Web-Server のインストールを選択すると、自動的にインストールされます。

### ◀ 重要

- ▶ ServerView Web-Server のセキュリティ対応などにより、ServerView Web-Server のアップデートを行うためには、ServerView Windows コンソール／ServerView AlarmService をバージョンアップする必要があります。ServerView Web-Server のみアップデートすることはできません。  
また、最新版 ServerView Web-Server を含む ServerView Windows コンソール／ServerView AlarmService の提供に時間がかかる場合があります。この場合、IIS または Apache2.0／Apache2.2（別途用意）を使用することを推奨します。

## ■ [Windows] Microsoft Internet Information Server (IIS)

IIS を使用する場合は、ServerView をインストールする前にインストールしておきます。

### ◀ 重要

- ▶ Windows Server 2008 (64-bit)／Windows Server 2003 x64／Windows Server 2003 R2 x64において、ServerView での IIS の使用は未サポートです。

## ■ [Windows] Apache2.0／Apache2.2

Web サーバとして、別途用意した Apache2.0／Apache2.2 を使用することができます。この場合、ServerView Windows コンソール／ServerView AlarmService をインストールする前に Apache2.0／Apache2.2 をインストールしておきます。

## ■ [Linux] httpd／apache2

Linux 監視対象サーバ（OS が Linux）に、ServerView Linux コンソールをインストールする前に、以下の RPM をインストールしておきます。

- Red Hat Linux : httpd
- SUSE Linux : apache2

### ● Red Hat Linux の場合

#### httpd サービス設定ファイルの編集

##### 1 /etc/httpd/conf/httpd.conf を編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf（Apache HTTP サーバの設定ファイル）内の ServerName ディレクティブを編集します。

ServerName ディレクティブについては、Red Hat Linux のマニュアルおよび httpd.conf のコメント文を参照してください。

### ◀ 重要

- ▶ ServerView S2／AlarmService を Linux でご利用の場合、Red Hat の CD-ROM に収録されている Apache を Web サーバとして使用し、DocumentRoot/ServerRoot の設定はデフォルトのまま使用してください。  
これらの設定を変更した場合、動作保証の対象外となります。

Apache (httpd) のバージョンが2以降の場合

http.confの以下（下線部分）を変更します。

なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
変更前) LanguagePriority en da nl et fr de el it ja kr no pl pt pt-
br ltz ca es sv tw
```

```
変更後) LanguagePriority ja en da nl et fr de el it kr no pl pt pt-
br ltz ca es sv tw
```

```
変更前) AddDefaultCharset ISO-8859-1 または AddDefaultCharset UTF-8
```

```
変更後) AddDefaultCharset off
```

httpd.confでは、AddDefaultCharsetディレクティブのデフォルト値が「ISO-8859-1」、もしくは「UTF-8」に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。HTTP設定ツール(redhat-config-httpd)を使用すると、AddDefaultCharsetディレクティブ値がデフォルト値に戻るので、手動で「off」に変更してください。

**2 httpd サービスを再起動します。**

以下のコマンドを入力し、httpdサービスを再起動します。

```
# /etc/init.d/httpd restart
```

**httpd サービスの自動起動設定**

以下のコマンドを実行してサービスの自動起動設定を行ってください。

```
# /sbin/chkconfig httpd on
```

以下のように表示されれば、正しく設定が行われています。

```
# /sbin/chkconfig --list |grep httpd
httpd      0:オフ  1:オフ  2:オン  3:オン  4:オン  5:オン  6:オフ
```

**● SUSE Linux の場合****apache2 サービス設定ファイルの編集****1 apache2 サービス設定ファイルを編集します。**

/etc/apache2/mod\_mime-defaults.confの以下（下線部分）を変更します。

なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
変更前) LanguagePriority en ca cs da de el eo es et fr he hr it ja
ko ltz nl nn no pl pt pt-BR ru sv zh-CN zh-TW
```

```
ForceLanguagePriority Prefer Fallback
```

```
変更後) LanguagePriority ja en ca cs da de el eo es et fr he hr it
ko ltz nl nn no pl pt pt-BR ru sv zh-CN zh-TW
```

```
ForceLanguagePriority Prefer Fallback
```

```
変更前) AddDefaultCharset ISO-8859-1
```

```
変更後) AddDefaultCharset off
```

/etc/apache2/mod\_mime-defaults.confでは、AddDefaultCharsetディレクティブのデフォルト値が「ISO-8859-1」に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。

## 2 apache2 サービスを再起動します。

以下のコマンドを入力し、apache2 サービスを再起動します。

```
# /etc/init.d/apache2 restart
```

### apache2 サービスの自動起動設定

以下のコマンドを実行してサービスの自動起動設定を行ってください。

```
# /sbin/chkconfig apache2 on
```

以下のように表示されれば、正しく設定が行われています。

```
# /sbin/chkconfig --list |grep apache2
apache2 0:オフ 1:オフ 2:オフ 3:オン 4:オフ 5:オン 6:オフ
```

## 2.2.6 [Linux] SELINUX の設定を確認する

RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64)、RHEL-AS4(x86)/ES4(x86) または RHEL-AS4(EM64T)/ES4(EM64T)において SELINUX が有効の場合は、インストール前に必ず以下の手順を実行して無効にしてください。

/etc/selinux/config 内の以下の項目の値を変更し、サーバを再起動します。

- 編集前

```
SELINUX=enforcing
```

- 編集後

```
SELINUX=disabled
```



- ▶ SELINUX を無効にしていない場合、または無効にしたあとで再起動していない場合は、ServerView Linux コンソールはインストールできません。

## 2.2.7 [Linux] RPM のチェック

PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、以下のコマンドを実行してください。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/PROGRAMS/
Japanese2/Svmanage/
# ./LinuxSVConsole/chksys
```

RPM パッケージが不足している旨のエラーメッセージが表示された場合は、Red Hat Linux または SLES9(x86) の CD-ROM から RPM パッケージをインストールしてください。

## 2.3 インストール

ServerView の各コンポーネントのインストール方法を説明します。

### 2.3.1 [Windows] ServerView Windows コンソールのインストール

Windows 監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンに、ServerView Windows コンソール (ServerView S2 / AlarmService) をインストールします。

#### 重要

- ▶ ServerView Windows コンソールのインストール後、Web サーバ (Apache2.0 / Apache2.2、IIS) を変更、またはアップデートする場合は、アンインストール実施後、インストールを行ってください。また、Web サーバで使用するディレクトリパスを変更する場合は、インストールの際に「Web サーバの格納先」を条件に合わせて変更してください。ServerView Windows コンソールインストール後にディレクトリパスを変更する場合は、一度 ServerView Windows コンソールをアンインストールする必要があります。
- ▶ なお、ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server または IIS が選択されています。  
アンインストールについては、「2.5 アンインストール」(→ P.79) を参照してください。
- ▶ ターミナルサーバがインストールされているシステムでは、アプリケーションのインストール方法が通常とは異なります。ターミナルサーバ環境に ServerView をインストールする場合は、以下の手順 3 の操作を、コントロールパネルを起動し、「プログラムの追加と削除」→「プログラムの追加」から行ってください。
- ▶ ServerView Windows コンソールをインストールする前に Java がインストールされていない場合、以下のメッセージが表示されます。  
「Java Virtual Machine が検出されません。Java Virtual Machine をインストールするまで、適切に動作されない機能があります。」  
[OK] をクリックすると、インストールが継続されます。ServerView Windows コンソールのインストール終了後、Java のインストールを行ってください。
- ▶ ServerView Windows コンソールは上書きインストールができません。ServerView AlarmService をインストールしている場合でも、上書きインストール、および他機能の追加インストールを行うことはできません。現在インストールされている ServerView Windows コンソールまたは ServerView AlarmService をアンインストールしたあと、インストールを行ってください。
- ▶ 複数のバージョンの ServerView をお持ちの場合は、ServerView Windows コンソールは必ず最新のものをインストールしてください。
- ▶ ServerView Windows エージェントと ServerView Windows コンソールを同一のサーバにインストールする際、「コンソール」→「エージェント」の順番でインストールを行うと、ServerView S2において自サーバの自動登録が行われません。「Fujitsu ServerView Services」の再起動、または、システムの再起動を行ってください。

**1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。**

**2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。**

- 3 PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、以下のインストーラをダブルクリックします。**

[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥Svmanage¥WinSVConsole  
¥SV\_Console.bat

サポートするデータベースエンジンがインストールされていなかった場合  
「SQL Server がインストールされていません」画面が表示されます。



#### POINT

- ▶ データベースエンジンを別途インストールする場合、「いいえ（セットアップを中止する）」を選択し、[次へ] をクリックします。データベースエンジンをインストール後、再度 ServerView Windows コンソールのインストールを行います。

データベースエンジンがインストールされていた場合

「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。以下、手順 4～7 は不要です。手順 8 へ進みます。

- 4 [次へ] をクリックします。**

「Microsoft SQL Server 2005 Express のインストールを開始します。」または、「MSDE 2000 SP4 のインストールを開始します。」というメッセージが表示されます。  
メッセージの内容は、インストールする OS によって異なります。

- 5 [はい] をクリックします。**

Microsoft SQL Server 2005 Express、または MSDE 2000 のインストール処理が開始されます。

#### OS が Windows Server 2008 の場合

インストールが完了すると、「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。  
システムを再起動する必要はありません。手順 8 へ進みます。

#### OS が Windows Server 2003、または Windows 2000 Server、Windows XP の場合

インストールが完了すると、システムの再起動を促すメッセージが表示されます。次の手順へ進みます。

**6 [OK] をクリックします。**

システムが再起動されます。

**7 インストーラを実行したのと同じユーザ名でログインします。**

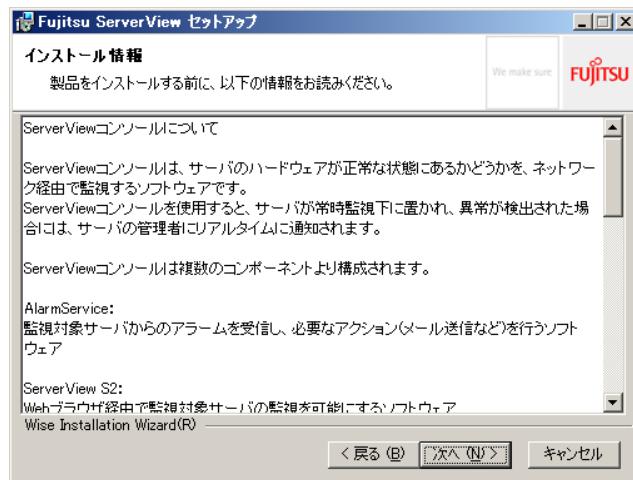
ログイン後、自動でインストールの続きを開始されます。

「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。



**8 [次へ] をクリックします。**

「インストール情報」画面が表示されます。



**9** [次へ] をクリックします。

「インストール先フォルダ」画面が表示され、ServerView Windows コンソールの格納先フォルダが表示されます。



**10** [次へ] をクリックします。

「Web サーバの選択」画面が表示されます。

ただし、IIS がインストールされていない場合は「Web サーバの選択」画面は表示されません。



### 重要

- ▶ ServerView Web-Server を選択した場合、Apache2 for Win32 をベースとした Web サーバが ServerView とともにインストールされます。また、Windows のタスクスケジューラに「At\*\* (\*\* : タスク ID)」のタスク名でタスクが追加されます。
- ▶ IIS を選択した場合、インストール済みの IIS を Web サーバとして使用します。
- ▶ Web サーバとして、すでに Apache2.0 / Apache2.2 がインストールされている場合、「Web サーバの選択」画面の選択項目は、「ServerView Web-Server」ではなく「Apache2(Installed Apache2 server)」が表示されます。

**11** 使用する Web サーバを選択し、[次へ] をクリックします。

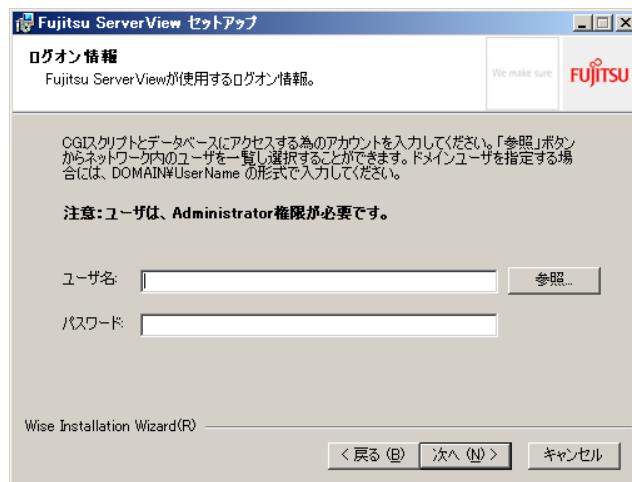
「SQL サーバへの接続」画面が表示されます。

手順 4～7 で、Microsoft SQL Server 2005 Express、または MSDE 2000 SP4 をインストールしていた場合、デフォルトで入力されている SQL サーバ名を変更する必要はありません。

**12** SQL サーバのインスタンス名を入力し、[次へ] をクリックします。

「ログオン情報」画面が表示されます。

ただし、Web サーバに「ServerView Web-Server」を選択した場合は「ログオン情報」画面は表示されません。Web サーバに「IIS」を選択した場合のみ表示されます。

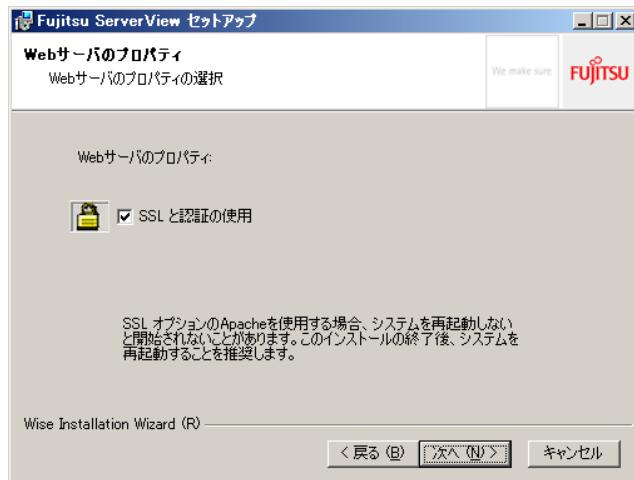


### 13 ユーザ名とパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

「Web サーバのプロパティ」画面が表示されます。

選択した Web サーバにより、画面が異なります。

#### Web サーバに「ServerView Web-Server」を選択した場合



#### Web サーバに「IIS」、または「Apache2(Installed Apache2 server)」を選択した場合



#### POINT

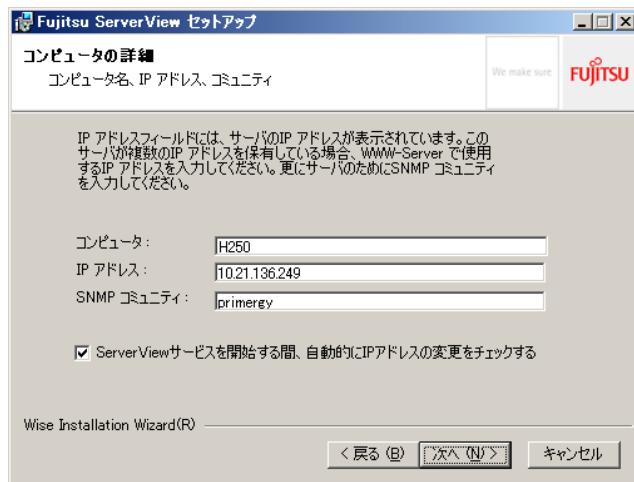
- ▶ 「Web サーバの選択」画面で ServerView Web-Server を選択した場合、「SSL と認証の使用」チェックボックスが表示されます。チェックボックスを有効にすると、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また接続時に認証が要求されるようになります。  
なお、このオプションを選択した場合は、インストール終了後、システムを再起動することを推奨します。

## △ 重要

- ▶ 既存の Web Server を使用してローカルパスを変更している場合など、環境に応じて表示されている格納先のフォルダを変更する必要があります。
- ▶ IIS のポート番号を自動に取り込むことはできません。IIS のポート番号を変更した場合、変更したポート番号を入力し直してください。
- ▶ ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、SSL と認証の使用は有効になっています。無効にしたい場合は、ServerView をアンインストールし、再度 ServerView のインストーラを起動してインストールしてください。  
認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「admin」、パスワード「admin」に設定されています。  
ユーザ名とパスワードの追加、変更については、「● ServerView Web-Server と SSL について」(→ P.276) を参照してください。

### 14 [次へ] をクリックします。

「コンピュータの詳細」画面が表示されます。

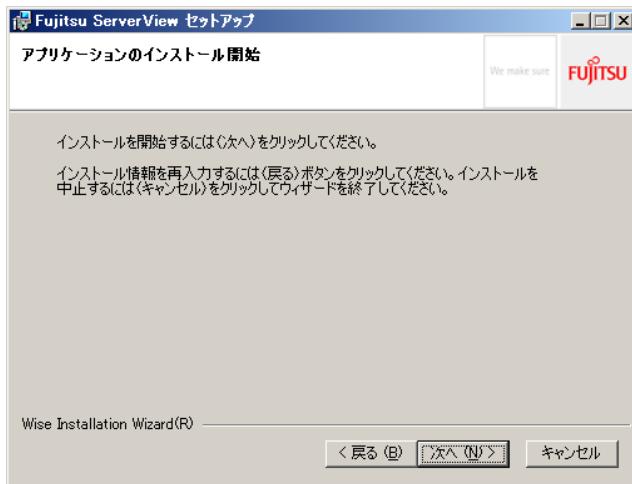


## POINT

- ▶ 「ServerView サービスを開始する間、自動的に IP アドレスの変更をチェックする」を有効にしてインストールを行った場合、インストール後にコンピュータ情報（IP アドレスやコンピュータ名）の変更を行っても、「Fujitsu ServerView Service」の再起動、またはシステム再起動を実行すれば、「2.4.6 インストール後のコンピュータ情報変更」(→ P.75) の処理は必要ありません。

**15** [次へ] をクリックします。

「アプリケーションのインストール開始」画面が表示されます。

**16** [次へ] をクリックします。

インストール処理が開始されます。

完了すると、「終了」画面が表示されます。

**17** [終了] をクリックします。

これでインストールは終了です。インストール終了後、「2.4 インストール後の設定」(→ P.64) を参照し、ServerView を運用するための設定を行ってください。

## 2.3.2 [Windows] ServerView AlarmService のインストール (監視対象サーバ)

Windows 監視対象サーバにおいて、RAID 監視（RAID Manager 連携）または REMCS 連携を行う場合は、ServerView AlarmService をインストールします。

### 重要

- ▶ ServerView AlarmService のインストール後、Web サーバ（Apache2.0／Apache2.2、IIS）を変更、またはアップデートする場合は、アンインストール実施後、インストールを行ってください。また、Web サーバで使用するディレクトリパスを変更する場合は、インストールの際に「Web サーバの格納先」を条件に合わせて変更してください。ServerView Windows コンソールインストール後にディレクトリパスを変更する場合は、一度 ServerView Windows コンソールをアンインストールする必要があります。
- ▶ なお、ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、ServerView Windows コンソールがインストールされ、Web サーバは ServerView Web-Server または IIS が選択されています。アンインストールについては、「2.5 アンインストール」（→ P.79）を参照してください。
- ▶ ターミナルサーバがインストールされているシステムでは、アプリケーションのインストール方法が通常とは異なります。ターミナルサーバ環境に ServerView をインストールする場合は、以下の手順 3 の操作を、コントロールパネルを起動し、「プログラムの追加と削除」→「プログラムの追加」から行ってください。
- ▶ ServerView AlarmService をインストールする前に Java がインストールされていない場合、以下のメッセージが表示されます。  
「Java Virtual Machine が検出されません。Java Virtual Machine をインストールするまで、適切に動作されない機能があります。」  
[OK] をクリックすると、インストールが継続されます。ServerView AlarmService のインストール終了後、Java のインストールを行ってください。
- ▶ ServerView AlarmService は、ServerView Windows コンソールがインストールされている場合でも、上書きインストールができません。現在インストールされている ServerView Windows コンソールまたは ServerView AlarmService をアンインストールしたあと、インストールを行ってください。
- ▶ 複数のバージョンの ServerView をお持ちの場合は、ServerView AlarmService は必ず最新のものをインストールしてください。

### POINT

- ▶ 監視対象サーバに、ServerView S2 もインストールする場合は、ServerView AlarmService ではなく、ServerView Windows コンソールをインストールします。ServerView Windows コンソールのインストールについては、「2.3.1 [Windows] ServerView Windows コンソールのインストール」（→ P.40）を参照してください。

- 1** 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。
- 2** 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 3** PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、以下のインストーラをダブルクリックします。  
 [CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥Svmanage¥WinSVConsole  
 ¥SV\_AlarmSV.bat

サポートするデータベースエンジンがインストールされていなかった場合  
「SQL Server がインストールされていません」画面が表示されます。



### POINT

- データベースエンジンを別途インストールする場合、「いいえ（セットアップを中止する）」を選択し、[次へ] をクリックします。データベースエンジンをインストール後、再度 ServerView AlarmService コンソールのインストールを行います。

データベースエンジンがインストールされていた場合

「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。以下、手順 4～7 は不要です。手順 8 へ進みます。

#### 4 [次へ] をクリックします。

「Microsoft SQL Server 2005 Express のインストールを開始します。」または、「MSDE 2000 SP4 のインストールを開始します。」というメッセージが表示されます。  
メッセージの内容は、インストールする OS によって異なります。

#### 5 [はい] をクリックします。

Microsoft SQL Server 2005 Express、または MSDE 2000 のインストール処理が開始されます。

#### OS が Windows Server 2008 の場合

インストールが完了すると、「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。  
システムを再起動する必要はありません。手順 8 へ進みます。

#### OS が Windows Server 2003、または Windows 2000 Server、Windows XP の場合

インストールが完了すると、システムの再起動を促すメッセージが表示されます。次の手順へ進みます。

#### 6 [OK] をクリックします。

システムが再起動されます。

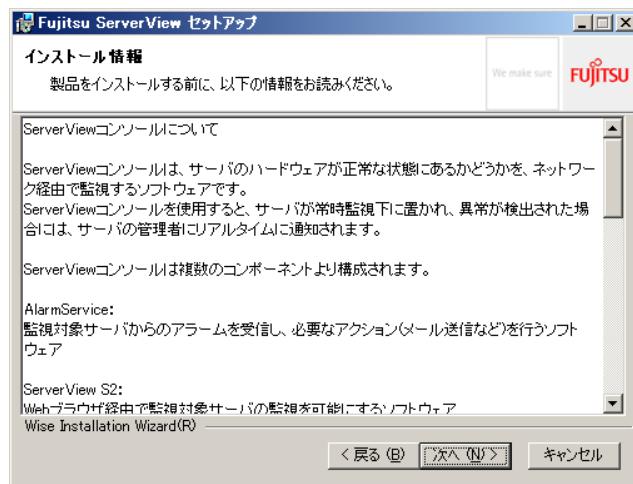
**7 インストーラを実行したのと同じユーザ名でログインします。**

ログイン後、自動でインストールの続きが開始されます。

「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。

**8 [次へ] をクリックします。**

「インストール情報」画面が表示されます。



**9** [次へ] をクリックします。

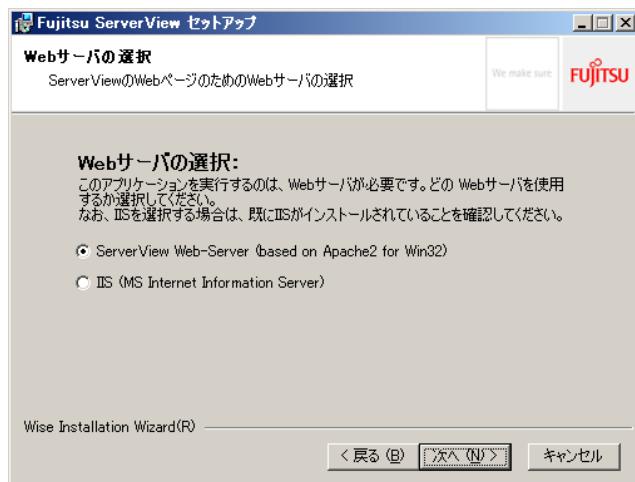
「インストール先フォルダ」画面が表示され、ServerView AlarmService の格納先フォルダが表示されます。



**10** [次へ] をクリックします。

「Web サーバの選択」画面が表示されます。

ただし、IIS がインストールされていない場合は「Web サーバの選択」画面は表示されません。



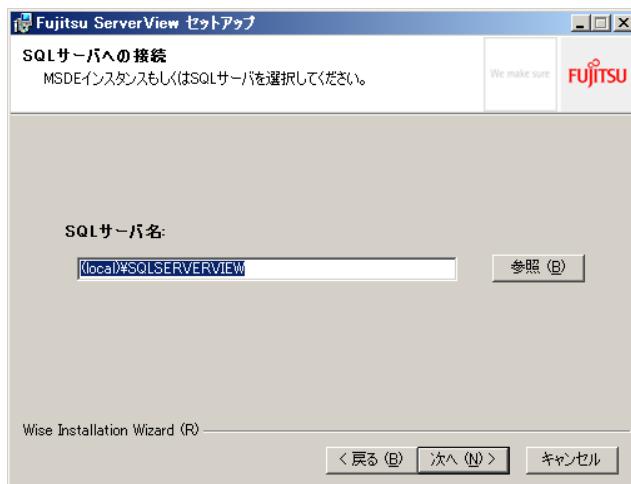
### 重要

- ▶ ServerView Web-Server を選択した場合、Apache2 for Win32 をベースとした Web サーバが ServerView とともにインストールされます。また、Windows のタスクスケジューラに「At\*\* (\*\* : タスク ID)」のタスク名でタスクが追加されます。
- ▶ IIS を選択した場合、インストール済みの IIS を Web サーバとして使用します。
- ▶ Web サーバとして、すでに Apache2.0 / Apache2.2 がインストールされている場合、「Web サーバの選択」画面の選択項目は、「ServerView Web-Server」ではなく「Apache2(Installed Apache2 server)」が表示されます。

**11** 使用する Web サーバを選択し、[次へ] をクリックします。

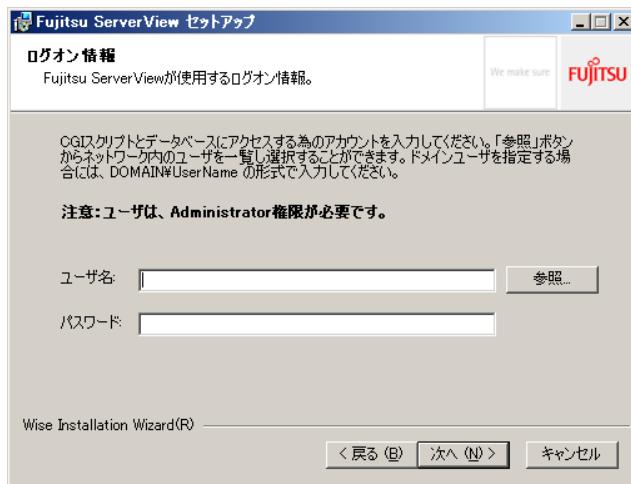
「SQL サーバへの接続」画面が表示されます。

手順 4～7 で、Microsoft SQL Server 2005 Express、または MSDE 2000 SP4 をインストールしていた場合、デフォルトで入力されている SQL サーバ名を変更する必要はありません。

**12** SQL サーバのインスタンス名を入力し、[次へ] をクリックします。

「ログオン情報」画面が表示されます。

ただし、Web サーバに「ServerView Web-Server」を選択した場合は「ログオン情報」画面は表示されません。



### 13 ユーザ名とパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

「Web サーバのプロパティ」画面が表示されます。

選択した Web サーバにより、画面が異なります。

#### Web サーバに「ServerView Web-Server」を選択した場合



#### Web サーバに「IIS」、または「Apache2(Installed Apache2 server)」を選択した場合



#### POINT

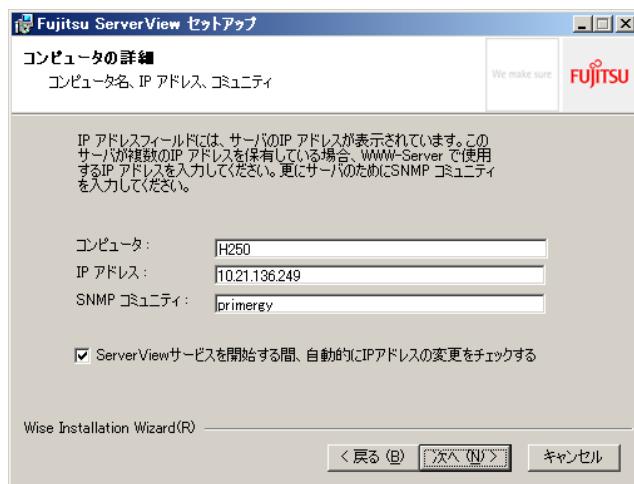
- ▶ 「Web サーバの選択」画面で ServerView Web-Server を選択した場合、「SSL と認証の使用」チェックボックスが表示されます。チェックボックスを有効にすると、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また接続時に認証が要求されるようになります。  
なお、このオプションを選択した場合は、インストール終了後、システムを再起動することを推奨します。

### △ 重要

- ▶ 表示されている格納先のフォルダは変更しないでください。
- ▶ IIS のポート番号を自動に取り込むことはできません。IIS のポート番号を変更した場合、変更したポート番号を入力し直してください。
- ▶ ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、SSL と認証の使用は有効になっています。無効にしたい場合は、ServerView をアンインストールし、再度 ServerView のインストーラを起動してインストールしてください。  
認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「admin」、パスワード「admin」に設定されています。  
ユーザ名とパスワードの追加、変更については、「● ServerView Web-Server と SSL について」(→ P.276) を参照してください。

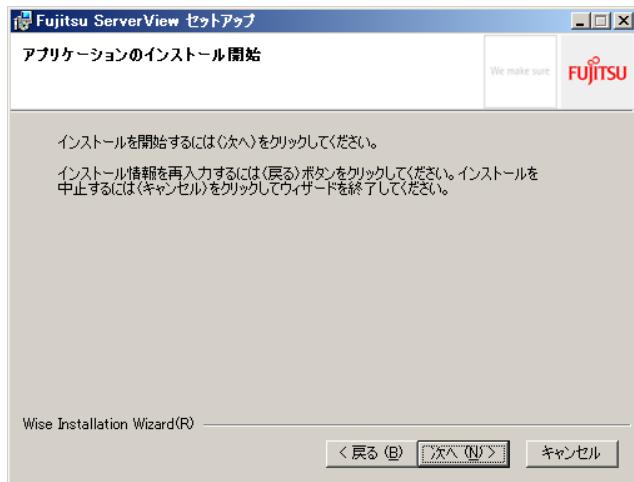
### 14 [次へ] をクリックします。

「コンピュータの詳細」画面が表示されます。



### 15 [次へ] をクリックします。

「アプリケーションのインストール開始」画面が表示されます。



**16** [次へ] をクリックします。

インストール処理が開始されます。  
完了すると、「終了」画面が表示されます。

**17** [終了] をクリックします。

これでインストールは終了です。インストール終了後、「2.4 インストール後の設定」(→ P.64) を参照し、ServerView を運用するための設定を行ってください。

### **2.3.3 [Linux] ServerView Linux コンソールのインストール**

Linux 監視対象サーバに、ServerView Linux コンソール (ServerView S2 / AlarmService) をインストールします。ServerView S2 / AlarmService は、Linux のみの環境下で 1 台のサーバにインストールすると、他のサーバの状態も監視できます。

#### POINT

- ▶ Linux 監視対象サーバに、ServerView Linux エージェントのみ (ServerView S2 / AlarmService は使用しない) をインストールする場合は、『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』を参照してください。
- ▶ ServerView S2 / AlarmService のインストールおよび Web 画面での設定後、Web 画面の表示が必要ない場合は、Web 機能を停止することができます。
  - ・手動で Web 機能を停止する方法

Red Hat Linux の場合

```
# /etc/init.d/httpd stop
```

SUSE Linux の場合

```
# /etc/init.d/apache2 stop
```

- ・システム起動時に Web 機能を起動しない設定方法

Red Hat Linux の場合

```
# /sbin/chkconfig httpd off
```

SUSE Linux の場合

```
# /sbin/chkconfig apache2 off
```

#### 重要

- ▶ ServerView S2 / AlarmService をインストールする場合、ランレベル 3、またはランレベル 5 で実行してください。ランレベル 1 (シングルモード) は未サポートです。
- ▶ ServerView S2 / AlarmService をインストールする場合、ログインシェルに "Bash" を使用する必要があります。"Bash" 以外のシェルをログインシェルに使用している場合は、インストール作業の間だけ "Bash" に切り替えてください。切り替えの際は、以下のコマンドを実施したあと、ログインし直してください。

```
# chsh -s /bin/bash
```

インストール完了後は、"Bash" に切り替える前のシェルに戻して構いません。

- ▶ ServerView S2／AlarmService をインストールする場合、atd のサービスが動作している必要があります。インストール前に atd のサービスを起動してください。他に利用目的がなければインストール後に atd のサービスを停止してください。atd の起動の確認およびサービスの起動方法は、以下のようになります。

- ・ Red Hat Linux の場合

起動していない状態

```
# /etc/init.d/atd status
atd is stopped
```

起動方法

```
# /etc/init.d/atd start
Starting atd : [OK]
# /etc/init.d/atd status
atd (pid xxxxxxx) running....
```

停止方法

```
# /etc/init.d/atd stop
Stopping atd : [OK]
# /etc/init.d/atd status
atd is stopped
```

- ・ SUSE Linux の場合

起動していない状態

```
# /etc/init.d/atd status
Checking for at daemon : unused
```

起動方法

```
# /etc/init.d/atd start
Starting service at daemon done
# /etc/init.d/atd status
Checking for at daemon : running
```

停止方法

```
# /etc/init.d/atd stop
Shutting down service at daemon done
# /etc/init.d/atd status
Checking for at daemon : unused
```

- ▶ 本書では、ServerView Linux コンソールを PRIMERGY スタートアップディスクからインストールする記述になっています。弊社 Web ページから ServerView Linux コンソールをダウンロードしてインストールする場合には、ディレクトリの指定部分を、ファイルを転送／展開したディレクトリに読み替えてください。
- ▶ ServerView Linux エージェントと ServerView Linux コンソールを同一のサーバにインストールする際、「コンソール」→「エージェント」の順番でインストールを行うと、ServerView S2において自サーバの自動登録が行われません。システムを再起動するか、または以下のコマンドを実行してください。

```
# /usr/bin/sv_services stop
# /usr/bin/sv_services start
```

## ■ インストールスクリプトでの ServerView Linux コンソールのインストール

PRIMERGY スタートアップディスク内のインストールスクリプトを利用して、ServerView S2 / AlarmService のインストールができます。

インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」(→ P.256) を参照してください。

### POINT

- ▶ OSにより、SNMP サービス設定ファイル (snmpd.conf) のパスが異なります。
  - ・ Red Hat Linux : /etc/snmp/snmpd.conf
  - ・ SUSE Linux : /etc/snmpd.conf
- ▶ snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。  
手動で編集したあとは、以下のコマンドを実行してください。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

### ● インストールスクリプトの起動方法

インストールスクリプトによるインストールは、スーパーユーザでログインして PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、以下のコマンドを実行して行います。

- Red Hat Linux の場合

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/PROGRAMS/
Japanese2/Svmanage/LinuxSVConsole/
# ./inssv
```

- SUSE Linux の場合

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd/
# cd media/cdrom/または/media/dvd/PROGRAMS/Japanese2/Svmanage/Linux/
LinuxSVConsole/
# ./inssv
```

以下は出力結果例です。

```
ServerView Console install script version V1.0
Copyright(C) FUJITSU LIMITED 2006, 2007, 2008

Install in Red Hat Linux system.

checking necessary RPMs ...
RPMs check [OK]
install ServerView, please wait...
    Packages to install:
ServerViewDB          = true,
ServerViewCommon       = true,
    AlarmService        = true,
    ServerView_S2        = true
Installing Starter package ...
Installation ServerViewStarter success!
checking existence Apache and Snmp packages and exports
setServerViewEnviron ...Start
Install_Starter.sh success!
install/upgrade Postgres package ...
installation mode is newnew
establish daily and weekly database backup
/
Installation ServerViewDB success!
install/upgrade ServerViewCommon package ...
/
/
Installation ServerViewCommon success!
install/upgrade AlarmService package ...

Starting sv_fwdserver ...
job 1768 at 2008-03-07 14:39
Installation AlarmService success!
install/upgrade ServerView_S2 package ...

Starting sv_ainit ...
job 1769 at 2008-03-07 14:40

Starting sv_serverlistservice ...
job 1770 at 2008-03-07 14:40

Starting sv_bmcservice ...
job 1771 at 2008-03-07 14:40

Starting sv_archivd ...
job 1772 at 2008-03-07 14:40

Starting sv_exportd ...
job 1773 at 2008-03-07 14:40

Starting sv_inventoryd ...
job 1774 at 2008-03-07 14:40
/etc/httpd
Installation ServerView_S2 success!

Packages installed:
SMAWPbase-2007.07-17
    SMAWPpgsql-8.2.6-32
    ServerViewDB-4.61-00
    ServerViewCommon-4.61-00
    AlarmService-4.61-00
    ServerView_S2-4.61-00
```

## ● 実行結果の確認

ServerView S2 / AlarmService が正常にインストールされた場合、最終行に以下の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示されない場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」(→ P.256) を参照してください。

上記メッセージが表示された場合は、以下のコマンドを実行してディスクをアンマウントし、PRIMERGY スタートアップディスクを取り出したあと、「2.4.5 [Linux] 各サービスの設定」(→ P.72) を実施してください。

- Red Hat Linux の場合

```
# cd
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
```

- SUSE Linux の場合

```
# cd
# umount /media/cdrom/または/media/dvd
```

## ■ 手動での ServerView Linux コンソールのインストール

スクリプトの実行に失敗し、「付録 A トラブルシューティング」(→ P.256) の対処方法でも解決できない場合には、以下の手順に従い手動でインストールしてください。

### ● Red Hat Linux の場合

#### 1 動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」(→ P.19) を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。



#### 重要

- ▶ インストールを実行する前に、以下のコマンドを実行し、atd のサービスが動作していることを確認してください。

```
# /etc/init.d/atd status
```

## 2 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

以下のコマンドを実行して、ServerView S2／AlarmService が動作するのに必要な RPM のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q net-snmp
# rpm -q net-snmp-utils
# rpm -q compat-libstdc++
# rpm -q httpd
# rpm -q gnome-libs
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q mod_ssl
# rpm -q at
# rpm -q unixODBC
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（XX はバージョンを示します）。

インストールされていない RPM は、Red Hat Linux の CD-ROM からインストールしてください。

### 重要

- ▶ unixODBCについて、RHEL5(Intel64)／RHEL-AS4(EM64T)／RHEL-ES4(EM64T)では、以下の 2 つのパッケージがインストールされている必要があります（XX はバージョンを示します）。
  - ・unixODBC-X.X.XX-X.X.x86\_64.rpm
  - ・unixODBC-X.X.XX-X.X.i386.rpm

### POINT

- ▶ RHEL5(Intel64)／RHEL-AS4(EM64T)／RHEL-ES4(EM64T) の場合は、パッケージのアーキテクチャも確認してください。

#### 確認方法

```
# /bin/rpm -q --qf "%{NAME}-%{VERSION}-%{RELEASE}-%{ARCH}\n"
compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3-x86_64
```

#### 出力結果

```
compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3-x86_64
compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3-i386
```

## 3 RPM コマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/PROGRAMS/
Japanese2/Svmanage/LinuxSVConsole/Console
# ./InstallServerView.sh ServerViewStarter-X.XX-XX.i386.rpm
(xx はバージョンを示します。)
```

#### 4 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。

RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q AlarmService      ←コマンド
AlarmService-X.X-X        ←実行結果

# rpm -q ServerView_S2
ServerView_S2-X.X-X

# rpm -q ServerViewCommon
ServerViewCommon-X.XX-X

# rpm -q ServerViewDB
ServerViewDB-X.XX-X

# rpm -q SMAWPpgsq
SMAWPpgsq-X.X.X-XX

# rpm -q SMAWPbase
SMAWPbase-XXXX.XX-XX
(XX はバージョンを示します。)
```

#### 5 バージョンチェックツールのコピーを行います。

バージョンチェックツールは、ServerView Linux コンソール、およびその他のコンポーネント（ServerView Linux エージェント、RemoteControlService）のバージョン情報を採取するツールです。バージョンチェックツールの使用方法については、/PROGRAMS/Japanese2/Svmanage/LinuxSVConsole/Tools/SVVer/ReadmeJ.txt を参照してください。

以下のコマンドを実行します。

```
# mkdir /etc/ServerView
# cp /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/PROGRAMS/
Japanese2/Svmanage/LinuxSVConsole/Tools/SVVer/SVver.pl /etc/
ServerView/SVver.pl
# cp /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/PROGRAMS/
Japanese2/Svmanage/LinuxSVConsole/Document/SV_Version.txt /etc/
ServerView/SV_Version.txt
```

## ● SUSE Linux の場合

### 1 動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」(→P.19) を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

### 2 パッケージ (RPM) のインストール状態を確認します。

以下のコマンドを実行して、ServerView S2 / AlarmService が動作するのに必要な RPM のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q net-snmp  
# rpm -q apache2  
# rpm -q rpm  
# rpm -q gnome-libs  
# rpm -q gawk  
# rpm -q openssl  
# rpm -q at  
# rpm -q unixODBC
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます (XX はバージョンを示します)。

インストールされていない RPM は、SUSE Linux の CD-ROM からインストールしてください。

### 3 RPM コマンドを実行します。

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd/  
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/PROGRAMS/Japanese2/Svmanage/  
LinuxSVConsole/Console  
# ./InstallServerView.sh ServerViewStarter-X.XX-XX.i386.rpm  
(XX はバージョンを示します。)
```

#### 4 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。

RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q AlarmService      ←コマンド
AlarmService-X.X-X        ←実行結果

# rpm -q ServerView_S2
ServerView_S2-X.X-X

# rpm -q ServerViewCommon
ServerViewCommon-X.XX-X

# rpm -q ServerViewDB
ServerViewDB-X.XX-X

# rpm -q SMAWPpgsq
SMAWPpgsq-X.X.X-XX

# rpm -q SMAWPbase
SMAWPbase-XXXX.XX-XX
(XX はバージョンを示します。)
```

#### 5 バージョンチェックツールのコピーを行います。

バージョンチェックツールは、ServerView Linux コンソール、およびその他のコンポーネント（ServerView Linux エージェント、RemoteControlService）のバージョン情報を採取するツールです。バージョンチェックツールの使用方法については、/PROGRAMS/Japanese2/Svmanage/LinuxSVConsole/Tools/SVVer/ReadmeJ.txt を参照してください。

以下のコマンドを実行します。

```
# mkdir /etc/ServerView
# cp /media/cdrom/または/media/dvd/PROGRAMS/Japanese2/Svmanage/
LinuxSVConsole/Tools/SVVer/SVver.pl /etc/ServerView/SVver.pl
# cp /media/cdrom/または/media/dvd/PROGRAMS/Japanese2/Svmanage/
LinuxSVConsole/Document/SV_Version.txt /etc/ServerView/SV_Version.txt
```

## 2.4 インストール後の設定

ServerView コンソールをインストールしたあとは、ServerView コンソールを正しく運用できるように以下の設定を行います。

設定は、OS により異なります。

表：インストール後の設定

設定項目	参照先	Windows	Linux
Web ブラウザのインストール	→ P.65	○	○
Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール	→ P.66	○	○
オプション装置の割り込み（MIB）情報の登録	→ P.68	○	○
IIS の設定	→ P.69	○	—
各サービスの設定	→ P.72	—	○
インストール後のコンピュータ情報変更	→ P.75	○	○
SNMP 設定の変更方法	→ P.76	○	○
unnecessary アラームを抑止する	→ P.77	○	○
データベースが使用する最大メモリ容量の設定	→ P.77	○	—

○：設定を行います。 —：設定は不要です。

### POINT

- ▶ インストール後にサーバのコンピュータ名や IP アドレスを変更した場合は、「2.4.6 インストール後のコンピュータ情報変更」(→ P.75) を参照して設定を行ってください。
- ▶ ServerView V3.40 以降では、Microsoft Virtual Machine は未サポートです。

### 重要

- ▶ ServerView 関連ファイルの編集、追加、削除などは、動作に影響を及ぼす可能性がありますので、本書に記載されている内容以外は一切行わないでください。

## 2.4.1 Web ブラウザのインストール

ServerView コンソールを使用するサーバおよびパソコンに、Web ブラウザをインストールしてください。

### ■ サーバおよびパソコンの OS が Windows の場合

次のサーバおよびパソコンに Microsoft Internet Explorer 6.0 以降をインストールしてください。

- ServerView Windows コンソールをインストールしたサーバおよびパソコン
- ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバおよびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバおよびパソコン

Windows OS でご利用になる場合は、Microsoft Internet Explorer インストール後、以下の手順に従って、Web サイトの追加設定を行ってください。

- 1** Microsoft Internet Explorer を開きます。
- 2** 「ツール」メニューから、「インターネットオプション」を選択します。
- 3** [セキュリティ] タブをクリックし、「インターネット」または「信頼済みサイト」を選択します。
- 4** [サイト] をクリックし、それぞれ以下の URL (`http://<サーバの IP アドレス>`) を追加します。

#### ServerView Windows コンソールをインストールしたサーバの場合

- 自サーバの URL
- ServerView S2 (Windows / Linux) をインストールしたサーバの URL

#### ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバの場合

- ServerView S2 (Windows / Linux) をインストールしたサーバの URL

#### RSB Web インターフェース画面を表示するサーバの場合

- RSB に設定した URL

### ■ サーバおよびパソコンの OS が Linux の場合

次のサーバおよびパソコンに Mozilla1.3 以降、または Mozilla FireFox 1.0.4 以降をインストールしてください。

- ServerView Linux コンソールをインストールしたサーバ
- ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバおよびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバおよびパソコン

## 2.4.2 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール

ServerView コンソールを使用する以下のサーバおよびパソコンに、Java™2 Runtime Environment Standard Edition をインストールしてください。

Java™2 Runtime Environment Standard Edition のインストーラは、PRIMERGY スタートアップディスクに格納されています。ただし、OS、およびブラウザのバージョンによっては、格納されている Java のバージョンが適応していない場合があります。また、以下に Linux ブラウザ（Mozilla）への Plugin の設定方法を一例として記載していますが、使用される OS、およびブラウザのバージョンによっては設定内容（Java の Plugin のディレクトリパス）が異なる場合があります。お使いの OS、およびブラウザの適応条件をあらかじめ確認してください。

### ● OS が Windows の場合

- ServerView Windows コンソールをインストールしたサーバおよびパソコン
- Web ブラウザで ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバおよびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバおよびパソコン

### ● OS が Linux の場合

- ServerView Linux コンソールをインストールしたサーバ
- Web ブラウザで ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバおよびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバおよびパソコン

## ■ インストール手順

### ● OS が Windows の場合

- 1 PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、以下のいずれかのインストーラを起動します（xx はバージョンを示します）。

[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥Svmanage¥WinSVConsole¥Tools  
¥Jre¥j2re-x\_x\_xx-windows-i586-p.exe

[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥Svmanage¥WinSVConsole¥Tools  
¥jre-x\_x\_xx-windows-i586-p.exe

## ● OS が Linux の場合

- 1** PRIMERGY スタートアップディスクをセットし、以下のインストーラを起動します（xx はバージョンを示します）。

### Red Hat Linux の場合

#### POINT

- ▶ 本手順に記載されている「使用ブラウザのフォルダ」は、以下の例のようなフォルダ名を示します。
  - ・ Mozilla : /usr/lib/mozilla-x.x.x
  - ・ Firefox : /usr/lib/firefox-x.x.x

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/PROGRAMS/
Japanese2/Svmanage/LinuxSVConsole/Tools/Jre
# rpm -iv j2re-x_x_xx-linux-i586.rpm
または
# rpm -iv jre-x_x_xx-linux-i586.rpm
# cd /使用ブラウザのフォルダ/plugins
# ls
すでにlibjavaplugin_ogi.soがある場合
# rm -fr /使用ブラウザのフォルダ/plugins/libjavaplugin_ogi.so
使用ブラウザがMozilla / Mozilla FireFox の場合
# ln -s /usr/java/j2rel.x.x_xx/plugin/i386/ns610-gcc32/
libjavaplugin_ogi.so
または
# ln -s /usr/java/jre1.x.x_xx/plugin/i386/ns7/libjavaplugin_ogi.so
# cd
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
(xx はバージョンを示します。)
```

#### POINT

- ▶ RHEL5(Intel64) / RHEL-AS4(EM64T) / RHEL-ES4(EM64T) 用の java(jre) プラグインは、提供されておりません。  
このため、java をブラウザ (firefox, mozilla) にプラグインできません。ServerView S2 の画面表示、AlarmService のアラーム設定画面表示を行う場合は、別のパソコンのブラウザを使用してください。

### SUSE Linux の場合

#### POINT

- ▶ 本手順に記載されている「使用ブラウザのフォルダ」は、以下の例のようなフォルダ名を示します。
  - ・ Mozilla : /opt.mozilla/lib/

```

# mount /media/cdrom/または/media/dvd
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/PROGRAMS/Japanese2/Svmanage/
LinuxSVConsole/Tools/Jre/
# rpm -iv j2re-x_x_xx-linux-i586.rpm
または
# rpm -iv jre-x_x_xx-linux-i586.rpm
# cd /使用ブラウザのフォルダ/plugins
# ls
すでにlibjavaplugin_ogi.soがある場合
# rm -fr /使用ブラウザのフォルダ/plugins/libjavaplugin_ogi.so
# ln -s /usr/java/j2rel.x.x_xx/plugin/i386/ns610-gcc32/
libjavaplugin_ogi.so
または
# ln -s /usr/java/jre1.x.x_xx/plugin/i386/ns7/libjavaplugin_ogi.so
# cd
# umount /media/cdrom/または/media/dvd
(xx はバージョンを示します。)

```

### 2.4.3 オプション装置の割り込み（MIB）情報の登録

管理用のサーバまたはパソコンに、オプション装置の割り込み（MIB）情報を登録します。

#### ■ OS が Windows の場合

ServerView S2 から、MIB 登録を行います。

操作方法は「3.5.8 MIB の登録（MIB インテグレータ）」（→ P.183）を参照してください。

#### ■ OS が Linux の場合（GUI ベースで使用時）

ServerView S2 から、MIB 登録を行います。

操作方法は「3.5.8 MIB の登録（MIB インテグレータ）」（→ P.183）を参照してください。

#### ■ OS が Linux の場合（CUI ベースで使用時）

- 1 以下のフォルダに対象の mib ファイルをコピーします。

##### Red Hat Linux の場合

/var/www/cgi-bin/ServerView/common/mibs

##### SUSE Linux の場合

/srv/www/cgi-bin/ServerView/common/mibs

- 2 以下のコマンドを入力し、アラームサービスを再起動します。

```

# /etc/init.d/sv_fwdserver stop
# /etc/init.d/sv_fwdserver start

```

#### ※ 重要

- すでに登録済みの mib ファイルを置き換える場合は、mib のファイル名（拡張子を含む）の大文字と小文字の違いに注意してください。誤って登録した場合は、新規 mib として登録されます。

## 2.4.4 [Windows] IIS の設定

Web サーバに IIS を選択して ServerView Windows コンソールをインストールした場合は、以下の機能追加と設定を行ってください。

### ■ Windows Server 2008 場合

- 1** 「スタート」ボタン→「管理ツール」→「サーバーマネージャ」の順にクリックします。
- 2** 左側のツリーで、「役割」→「Web サーバー (IIS)」の順にクリックします。
- 3** [役割サービスの追加] をクリックします。
- 4** 以下の機能がすべてインストールされているかどうかを確認します。  
インストールされていない機能があった場合、インストールします。

表 : Web サーバー IIS 必須コンポーネント

カテゴリ	項目
HTTP 基本機能	静的コンテンツ
	既定のドキュメント
	ディレクトリの参照
	HTTP エラー
	HTTP リダイレクト
アプリケーション開発	CGI
	ISAPI 拡張機能
セキュリティ	基本認証
	Windows 認証
	ダイジェスト認証
管理ツール	IIS 管理コンソール
	IIS 管理スクリプトおよびツール
	管理サービス

- 5** サーバーマネージャを閉じます。
- 6** 「スタート」ボタン→「管理ツール」→「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」の順にクリックします。
- 7** ローカルサーバのホームページで、[ISAPI および CGI の制限] アイコンをダブルクリックします。

- 8** 以下のフォルダ配下にある拡張子が "exe" のファイルがすべて「有効」になっていることを確認します。

有効になつてない場合は、有効にします。

```
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥common
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpArchive
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpTrap
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpView
```

- 9** 左側のツリーで、[サイト] → [Default Web Site] → [scripts] → [ServerView] の順にクリックします。

- 10** CGI-exe の設定をします。

1. [ハンドラ マッピング] アイコンをダブルクリックします。
2. 「CGI-exe」を選択し、画面右の「操作」メニューから「機能のアクセス許可の編集」をクリックします。
3. 「実行」にチェックを付け、[OK] をクリックします。

- 11** 左側のツリーで、[サイト] → [Default Web Site] → [scripts] → [ServerView] の順にクリックします。

- 12** 認証に関する設定を行います。

1. [認証] アイコンをダブルクリックします。
2. 以下のとおり設定します。

表：認証の設定内容

項目	設定内容
Windows 認証	有効
ダイジェスト認証	無効
基本認証	無効
匿名認証	有効

3. 「匿名認証」を選択し、画面右の「操作」メニューから「編集」をクリックします。
4. 「特定のユーザー ID」にチェックを付けます。
5. [設定] をクリックし、Administrator 権限を持ったユーザを設定します。
6. [OK] をクリックします。

## ■ Windows Server 2003 / Windows XP の場合

以下の機能追加と設定を行ってください。すでに ServerView 関連ファイルが登録されている場合は、実施する必要はありません。

### ● すべての不明な CGI 拡張の許可

- 1** IIS マネージャで、ローカルコンピュータを展開し、[Web サービス拡張] をクリックします。
- 2** 詳細のウィンドウ領域で、無効になっている「すべての不明な CGI 拡張」を選択し、[許可] をクリックします。
- 3** [OK] をクリックします。

### ● 新しい Web サービス拡張を追加

- 1** IIS マネージャで、ローカルコンピュータを展開し、[Web サービス拡張] をクリックします。
- 2** 詳細のウィンドウ領域で、[新しい Web サービス拡張を追加] をクリックします。
- 3** [拡張名] ボックスに、新しい Web サービス拡張の名前を入力します。  
例) 「ServerView」
- 4** [追加] をクリックします。

- 5** [ファイルのパス] ボックスにパスを入力するか、または [参照] をクリックして新しい Web サービス拡張が要求するファイルに移動し、[OK] をクリックします。

以下のフォルダ配下にあるすべての exe ファイルを追加してください。

```
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpTrap  
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpArchive  
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥common  
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpView
```

- 6** すべてのファイルの追加が終了したら、[OK] をクリックします。
- 7** [Web サービス拡張] ウィンドウに戻って、上記手順 3 で追加した拡張名上で右クリックし、[許可] をクリックします。

## 2.4.5 [Linux] 各サービスの設定

### ■ Red Hat Linux の場合

#### ● snmptrapd.conf の編集 (RHEL5(x86) / RHEL5(Intel64) の場合のみ)

- 1 以下のコマンドを入力し、/etc/snmp/ に snmptrapd.conf というファイルを作成します。

```
# vi /etc/snmp/snmptrapd.conf
```

- 2 上記ファイル内に以下の定義を追記します。

```
disableAuthorization yes
```

- 3 システムを再起動します。

#### 重要

- ▶ snmptrapd.conf の編集を行わない場合、アラームサービスの機能が正常に動作しません。

#### ● Firewall の設定

#### POINT

- ▶ Firewall の設定は、Firewall を使用する場合にのみ実行する必要があります。Firewall を使用しないのであれば、設定は不要です。

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。

ここでは、setup コマンドでの設定方法を説明します。

なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Red Hat Linux のマニュアルおよび以下の設定方法を参考にしてください。

#### 重要

- ▶ 以下の Firewall の設定は、ServerView の動作に必要な設定です。Firewall の設定についての詳細は、Red Hat Linux のマニュアルを参照してください。

- 1** スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

メニュー画面が表示されます。



- 2** 「Firewall configuration」を選択し、【Enter】キーを押します。

「ファイアウォールの設定」画面が表示されます。



- 3** 「Enabled」に「\*」印を付け、【Tab】キーで「カスタマイズ」にカーソルを合わせ【Enter】キーを押します。

「ファイアウォール設定—カスタマイズ」画面が表示されます。

### ☞ 重要

- ▶ ここで「Disabled」を選択した場合は、以下の設定は必要ありません。

#### 4 使用するプロトコルを設定します。



以下のプロトコルを設定します。

1. WWW (HTTP) を選択します。  
[\*] 印を付けます。
2. その他のポートに「https:tcp」と記述します。



##### プロトコルの設定

- ▶ http、https は、WebServer を起動するのに必須です。

3. 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。



- ▶ SSH、telnet など、他の機能を有効にするとき、ファイアウォールの設定が必要になる場合があります。

#### 5 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

#### 6 「停止」を選択し、【Enter】キーを押します。

#### 7 パケットフィルタリングの設定を編集します。

/etc/sysconfig/iptables を編集します。

以下の4行を追加してください。

```
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --dport 161 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --sport 161 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --dport 162 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --sport 162 -j ACCEPT
```

#### 8 パケットフィルタリングの設定を反映します。

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/iptables restart
```

## ■ SUSE Linux の場合

### ● Firewall の設定

以下の順序で SuSE Firewall2 の設定画面を開き設定してください。  
 YaST コントロールセンター → セキュリティとユーザ → ファイアウォール  
 ただし、ポート 161、162 は udp の通信で使用するため開けてください。

## 2.4.6 インストール後のコンピュータ情報変更

ServerView コンソールのインストール後に、インストールした監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンのコンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合、次の操作を行います。

## ■ Windows の場合

- 1** ServerView およびアラームサービスを起動している場合は、すべて終了します。
- 2** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「Change Computer Details」の順にクリックします。
- 3** 新しいコンピュータ情報を設定します。
- 4** コンソールを再起動します。
- 5** ServerView を起動し、「サーバの一覧」でコンピュータ名、IP アドレスを確認します。

変更されていない場合、次の設定を行ってください。

#### IP アドレスが変更されていない場合

1. サーバの一覧から、対象のコンピュータを選択します。
2. 「ファイル」メニュー→「サーバのプロパティ」の順にクリックします。
3. 「サーバのアドレス」タブをクリックし、変更後の IP アドレスを入力します。
4. [OK] をクリックします。

#### コンピュータ名が変更されていない場合

1. サーバの一覧から、対象のコンピュータを選択します。
2. 「ファイル」メニュー→「削除」の順にクリックし、いったんサーバを削除します。
3. 「ファイル」メニュー→「新しいサーバ」の順にクリックし、対象のコンピュータを再度登録します。

コンピュータの登録について、詳細は「3.1.3 監視対象サーバの登録」(→ P.90) を参照してください。

## ■ Linux の場合

ServerView S2 にて、「■ Windows の場合」(→ P.75) の手順 5 を実行してください。

### ◀ 重要

- ▶ ServerView コンソールまたは ServerView Linux コンソールのインストール後に、サーバ名および IP アドレスを変更すると、サーバの一覧に旧サーバ名、旧 IP アドレスが監視対象として残ったままとなる場合があります。その場合、旧 IP アドレスへアクセスし続けることになりますので、以下の方法で旧サーバ名、旧 IP アドレスの監視エントリを削除してください。
  1. サーバの一覧より削除対象のサーバ名を選択します。
  2. 「ファイル」メニュー → 「削除」の順にクリックし、サーバを削除します。

## 2.4.7 SNMP 設定の変更方法

SNMP 設定の変更方法について説明します。

SNMP 設定に誤りがある場合、監視機能が正常に動作しません。

なお、「SNMP Service のプロパティ」の表示手順については、「2.2.1 [Windows] TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」(→ P.26) を参照してください。

## ■ SNMP コミュニティ名の変更

監視対象サーバ側で受け付けるコミュニティ名と、ServerView コンソール側で監視対象サーバとの SNMP 通信に使用するコミュニティ名を同一に設定する必要があります。

コミュニティ名を変更する場合は、以下の変更方法を行ってください。

### ● ServerView コンソールでの変更方法

すでに登録した監視対象サーバを変更する場合は、サーバ一覧の監視対象サーバを選択し右クリック → 「サーバのプロパティ」 → 「ネットワーク / SNMP」タブの順にクリックして、コミュニティ名を変更します。

詳細または新しいサーバの追加方法については、「第3章 ServerView の使用方法」(→ P.83) を参照してください。

### ● 監視対象サーバでの変更方法

監視対象サーバでの変更方法については、『ServerView ユーザーズガイド (Windows エージェント編)』または『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』を参照してください。

## ■ トラブル送信先の変更

SNMP Service のプロパティ ([トラブル] タブ) を変更します。

ServerView コンソールをインストールした監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンにおいて、トラブル送信先に ServerView コンソールのホスト名または IP アドレスを必ず入力してください。

### POINT

- ▶ 「接続状態変更トラブル」機能を有効にすると、ServerView コンソールより接続状態変更トラブルが送信されます。詳しくは、「3.1.4 サーバ設定の確認 / 変更」(→ P.93) を参照してください。

## 2.4.8 必要ないアラームを抑止する

アラームモニタの「除外」機能を使用して、必要ではないアラームの受信を抑止することができます。詳細については、「■アラームの除外／除外一覧」(→P.148)を参照してください。

## 2.4.9 [Windows] データベースが使用する最大メモリ容量を設定する

データベースには、使用する最大メモリ容量を設定するパラメータ(max server memory)があります。このパラメータをデフォルト設定の状態で使用すると、データベースがメモリを圧迫し、トラブルや性能劣化が発生する可能性があります。

トラブルを未然に防ぐために、パラメータの設定値を、512MB程度に設定することを推奨します。搭載メモリ容量に応じて調節してください。設定手順は以下のとおりです。

- 1 Windows システムフォルダ(C:\WINDOWS など)配下にある ServerViewDB.ini ファイルの「Server\_Instance」の値を確認します。

### ServerViewDB.ini の例

以下の例では、「Server\_Instance」の値は、「(local)\SQLSERVERVIEW」です。

```
[BASE]
DbBackupPath=C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\Sqldb\
DatabaseLog=C:\DOCUME~1\ADMINI~1\LOCALS~1\APPLIC~1\svsqldb.log
DataSourceName=ServerViewNTDs
DbName=ServerViewDB
DbService=MSSQL$SQLSERVERVIEW
Instance=SQLSERVERVIEW
Server_Instance=(local)\SQLSERVERVIEW ←この値
DbAgent=SQLAgent$SQLSERVERVIEW
:
```

- 2 コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。

```
> osql -S <Server_Instanceの値> -E
```

### 「Server\_Instance」の値が「(local)\SQLSERVERVIEW」の場合の例

```
> osql -S (local)\SQLSERVERVIEW -E ([Enter]キーを押す)
1>
```

- 3 以下の手順で、データベースの環境変数を変更します。

1. プロンプト(1>)において、「sp\_configure 'show advanced options', 1」を入力し、【Enter】キーを押します。  
プロンプト(2>)が表示されます。
2. 「GO」を入力し、【Enter】キーを押します。  
プロンプト(1>)が表示されます。
3. 「RECONFIGURE」を入力し、【Enter】キーを押します。  
プロンプト(2>)が表示されます。

4. 「GO」を入力し、【Enter】キーを押します。

以下に実行結果を示します。

```
1> sp_configure 'show advanced options',1
2> GO
設定オプション 'show advanced options' が 0 から 1 に変更されました。
RECONFIGURE
ステートメントを実行して、インストールしてください。
1> RECONFIGURE
2> GO
1>
```

#### 4 以下の手順で、パラメータ「max server memory」を設定します。

以下は、最大メモリ容量を 512MB に設定する場合の例です。

1. プロンプト (1>)において、「sp\_configure 'max server memory', 512」を入力し、  
【Enter】キーを押します。  
搭載メモリ容量に応じて、「512(MB)」部分を調節してください。  
プロンプト (2>) が表示されます。
2. 「GO」を入力し、【Enter】キーを押します。  
プロンプト (1>) が表示されます。
3. 「RECONFIGURE」を入力し、【Enter】キーを押します。  
プロンプト (2>) が表示されます。
4. 「GO」を入力し、【Enter】キーを押します。

以下に実行結果を示します。

```
1> sp_configure 'max server memory',512
2> GO
DBCC の実行が完了しました。DBCC がエラーメッセージを出力した場合は、システム管理者
に相談してください。
設定オプション 'max server memory (MB)' が 2147483647 から 512 に変更されました。
RECONFIGURE
ステートメントを実行して、インストールしてください。
1> RECONFIGURE
2> GO
1>
```

#### POINT

- ▶ 搭載メモリ容量に応じて、上記の「512(MB)」部分を調節してください。

## 2.5 アンインストール

ServerView のアンインストール方法について説明します。

サーバをレベルアップしてサーバの監視システムを再構築する場合、または管理端末を他のパソコンに切り替えて使用する場合、ServerView をレベルアップする場合など、管理端末から現在の ServerView コンソールをアンインストールするには、以下の操作を行います。

### 重要

- ▶ ServerView をアンインストールする場合、すべての ServerView プログラムを終了させてから行ってください。ServerView をアンインストールしたあと、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。
- ▶ アンインストールを行うときに、途中で処理を中断したり、以下の手順以外の操作を行ったりすると、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。
- ▶ アンインストールを行うため、サーバリストやアラーム設定などの設定は削除されます。自動的に設定を引き継ぐ機能はありませんので、アンインストール前に設定内容を控えておいてください。アップデートインストール後、再度設定してください。

### 2.5.1 [Windows] ServerView Windows コンソールのアンインストール

### 重要

- ▶ アンインストール画面において文字化けが生じることがありますが、動作には影響はありません。
- ▶ アンインストール終了後、ServerView のショートカット、またはプログラムグループに ServerView が残っている場合があります。手動で削除してください。
- ▶ アンインストール後、タスクスケジューラに「At\*\* (\*\* : タスク ID)」というタスクが残っている場合があります。この場合は、タスクのプロパティを開いて「実行するファイル名」が以下と同じ場合は、タスクを削除してください。
  - ・ServerView のタスクスケジューラで実行されるファイル :
  - [システムドライブ] : ¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer  
¥ClearMyLogs.exe
- ▶ ServerView S2、および AlarmService が一度に削除されます。削除する対象を選択することはできません。

### ■ Windows Server 2008 の場合

- 1** 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。
- 2** 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 3** コントロールパネルを起動し、[プログラムと機能] アイコンをダブルクリックします。

- 4** 「Fujitsu ServerView」を選択し、[アンインストール] をクリックします。
- アンインストールの実行を確認するメッセージが表示がされた場合、[はい] をクリックします。
- ServerView Windows コンソールがアンインストールされます。
- データベースに Microsoft SQL Server 2005 Express を使用していなかった場合  
以下手順 5～15 は不要です。手順 16 へ進みます。
- 5** コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 6** [コンピュータの管理] をクリックします。
- 7** 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。
- 8** 右側のウィンドウで「SQL Server (SQLSERVERVIEW)」をクリックします。
- 9** 「操作」メニュー→「停止」の順にクリックします。
- 10** 「コンピュータの管理」画面を閉じます。
- 11** 再度、コントロールパネルを起動し、[プログラムと機能] アイコンをダブルクリックします。
- 12** 「Microsoft SQL Server 2005」を選択し、[アンインストール] をクリックします。
- 13** 「インスタンスの選択」で「SQLSERVERVIEW: データベースエンジン」にチェックを付けます。
-  **POINT**
- ▶ お使いの環境で、ServerView 以外の用途に Microsoft SQL Server 2005 Express が使われていてなかった場合は、「SQL Server 2005 共通コンポーネントの削除」の「ワークステーションコンポーネント」にチェックを付けます。
- 14** [次へ] をクリックします。
- 15** 確認画面が表示されたら [完了] をクリックします。
- Microsoft SQL Server 2005 Express がアンインストールされます。
- 16** 「Microsoft SQL Server Native Client」を選択し、[アンインストール] をクリックします。
- アンインストールの実行を確認するメッセージが表示がされた場合、[はい] をクリックします。

## ■ Windows Server 2003 / Windows 2000 Server / Windows XP の場合

- 1** 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。
- 2** 実行中のアプリケーションをすべて終了します。
- 3** コントロールパネルを起動し、「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 4** 「Fujitsu ServerView」を選択し、[削除] をクリックします。  
ServerView Windows コンソールがアンインストールされます。
- 5** 「Microsoft SQL Server Desktop Engine (SQLSERVIEWVIEW)」を選択し、[削除] をクリックします。  
MSDE 2000 SP4 がアンインストールされます。  
データベースに、MSDE 2000 SP4 を使用していなかった場合、この手順は不要です。

### 2.5.2 [Linux] ServerView Linux コンソールのアンインストール

ServerView Linux コンソール (ServerView S2 / AlarmService) をアンインストールするには、以下の操作を行います。

#### ※ 重要

- ▶ ServerView S2 は、RemoteControlService/Web がインストールされている場合、依存関係を設定しているため、アンインストールできません。先に、RemoteControlService/Web をアンインストールする必要があります。RemoteControlService/Web のアンインストールについては、『ServerView ユーザーズガイド (RemoteControlService 編)』を参照してください。

- 1** スーパーユーザでログインします。
- 2** 以下のスクリプトを実行します。

```
# /usr/bin/UninstallServerView.sh
```

PostgreSQL (SMAWPpgsql パッケージ) / ServerView DB / ServerViewCommon / ServerView S2 / AlarmService がアンインストールされます。

## 2.6 アップデートインストール

ServerView コンソールは、上書きインストールできません。

先にアンインストールを行い、その後、新規に ServerView コンソールをインストールしてください。

また、旧版 ServerView コンソール（WebExtension）からの上書きインストールもできません。

## 第3章

# ServerView の使用方法

この章では、ServerView によるサーバ監視機能の使用方法について説明しています。

3.1	ServerView S2 の起動と終了 .....	84
3.2	サーバの監視 .....	101
3.3	ブレードサーバの監視 .....	132
3.4	異常発生時の対処 (ASR) .....	136
3.5	アラームサービス .....	143
3.6	パフォーマンスマネージャ .....	185
3.7	アーカイブデータの管理 .....	205
3.8	パワーモニタ .....	215
3.9	ServerView コンソールのシステムサービス .....	218

## 3.1 ServerView S2 の起動と終了

ServerView S2 は、Web ブラウザによるサーバの監視および各種設定を行います。

### POINT

- ▶ ServerView エージェントがインストールされているローカルサーバ上の ServerView S2 を起動すると、自動的にローカルサーバがサーバリストに追加され、「サーバの一覧」画面に表示されます。

### 3.1.1 ServerView S2 の起動

- 1 Web ブラウザを起動します。

#### ※ 重要

- ▶ Web ブラウザに Internet Explorer を使用する場合、Web ブラウザ起動後、以下の操作を行って Web サイトを追加してください。
  1. 「ツール」メニューから、「インターネットオプション」を選択します。
  2. 「セキュリティ」タブをクリックし、「インターネット」または「信頼済みサイト」を選択します。
  3. 「サイト」をクリックし、ServerView S2 をインストールしたサーバの URL を追加します。
- ▶ Web ブラウザに Mozilla または Netscape を使用する場合、Web ブラウザ起動後、以下の操作を行い、ポップアップウィンドウの抑止の解除を行ってください。
  1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
  2. カテゴリから「プライバシーとセキュリティ」配下の「ポップアップ ウィンドウ」を選択します。
  3. 「要求していないポップアップ ウィンドウを抑止」のチェックを外します。
- ▶ Web ブラウザに Mozilla または Mozilla FireFox を使用する場合、Web ブラウザ起動後、以下の操作が必要です。
  - ・ Web サイトの日本語表示（Mozilla の場合）
    1. 「View」メニュー → 「Character Encoding」 → 「Auto-Detect」の順にクリックし、「Japanese」を選択します。
    2. 「Edit」メニューから「Preferences」を選択します。
    3. 「Category」欄の「Advanced」より「Cache」を選択します。
    4. 「Clear Cache」をクリックします。
    5. 「Preferences」画面で [OK] をクリックしたあと、Web ブラウザをいったん閉じて再起動します。
  - ・ Web サイトの日本語表示（Mozilla FireFox の場合）
    1. 「表示」メニュー → 「文字エンコード」 → 「自動判別」の順にクリックし、「日本語」を選択します。
    2. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
    3. 「プライバシー」を選択し、「データキャッシュ」の「クリア」をクリックします。
    4. 「設定」画面で [OK] をクリックしたあと、Web ブラウザをいったん閉じて再起動します。

## 2 次のいずれかの URL を入力し、【Enter】キーを押します。

### IIS、または Linux を使用している場合

http://<サーバ名またはサーバの IP アドレス>/ServerView/

http://<サーバ名またはサーバの IP アドレス>/sv\_www.html

### ServerView Web-Server を使用している場合（通常の接続）

http://<サーバ名またはサーバの IP アドレス>:3169/ServerView/

http://<サーバ名またはサーバの IP アドレス>:3169/sv\_www.html

### ServerView Web-Server を使用している場合（SSL 接続）

https://<サーバ名またはサーバの IP アドレス>:3170/ServerView/

https://<サーバ名またはサーバの IP アドレス>:3170/sv\_www.html



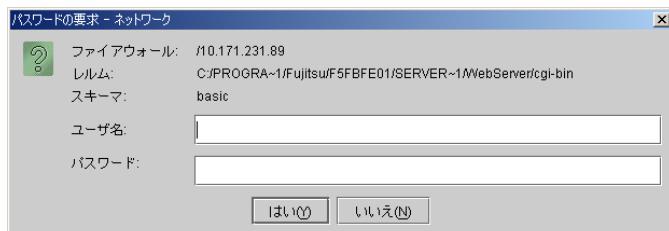
- ▶ 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView S2」の順にクリックしても、ServerView S2 の画面を表示できます。

ServerView S2 の画面が表示されます。



### ServerView S2 に接続する際のユーザ名／パスワードについて

- ▶ インストール時に「ServerView Web-Server」を指定し「SSL と認証の使用」を有効にした場合、ServerView S2 に接続する際に、以下の認証画面が表示される場合があります。



- ▶ 認証は、デフォルトでユーザ名「admin」、パスワード「admin」に設定されています。セキュリティのため、このユーザを削除して、任意のユーザを追加してください。追加手順については、「● ServerView Web-Server と SSL について」(→ P.276) を参照してください。
- ▶ この認証が実行されるか否かは、接続元の IP アドレスに依存します。認証が実行されない IP アドレスは、以下のファイルに記載されています。  
[システムドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services  
¥WebServer¥conf¥ssl.conf

以下はインストール時のサーバの IP アドレスが「192.168.1.11」の場合の ssl.conf の例です。

```
<前略>
# settings for user/password authentication:
# wwwroot
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot">
Options FollowSymLinks
AllowOverride None

Order deny,allow
Deny from all
Allow from 127.0.0.1 192.168.1.11
AuthType Basic
AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/
bin/passwd"
AuthName "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/cgi-
bin"
Require valid-user
Satisfy any
</Directory>

# scripts
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts">
Options FollowSymLinks
AllowOverride None

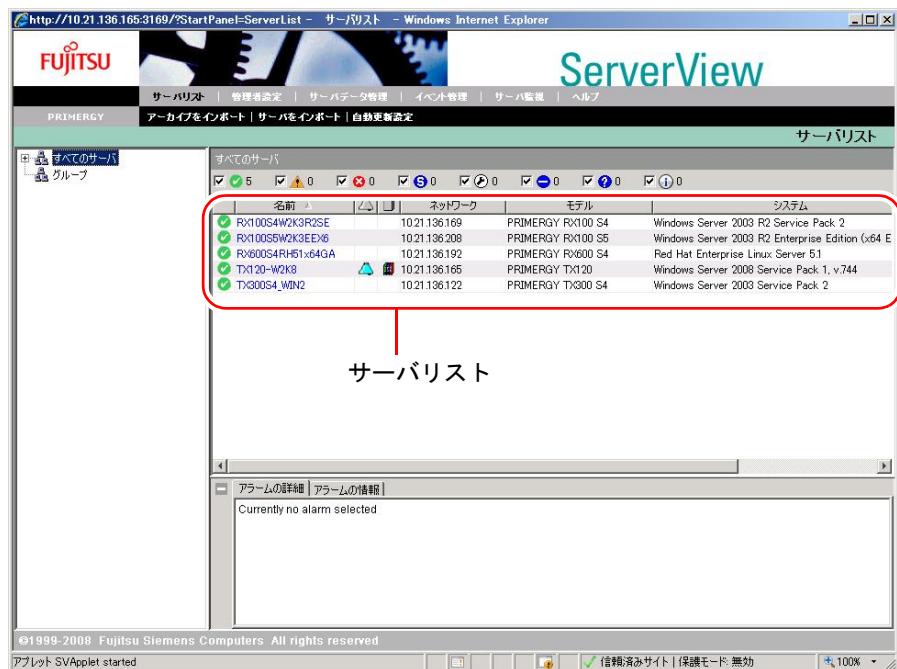
Order deny,allow
Deny from all
Allow from 127.0.0.1 192.168.1.11
<後略>
```

サーバの IP アドレスがインストール時と異なる場合、認証が実行されるか否かはこの値に依存します。

### 3 「ServerView S2」の文字、またはサーバの写真をクリックします。



登録されているすべてのサーバがリスト表示されます。



### POINT

- ▶ アラームを受信しているサーバを選択すると、そのアラーム内容が【アラームの詳細】タブと【アラームの情報】タブに表示されます。各画面の内容については、「■アラームウィンドウ」(→ P.147) を参照してください。

### 重要

- ▶ Web ブラウザに Internet Explorer を使用して Linux 監視対象サーバを参照する場合、サーバーのリスト表示の画面が正常に表示されない場合があります。  
以下の手順を行ってください。
  1. Linux 監視対象サーバのサービス設定ファイル (Red Hat Linux の場合は httpd サービス設定ファイル、SUSE Linux の場合は apache2 サービス設定ファイル) の内容が正しく設定されているかを確認します。  
詳しくは、「2.4.5 [Linux] 各サービスの設定」(→ P.72) を参照してください。
  2. Web ブラウザ (Internet Explorer) の「ツール」メニューから、「インターネットオプション」を選択します。
  3. 「全般」タブの「インターネット一時ファイル」で「ファイルの削除」をクリックします。
  4. 「ファイルの削除」画面で「すべてのオフラインコンテンツを削除する」をチェックし、「OK」をクリックします。
  5. 「インターネットオプション」画面の「OK」をクリックしたあと、Web ブラウザをいったん閉じて再起動します。
- ▶ サーバブレードで teaming などの LAN 変更を行っている場合、マネジメントブレードをサーバリストに登録した際に LAN 変更を行っているサーバブレードの IP アドレスが 0.0.0.0 と表示される場合があります。この場合、変更を行っているサーバブレードは独立したサーバとしてサーバリストに個別に登録してください。

### 3.1.2 ServerView S2 のメニュー（機能一覧）

ServerView S2 では、画面上部にあるメニューバーから各機能を実行します。各メニューにカーソルをポイントするとサブメニューが表示されます。

表：ServerView S2 の機能

メニュー名	説明
サーバリスト	
アーカイブをインポート	他の管理サーバで取得したアーカイブデータをインポートします。 →「3.7.6 インポートアーカイブ」(P.214)
自動更新設定	サーバリストの更新間隔を設定します。 →「■ サーバリストの更新間隔の設定」(P.104)
管理者設定	
サーバブラウザ	サーバリストに監視対象サーバを追加します。 →「3.1.3 監視対象サーバの登録」(P.90)
ユーザ／パスワード	ログインが必要となるノードから情報を検索するために、認証のためのユーザ名とパスワードを入力できます。 →「3.1.5 ユーザ／パスワード設定」(P.97)
単位設定	温度表示を設定します。 →「3.1.6 単位設定」(P.98)
サーバデータ管理	
アーカイブマネージャ	アーカイブデータの取得、管理を行います。 →「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」(P.205)
イベント管理	
アラームモニタ	受信したアラームを表示します。 →「3.5.2 アラームモニタ」(P.145)
アラーム設定	アラームに関する設定を行います。 →「3.5.3 アラーム設定の起動と操作の流れ」(P.152)
MIB インテグレータ	MIB ファイルを追加します。 →「3.5.8 MIB の登録 (MIB インテグレータ)」(P.183)
サーバ監視	
パフォーマンスマネージャ	しきい値やレポートの設定、監視、表示を行います。 →「3.6 パフォーマンスマネージャ」(P.185)
パワーモニタ	サーバの電力消費の状態を表示します。 →「3.8 パワーモニタ」(P.215)
ヘルプ	
バージョン情報	ServerView S2 のバージョン情報を表示します。
目次	ヘルプの目次を表示します。
この画面のヘルプ	現在表示されている画面のヘルプを表示します。

## ■右クリックメニュー一覧

サーバリスト画面で右クリックすると、以下のメニューが表示されます。  
右クリックする位置（対象）によって表示される項目が異なります。

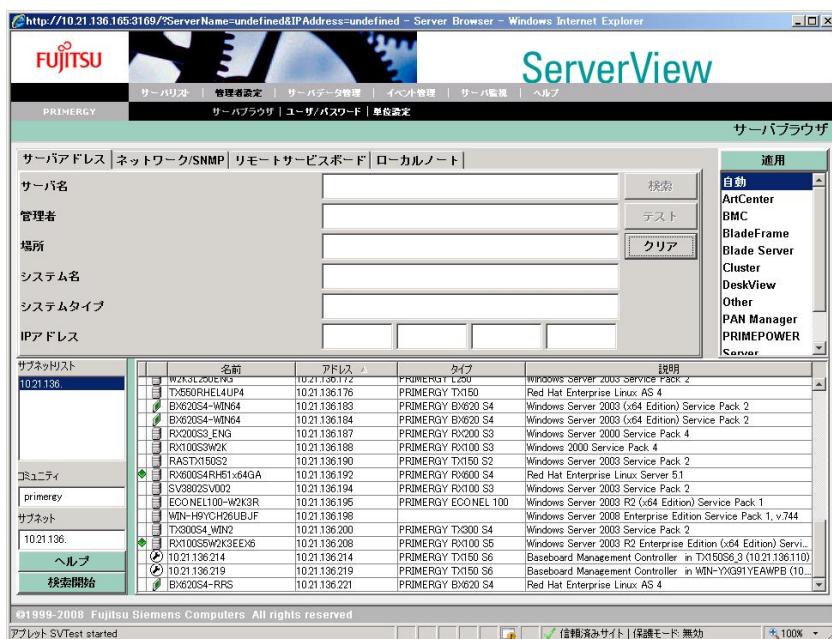
表：右クリックメニュー

メニュー項目	説明
サーバ画面を開く	サーバの監視画面が表示されます。 →「3.2.2 サーバの各監視項目の詳細確認」(P.104)
新しいサーバ	監視対象サーバを追加できます。 →「3.1.3 監視対象サーバの登録」(P.90)
ASR のプロパティ	ASR ウィンドウを表示します。異常発生時の対処方法などを設定できます。 →「3.4 異常発生時の対処 (ASR)」(P.136)
電源制御	サーバの電源制御ウィンドウを開きます。 →「3.1.7 電源制御」(P.98)
接続テスト	サーバへの接続テストを行います。 →「■ サーバの接続確認」(P.102)
新しいグループ	新規グループを作成します。選択したグループの下位に作成されます。 「すべてのサーバ」の下位にはグループは作成できません。
グループへ移動	選択したグループを別のグループに移動します。
グループへコピー	選択したサーバをグループに登録します。
リネーム	グループ名を変更します。
削除	選択したサーバ、グループを削除します。
サーバのプロパティ	サーバのプロパティ ウィンドウを表示します。サーバ情報を確認、変更できます。 →「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」(P.93)
サーバの再検出	サーバステータスを再検出します。 →「■ サーバの再検出／すべてのサーバの再検出」(P.103)
すべてのサーバの再検出	すべてのサーバステータスを再検出します。 →「■ サーバの再検出／すべてのサーバの再検出」(P.103)
DB からリフレッシュ	データベースを更新します。
アラームを受領	未受領のアラームを受領します。
すべてのアラームを受領	未受領のアラームをすべて受領します。
アーカイブの削除	取得済みのアーカイブデータを削除します。 (アーカイブデータが存在する場合のみ表示されます)
今すぐアーカイブを取得	選択しているサーバのアーカイブデータを取得します。

### 3.1.3 監視対象サーバの登録

ServerView S2によるネットワーク上のサーバ監視を行うには、サーバリストに監視対象サーバを登録する必要があります。以下の手順でサーバを登録してください。

- 1 「管理者設定」メニュー → 「サーバブラウザ」の順にクリックします。または、サーバリスト上で右クリックして、表示されたメニューから「新しいサーバ」をクリックします。**
- 2 [検索開始] をクリックします。**  
ネットワーク上に存在するノードが一覧で表示されます。



- 3 「IP アドレス」欄に登録したいサーバの IP アドレスを入力し、[検索] をクリックします。**  
サーバの DNS 名などの情報が自動的に取得され、各項目に表示されます。  
表示されない場合は、対象サーバのネットワーク設定を確認してください。

#### POINT

- ▶ [テスト] をクリックすると、サーバの接続テストが行われます。[クリア] をクリックすると、入力値がすべて消去されます。

#### 4 サーバタイプリストから、サーバのタイプを選択します。

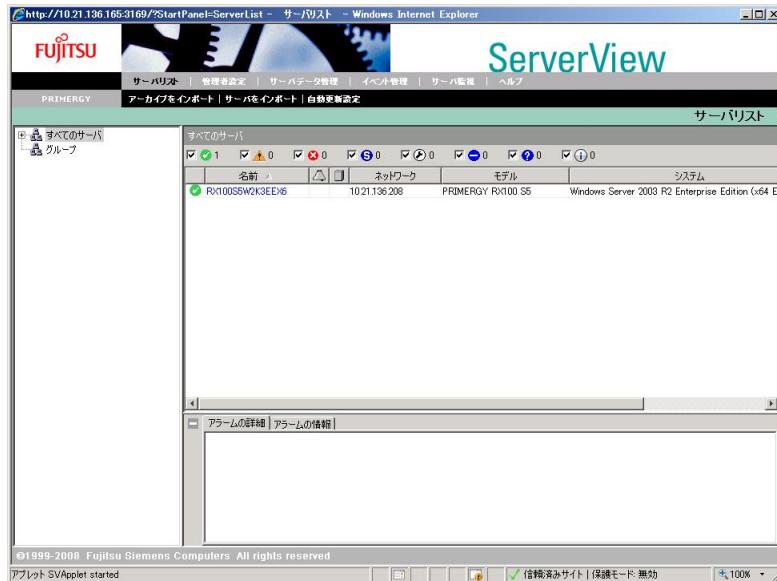


表：サーバのタイプ

タイプ名	説明
自動	追加するサーバのタイプを自動検出します。
ArtCenter	未サポートです。
BMC	BMC (Baseboard Management Controller) を追加します。
Blade Frame	未サポートです。
Blade Server	ブレードサーバを追加します。
Cluster	クラスタシステムを追加する場合に選択します。未サポートです。
DeskView	デスクトップを追加する場合に選択します。未サポートです。
Other	サーバ以外の TCP/IP オブジェクトを追加する場合に選択します。
PAN Manager	未サポートです。
PRIMEPOWER	PRIMEPOWER システムを追加する場合に選択します。未サポートです。
Server	ServerView エージェントで監視するサーバを追加します。
Storage	ストレージを追加します。未サポートです。
VMware	VMware サーバを追加します。未サポートです。

## 5 [適用] をクリックします。

サーバリストにサーバが登録されます。



### POINT

- ▶ 各タブ画面では、それぞれ情報が表示されます。必要に応じて設定してください。
  - ・ [ネットワーク /SNMP] タブ  
コミュニティ名、ポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔、接続状態変更トラップのデフォルト値が表示されています。

サーバアドレス	ネットワーク/SNMP	リモートサービスボード	ローカルノート
デフォルト値	コミュニティ名: public ポーリング間隔: デフォルト (60)   指定 (5) タイムアウト: デフォルト (5)   指定 (60) 更新間隔: デフォルト (60)   指定 (1) 接続状態変更トラップ: チェックボックス ポーリング間隔の既定トラップを待つ: チェックボックス 起動時にチェックする: チェックボックス		
<input type="button" value="コピー"/>	<input type="button" value="ペースト"/>		

- ・ [リモートサービスボード] タブ

サーバに搭載されているリモートサービスボードの情報が表示されます。

[テスト] をクリックすると、リモートサービスボードに対して接続テストが行われます。[設定] をクリックすると、リモートサービスボードの Web インターフェースが表示されます。

サーバアドレス	ネットワーク/SNMP	リモートサービスボード	ローカルノート
サーバ名	H450-NNM	<input type="button" value="テスト"/>	
コミュニティ	primergy	<input type="button" value="設定"/>	
2nd IPアドレス	10 21 136 10		

- ・ [ローカルノート] タブ

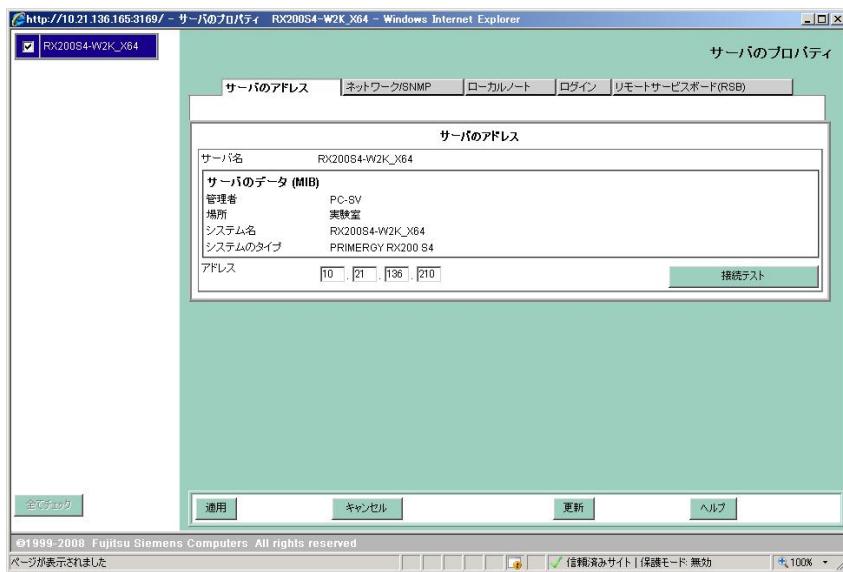
サーバのローカルノートが表示されます。

- 「サーバブラウザ」画面のサーバー覧上で 2 つ以上のサーバを選択した場合は、「サーバ名」には「複数選択」と表示されます。この状態で【適用】をクリックすると、選択したすべてのサーバがサーバリストに登録されます。
- サーバー覧で右クリックして、表示された以下を選択することにより、複数のサーバを選択できます。
  - 「すべてを選択」：一覧上のすべてのサーバが選択されます。
  - 「管理可能を選択」：管理可能（灰色のサーバアイコン）なすべてのサーバが選択されます。
- すでにサーバリストに登録済みのサーバと同じ名前、または同じネットワークアドレスのサーバは追加できません。

### 3.1.4 サーバ設定の確認／変更

サーバの各設定内容を確認／変更する場合は、以下の操作を行います。

- 1 サーバリストから対象サーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから、「サーバのプロパティ」をクリックします。  
「サーバのプロパティ」画面が表示されます。



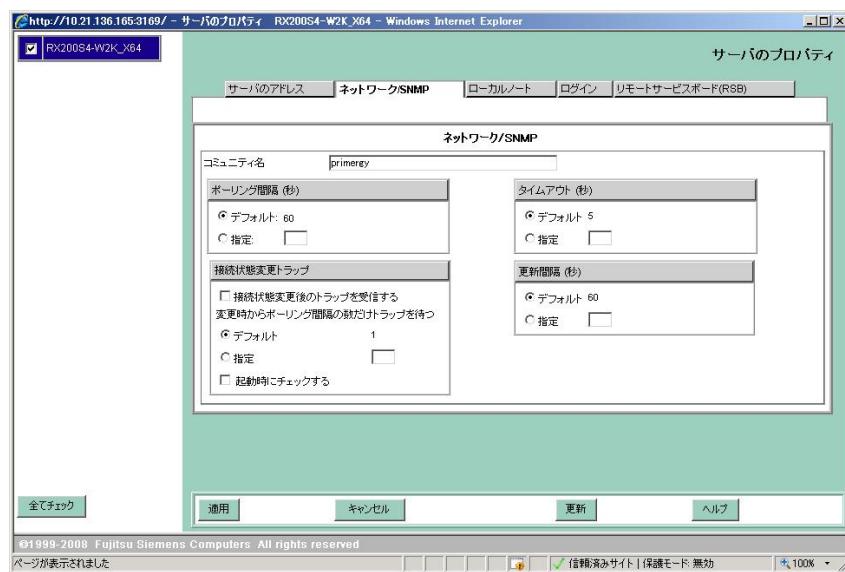
- 2 各タブ画面で、設定を確認／変更します。

各タブ画面で項目を設定した場合は、必ず【適用】をクリックして別のタブ画面をクリックしてください。

#### [サーバのアドレス] タブ

サーバの IP アドレスを確認／変更できます。IP アドレスを変更した場合、【接続テスト】をクリックすると、正しく接続できるかどうかの確認が行われます。

## [ネットワーク／SNMP] タブ



ネットワークのパラメータを確認／変更できます。設定できる項目は以下のとおりです。

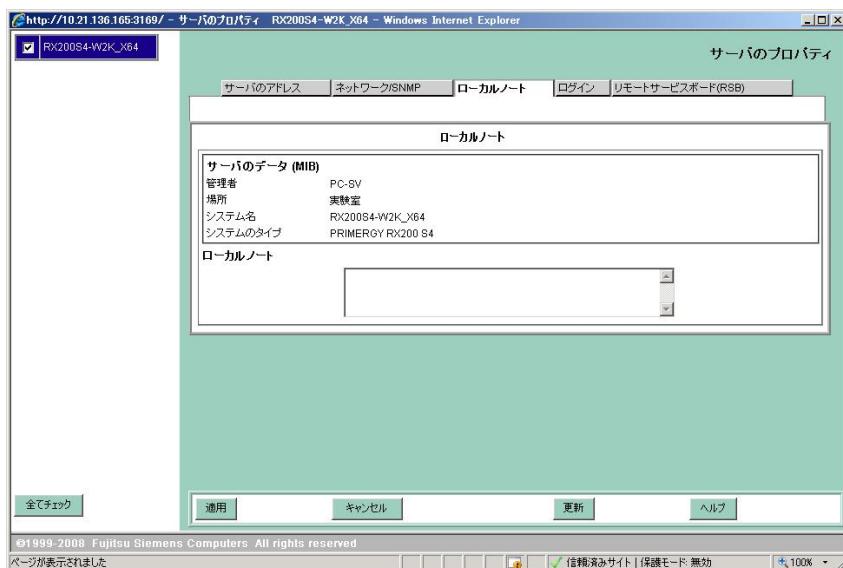
表：各設定項目

項目	説明
コミュニティ名	監視対象サーバにインストールされている ServerView エージェントと同一のコミュニティ名を指定します。
ポーリング間隔	監視対象サーバのステータスをチェックする時間間隔です。
タイムアウト値	監視対象サーバからの応答を待つ時間です。
接続状態変更トラップ	「接続状態変更後のトラップを受信する」が有効の場合、監視対象サーバの状態のステータスに変化があれば、トラップが送信されます。ポーリング間隔数の指定により、トラップの送信を遅らせることが可能ですが、また、「起動時にチェックする」が有効の場合、ServerView S2 起動時に監視対象サーバのステータスに変化があれば、トラップが送信されます。
更新間隔	監視対象サーバの情報表示の更新間隔です。

## POINT

- ▶ 「接続状態変更後のトラップを受信する」が有効の場合、サーバの状態に変化があれば、以下のようなトラップが送信されます。
  - ・サーバ監視可のとき  
「Server changed state」(The server <サーバ名> has changed its state to snmpOK)
  - ・サーバ監視不可のとき  
「Server changed state」(The server <サーバ名> has changed its state to notmanageable)
- ▶ ネットワークやサーバの負荷が高い場合は、「ポーリング間隔」、「タイムアウト値」、「更新間隔」を変更することで改善できます。

### [ローカルノート] タブ



サーバのローカルノートを編集できます。ローカルノートは、「Server List」画面でサーバを見つける際に役立ちます。

### [ログイン] タブ



サーバへ設定値の書き込みを行う際に使用する「ユーザー名」および「パスワード」を設定します。パスワードを設定するには、「パスワード設定」チェックボックスをチェックしてから設定します。また、セキュリティ上の理由から、パスワードはデータベースに保存されません。

**[リモートサービスボード (RSB)] タブ**

サーバのセカンダリチャネルの IP アドレス／コミュニティ名を確認／変更できます。  
 [接続テスト] をクリックすると、リモートサービスボードとの接続を確認できます。  
 [設定] をクリックすると、リモートサービスボードの Web インターフェースが起動し、「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されます。  
 リモートサービスボードの Web インターフェースについては、『リモートサービスボードユーザーズガイド』を参照してください。

**[TCP アプリケーション] タブ**

TCP/IP 機器用の Web アプリケーションの設定ができます。

サーバの種類で TCP/IP 機器を選択した場合のみ表示されます。

- ③ [キャンセル] をクリックして、プロパティを終了します。**

### 3.1.5 ユーザ／パスワード設定

サーバブラウザによるネットワーク上のノード検索を実施する場合に使用するアカウントを設定します。

BMC (Baseboard Management Controller) に対するアカウントを設定します。

- 1 ServerView S2 のメニューから「管理者設定」メニュー → 「ユーザ／パスワード」をクリックします。

ユーザパスワード設定の画面が表示されます。

- 2 変更または追加を行いたい行にチェックを付けて、アカウント情報を設定し、[OK] または [適用] をクリックします。



#### POINT

- ▶ アカウント情報を削除したい場合は、削除したい行にチェックを付け、[削除] をクリックします。

### 3.1.6 単位設定

ServerViewで表示される温度を「摂氏」または「華氏」のどちらの単位にするか選択します。

- 1 ServerView S2のメニューから「管理者設定」メニュー→「単位設定」をクリックします。

単位設定の画面が表示されます。

- 2 「摂氏」または「華氏」を選択し、[OK]をクリックします。



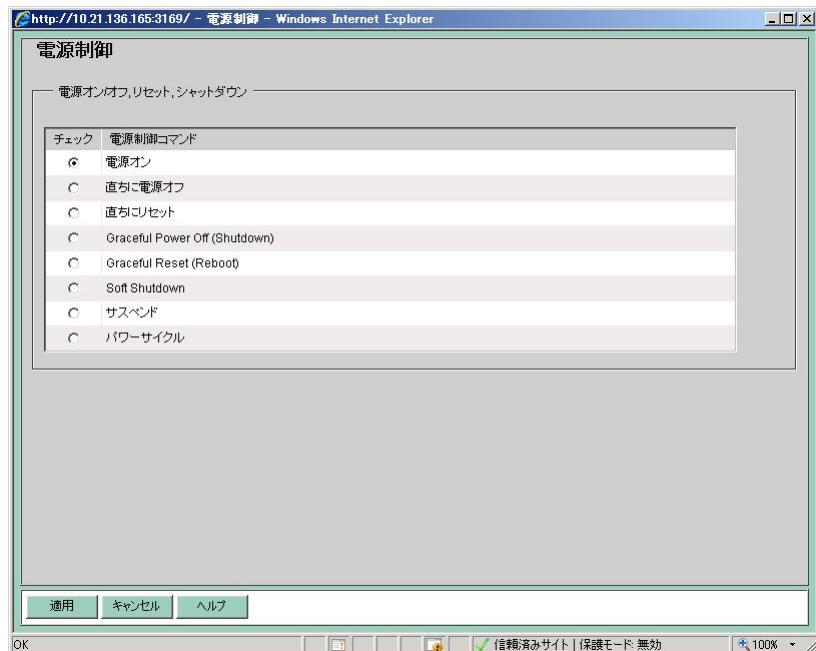
### 3.1.7 電源制御

電源制御は、BMC（Baseboard Management Controller）を持つサーバのリモート電源制御管理（電源オン／オフ、リセット、シャットダウン）を行います。

#### 重要

- ▶ 電源制御を利用するためには、以下の条件を満たす必要があります。
  - ・ BMC が IPMI-over-LAN アクセスマードに設定されていること
  - ・ Graceful Power Off / Reset、SoftShutdown を行う場合は、対象のサーバに ServerView Agents がインストールされていること
  - ・ 「3.1.5 ユーザ／パスワード設定」（→ P.97）に有効なユーザとパスワードが設定されていること

- 1** サーバリストから対象サーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから、「電源制御」をクリックします。  
「電源制御」画面が表示されます。



- 2** コマンド一覧からラジオボタンをクリックし、実行するコマンドを選択します。

表：電源制御コマンド一覧

コマンド	説明
電源オン	選択したサーバの電源を入れます。
直ちに電源オフ	サーバの状態にかかわらず電源を切れます。 複数のサーバを同時に、電源を切ることはできません。
直ちにリセット	サーバの状態にかかわらずリセットします。 複数のサーバを同時に、リセットすることはできません。
Graceful Power Off (Shutdown)	シャットダウン処理を行い、電源を切れます。
Graceful Reset (Reboot)	リブート処理を行い、再起動します。
Soft Shutdown	シャットダウン処理を行います。
サスペンド	選択したサーバをサスPEND状態にします。 未サポートです。
パワーサイクル	選択したサーバの電源 OFF/ON を行います。 BMC のみ可能です。

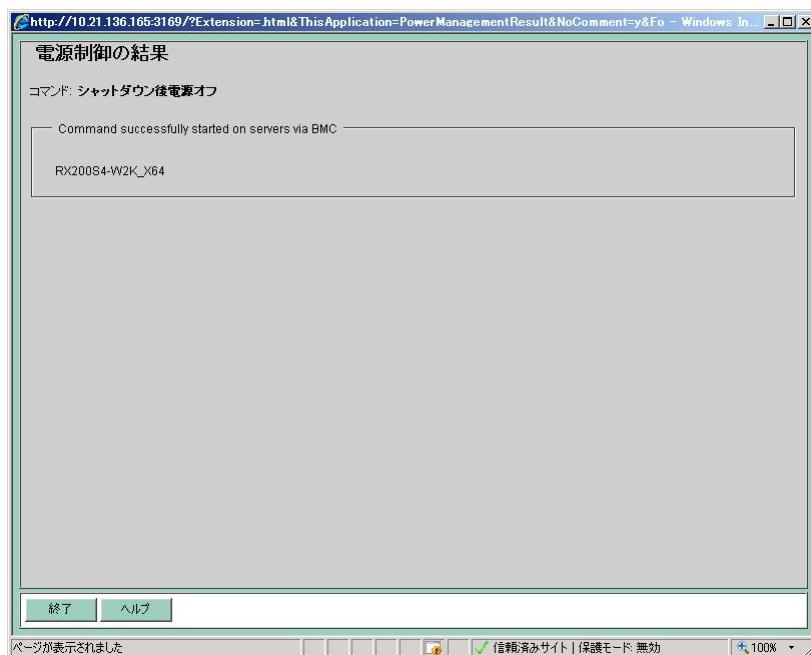
**3 [適用] をクリックします。**

確認画面が表示されます。



**4 [OK] をクリックします。**

電源制御の結果が表示されます。



**5 [終了] をクリックします。**

画面が閉じます。

## 3.2 サーバの監視

サーバの状態、サーバの各コンポーネントの詳細状況を確認します。

### 3.2.1 サーバの状態確認

#### ■ サーバの状態表示（アイコン）

サーバリストに、サーバごとの状態が以下のアイコンで表示されます。

表：アイコンの意味

アイコン	意味
	すべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	1つまたは1つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	1つまたは1つ以上のコンポーネントでエラーが発生しています。
	サーバが反応せず、管理不可能です。
	リモートマネジメントコントローラで管理可能です。
	リモートマネジメントコントローラで管理可能ですが、1つまたは1つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	リモートマネジメントコントローラで管理可能ですが、1つまたは1つ以上のコンポーネントエラーが発生しています。
	リモートマネジメントコントローラからの応答がない、またはユーザ名／パスワードの不正により管理不可能です。
	リモートマネジメントコントローラにアクセスできません。リモートマネジメントコントローラがネットワークに接続されているか確認してください。
	サーバにアクセスできません。サーバがネットワークに接続されているか、またはサーバが ServerView に正しく設定されているかを確認してください。
	未サポートです。
	サーバ状況を調査中です。
	TCP/IP プロトコルによるサーバ通信が可能です。
	ServerView エージェントは応答していませんが、標準-SNMP が応答している状態です。
	アーカイブデータが作成されています。

表：アイコンの意味

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータス（すべてのブレードのステータス）は正常です。
	ブレードサーバのステータスを調査中です。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも1つのブレードのステータス）が悪化しています。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも1つのブレードのステータス）でエラーが発生しています。
	ブレードサーバが応答せず、管理不可能です。
	ブレードサーバにアクセスできません。

## ■ サーバの接続確認

サーバが正しくServerViewで使用できるかどうか、接続テストを行います。これにより、監視機能が自動的に起動され、システム全体とそのサブシステムのステータスが表示されます。

### 重要

- ▶ サーバの一覧のセットアップを行う場合は、サーバの一覧で設定するコンピュータ名が有効であることを確認する必要があります。コンピュータ名は、OSのインストール中にサーバに割り当てられた名前です。1つのIPアドレスに複数のコンピュータ名を同時に割り当てる事はできません。

- 1 サーバリストに、サーバ名とIPアドレスが正しく表示されていることを確認します。
- 2 サーバリストからサーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから、「接続テスト」をクリックします。  
「接続テスト」画面が表示されます。



指定されたタイムアウト時間内にサーバが応答するかどうかをテストします。  
以下の5種類のテストが行われます。

表：接続テスト

テスト項目	説明
Ping	サーバがネットワークに接続されているかを確認します。
MIB II チェック	MIB II エージェントがインストールされているかどうかを確認します。
インベントリ MIB チェック	ServerView エージェントのインベントリ MIB がインストールされているかどうかを確認します。
アドレスタイプ	アドレスのタイプが、本体／RSB でプライマリかセカンダリかの識別を確認します。
テストトラップ	サーバからのトラップが受信可能かどうかを確認します。

### 3 手順2を、各サーバに対して行います。

#### POINT

- Linuxの場合、ローカルホスト(127.0.0.1/localhost)に対する接続テストを実施すると、テストトラップがタイムアウトとなります。これは、ServerView管理コンソールがリクエストしたローカルホストのIPアドレスで応答を待ち合わせますが、実際のトラップは、SNMPマスタエージェントに割り付けられているサーバの実IPアドレスより応答があるためタイムアウトとなります。

タイムアウトは発生しますが、監視は問題なく行えます。

## ■ サーバの再検出／すべてのサーバの再検出

現在のサーバのステータスをチェックするには、「サーバの再検出」（すべてのサーバに対して行う場合は「すべてのサーバの再検出」）を行います。

### ● サーバの再検出

- サーバリストから確認したいサーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから、「サーバの再検出」をクリックします。  
ステータスチェックが開始され、各サーバの接続状況および現在の状況が正常かどうかチェックされます。

### ● すべてのサーバの再検出

- サーバリストで右クリックして表示されたメニューから、「すべてのサーバの再検出」をクリックします。  
サーバリストに登録されているすべてのサーバに対して、ステータスチェックが開始されます。

## ■ サーバリストの更新間隔の設定

サーバリストの更新間隔を設定できます。設定した時間ごとに、サーバリストに登録されている各サーバのステータスが更新されます。

- 1 ServerView S2 のメニューから「サーバリスト」メニュー → 「自動更新設定」をクリックします。
- 2 更新間隔を入力し、[OK] をクリックします。



### 3.2.2 サーバの各監視項目の詳細確認

サーバの状態を詳細に確認します。

- 1 サーバリストから対象サーバ選択し、クリックするか、右クリックして表示されたメニューから「サーバ画面を開く」を選択します。  
「ServerView [サーバ名]」画面が表示され、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。

## POINT

- ▶ ブレードサーバを選択した場合は、監視対象や監視機能が制限されるため、表示される画面が異なります。ブレードサーバの詳細確認については、「3.3 ブレードサーバの監視」(→ P.132) を参照してください。
- ▶ ServerView S2 で設定されているコミュニティ名と監視対象サーバにインストールされている ServerView エージェントのコミュニティ名が異なる場合、サーバリスト上の状態表示アイコンが「管理不可能」状態となります。この状態でサーバリストのサーバをクリックすると、以下のような画面が表示されます。
- ・リモートサービスボード / リモートマネジメントコントローラ未搭載の場合



- ・リモートマネジメントコントローラ搭載の場合

「リモートマネージャ」画面が表示され、リモートマネジメントコントローラによる管理のみが可能となります。



この現象を対処する場合は、以下の手順により ServerView S2 のコミュニティ名を変更します。

1. サーバリスト上で該当サーバを右クリックします。
2. メニューから「サーバのプロパティ」を開きます。
3. [ネットワーク /SNMP] タブでコミュニティ名を変更します。

## ● システム識別灯表示

システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。

次の3種類のアイコンがあります。



:点灯中



:消灯中



:点滅中(システム異常を示します)

## ● 表示データ

オンラインデータか、アーカイブデータかを指定できます。

オンラインデータは、リアルタイムのサーバ情報を表示します。

アーカイブデータは作成日時のサーバ情報を表示します。アーカイブデータについては、「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」(→ P.205) を参照してください。

## ● サーバ情報

サーバのモデル名、識別番号、ステータスが表示されます。

ステータスはアイコン表示されます。アイコンの意味については、「■ サーバの状態表示(アイコン)」(→ P.101) を参照してください。

### POINT

- ▶ ServerView コンソールとエージェントの両方が以下の条件を満たす場合、識別番号にはサーバの製造番号が表示されます。
  - ServerView コンソール : V4.52 以降
  - ServerView エージェント : V4.30 以降
- コンソールまたはエージェントのいずれかがこれより古い場合、またはサーバブレードを監視する場合は正しく表示されません。

## ● 監視項目メニュー

各項目にカーソルをポイントすると、それぞれの下位項目が表示されます。参照したい項目をクリックすると、詳細情報表示フレームに情報が表示されます。

表：監視項目

項目	説明
<b>構成情報</b>	
エージェントステータス	ステータス、またはエージェントの情報を表示します。 →「■ エージェントステータス」(P.109) <ul style="list-style-type: none"> <li>• ステータスピュー サブシステムのステータスが表示されます。それぞれのサブシステムへリンクされています。</li> <li>• エージェントビュー ServerView エージェントのバージョン、MIB リビジョン、SNMP エージェントの構成が表示されます。</li> </ul>
システム情報	システムの情報が表示されます。→「■ システム情報」(P.110)
外部記憶装置	サーバに接続されている外部記憶装置とそのファイルシステムが表示されます。→「■ 外部記憶装置の情報」(P.110)
ネットワーク インタフェース	サーバに搭載されているネットワーク インタフェースが表示されます。 →「■ ネットワーク インタフェースの情報」(P.111)
拡張ボード	サーバの各種バスや拡張ボードが表示されます。 →「■ 拡張ボードの情報」(P.111)
アクション	イベントログ、エラーログなど、サーバの挙動に関する情報が表示されます。→「■ アクション情報」(P.112)
その他	ファンや温度センサの情報が表示されます。 →「■ 他の情報」(P.112)
MIB-II 情報	MIB-II 情報が表示されます。 →「■ MIB-II 情報」(P.113)
<b>アクション</b>	
アクション	エラーメッセージ、ブートオプションなどが表示されます。また、再起動オプションを設定すると、サーバのシャットダウン、再起動が行えます。 →「■ アクション」(P.114)
メンテナンス	内蔵の CMOS バッテリの使用期間やファンに関する情報が表示されます。 →「■ メンテナンス」(P.116)
ASR	ASR (Automatic Server Reconfiguration & Restart) 機能の設定を行うことができます。→「3.4 異常発生時の対処 (ASR)」(P.136)
オペレーティングシステム	サーバにインストールされている OS に関する情報が表示されます。 →「3.2.5 オペレーティングシステムの情報表示」(P.116)
<b>外部記憶装置</b>	
外部記憶装置	サーバに搭載されているアダプタと、アダプタに接続されている外部記憶装置の情報を表示されます。 →「3.2.6 外部記憶装置の状態確認」(P.117)
ロジカルビュー	サーバの論理ドライブ上にあるファイルシステムの情報を表示されます。
パーティションビュー	パーティションに関する情報を表示されます。
RAID ビュー	ServerView RAID Manager (Web クライアント) が起動されます。 監視対象サーバに ServerView RAID がインストールされている場合のみ表示されます。 →「4.4.2 ServerView RAID Manager (Web クライアント) の起動方法」(P.253)

表：監視項目

項目	説明
<b>ベースボード</b>	
ベースボード	プロセッサ、メモリ、電圧などのベースボードに関する情報が表示されます。 →「3.2.7 ベースボードの状態確認」(P.122)
バスとアダプタ	サーバ上のバスと接続されたアダプタがツリー表示されます。ツリーから選択したアダプタの詳細、ファンクションの詳細が確認できます。
メモリモジュール	サーバに搭載されたメモリモジュールの情報を表示します。
電圧	ベースボード上の各電圧の情報を表示します。
<b>コンポーネント</b>	
環境	サーバの温度とファンのステータスを表示します。 →「■ 環境」(P.126)
電源	サーバの電源に関する設定とステータスを表示します。 →「■ 電源」(P.127)
ネットワーク インタフェース	サーバに搭載されているネットワーク インタフェースの I/F、ステータス、タイプ、説明をリスト表示します。 →「■ ネットワーク インタフェース」(P.129)
リソース	システム上のリソースを表示します。 →「■ リソース」(P.129)
リモートマネージャ	リモートマネジメント 情報を表示します。 →「3.2.9 リモートマネージャ」(P.130)
コンポーネントステータス	Customer Self Service (CSS) 情報を表示します。 →「3.2.10 コンポーネントステータス」(P.131)
更新	サーバステータス情報、および詳細情報表示フレームに現在表示されている内容を更新します。
<b>ヘルプ</b>	
バージョン情報	ServerView S2 のバージョン情報を表示します。
目次	ServerView S2 のヘルプの目次を表示します。
この画面のヘルプ	詳細情報表示フレームに現在表示されている画面のヘルプを表示します。

### 3.2.3 構成情報の表示

サーバを構成する各種情報を表示します。

#### ■ エージェントステータス

「ステータスピュー」、「エージェントビュー」を選択すると、表示される画面が切り替わります。

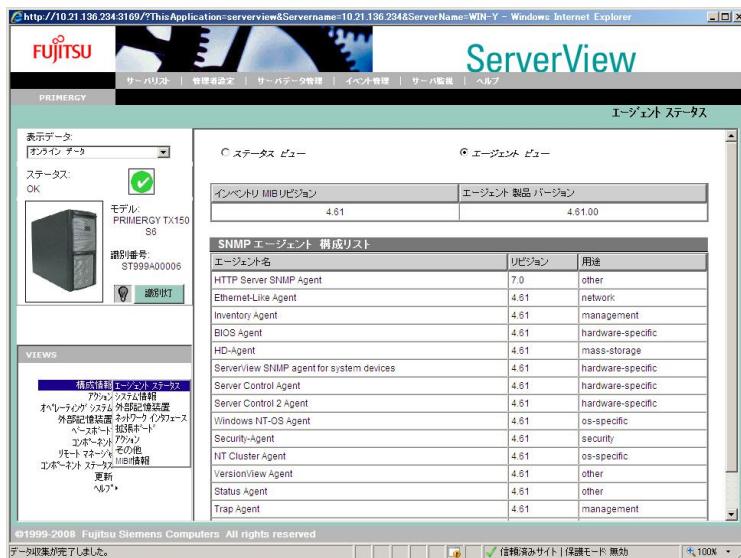
##### ● ステータスピュー

サブシステムのステータスが表示されます。それぞれのサブシステムへリンクされています。



##### ● エージェントビュー

ServerView エージェントのバージョン、MIB リビジョン、SNMP エージェントの構成が表示されます。



## ■ システム情報

システムの情報が表示されます。

サーバ名:	WIN-YXG91YEAWPB
場所:	kawasaki
管理者:	PC-SV
サーバモデル:	PRIMERGY TX150 S6
オペレーティング システム:	Windows Server 2008 (x64 Edition) Service Pack 1, v.744 Revision 6.0
全メモリ:	1536 MB
プロセッサ/ネットワーク:	1
プロセッサ (1):	Intel(R) Core(TM)2 Duo CPU E4600, 2400 MHz, step 13
以下のシリアルポートをサポート(COM):	
Port (0):	COM 1 Setting 8, Parity off, 110 アドレス 0x3f8
以下のパラレルポートをサポート(LPT):	n.a.

## ■ 外部記憶装置の情報

サーバに接続されている外部記憶装置とそのファイルシステム情報が表示されます。

デバイス名	容量
HL-DT-ST/D-ROM GDRH20N 0F04 (HL-DT-ST/D-ROM GDRH20N)	0 MB
LSI MegaRAID SAS RMB1.11 (MegaRAID SAS RMB)	69468 MB

名前	トータルブロック	セクタ	ファイルシステムタイプ(s)
W2K8_x64 (mounted)	5119999	8	NTFS.
W2K8_x86 (mounted)	5119999	8	NTFS.
NO NAME FOUND (mounted)	0	0	-

## ■ ネットワーク インタフェースの情報

サーバに搭載されているネットワークインターフェースの情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Network Interface' section of the ServerView interface. It displays two network interfaces:

- WAN** (ethernet-csmacd):
 

ネットワーク タイプ	ethernet-csmacd
物理アドレス	DCA320524153
ネットワーク スピード(MBit/s)	1073
ステータス	up
- Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet-QoS Packet Scheduler-0000** (ethernet-csmacd):
 

ネットワーク タイプ	ethernet-csmacd
物理アドレス	001999144FBC
ネットワーク スピード(MBit/s)	1000
ステータス	up
割り込み	#-2 (NOT Shared)
共有メモリ	DFA00000 - DFAFFFF

## ■ 拡張ボードの情報

サーバに搭載されている各種バスや拡張ボードの情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Expansion Board' section of the ServerView interface. It displays one ISA slot (#1) with the following details:

ファンクション # 1:	Intel(R) 82802 Firmware Hub Device
使用メモリ領域:	FFB0000h - FFBFFFFh
ファンクション # 2:	Microsoft 汎用 IPMI 準拠デバイス
使用I/Oポート:	0CA2h - 0CA3h (NOT Shared)
ファンクション # 3:	プログラム可能割り込みコントローラ
使用I/Oポート:	0020h - 0021h (NOT Shared) 00A0h - 00A1h (NOT Shared)
ファンクション # 4:	システム タイマ
使用IRQ:	0 (NOT Shared)
使用I/Oポート:	0040h - 0043h (NOT Shared)
ファンクション # 5:	DMA コントローラ
使用DMAチャネル:	04
使用I/Oポート:	0000h - 000Fh (NOT Shared) 0080h - 008Fh (NOT Shared) 00C0h - 00DFh (NOT Shared)
ファンクション # 6:	標準 PS/2 キーボード
使用IRQ:	1 (NOT Shared)
使用I/Oポート:	0060h - 0060h (NOT Shared)

## ■ アクション情報

イベントログ、エラーログなどの情報が表示されます。

**アクション**

設定可能な値	
ServerViewからの再起動:	write-not-allowed
電源投入要因:	shutdown-not-allowed
電源切断要因:	software-command
電源異常後のキャビネットアクション:	ac-fail
	switch-on

**エラーログの情報**

ローカル時間	メッセージ
Fri Feb 29 09:50:13 UTC+0900 2008	0 3402-Housing of cabinet 0 opened
Fri Feb 29 15:18:33 UTC+0900 2008	0 3402-Housing of cabinet 0 opened
Fri Mar 22 14:50:41 UTC+0900 2008	0 0200-AC power at cabinet 0 failed
Fri Feb 22 14:27:40 UTC+0900 2008	0 0400-Fan "FAN1 SYS" in cabinet 0 is not working
Fri Feb 22 14:27:38 UTC+0900 2008	0 0502-Temperature warning at sensor "Ambient" in cabinet 0

**イベントログの情報**

ローカル時間	メッセージ
Mon Mar 17 16:39:46 UTC+0900 2008	0 3608-OEM SEL Record 0xDC (Vendor ID 0x137)
Mon Mar 17 16:39:46 UTC+0900 2008	0 0000-Cabinet 0 powered on or reboot by software
Fri Mar 14 11:22:28 UTC+0900 2008	0 2313-Remote management user (ID 2) automatic logout
Fri Mar 14 11:17:27 UTC+0900 2008	0 2311-Remote management user (ID 2) login
Thu Mar 13 14:40:29 UTC+0900 2008	0 3608-OEM SEL Record 0xDC (Vendor ID 0x137)
Thu Mar 13 14:40:29 UTC+0900 2008	0 0000-Cabinet 0 powered on or reboot by software

## ■ その他の情報

ファンや温度センサの情報が表示されます。

**その他**

サーバ WIN-YXG91YEAWPB のキャビネット構成: 1 キャビネット。  
1 キャビネットが存在します  
WIN-YXG91YEAWPB のサーバ構成: standalone-server.

サーバ:	WIN-YXG91YEAWPB
キャビネットID:	0
システムのタイプ:	PRIMERGY TX150 S6
ファームウェアのバージョン:	1.01.030D0041
識別番号:	YK8B23466
ボードID:	S26361-D2559-A12

**温度センサ**

センサの番号	センサの用途	高温異常時のアクション
0	Ambient	continue
1	Systemboard	continue
2	CPU	continue

**ファン**

ファンの番号	ファンの用途	ファン異常時のアクション
0	FAN1 SYS	continue
1	FAN PSU	continue

**電源ON/OFFタイマーの設定**

曜日	起動時間	終了時間
Sunday	disabled	disabled
Monday	disabled	disabled

## ■ MIB-II 情報

MIB-II 情報が表示されます。

The screenshot shows the Fujitsu ServerView interface for a PRIMERGY TX150 S6 server. The main window displays the following information:

- 表示データ:** オンライン データ
- ステータス:** OK (green checkmark)
- モデル:** PRIMERGY TX150 S6
- 識別番号:** ST999A00006
- 識別灯:** 緑
- VIEWS:**
  - 構成情報
  - イーサネット ステータス
  - アダプタ
  - システム情報
  - オペレーター
  - 外部記憶装置
  - オペレーター
  - 外部記憶装置
  - USBポート
  - USBポート
  - コンポーネント
  - リモート マネージャー
  - その他の
  - コホーネンツ ステータス
  - 更新
  - ヘルプ

**システム情報**

システム名:	WIN-YXG91YEAWPB
説明:	Hardware: Intel® Family 6 Model 15 Stepping 13 AT/AT COMPATIBLE - Software: Windows Version 6.0 (Build 6001 Multiprocessor Free)
場所:	kawasaki
管理者:	PC-SV
稼働時間:	up 3 days, 15:22:00
エンタープライズ:	1.3.6.1.4.1.311.1.1.3.1.2
サービス:	internet,end-to-end,applications

**ネットワークインターフェース情報**

Software Loopback Interface 1	
ネットワークタイプ:	softwareLoopback
物理アドレス:	n.a.
ネットワークスピード(MBit/s):	1073
ステータス:	up
IPアドレス:	127.0.0.1
サブネット マスク:	255.0.0.0

WAN Miniport (SSTP)	
ネットワークタイプ:	n.a.
物理アドレス:	n.a.

©1999-2008 Fujitsu Siemens Computers All rights reserved

## 3.2.4 アクション

「アクション」には、「■ アクション」(→P.114)、「■ メンテナンス」(→P.116)、「3.4 異常発生時の対処(ASR)」(→P.136)の3つのメニューがあります。

### ■ アクション

[アクション] をクリックすると、「アクション」画面が表示されます。



### ● ブートオプション

ブートオプションには起動プロセスに関する情報が表示されます。これらの情報は、サーバのBIOS設定情報をServerViewが表示します。

- エラー発生時の設定  
エラー発生時に停止するかどうかなどの設定が表示されます。
- 現在の起動状態  
現在の起動状態が表示されます。
- 電源投入要因  
電源の投入要因が表示されます。
- 電源切断要因  
電源の切断要因が表示されます。

## ● 再起動オプション

オプションを指定して操作ボタンをクリックすることにより、サーバのシャットダウン／再起動操作を行うことができます。各ボタンをクリックすると、セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理権限のユーザ名とパスワードが必要です。

- [リスタート] ボタン（再起動）  
サーバを再起動します。サーバが再起動されるまでに必要な経過時間を指定します。
- [シャットダウン & Off] ボタン（シャットダウン／電源切断）  
サーバをシャットダウンし、電源を切ります。サーバがシャットダウン、または電源切断されるまでに必要な経過時間を指定します。
- [シャットダウンの中止] ボタン（シャットダウンの中止）  
[リスタート] または [シャットダウン & Off] をクリックして開始されるシャットダウンを中止します。すでに再起動またはシャットダウンが開始された場合は中止できません。

### POINT

- ▶ ログイン画面で「デフォルトユーザの変更」を行った場合、一時的にデフォルトユーザが変更されます。ただし、ServerView をいったん終了するとこの情報は失われます。デフォルトのログインユーザを変更する場合は、「サーバのプロパティ」を起動し、「ログイン」タブ画面で設定してください。設定方法については「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」(→ P.93) を参照してください。
- ▶ [診断システムの起動] は未サポートです。選択しないでください。

## ● エラーメッセージバッファの内容

一覧は日付／時間順に並べられていて、最新のエントリが一番上になります。メッセージは、「C」（メッセージのレベルが危険である場合）、日付／時刻、キャビネット／エラー、CSS、メッセージで構成されています。時刻は、グリニッジ標準時、またはローカル時間（日本時間）のどちらで表示するか選択できます。

また、「Customer Self Service（CSS）」の対象となるメッセージについては、「CSS」欄に「Yes」が表示されます。

エラーメッセージバッファに表示される内容は、リモートサービスボードがある場合と、ない場合で異なります。

- リモートサービスボードがある場合  
リモートサービスボードが獲得した SEL の情報と、リモートサービスボードが自分自身で検出したエラーがエラーメッセージバッファに表示されます。
- リモートサービスボードがない場合  
サーバ本体の SEL の内容がエラーメッセージバッファに表示されます。

## ■メンテナンス

「メンテナンス」をクリックすると、以下の画面が表示され、内蔵されている CMOS バッテリの使用期間やファンに関する情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Maintenance' section of the ServerView interface. It displays two tables: one for 'Battery Information' and another for 'Selected Fan Status'. The 'Battery Information' table includes columns for Battery ID, Type, On Power, Exchange Period, and Charge Count. The 'Selected Fan Status' table includes columns for Fan ID, Purpose, and RPM%. The left sidebar shows navigation links for 'System Configuration', 'Logs', 'System Health', 'Power Management', 'CPU Usage', 'Memory Usage', 'Disk Usage', and 'Help'.

キャビネット ID	キャビネット タイプ	電源 On	バッテリ交換時期	電源投入回数
000	PRIMERGY TX150 S6	0y 140d 23h	-	-

ファン	用途	回転率[%]
0	FAN1 SYS	100
1	FAN PSU	100

### 3.2.5 オペレーティングシステムの情報表示

「オペレーティングシステム」をクリックすると、サーバにインストールされている OS に関する情報を表示します。現在実行しているプロセスに関するデータや、OS の名前、バージョン、言語、システム稼働時間などが表示されます。

The screenshot shows the 'Operating System' section of the ServerView interface. It displays two tables: one for 'Global Information' and another for 'Running Processes'. The 'Global Information' table includes columns for OS Name, Version, Revision, Edition, Language, CPU Usage, and RAM Usage. The 'Running Processes' table lists various Windows services and system processes with their names, paths, and descriptions. The left sidebar shows navigation links for 'System Configuration', 'Logs', 'System Health', 'Power Management', 'CPU Usage', 'Memory Usage', 'Disk Usage', and 'Help'.

OS名:	Windows Server 2008 (x64 Edition) Service	サポートされる接続:	no Limit
OSのバージョン:	Pack 1, v.744	現在のセッション:	n.a.
OSのリビジョン:	6	ピーク セッション:	n.a.
システム タイプ:	serverOrBackupDomainController	平均CPU率:	6 %
OSの言語:	Japanese	現在の使用率:	20 %
システム稼働時間:	3 days, 06:42:14		
システムの日付/時刻:	2008/03/02 17:41:53	サーバメモリ(MB):	1536

名前	Rev	説明
smss.exe (C:\Windows\System32\smss.exe, Pid 396)	6.00	Windows Session Manager
csrss.exe (C:\Windows\system32\csrss.exe, Pid 464)	6.00	クライアント サーバー ランタイム プロセス
wininit.exe (C:\Windows\system32\wininit.exe, Pid 508)	6.00	Windows スタートアップ アプリケーション
carss.exe (C:\Windows\system32\carss.exe, Pid 520)	6.00	クライアント サーバー ランタイム プロセス
services.exe (C:\Windows\system32\services.exe, Pid 552)	6.00	サービスコントローラ アプリケーション
lsass.exe (C:\Windows\system32\lsass.exe, Pid 564)	6.00	ローカルセキュリティ ブロックのプロセス
lsm.exe (C:\Windows\system32\lsm.exe, Pid 588)	6.00	ローカルセッションマネージャ サービス
winlogon.exe (C:\Windows\system32\winlogon.exe, Pid 604)	6.00	Windowsログオン アプリケーション
svchost.exe (C:\Windows\system32\svchost.exe, Pid 960)	6.00	Windows サービスのホスト プロセス
tasking.exe (C:\Windows\system32\taskeng.exe, Pid 1158)	6.00	タスク エンジニアリング
sqlservr.exe (C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL	9.00	SQL Server Windows NT

## 3.2.6 外部記憶装置の状態確認

外部記憶装置の状態確認では、以下の状態を確認できます。

- ・ 装置のコントローラやデバイス状態を確認する→「■ 外部記憶装置」(P.117)
- ・ 論理ドライブのシステムファイル情報を確認する→「■ ロジカルビュー」(P.121)
- ・ パーティションの詳細情報を確認する→「■ パーティションビュー」(P.121)

### ■ 外部記憶装置

[外部記憶装置] をクリックすると、ハードディスクとコントローラに関する詳細情報が表示されます。

番号	ステータス	タイプ	アダプタ名
1	OK	PCI	Intel - 82801IR - ICH9 - SATA Controller 1
2	OK	PCI	Intel - 82801IR - ICH9 - SATA Controller 2
3	OK	ISA	ATA Channel 0
4	OK	ISA	ATA Channel 1
5	OK	ISA	ATA Channel 0
6	OK	ISA	ATA Channel 1
7	OK	PCI	RAID 5/6 SAS based on LSI MegaRAID

### ● コントローラリスト

サーバに接続されているコントローラに関するデータがリスト表示されます。番号、ステータス (OK または FAIL)、タイプ (EISA、PCI、ISA)、アダプタ名が表示されます。

### ● 選択したコントローラの詳細

コントローラリストで選択しているコントローラの詳細情報が表示されます。右側には [MULTIPATH ビュー] [デバイスビュー]へのリンクが表示され、クリックすると詳細情報画面が新しく表示されます (→「● デバイスビュー」(P.118))。ここに表示されるリンクや表示される詳細情報画面は、選択されているコントローラの種類によって異なります。

#### POINT

- ▶ 詳細情報を表示するコントローラを必ず選択してください。選択していない場合、別の情報が表示されることがあります。

## ● デバイスビュー

[デバイスビュー] をクリックすると、新規にデバイスビュー画面が表示され、コントローラに接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。

番号	ステータス	S.M.A.R.T.	タイプ	S.M.A.R.T Status	名前
①	OK	enable	directAccessDevice	ok	FUJITSU MAX3073RC 5202

- 選択したコントローラの詳細  
選択したコントローラの詳細情報が表示されます。
- 接続されたデバイスの一覧  
接続されているデバイスの一覧がリスト表示されます。詳細情報を確認したいデバイスを選択します。
- 選択したデバイスの詳細  
「接続されたデバイスの一覧」から選択したデバイスの詳細が表示されます。
- [RAID の表示]  
画面下に [RAID の表示] ボタンが表示されている場合、これをクリックすると、RAID カード上に存在する論理ドライブ一覧、物理デバイスが表示され、詳細が確認できます。  
→ 「● RAID デバイスビュー」 (P.119)

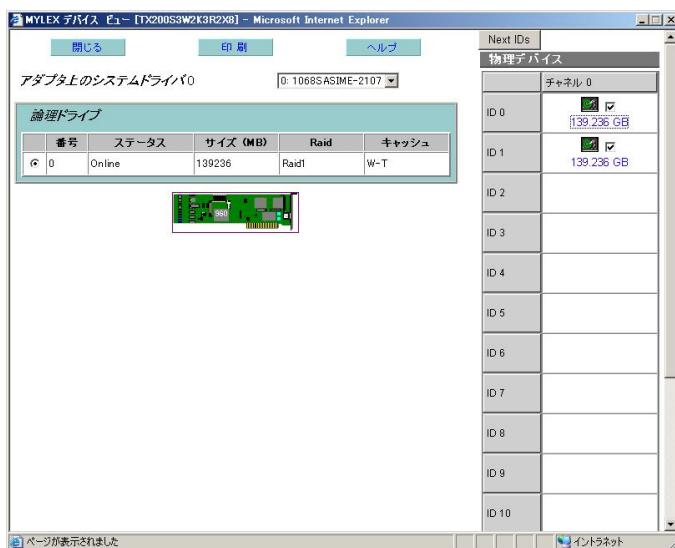
### POINT

- ▶ S.M.A.R.T. (Self Monitoring and Reporting Technology) に表示される情報は、S.M.A.R.T. プロセッジャから返信されます。S.M.A.R.T. は、ハードデバイスのエラーを早期に検出するために使用する技術です (PDA =Prefailure Detection and Analysis)。SCSI ハードディスクドライブと ATA ハードディスクドライブがサポートされます。

## ● RAID デバイスビュー

[デバイスビュー] をクリックすると、新規にデバイスビュー画面が表示され、コントローラに接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。

また、デバイスビューの画面下に [RAID の表示] ボタンが表示されている場合は、[RAID の表示] をクリックすると、以下の画面が表示されます。



- 論理ドライブ

RAID カード上に存在する論理ドライブの一覧が表示されます。

- 物理デバイス

RAID カード上に存在する物理デバイスが表示されます。「論理ドライブ」のリストからドライブ番号を選択すると、「物理デバイス」には選択した論理ドライブを構成している物理デバイスにチェックが付きます。

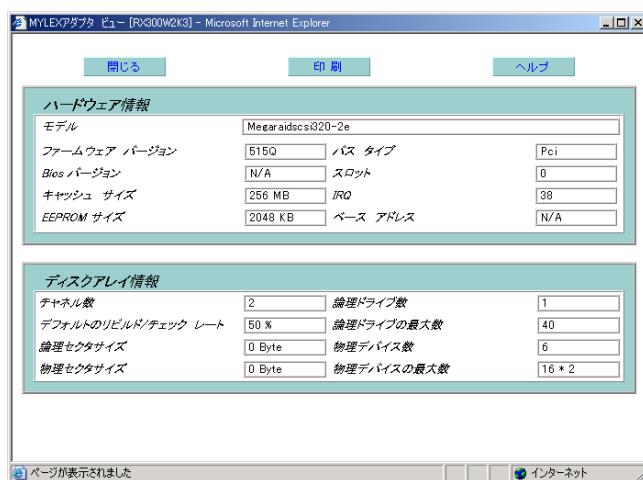
物理デバイス内の各リンクをクリックすると、物理的デバイスビューが表示されます。

SCSI デバイスの情報、ディスクの情報を確認できます。



- コントローラアイコン

コントローラアイコンをクリックすると、アダプタビューが表示されます。ハードディスクの情報、ディスクアレイの情報を確認できます。



### POINT

- RAID カードの監視および表示には、カードに添付されている管理ツールを必ずインストールしてください。検出されたエラー情報を ServerView コンソールに通知することができます。
  - 以下の RAID Manager と連携が可能です。
    - ServerView RAID
    - GAM (Global Array Manager)
    - Storage Manager
    - PROMISE Fasttrak
    - PAM (PROMISE ARRAY MANAGEMENT)
- 連携方法については、「4.4 RAID Manager 連携」(→ P.252) を参照してください。

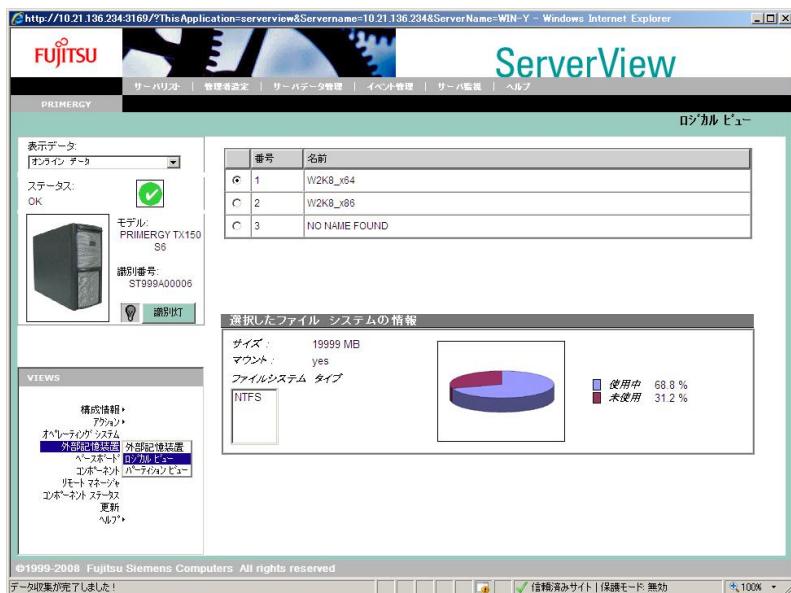
### 重要

- ServerView の版数と RAIDManager / IDE-RAIDManager の版数により、SCSI アレイコントローラカード / SAS アレイコントローラカード / IDE-RAID コントローラカード / SATA アレイコントローラカードの情報が、正しく表示されない場合があります。  
このため、RAIDManager / IDE-RAIDManager などの RAID 管理ツールを使用して、状態を確認してください。

## ■ ロジカルビュー

【ロジカルビュー】をクリックすると、ロジカルビュー画面が表示されます。サーバの論理ドライブ上のファイルシステムがリスト表示されます。

リストから選択したファイルシステムの詳細が表示され、ファイルシステムのサイズ、マウント、ファイルシステムタイプ、使用率が確認できます。



## ■ パーティションビュー

【パーティションビュー】をクリックすると、パーティションビュー画面が表示されます。パーティションビューでは、サーバのパーティションに関する詳細情報が確認できます。



パーティションのリストから詳細情報を確認したいパーティション番号を選択すると、選択したパーティションの以下の情報が確認できます。

- 選択したパーティションの詳細（コントローラ）  
パーティションが所属するコントローラのシンボル名、アダプタモデル、バス タイプ & 番号、デバイス番号、ファンクションが表示されます。
- 選択したパーティションの詳細（デバイス情報）  
パーティションが作成されたデバイスのタイプ、番号、名前が表示されます。

### 3.2.7 ベースボードの状態確認

ベースボードの状態確認では、以下の状態を確認できます。

- ベースボードの状態を確認する→「■ ベースボード」（P.122）
- サーバ上のバスと接続されたアダプタの情報を確認する→「■ バスとアダプタ」（P.124）
- サーバに搭載されたメモリモジュールの状態を確認する→「■ メモリモジュール」（P.124）
- ベースボード上の各電圧の状態を確認する→「■ 電圧」（P.125）

#### ■ ベースボード

[ベースボード] をクリックすると、ベースボード画面が表示され、ベースボード情報（モデル、BIOS バージョン、ボード ID、シリアル番号）が表示されます。

シリアル番号は、機種によっては表示されない場合があります。



## ● プロセッサ

搭載されているプロセッサに関する情報が表示されます。

プロセッサのアイコンをクリックすると、クリックしたプロセッサの番号、タイプ、周波数、CPU ステップ、ステータス、論理 CPU の数、ソケットの名称、L2 キャッシュ (KB)、L3 Cache (KB) が表示されます。

## ● メモリ

メモリの総量とステータスが表示されます。ステータスアイコンをクリックすると、「■ メモリモジュール」(→ P.124) 画面が表示されます。

## ● 電圧

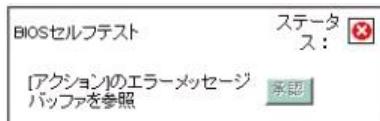
電圧のステータスが表示されます。ステータスアイコンをクリックすると、「■ 電圧」(→ P.125) 画面が表示されます。

## ● バスとアダプタ

サポートするバスタイプとステータスが表示されます。ステータスアイコンをクリックすると、「■ バスとアダプタ」(→ P.124) 画面が表示されます。

## ● BIOS セルフテスト

サーバの電源投入時に BIOS が行うセルフテストの結果が表示されます。



ステータスに「異常」アイコンが表示されている場合、「承認」をクリックすることで「正常」アイコンに戻すことができます。「異常」の詳細情報は「■ アクション」(→ P.114) 画面の「エラーメッセージパッファの内容」で確認してください。

なお、BIOS セルフテスト情報は、セルフテスト通知機能がない BIOS (バージョンの違いも含む) の場合は表示されません。

### POINT

- ▶ 「承認」をクリックして「正常」アイコンに戻った状態で、ServerView エージェントを再インストールすると、再び「異常」アイコンになる場合があります（同時に Trap が発生する場合があります）。この場合「正常」アイコンに戻すには、再度「承認」をクリックしてください。

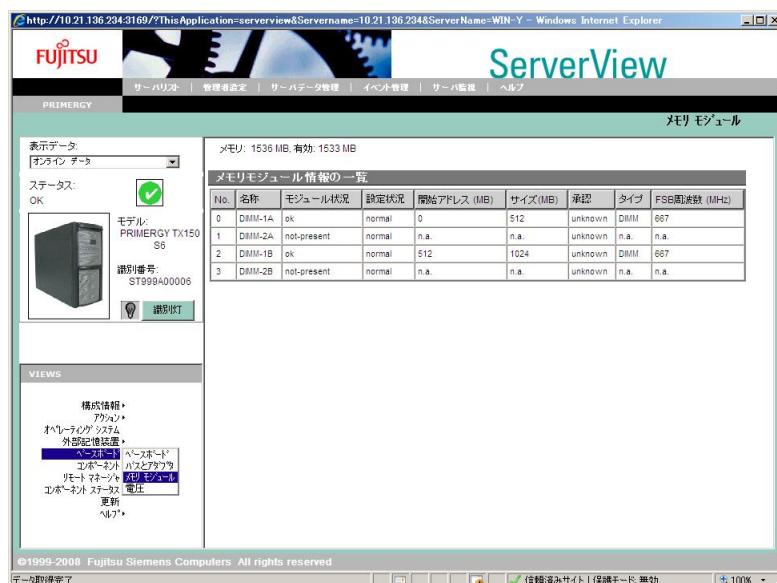
## ■ バスとアダプタ

【バスとアダプタ】をクリックすると、「バスとアダプタ」画面が表示されます。サーバ上のバスと接続されたアダプタがツリー表示され、ツリー上で選択したアダプタの詳細、ファンクションの詳細が表示されます。



## ■ メモリモジュール

【メモリモジュール】をクリックすると、「メモリモジュール」画面が表示され、サーバに搭載されたメモリモジュールの詳細情報が表示されます。



### POINT

- 「承認」、「FSB 周波数 (MHz)」欄の表記は、未サポートです。

## ■ 電圧

[電圧] をクリックすると、「電圧」画面が表示されます。ベースボード上の各電圧についての詳細情報を確認できます。

番号	名称	キャビネット	ステータス	最小	最大	定格	現在	出力
0	Main +12V	0	ok	11.05 V	13.00 V	12.00 V	12.12 V	
1	Main -12V	0	ok	-13.76 V	-10.53 V	-11.96 V	-12.58 V	
2	Main +5V	0	ok	4.65 V	5.41 V	4.99 V	5.09 V	
3	Main 3.3V	0	ok	3.05 V	3.57 V	3.30 V	3.35 V	
4	Battery +3V	0	ok	2.01 V	3.50 V	3.00 V	3.12 V	
5	AUX 1.8V	0	ok	1.71 V	1.89 V	1.80 V	1.81 V	
6	Standby +3.3V	0	ok	3.09 V	3.57 V	3.30 V	3.33 V	
7	V1.25	0	ok	1.17 V	1.33 V	1.25 V	1.27 V	
8	V1.05	0	ok	0.98 V	1.12 V	1.05 V	1.04 V	
9	Core +1.5V	0	ok	1.29 V	1.53 V	1.50 V	1.49 V	
10	AUX 1.2V	0	ok	1.12 V	1.28 V	1.20 V	1.20 V	
11	VTT_BMC	0	ok	0.80 V	1.00 V	0.90 V	0.90 V	
12	Mem +1.8V	0	ok	1.67 V	1.93 V	1.80 V	1.84 V	
13	Term DDR	0	ok	0.83 V	0.98 V	0.90 V	0.89 V	

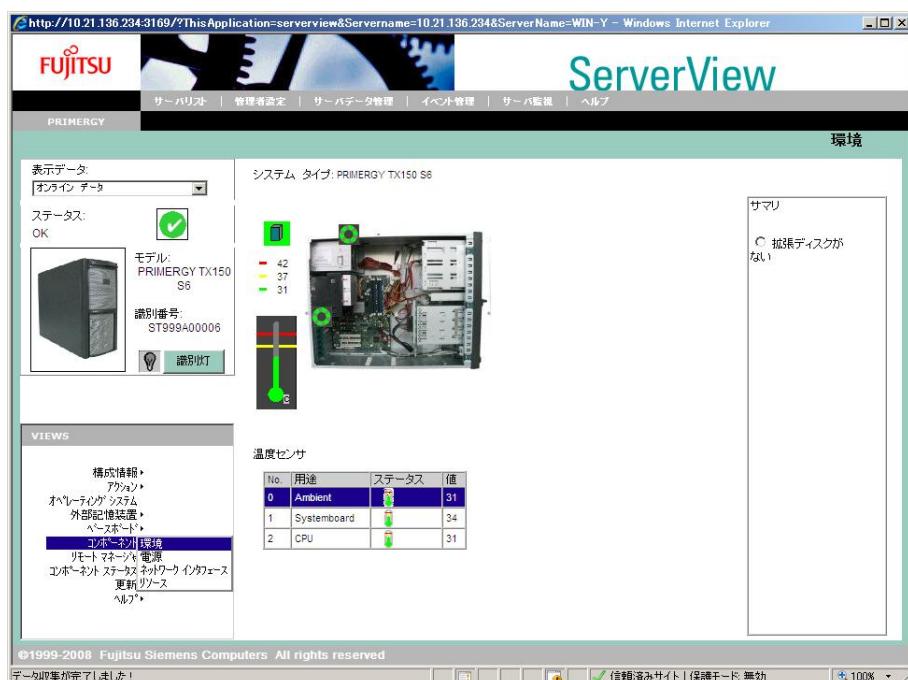
## 3.2.8 コンポーネントの状態確認

コンポーネントの状態確認では、以下のコンポーネント状態を確認できます。

- ・サーバの温度とファンの状態を確認する→「■ 環境」(P.126)
- ・サーバの電源情報を確認する→「■ 電源」(P.127)
- ・サーバに搭載されているネットワークインターフェースの情報を確認する→「■ ネットワークインターフェース」(P.129)
- ・システム上のリソース情報を確認する→「■ リソース」(P.129)

### ■ 環境

【環境】をクリックすると、「環境」画面が表示されます。



### ● サーバアイコンの表示

サーバアイコンでは、サーバのドアやケースの開閉情報を表示します。サーバアイコンが緑色の場合は、ドアまたはサーバのケースが閉じていることを示します。開いているときは黄色で表示されます。

ただし、サーバの種類によっては、ドアやケースの開閉情報はサポートしていない場合があります。

### ● 温度とファンの状態表示

ファンのアイコンにマウスポインタを合わせると、ファンの名称が表示されます。冗長ファンは重なったファンアイコンによって表示されます。

温度センサのステータスアイコンをクリックすると、温度の基本しきい値と現在の温度が図に表示されます。

## ■ 重要

- ▶ ステータスの判定には、サーバ（ハードウェア）が保持している基本しきい値が使用されます。パフォーマンスマネージャで設定したしきい値とは無関係です。
  - ▶ PG-RSB101 が搭載されている場合、「RSB Inhouse」、「Battery」、「Battery Board」の温度センサが表示されますが、「Battery」、「Battery Board」は常に「0°C」となります。
  - ▶ PRIMERGY ECONEL 100 S2 の場合、CPU の温度センサに関する表示は常に以下のようになります。
    - ・ 基本しきい値：表示されません。
    - ・ 現在の温度の値：n.a. (not available)
- なお、センサ自体のステータスについては、以下の「表：ファンと温度の状態」（→ P.127）により判別可能です。

ファンと温度センサのアイコンの色は、以下の状態を示します。

表：ファンと温度の状態

	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	赤色	黄色	緑色	青色	灰色
ファン	赤色	黄色	緑色	---	灰色

## ● サマリ

拡張記憶装置を選択すると、サーバ本体と同様にステータス表示されます。

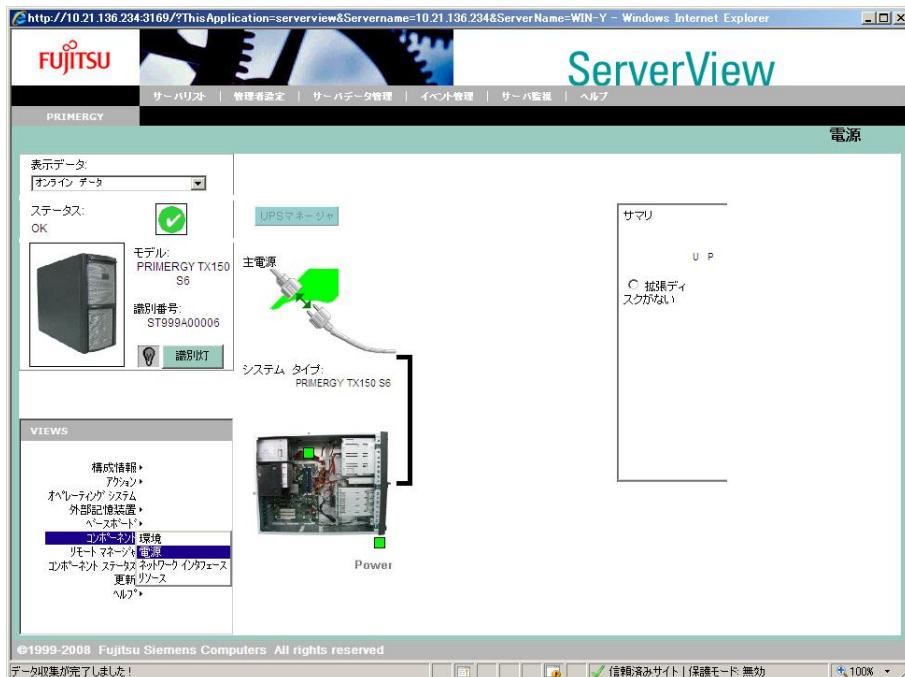
## ■ 電源

[電源] をクリックすると、電源ステータス画面が表示されます。

ステータスにマウスポインタを合わせると電源の名称が表示されます。

電源が正常に動作している場合は、対応する電源上に緑色の四角が表示されます。

冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で表示されます。



## ● 主電源

サーバと主電源の接続状態が表示されます。サーバに拡張記憶装置が接続されている場合には、その主電源も表示されます。

サーバや拡張記憶装置の主電源の異常は、黄色または赤色の四角で表示されます。

通常、電源状態は60秒ごとに更新されます。

## ● システムのタイプ

サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で表示されます。

## ● 拡張ディスク装置

存在する拡張記憶装置が表示されます。BBUの設置もここで検出できます。拡張記憶装置内の電源の全体的なステータスが、緑色または赤色の四角で表示されます。

## ● サマリ

拡張記憶装置を選択すると、サーバ本体と同様にステータス表示されます。

## ● UPS マネージャ

UPS接続設定が行われている場合は、[UPS マネージャ] ボタンが有効になります。



[UPS マネージャ] をクリックすると、Web ブラウザが起動し、アドレスに表示している IP アドレスの Web 画面が表示されます。Web 管理に対応しているネットワークマネジメントカードを使用している場合のみ使用可能です。UPS 接続設定方法については、『ServerView ユーザーズガイド (Windows エージェント編)』または『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』の「UPS 管理ソフトウェア連携」を参照してください。

### POINT

- ▶ UPS 管理ソフトウェアの管理コンソールは起動できません。
- ▶ アドレスに表示している IP アドレスの Web 画面が無条件に表示されます。
 

Web 管理に対応しているネットワークマネジメントカードの IP アドレスの場合は、ネットワークマネジメントカードの管理画面を表示しますが、ネットワークマネジメントカード以外のサーバなどの IP アドレスの場合は、UPS と無関係の画面が表示されます。

## ■ ネットワーク インタフェース

[ネットワーク インタフェース] をクリックすると、「ネットワーク インタフェース」画面が表示され、サーバに搭載されているネットワーク インタフェースがリスト表示されます。リストから選択したネットワーク インタフェースの詳細情報、全体の統計量情報が表示されます。[更新] をクリックすると、統計量の情報が更新されて表示されます。

IF	ステータス	タイプ	説明
1	up	softwareLoopback	Software Loopback Interface 1
2	up	n.a.	WAN Miniport (SSTP)
3	up	n.a.	WAN
4	up	n.a.	WAN
5	up	ppp	WAN

選択したインターフェースの詳細

説明:	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet		
アダプタモデル:	BroadCom 5755 LAN (PCI Express)		
タイプ:	ethernet-csmacl		
物理アドレス:	001999144FBC	スロット番号:	0
IPアドレステーブル:	n.a.	機能:	1
スピード:	1000 Mbit/sec	IRQ:	-2
IPアドレス:	10.21.136.234	DMAチャネル:	n.a.
サブネットマスク:	255.255.255.0	IOアドレス域:	n.a.
バスタイプ & 番号:	pci 4	メモリアドレス域:	DFA00000 - DFA0FFFF

全体の統計量

IP(パケット:イン)	1358076	IP(X)(パケット:イン)	n.a.	更新
アウト:	8108991	アウト:	n.a.	

## ■ リソース

[リソース] をクリックすると、「リソース」画面が表示され、システム上のリソースが表示されます。IRQ、I/O ポート、DMA、メモリのそれぞれ項目について、バス、タイプ、デバイス名、ベンダ名が表示されます。

IRQ	バス	タイプ	デバイス名	ベンダ名
00	isa	システム タイマ	(標準システム デバイス)	
01	isa	標準 PS/2 キーボード	(標準キーボード)	
04	isa	串行ポート (COM1)	(標準ポート)	
06	isa	標準フロッピーディスクコントローラ	(標準フロッピーディスクコントローラ)	
08	isa	システム CMOS/リアルタイムクロック	(標準システム デバイス)	
11	pci	Matrox G200e (ServerEngines)	Fujitsu Siemens Computers	
11	pci	Intel - 82801R - ICH9 - SMBus Controller	Fujitsu Siemens Computers	
12	isa	PS/2 互換マウス	Microsoft	
13	isa	独立データプロセッサ	(標準システム デバイス)	
14	isa	ATA Channel 0	(標準 IDE ATA/ATAPIコントローラ)	
15	isa	ATA Channel 1	(標準 IDE ATA/ATAPIコントローラ)	
16	pci	Intel - 82801R - ICH9 - USB UHCI Controller 1	Fujitsu Siemens Computers	
16	pci	Intel - 82801R - ICH9 - USB2.0 EHCI Controller 1	Fujitsu Siemens Computers	
16	pci	RAID 5/6 SAS based on LSI MegaRAID	Fujitsu Siemens Computers	
16	pci	PCI接続 PCI4to-PCI ブリッジ	INTEL CORPORATION	
16	pci	Intel - 82801R - ICH9 - USB UHCI Controller 4	Fujitsu Siemens Computers	
16	pci	Intel - 82801R - ICH9 - PCI Express Port5	INTEL CORPORATION	
16	pci	Intel - 82801R - ICH9 - PCI Express Port1	INTEL CORPORATION	

### 3.2.9 リモートマネージャ

「リモートマネージャ」をクリックすると、「リモートマネージャ」画面が表示されます。この画面はサーバの機種、構成、設定などによって表示される項目が異なります。



RemoteControlService/Web がインストールされていない環境においても、「リモートサービスボード」および「リモートマネジメント コントローラ」の Web インターフェース画面にアクセスすることが可能です。それぞれ以下のボタンで表示されます。

- ・ リモートサービスボード : 「RSB Manager」
- ・ リモートマネジメント コントローラ : 「iRMC Web」

その他のボタンの詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (RemoteControlService 編)』を参照してください。

### 3.2.10 コンポーネントステータス

「コンポーネントステータス」をクリックすると、サーバに搭載されている各コンポーネントの情報が表示されます。「CSS コンポーネント」欄の選択ボックスで表示内容をフィルタリングできます。

状態	名前	CSSコンポーネント [全てのコンポーネント]
OK	CPU	no
OK	FAN1 SYS	yes
OK	FAN PSU	no
OK	DIMM-1A	yes
N/A	DIMM-2A	yes
OK	DIMM-1B	yes
N/A	DIMM-2B	yes
OK	Battery +3V	yes
OK	Voltages	no
OK	Temp	no
N/A	BBU	no
OK	PSU	no
OK	PCI Slot 1	yes
OK	PCI Slot 2	yes
OK	PCI Slot 3	yes
OK	PCI Slot 4	yes
OK	PCI Slot 5	yes

表：コンポーネントステータスの「CSS コンポーネント」の選択肢

項目	説明
全てのコンポーネント	搭載されているすべてのコンポーネントを表示します（デフォルト）。
CSS コンポーネント	Customer Self Service 対象のコンポーネントを表示します。
非 CSS コンポーネント	Customer Self Service 対象ではないコンポーネントを表示します。

## 3.3 ブレードサーバの監視

ブレードサーバの状態を確認します。

サーバリストからブレードサーバをクリックすると、「ブレードサーバビュー [サーバ名]」画面が表示され、選択したブレードサーバの詳細情報が表示されます。

表示データ

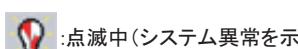
The screenshot shows the 'ServerView' interface for monitoring blade servers. Key elements include:

- ブレードサーバ情報**: Shows the Fujitsu logo and the primary server information.
- システム識別灯表示**: Displays icons for indicator lights (green, yellow, red) and a model identifier (BX800 SP002A00002).
- オンラインデータ**: A dropdown menu.
- ブレードリスト**: A table listing 8 blades with columns for Type, Status, and Model. Status icons (green, yellow, red) are shown next to each blade number.
- 環境**, **電源**, **RCS**: Buttons for environmental monitoring.
- ブレード詳細情報**: A detailed view of a selected blade (Primary Management Blade), showing its type (Management Blade), manufacturer (FSC), creation date (01/13/2006 08:30:00), serial number (S0601W400098), and product name (Primergy BX800 S3 Mgmt. Blade). It also lists physical addresses (00C09FF6A840, 03, 03, 2.10H), IP addresses, and operating systems.
- 選択したブレードの詳細**: A tooltip for the selected blade.
- ヘッダー**: Includes buttons for Close, Refresh, Configuration, and Help.
- フットバー**: Includes copyright information (©1999-2008 Fujitsu Siemens Computers All rights reserved), a message about displaying pages, and a zoom control (100%).

### ● システム識別灯表示

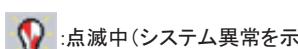
システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。

次の3種類のアイコンがあります。



:点灯中

:消灯中



:点滅中(システム異常を示します)

### ● ブレードサーバ情報

ブレードサーバのステータス、モデル名、識別番号が表示されます。

ステータスはアイコン表示されます。アイコンの意味については、「■ サーバの状態表示（アイコン）」（→ P.101）を参照してください。

モデルには、マネージメントブレードに設定したブレードサーバシステムの名前が表示されます。

識別番号には、ブレードサーバシャーシの製造番号が表示されます。

## ● 表示データ

オンラインデータか、アーカイブデータかを指定できます。オンラインデータは、リアルタイムのサーバ情報を表示します。アーカイブデータは作成日時のサーバ情報を表示します。

## ● ブレードリスト

ブレードサーバシステム内に存在する、すべてのブレードのテーブルが表示されます。タイプIDには、ブレードIDとブレードの種類がアイコンで表示されます。

表：ブレードサーバ内の各ブレード

アイコン	意味
	マネジメントブレード（マスター）
	マネジメントブレード（スレーブ）
	スイッチブレード
	ファイバチャネルパススルーブレード
	LAN パススルーブレード
	KVM ブレード
	ファイバチャネルスイッチブレード
	サーバブレード

## ● 操作ボタン

各コンポーネントの状態を確認するための以下の操作ボタンがあります。

### 重要

- マネジメントブレード上でセキュリティが有効になっている場合、機能ボタンを操作するにはユーザログインが必要です。ユーザ名とパスワードの設定は、マネジメントブレードに Telnet または Web インターフェースで接続して設定します。

表：ブレードサーバの状態表示ボタン

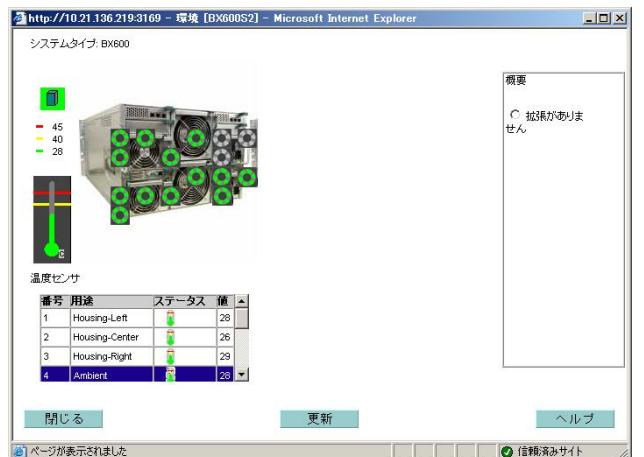
項目	説明
[環境]	環境サブシステム（ファン、温度）に関する状態が表示されます。 →「■ ブレードサーバの環境状態確認」(P.134)
[電源]	電源サブシステムに関する状態が表示されます。 →「■ ブレードサーバの電源状態確認」(P.135)
[RCS]	「RemoteConsoleService/Web」画面が表示されます。 画面の詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (RemoteControlService 編)』を参照してください。
[更新]	画面に表示されている情報を最新の情報に更新します。

表：ブレードサーバの状態表示ボタン

項目	説明
[構成]	マネジメントブレードまたはスイッチブレードを選択して、[構成] をクリックすると、各ブレードの設定画面が表示されます。各ブレードの設定画面について、マネジメントブレードまたはスイッチブレードのマニュアルを参照してください。 なお、サーバブレードを選択している場合は選択できません。
[ServerView]	サーバブレードを選択して [ServerView] をクリックすると、サーバの詳細監視画面が表示されます。サーバの監視画面については、「3.2.2 サーバの各監視項目の詳細確認」(→ P.104) を参照してください。 なお、マネジメントブレードまたはスイッチブレードを選択している場合、このボタンは無効です。
[ヘルプ]	各項目についてのヘルプが表示されます。

## ■ ブレードサーバの環境状態確認

[環境] をクリックすると、環境ステータス画面が表示されます。



### ● サーバアイコンの表示

サーバアイコンでは、サーバのドアやケースの開閉情報を表示します。サーバアイコンが緑色の場合は、ドアまたはサーバのケースが閉じていることを示します。開いているときは黄色で表示されます。

ただし、サーバの種類によっては、ドアやケースの開閉情報はサポートしていない場合があります。

### ● 温度とファンの状態表示

ファンのアイコンにマウスポインタを合わせると、ファンの名称が表示されます。冗長ファンは重なったファンアイコンによって表示されます。

温度センサのステータスアイコンをクリックすると、温度の基本しきい値と現在の温度が図に表示されます。

### 重要

- ▶ ステータスの判定には、サーバ（ハードウェア）が保持している基本しきい値が使用されます。パフォーマンスマネージャで設定したしきい値とは無関係です。

ファンと温度センサのアイコンの色は、以下の状態を示します。

表：ファンと温度の状態

対象	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	赤色	黄色	緑色	青色	灰色
ファン	赤色	黄色	緑色	---	灰色

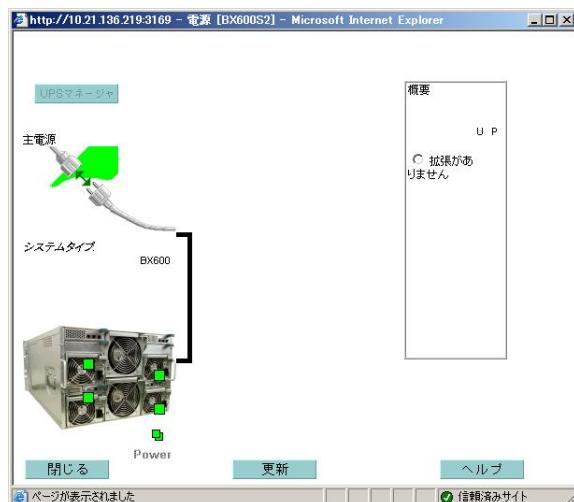
## ■ ブレードサーバの電源状態確認

[電源] をクリックすると、電源ステータス画面が表示されます。

ステータスにマウスポインタを合わせると電源の名称が表示されます。

電源が正常に動作している場合は、対応する電源上に緑色の四角が表示されます。

冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で表示されます。



### ● 主電源

サーバと主電源の接続状態が表示されます。サーバに拡張記憶装置が接続されている場合は、その主電源も表示されます。

サーバや拡張記憶装置の主電源の異常は、黄色または赤色の四角で表示されます。

通常、電源状態は 60 秒ごとに更新されます。

### ● システムタイプ

サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で表示されます。

## 3.4 異常発生時の対処 (ASR)

ASR (Automatic Server Reconfiguration & Restart) では、サーバに異常が発生した場合に、サーバが自動的に行う対処を設定します。

- ・ ファンが故障したときの対応
- ・ 温度異常発生時の対応
- ・ サーバの再起動に関する対応
- ・ 起動監視 (BOOT オーバーヒート)、エージェント監視 (ソフトウェアウォッチドッグ) の設定と対応
- ・ 電源 ON/OFF のスケジューリング設定

### POINT

#### 異常発生時の対処例

- ▶ オーバーヒートが発生したときに、サーバを自動的にシャットダウンし、一定の遅延時間のあと、自動的に再起動するように設定できます（温度異常発生時の対処）。
- ▶ SCSI ケーブル・デバイスに一時的な故障が発生した場合など、システム起動が正常にできなかった場合に、自動再起動するように設定できます（起動監視設定—システム起動から ServerView エージェントが利用可能となる前に異常発生時の対処）。

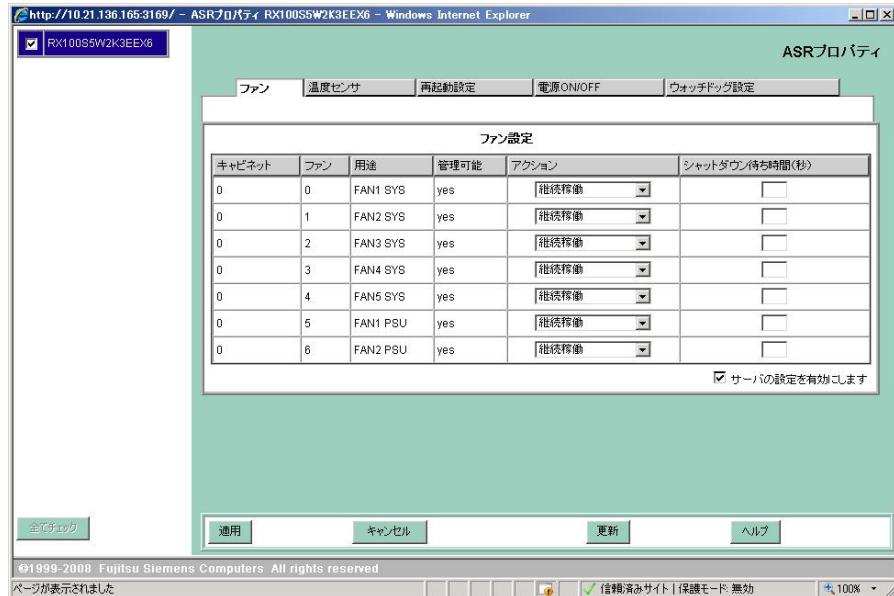
### 3.4.1 設定方法

ServerView S2 で操作した場合の画面を例に説明します。

### 重要

- ▶ すべての設定が、すべてのサーバでサポートされるわけではありません。サーバを選択し、1つまたは複数のフィールドが「N/A」に設定されていることが確認された場合、それらのパラメータはサポートされていません。
- ▶ ASR 機能の設定内容は、サーバの BIOS 設定に書き込まれます。  
誤った設定を行うとシステムが起動しなくなる場合があります。よくご確認のうえ設定を行ってください。
- ▶ ASR 機能の設定をしたまま ServerView をアンインストールした場合、予期せぬ原因でサーバがシャットダウンされることがあります。ご注意ください。
- ▶ ファン／温度センサの状態は、サーバ本体（ハードウェア）が保持している基本しきい値の範囲を超えた場合に異常状態となります。基本しきい値は、パフォーマンスマネージャで設定されるしきい値とは無関係です。

- 1 設定を行うサーバを右クリックし、表示されたメニューから「ASR のプロパティ」をクリックします。**  
 「ASR プロパティ」画面が表示されます。



### POINT

- ▶ 画面の右下隅に「[サーバの設定を有効にします]」チェックボックスがあります。サーバの設定が変更可能である場合はこのチェックボックスはチェックされています。チェックボックスがチェックされていない場合は、サーバの設定が変更できない状態であることを意味します。
- チェックされていない場合、ServerView エージェントが正しくインストールされていない可能性があります。
- また、Linux の場合、以下のファイルが正しく設定されていないことも考えられます。
  - snmpd.conf
  - ServerView エージェントの config ファイル
- 詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (Windows エージェント編)』または『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』を参照してください。

### ServerView S2 の画面

ServerView S2 のサーバ管理画面から、「アクション」→「ASR」をクリックすると、以下の ASR 画面が表示されます。



## 2 設定を行うタブをクリックし、各項目を設定します。

タブには、以下の種類があります。各タブで行う設定項目の詳細については、それぞれ以下を参照してください。

- ・ [ファン] タブ (→ P.139)
- ・ [温度センサ] タブ (→ P.139)
- ・ [再起動設定] タブ (→ P.140)
- ・ [電源 ON/OFF] タブ (→ P.141)
- ・ [ウォッチドッグ設定] タブ (→ P.141)

### POINT

- ▶ ASR が記憶媒体や、サーバの運用ステータスにおいて深刻な状況 (CPU エラー、メモリエラー、OS のハングなど) を検出すると、システムが再起動され、問題のあるハードウェアコンポーネントは再起動中に使用不可能になります。

## ■ [ファン] タブ

ファンの障害時に実行する対応を設定します。

ファンごとに「ファン異常時のアクション」を指定します。

表 : [ファン] タブの「アクション」

項目	説明
継続稼動	ファン異常の検知後もサーバは継続稼動します。
シャットダウン - 電源断	サーバは一定の遅延時間のあとにシャットダウンします。 遅延時間は、「シャットダウン待ち時間」に秒単位で指定します。 1 ~ 300までの値が指定可能です。

### 重要

- 冗長ファンを搭載しているサーバでは、冗長を構成する両方のファンに同じ ASR 設定を行ってください。OS シャットダウンは、ファンが両方故障した場合に開始します。
- 冗長ファンの搭載有無や組み合わせについては、サーバに添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。
- 拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内のファン情報が表示され、「シャットダウン - 電源断」が選択されている場合がありますが、自動シャットダウンを行うことはできません。

## ■ [温度センサ] タブ

高温異常時の対応を設定します。監視温度センサごとに「アクション」を設定します。

ファン	温度センサ	再起動設定	電源ON/OFF	ウォッチドッグ設定																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">温度センサ設定</th> </tr> <tr> <th>キャビネット</th> <th>センサ番号</th> <th>用途</th> <th>アクション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>Ambient</td> <td>継続稼動</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>Systemboard</td> <td>継続稼動</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>2</td> <td>CPU 1</td> <td>継続稼動</td> </tr> </tbody> </table> <p><input checked="" type="checkbox"/> サーバの設定を有効化します</p>					温度センサ設定				キャビネット	センサ番号	用途	アクション	0	0	Ambient	継続稼動	0	1	Systemboard	継続稼動	0	2	CPU 1	継続稼動
温度センサ設定																								
キャビネット	センサ番号	用途	アクション																					
0	0	Ambient	継続稼動																					
0	1	Systemboard	継続稼動																					
0	2	CPU 1	継続稼動																					

表 : [温度センサ] タブ

項目	説明
継続稼動	高温異常の検知後もサーバは継続稼動します。
シャットダウン - 電源断	温度が危険な値に達すると、即座にシャットダウンします。

### 重要

- 拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内の温度センサ情報が表示され、「シャットダウン - 電源断」が選択されている場合がありますが、自動シャットダウンを行うことはできません。

## ■ [再起動設定] タブ

電源異常後の動作と、サーバの再起動に関する対応を設定します。



表：[再起動設定] タブ

項目	説明
電源異常後のアクション	電源異常後、復電時の起動設定を選択します。 ・以前の状態 ・サーバを再起動しない ・常にサーバを再起動する
再起動リトライ回数超過時のアクション	最大リトライ回数を超過した場合の処理について、BIOSで設定されている値が表示されます。
自動電源投入までの待ち時間	1～30分までの範囲で設定します。
デフォルトの再起動のリトライ回数	0～7の範囲で設定します。
再起動リトライ回数	現在のサーバの再起動リトライ回数が表示されます。[デフォルト]をクリックすると、「デフォルトの再起動のリトライ回数」で設定したデフォルト値になります。 値が「0」のとき、OSを起動するたびにその旨を通知するTrapが送信されます。その場合、[デフォルト]をクリックして「再起動リトライ回数」を設定し直してください。

### 重要

- UPSによる復電、またはスケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるためには、設定内容が制限される場合があります（「● UPS 使用時の注意事項」（→ P.278）参照）。

## ■ [電源 ON/OFF] タブ

曜日ごとに、サーバの起動時間／終了時間を設定できます。

たとえば、週末にはサーバをシャットダウンして、月曜に再起動することができます。ただし、サーバの機種によっては設定できない場合があります。

曜日	起動時間		終了時間	
	有効	時間	有効	時間
Sunday	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分
Monday	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分
Tuesday	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分
Wednesday	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分
Thursday	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分
Friday	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分
Saturday	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分	<input type="checkbox"/>	□:□ 時:分

シャットダウン許可  
 設定変更有効

### 重要

- この設定はスケジューリングを行うサーバの BIOS 設定に書き込まれます。ServerView をサーバからアンインストールする前に、必ずスケジューリングを無効にしてください。  
無効にせずに ServerView をアンインストールした場合は、予期せぬ時間にサーバがシャットダウンされることがあります。
- サーバにリモートサービスボード (PG-RSB101) が搭載されている場合、リモートサービスボードの Web インターフェースからもスケジューリング設定を行うことができますが、リモートサービスボードを経由するスケジュール電源 ON/OFF 設定は必ず ServerView エージェントが正常に稼動しているときに実行してください。サーバの電源が入っていないときなど、ServerView エージェントが稼動していない場合にスケジュール電源 ON/OFF 設定を行うと、設定の反映が行われず予期しない動作が発生する場合があります。

## ■ [ウォッチドッグ設定] タブ

ソフトウェアウォッチドッグ監視、および BOOT ウォッチドッグ監視の設定を行います。

「管理可能」が「yes」になっている機能を設定できます。

タイプ	有効	管理可能	アクション	待ち時間(分)
ソフトウェア	<input type="checkbox"/>	yes	継続稼動する ▾	5
BOOT	<input type="checkbox"/>	yes	再起動する ▾	10

サーバの設定を有効にします

## ● ソフトウェアウォッチドッグ（エージェント監視）

ソフトウェアウォッチドッグは ServerView エージェントの状態を監視し続けます。

ServerView エージェントからの無応答状態が、設定されたタイムアウト時間を超えた場合に設定されたアクションが実行されます。

ソフトウェアウォッチドッグを有効にする場合は、「ソフトウェア」行の「有効」にチェックを付け、「待ち時間（分）」にタイムアウトまでの待ち時間を 1～120 分の範囲で設定します。

また、待ち時間を超過した場合の「アクション」を以下から選択し、設定します。

- 継続稼動する
- 再起動する
- Off/On する

### POINT

- ▶ 何らかの理由で ServerView エージェントを手動で停止する場合、または ServerView のアンインストールを行うときは、本設定を解除する必要があります。
- ▶ Windows サーバの場合、「アクション」で選択した動作を有効にするために、サーバで以下の設定が必要になります。
  - ・ Windows Server 2008 の場合  
コントロールパネルの【システム】アイコンをダブルクリックし、【システムの詳細設定】→【詳細設定】タブ画面の「起動と回復」の【設定】をクリックし、「自動的に再起動する」のチェックを外します。
  - ・ Windows Server 2003／Windows 2000 Server／Windows XP の場合  
コントロールパネルの【システム】アイコンをダブルクリックし、【詳細設定】タブ画面の「起動と回復」の【設定】をクリックし、「自動的に再起動する」のチェックを外します。

## ● BOOT ウォッチドッグ（起動監視）

BOOT ウォッチドッグはサーバの起動フェーズを監視します。「サーバ電源投入」から「ServerView エージェントが正常に応答する」までの時間が、設定されたタイムアウト時間を超えた場合に設定されたアクションが実行されます。

BOOT ウォッチドッグを有効にする場合は、「BOOT」行の「有効」にチェックを付け、「待ち時間（分）」にタイムアウトまでの待ち時間を 1～120 分の範囲で設定します。

また、待ち時間を超過した場合の「アクション」を以下から選択し、設定します。

- 継続稼動する
- 再起動する
- Off/On する

### POINT

- ▶ 本設定を行うためには、あらかじめそのシステムが通常どの程度の時間で起動を完了するかを知っておく必要があります。

## 3.5 アラームサービス

アラームサービスは、ServerView エージェントが異常を検出した場合に送信するアラーム（SNMP トラップ）を受信し、あらかじめ設定しておいた管理者への通知方法に従って、リアルタイムに通知を行います。

アラームサービスは、「アラームモニタ」、「アラーム設定」機能があります。

### ■ アラームについて

ServerView エージェントはサーバ上のイベントごとに ServerView S2 に対してアラームを送信します。アラームは「サーバの運用上に極めて重大な影響を及ぼす」ものから「単なるサーバの情報」に至るまで多岐にわたります。

各アラームには管理上の目安として重要度が設定されています。本機能はサーバ管理上、注目すべきイベントを見逃さずに適切な対処を行うことを目的としています。例として以下のような動作が考えられます。

- ・ 設定したイベントが発生した場合に管理者に対してメール／ポップアップなどを自動送信し、注意／対処を促す。
- ・ 設定したイベントが発生した場合にサーバ上で特定のプログラムを自動実行させる。

サーバ監視プログラムや OS からの SNMP トラップを受信し、そのデータをイベントログ格納、ポップアップメッセージ表示、または他のサーバやクライアントへの転送処理を行います。アラームサービスの各種機能を設定することにより、異常の発生をシステム管理者に効率良く通知することができます。

### 3.5.1 アラームサービスの起動

**1** Web ブラウザを起動します。

**2** 次のいずれかの URL を入力し、【Enter】キーを押します。

IIS または Linux を使用している場合

<http://<サーバ名またはサーバのIPアドレス>/AlarmService.htm>

ServerView Web-Server を使用している場合（通常の接続）

<http://<サーバ名またはサーバのIPアドレス>:3169/AlarmService.htm>

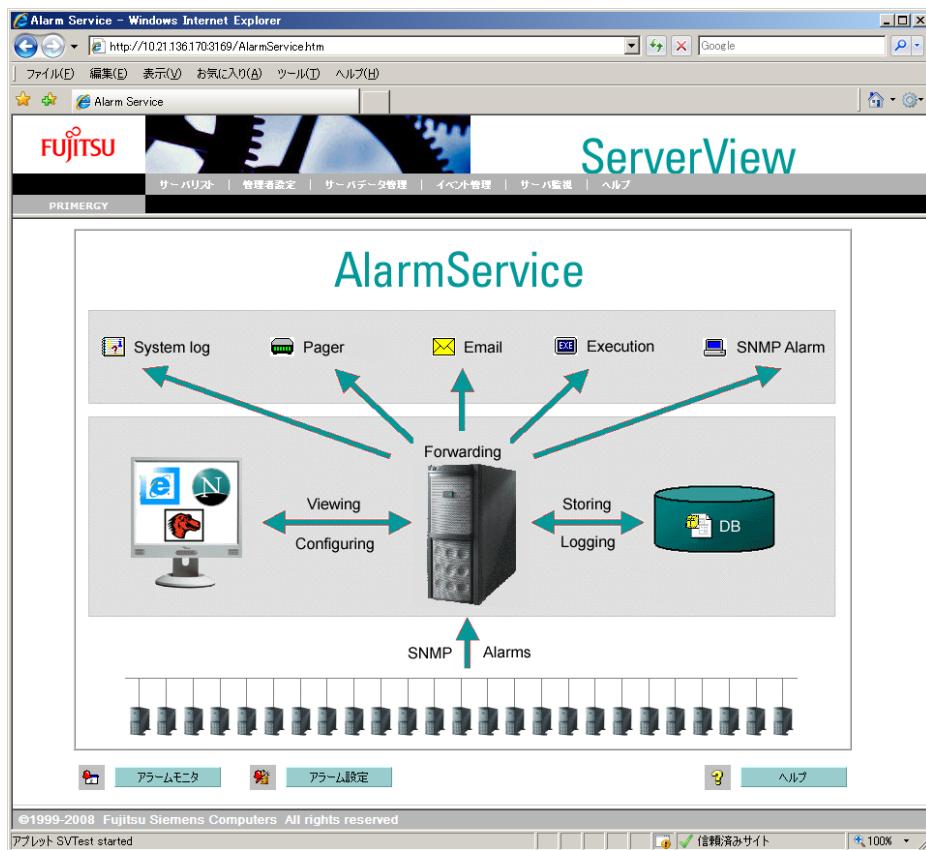
ServerView Web-Server を使用している場合（SSL 接続）

<https://<サーバ名またはサーバのIPアドレス>:3170/AlarmService.htm>

#### POINT

- ▶ 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu Alarm Service」→「AlarmService」の順にクリックしても、アラームサービスの画面を表示できます。

アラームサービスの画面が表示されます。



画面上部のメニュー、または画面下部のボタンからアラームモニタ、アラーム設定の画面を表示できます。

アラームモニタ、アラーム設定については、以下を参照してください。

→「3.5.2 アラームモニタ」(P.145)

→「3.5.3 アラーム設定の起動と操作の流れ」(P.152)

## 3.5.2 アラームモニタ

アラームモニタは、受信したアラーム（SNMP トランプ）を受信順に表示します。

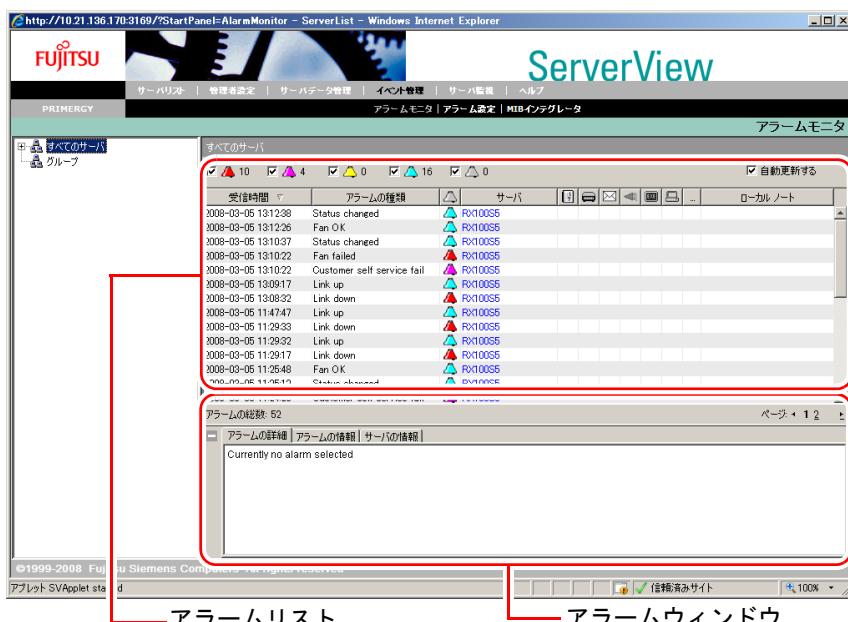
- 1 ServerView S2 のメニューから「イベント管理」メニュー→「アラームモニタ」をクリックします。

### ServerView が起動していない場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu AlarmService」→「AlarmService」の順にクリックすると「AlarmService」画面が表示されます。

「イベント管理」→「アラームモニタ」をクリックします。

「アラームモニタ」画面が表示されます。



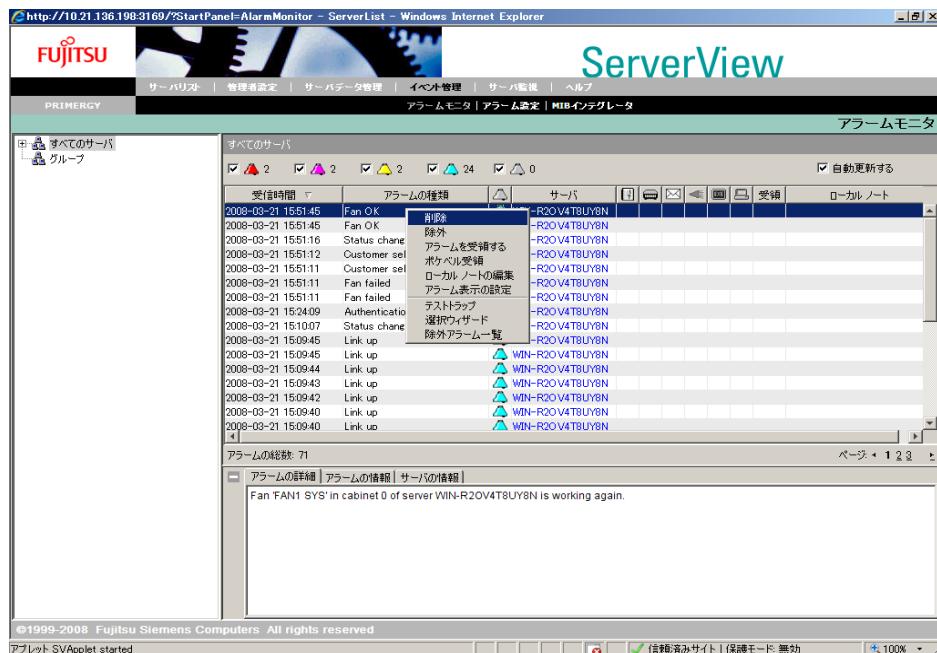
表：アラームモニタ画面の説明

項目	説明
アラームリスト	
自動更新する	チェックが付いている場合、新しいアラームを受信すると、アラームモニタ画面を自動的に更新します。チェックが付いていない場合は自動的に更新されません。
受信時間	アラームが受信された時間が表示されます。
アラームの種類	アラームの種類が表示されます。
(重要度)	アラームの重要度が以下のアラーム受信アイコンで表示されます。 (赤色):危険    (ピンク色):重度 (黄色):軽度    (青色):情報    (白色):不明
サーバ	サーバ名が表示されます。クリックするとサーバの管理画面が表示されます。

表：アラームモニタ画面の説明

項目	説明
 (イベントログ)	イベントログ格納が行われた場合、アイコンが表示されます。
 (ポケットベル)	本機能は未サポートです。
 (メール通知)	メール通知が行われた場合、アイコンが表示されます。
 (ブロードキャスト)	ブロードキャストが行われた場合、アイコンが表示されます。
 (プログラム実行)	プログラムが実行された場合、アイコンが表示されます。
 (アラーム転送)	アラーム転送が行われた場合、アイコンが表示されます。
受領	アラームが受領されると、アイコンが表示されます。
ローカルノート	アラームに追加されたコメントが表示されます。
アラームウィンドウ	アラームをリストから選択すると選択したアラームに対応する情報が表示されます。 →「■アラームウィンドウ」(P.147)

- 2** リスト上のアラームを選択し、右クリックし、表示されたメニューからアラームに対して実行する操作を選択します。



アラームを選択して、右クリックして表示されるメニューは以下の表のとおりです。

表：アラームの操作（右クリックメニュー）

右クリックメニュー	説明
削除	選択したアラームをアラームリストから削除します。
除外	選択したアラームをサーバから除外します。除外指定したアラームは一覧から削除され、同様の着信アラームも一覧に追加されなくなります。サーバが正しく機能せずに、アラームであふれるような場合に使用します。詳細は「■アラームの除外／除外一覧」（→ P.148）を参照してください。
アラームを受領する	選択したアラームを受領します。
ポケベル受領	本機能は未サポートです。
ローカルノートの編集	選択したアラームのローカルノートを編集します。
アラーム表示の設定	1画面に表示されるアラーム数を設定します。 デフォルトでは「30」、最小では「10」です。「all」を指定すると、受信したすべてのアラームが表示されます。
テストトラップ	トラップの送信テストを行います。詳細は「■テストトラップ」（→ P.149）を参照してください。
選択ウィザード	複数台のサーバのアラームを1つのアラームモニタで管理する場合など、多くのアラームの中から参照／選択したいアラームの条件を設定して抽出します。詳細は「■選択ウィザード」（→ P.151）を参照してください。
除外アラーム一覧	除外されたアラームの一覧が表示されます。詳細は「■アラームの除外／除外一覧」（→ P.148）を参照してください。

### POINT

- ▶ 複数のアラームを選択したい場合には【Shift】キー、または【Ctrl】キーを押しながらアラームをクリックしてください。
- ▶ 複数のアラームを選択した状態のまま「アラームを受領する」、「削除」などを実行した場合は、選択しているすべてのアラームがアクションの対象になります。
- ▶ アラームリストの項目はドラッグして位置を変えることができます。
- ▶ アラームリストの項目名をクリックすると、アラームをソートできます。
- ▶ アラームの削除は【Delete】キーでも行えます。
- ▶ 重要度「危険」のアラームは受領を行うまで削除できません。

## ■アラームウィンドウ

アラームをリストから選択すると選択したアラームに対応する情報が、画面下部のアラームウィンドウに表示されます。

アラームウィンドウは、左部にある [ - + ] で表示／非表示を切り替えることができます。アラームウィンドウ内には、[アラームの詳細] [アラームの情報] [サーバの情報] の3つのタブがあります。

アラーム名、エンタープライズ、MIB、トラップID、重要度、説明、詳細、送信元サーバの情報などが表示されます。

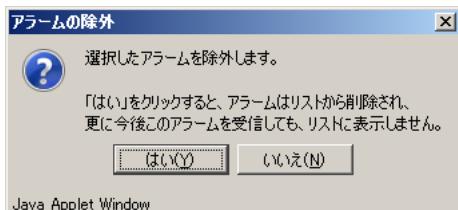
表：アラームウィンドウの説明

項目	説明
アラームの総数	アラームモニタが受信したアラームの数です。
[アラームの詳細] タブ	選択したアラームの詳細が表示されます。
[アラームの情報] タブ	選択したアラームの情報が表示されます。
[サーバの情報] タブ	選択したアラームを発信したサーバの情報が表示されます。

## ■ アラームの除外／除外一覧

アラームをリストから選択し、右クリックして表示されたメニューから「除外」を選択すると、選択したアラームの削除確認画面が表示されます。

[はい] をクリックすると、選択したアラームがアラームモニタから除外されます。



除外したアラーム（同じサーバからの同じアラーム）はリストから削除され、除外を解除するまで同様の着信アラームもリストに追加されなくなります。サーバが正しく機能しないために、システムがアラームであふれるような場合に使用します。除外されたアラームは以下のように「除外アラームの一覧」に登録されます。「除外アラームの一覧」は、アラームリスト上で右クリックして表示されたメニューから「除外アラーム一覧」を選択すると表示されます。

サーバ	アラーム タイプ
RX100S5	Test trap

除外されたアラームは「サーバ」と「アラームタイプ」の2つの要素で管理され、これに一致するアラームはアラームモニタから削除され、以降の新規の受信も表示されません。「除外アラームの一覧」からアラーム選択し、[削除] をクリックするとアラームの除外を解除することができます。

### POINT

- ▶ サーバの起動時に、RAIDManager や EthernetCard などにより、起動通知（例：RFC1157LinkUP）として、アラーム（SNMP トラップ）が送信される場合があります。これらのトラップを抑止する場合は、アラームの除外設定を行ってください。なお、この抑止機能は、サーバ単位に設定が必要です。複数のサーバを監視している場合は、サーバごとにアラーム機能を使用して本設定を行ってください。

## ■ テストトラップ

サーバに対してテストトラップを送信し、サーバからのアラームが正常に送受信されるかどうかを確認できます。

- アラームリスト上で右クリックし、表示されたメニューから「テストトラップ」を選択します。

「テストトラップ」画面が表示されます。



- 「サーバー覧」からテストトラップを実行するサーバを選択するか、IP アドレスを入力し、[テストトラップ] を実行します。

テストトラップが実行され、以下の画面が表示されます。



### 正常に送受信された場合

テストトラップが正常に送受信された場合は、以下のような表示になります。



### 正常に送受信されなかった場合

何らかの原因でテストトラップが正常に送受信されなかった場合は、以下のような表示になります。



正常に送受信されなかった場合は、以下の点について確認してください。

- ・SNMP コミュニティ名がサーバ側の SNMP 設定（Windows の場合は SNMP サービスのプロパティ、Red Hat Linux の場合は /etc/snmp/snmpd.conf、SUSE Linux の場合は /etc/snmpd.conf）と、コンソール側（ServerView S2）で一致しているかどうか。
- ・サーバ側の SNMP 設定で「送信先」（Destination）にコンソール側の IP アドレス（または DNS 名）が指定されているかどうか。
- ・コンソール側の SNMP 設定でサーバ側の IP アドレスからの受信を受け付けているかどうか。

### POINT

- ▶ Linux の場合、ローカルホスト（127.0.0.1/localhost）に対する接続テストを実施すると、テストトラップがタイムアウトとなります。これは、ServerView コンソールがリクエストしたローカルホストの IP アドレスで応答を待ち合わせますが、実際のトラップは、SNMP マスタエージェントに割り付けられているサーバの実 IP アドレスより応答があるためタイムアウトとなります。

## ■ 選択ウィザード

複数台のサーバのアラームを1つのアラームモニタで管理する場合など、多くのアラームの中から参照／選択したいアラームを探す場合に便利です。



アラームタイプ、時間、サーバ、アラームの重要度の4つの項目の組み合わせから、選択したいアラームを抽出します。条件に適合するアラームの数が「選択数」に表示されます。選択したアラームに対して [アラーム情報]、[削除]、[除外] の各機能ボタンを実行できます。

### 3.5.3 アラーム設定の起動と操作の流れ

アラーム設定の起動や操作の流れについて説明します。

#### POINT

- ▶ ブレードサーバに対してアラーム設定を行う場合、搭載されている個々のブレードはサーバリスト上で単一のサーバとして登録されている必要があります。

#### ■ アラーム設定の流れ

アラーム設定は、3つのカテゴリに分かれます。各設定の順番は前後しても行うことができます。

##### アラームルールの作成

→「3.5.4 アラーム設定（アラームルールの作成）」(P.156)

アラームルール名設定



サーバの割り当て



アラームの割り当て



アクションの割り当て

##### アクションの新規作成

- ・メール
- ・ポップアップ
- ・プログラム実行
- ・ブロードキャスト
- ・アラーム転送

アラームの管理（有効化）

##### アラームのフィルタルールの作成

→「3.5.5 アラーム設定（フィルタルールの設定）」(P.172)

サーバのフィルタの設定



アラームのフィルタの設定

##### アラームの共通設定

→「3.5.6 アラーム設定（共通設定）」(P.175)

すべてのアラームの共通する詳細設定を行います。

## ■ アラーム設定の起動と基本操作

- 1 ServerView S2 のメニューから「イベント管理」メニュー→「アラーム設定」をクリックします。**

### ServerView が起動していない場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu AlarmService」→「AlarmService」の順にクリックすると「AlarmService」画面が表示されます。「イベント管理」→「アラーム設定」をクリックします。

「アラーム設定」画面が表示されます。



- 2 アラームの設定を行います。**

アラーム設定は、以下の3つのカテゴリに分かれ、各設定画面で設定を行います。

「アラーム設定」画面左のツリー表示から設定項目を選択し、各設定画面を表示することもできます。

- **アラームルールの作成**

アラームルールは、特定のアラームに対して自動的にポップアップ表示やイベントログへの追記など、各種アクションを起こすことを定義します。

→「3.5.4 アラーム設定（アラームルールの作成）」(P.156)

- **アラームのフィルタルールの設定**

アラームのフィルタリングを行う場合のルールを設定できます。

→「3.5.5 アラーム設定（フィルタルールの設定）」(P.172)

- **アラームの共通設定**

すべてのアラームに共通する設定を行えます。

→「3.5.6 アラーム設定（共通設定）」(P.175)

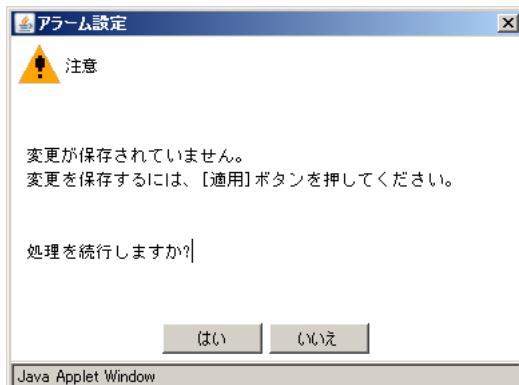


各画面には以下のボタンがあります。

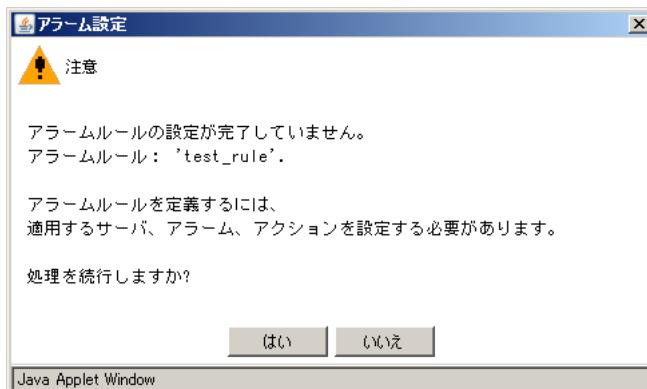
表：ボタンの説明

ボタン	説明
操作ボタン	状況に応じてグレーアウトします。
前へ	1画面前の設定画面に戻ります。設定画面の遷移は、画面左のツリー表示からも行えます。
次へ	次の設定画面に移行します。設定画面の遷移は、画面左のツリー表示からも行えます。
適用	現在の画面の設定を適用します。
リセット	未適用の設定を元に戻します。
設定割り当てボタン	設定画面によっては、このボタンが表示されない画面があります。 サーバやアラームなどをルールに割り当てる際に使用します。
[>]	選択した項目のみを追加します。
[>>]	表示されているすべての項目を追加します。
[<]	選択した項目のみを削除します。
[<<]	表示されているすべての項目を削除します。

変更した設定を適用せずに画面を移行させた場合は以下のような警告が表示されます。



アラームルールに必要な要素が欠けている場合にも以下のような警告が表示されます。



### 3.5.4 アラーム設定（アラームルールの作成）

アラームルールは、特定のアラームに対して自動的に各種のアクションを起こすことを目的としています。

1つのアラームルールには、以下の4つの構成要素が含まれている必要があります。それぞれの画面において構成要素を設定できます。

- ・アラームルール名 → 「■ アラームルールの追加」(P.156)
- ・アラームの発信元サーバ → 「■ サーバの割り当て」(P.158)
- ・アラームの種類 → 「■ アラームの割り当て」(P.159)
- ・アラーム受信時のアクション → 「■ アクションの割り当て」(P.161)

上記の構成要素を設定し、アラームルールを追加したあとは、必要に応じて編集を行ったり、アラームルールを有効化します。→「■ アラームルールの管理」(P.163)

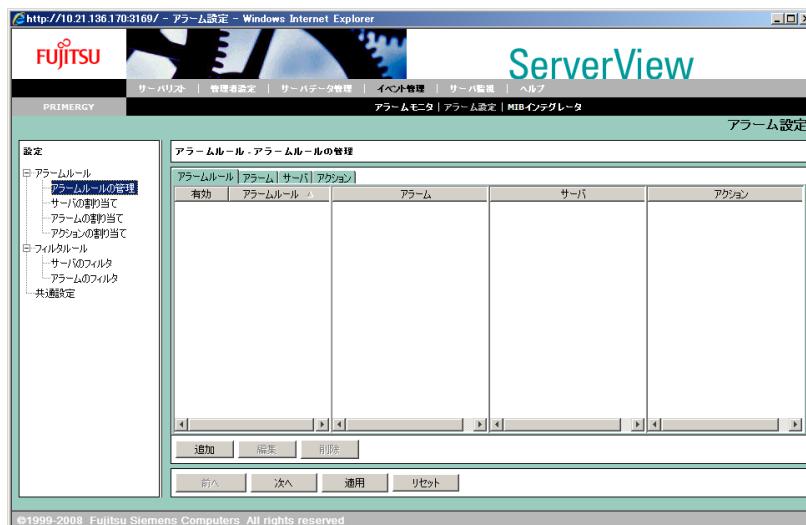
#### POINT

- ▶ アラームルールに追加するアクションを運用形態に合わせて新規に作成できます。  
→「■ アクションの新規作成」(P.165)

#### ■ アラームルールの追加

画面の各ボタンの機能などについては、「■ アラーム設定の起動と基本操作」(→ P.153) を参照してください。

- 1 画面左のツリーから「アラームルール」または「アラームルールの管理」をクリックします。



初期状態ではアラームルールは存在しません。

[アラームルール] タブ以外のタブについては、「■ アラームルールの管理」(→ P.163) を参照してください。

**2** [追加] をクリックします。

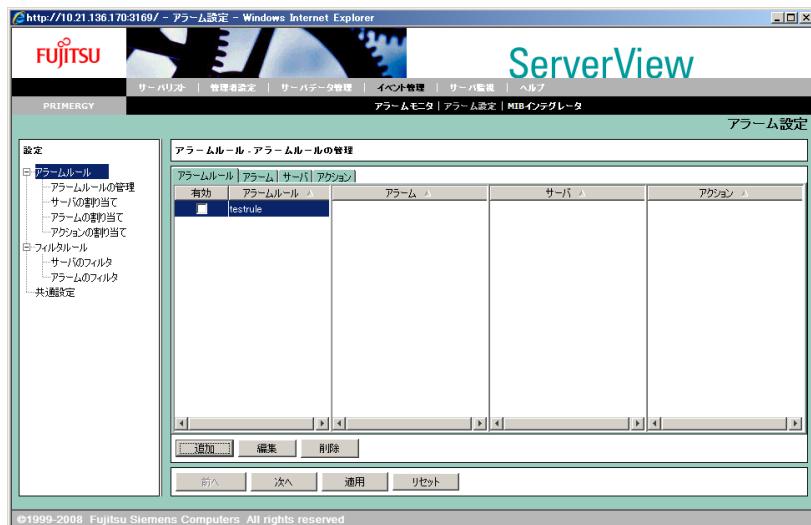
以下のウィンドウが表示されます。



**3** アラームルール名を入力して [OK] をクリックします。

ここでは例として「testrule」を入力します。

アラームルールが追加されます。



**4** [編集] または [次へ] をクリックします。

「サーバの割り当て」画面が表示されます。

「■ サーバの割り当て」(→ P.158) を参照してください。

## ■ サーバの割り当て

「アラームルールの管理」画面からの移行によって以下の画面が表示されます。  
画面左のツリー表示から「サーバの割り当て」を選択しても同様の表示となります。



画面の各ボタンの機能などについては、「■ アラーム設定の起動と基本操作」(→ P.153) を参照してください。

### 1 アラームルールに割り当てるサーバを左側の「サーバリスト」から選択し

[>] をクリックします。

ここでは例としてサーバ「RX100S5」をルールに追加しています。



アラームルールが割り当てられたサーバ名は右側の「選択されたサーバ」に表示されます。

**2** [適用] をクリックします。

**3** [次へ] をクリックします。

「アラームの割り当て」画面が表示されます。

「■ アラームの割り当て」(→ P.159) を参照してください。

## ■ アラームの割り当て

「サーバの割り当て」画面からの移行によって以下の画面が表示されます。

画面左のツリー表示から「アラームの割り当て」を選択しても同様の表示となります。



画面の各ボタンの機能などについては、「■ アラーム設定の起動と基本操作」(→ P.153) を参照してください。

**1** アラームルールに割り当てるアラームを選択します。

アラームの種類は多数存在するため、アラームの割り当てには4つの「アラーム一覧絞込み規則」と各規則に応じたプルダウンメニューが用意されています。

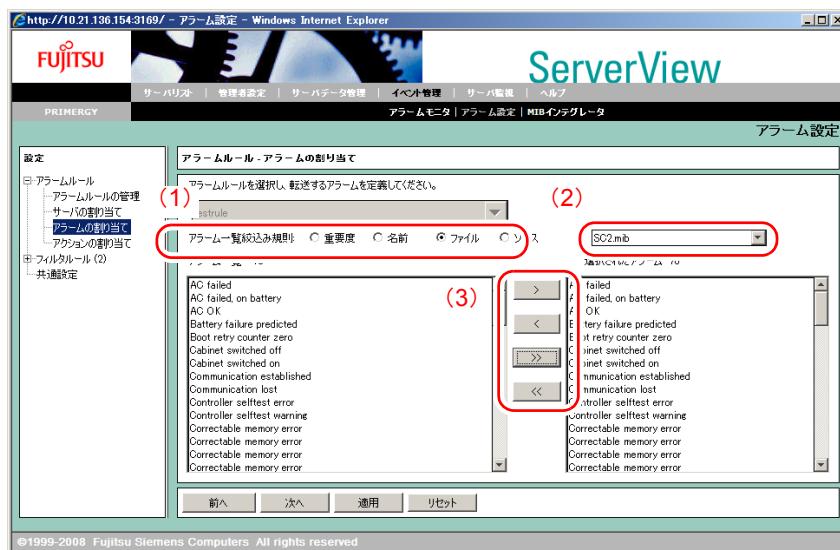
表：アラーム一覧絞込み規則

項目	内容
重要度	アラームを重要度ごとに表示します。プルダウンメニューから重要度を選択すると対応した重要度のアラームだけが「アラーム一覧」にリスト表示されます。
名前	すべてのアラームを名前順に表示します。プルダウンメニューには選択したアラームの Mib ファイル名が表示されます。プルダウンメニューからは Mib ファイルは選択できません。
ファイル	アラームを Mib ファイルごとに表示します。プルダウンメニューからファイル名を選択すると対応したアラームだけが「アラーム一覧」にリスト表示されます。
ソース	アラームのソースごとに表示されます。ServerView で使用できるソースは SNMP のみです。

## POINT

- ▶ 「アラーム一覧」上のアラームを右クリックすると選択したアラームの情報が表示できます。

以下は、Mib ファイル「SC2.mib」に対応するすべてのアラームをルールに追加する手順を例としています。



1. 「アラーム一覧絞込み規則」でアラームを選択するためのカテゴリ（「ファイル」）を選択します。  
選択したカテゴリに応じて、プルダウンメニューの内容が変わります。
2. プルダウンメニューから「SC2.mib」を選択します。  
「アラーム一覧」に「SC2.mib」に対応したアラームがリスト表示されます。
3. [>>] をクリックします。  
「アラーム一覧」に表示されているすべてのアラームが選択され、「選択されたアラーム」に表示されます。

**2** [適用] をクリックします。

**3** [次へ] をクリックします。

「アクションの割り当て」画面が表示されます。

「■ アクションの割り当て」(→ P.161) を参照してください。

## ■ アクションの割り当て

「アラームの割り当て」画面からの移行によって以下の画面が表示されます。

画面左のツリー表示から「アクションの割り当て」を選択しても同様の表示となります。



画面の各ボタンの機能などについては、「■ アラーム設定の起動と基本操作」(→ P.153) を参照してください。

- 1 アラームルールに割り当てるアクションを「設定可能なアクション」から選択し [>] をクリックします。

「設定可能なアクション」には、以下のアクションが存在します。

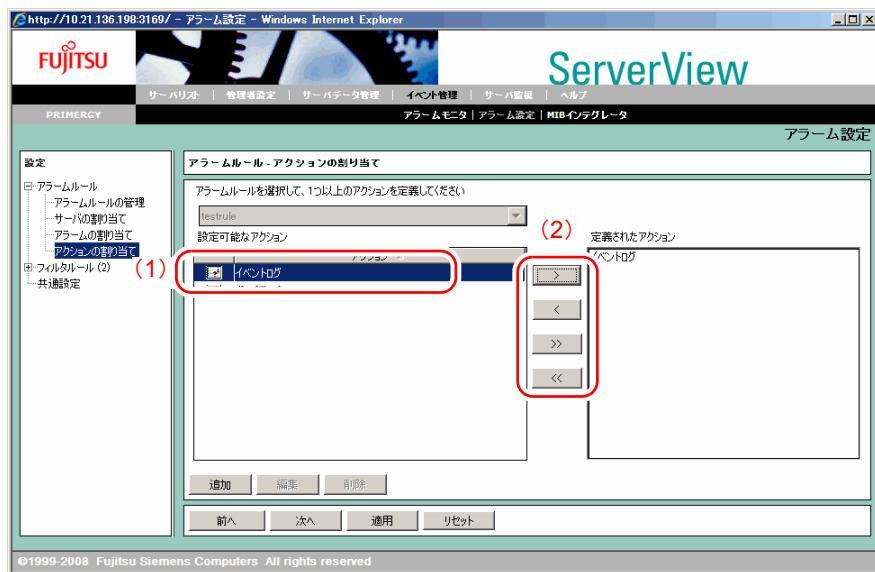
表：アクション

項目	内容
イベントログ	イベントログへの追加を行います。
ポップアップ	デフォルトのポップアップを実行します。

### POINT

- ▶ 新規にアクションを作成することもできます。  
→ 「■ アクションの新規作成」(P.165)

以下は、「イベントログ」を定義されたアクションに追加する手順を例としています。



1. 「設定可能なアクション」からアクション（「イベントログ」）を選択します。
2. [>] をクリックします。  
「定義されたアクション」に「イベントログ」が表示されます。

## 2 [適用] をクリックします。

以上でアラームルールの作成は完了します。ルールを稼動させるためにはアラームルールの有効化が必要です。

「■ アラームルールの管理」(→ P.163) で、作成したアラームルールの確認／有効化を行います。

## ■ アラームルールの管理

画面左のツリー表示から「アラームルール」または「アラームの管理」を選択すると、アラームルール追加後は、以下のような画面が表示されます。

有効	アラームルール	サーバ	アクション
<input checked="" type="checkbox"/>	testrule	WIN-R20V4T8UY8N	イベントログ
15 GTL Voltage is out of specification 12V is operating out of specification 25V is operating out of specification 33V is operating out of specification 33V Standby Voltage is out of specification 5V Voltage is out of specification 12V power failed for disk 33V power failed for disk 50V power failed for disk A device was removed from the system A Fan is operating out of specification A Fan/Temperature is operating A LUN has failed. A metadata read error has occurred A node in a Cluster FailOver configuration A polling-style trap built using the Win32 API			

アラームルール名の左の「有効」にチェックを付け、[適用] をクリックすると、アラームルールが有効化されます。

作成されたアラームルールは、リストで選択後、[削除] をクリックすると削除されます。

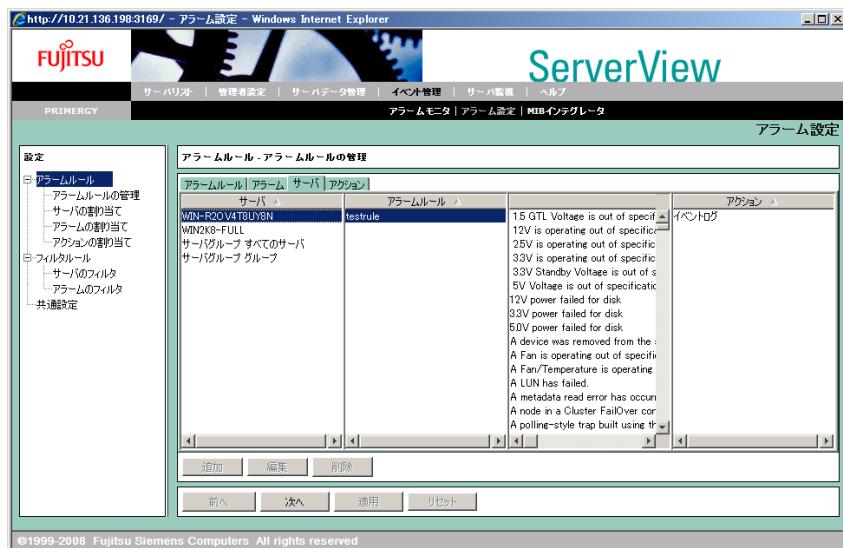
その他のタブについては以下のようになります。

それぞれの要素を始点としてアラームルールが表示されます。

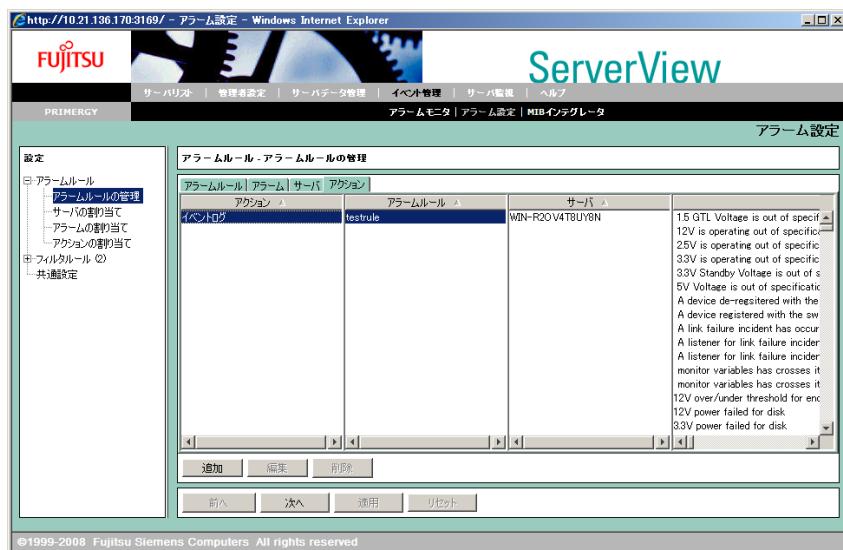
- ・ [アラーム] タブ

アラームルール	サーバ	アクション
testrule	WIN-R20V4T8UY8N	イベントログ
15 GTL Voltage is out of specification 12V is operating out of specification 25V is operating out of specification 33V is operating out of specification 33V Standby Voltage is out of specification 5V Voltage is out of specification 12V power failed for disk 33V power failed for disk 50V power failed for disk A device de-registered with the system A device registered with the system A link failure incident has occurred A listener for link failure incident A listener for link failure incident 12V over/under threshold for enc 12V power failed for disk 33V power failed for disk 50V power failed for disk 5V over/under threshold for enclosure		

- [サーバ] タブ



- [アクション] タブ

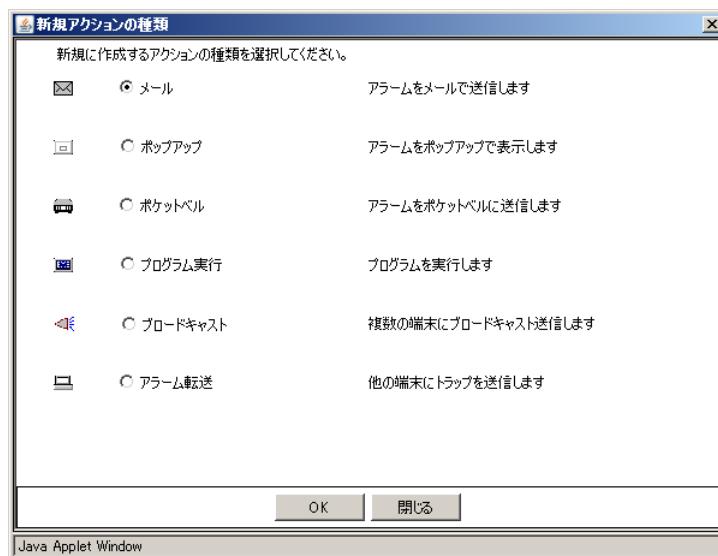


## ■ アクションの新規作成

アラームルールに追加するアクションを運用形態に合わせて作成できます。

作成したアクションは、「■ アクションの割り当て」(→ P.161) でアラームルールに追加します。

- 1 画面左のツリー表示から、「アクションの割り当て」をクリックし、[追加] をクリックします。



- 2 追加したいアクションを選択し、[OK] をクリックします。

選択したアクションの設定画面が表示されます。



### 3 各アクションを設定し、[OK] をクリックします。

詳細については、各アクションの設定説明を参照してください。

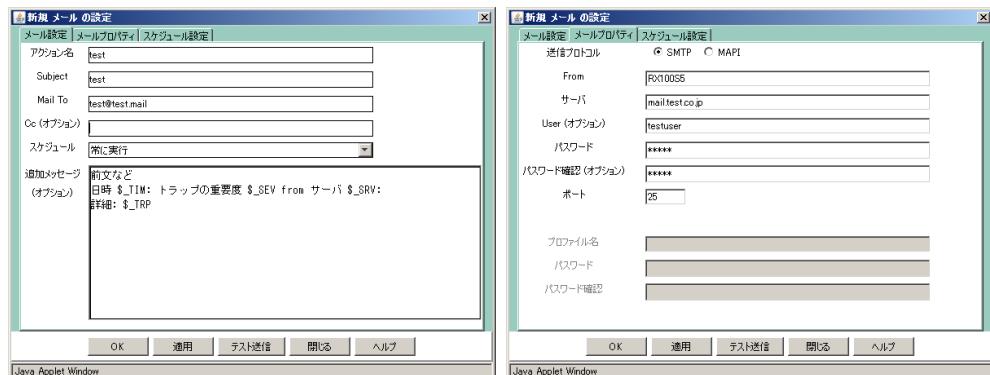
- ・「● メール」(→ P.166)
- ・「● ポップアップ」(→ P.168)
- ・ポケットベル：クイックキャストサービスの終了に伴い、本機能は未サポートです。
- ・「● プログラム実行」(→ P.169)
- ・「● ブロードキャスト」(→ P.170)
- ・「● アラーム転送」(→ P.171)

#### 重要

▶ 各アクション設定の「アクション名」の項目に、日本語を使用することはできません。

## ● メール

「■ アクションの新規作成」(→ P.165) で「メール」をアクションとして選択した場合の設定について説明します。各項目を設定後、[適用] をクリックすると、設定内容が保存されます。



表：メールの設定画面

項目	説明
<b>[メール設定] タブ</b>	
アクション名	アクション名を入力します。この項目に日本語は使用できません。
Subject	送信する際の件名を入力します。
Mail To	メールを送信するアドレスを入力します。メールアドレスを「, (カンマ)」で区切ることで複数のメールアドレスを指定できます。
Cc	メールを写し (CC) で送信するアドレスを入力します。メールアドレスを「, (カンマ)」で区切ることで複数のメールアドレスを指定できます。(省略可)
スケジュール	アクションを実行する時間帯を、スケジュール設定から選択します。
追加メッセージ	メールに付加するメッセージを入力します。 サーバの情報を追加するための以下のマクロを使用できます。 \$_SRV : サーバ名 \$_TRP : トラップテキスト \$_IPA : サーバの IP アドレス \$_IPX : サーバの IPX アドレス \$_CTY : サーバのコミュニティ \$_SEV : トラップの重要度 (critical, major, minor, informational, unknown) \$_TIM : タイムスタンプ (YYYY-MM-DD-HH.MM.SS)

表：メールの設定画面

項目	説明
[メールプロパティ] タブ	
送信プロトコル	「SMTP」と「MAPI」が存在しますが、「MAPI」は未サポートです。
From	送信者名を入力します。
サーバ	SMTP サーバ名を入力します。
User	SMTP サーバのユーザ名を入力します。(省略可)
パスワード	パスワードを入力します。(省略可)
パスワード確認	パスワードを再入力します。(省略可)
ポート	ポート番号を指定します。
プロファイル名	MAPI の設定項目のため未サポートです。
パスワード	MAPI の設定項目のため未サポートです。
パスワード確認	MAPI の設定項目のため未サポートです。
[スケジュール設定] タブ → 「● スケジュール設定（各アクション共通の設定）」(P.172)	

## 重要

### SMTP AUTHについて

- メール送信のアクションでは、SMTP AUTHによるメールの送信をサポートしています。  
サポートされる認証方式 : CRAM MD5 / LOGIN / PLAIN  
メール送信時に使用される認証方式は送信先の SMTP サーバが対応している認証方式に応じて自動的に切り替わり、最も安全なものが選択されます。  
なお、「User」および「パスワード」欄の入力を省略した場合、認証なしの SMTP で送信されます。

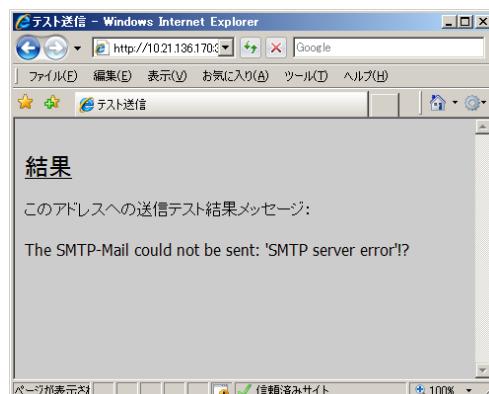
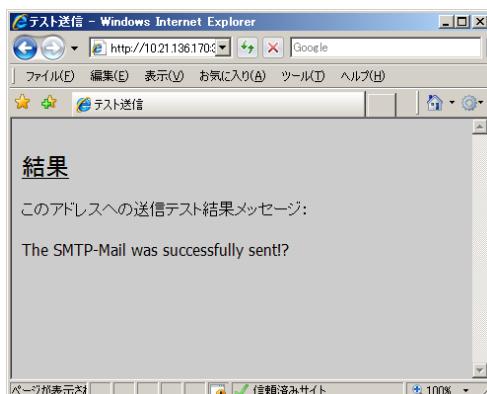
## POINT

- メールの件名、メッセージには日本語を使用することができますが、エンコード形式に Content-Transfer-Encoding:quoted-printable を使用しているため、経由するメールサーバによっては、受信内容が文字化けする場合があります。この場合は、メールの件名、およびメッセージを英数字に変更してください。

## テスト送信

メール送信に必要な項目がすべて入力されると「テスト送信」が有効になります。

クリックしてテストメールの送信を行い、以下の画面が表示されることを確認してください。



## ● ポップアップ

「■ アクションの新規作成」(→P.165) で「ポップアップ」をアクションとして選択した場合の設定について説明します。各項目を設定後、[適用] をクリックすると、設定内容が保存されます。



表：ポップアップの設定画面

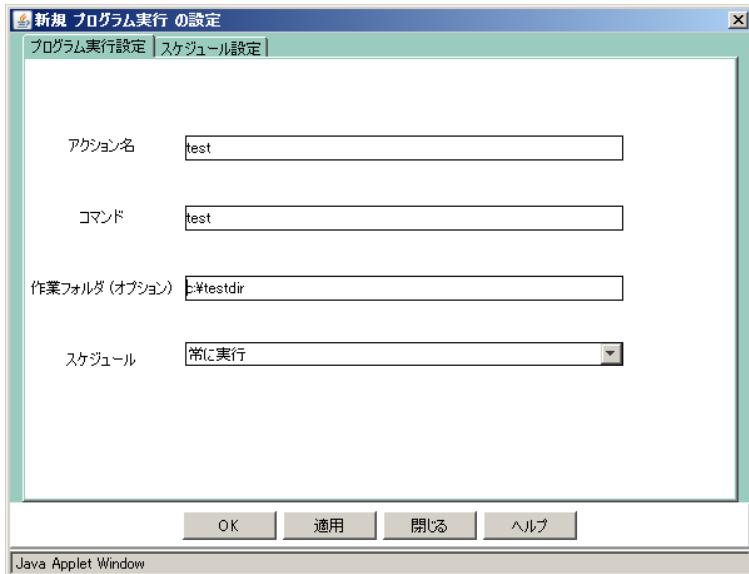
項目	説明
[ポップアップ設定] タブ	
アクション名	アクション名を入力します。この項目に日本語は使用できません。
スケジュール	アクションを実行する時間帯を、スケジュール設定から選択します。
追加メッセージ (オプション)	ポップアップに付加するメッセージを入力します。 サーバの情報を追加するための以下のマクロを使用できます。 \${_SRV} : サーバ名 \${_TRP} : トラップテキスト \${_IPA} : サーバの IP アドレス \${_IPX} : サーバの IPX アドレス \${_CTY} : サーバのコミュニティ \${_SEV} : トラップの重要度 (critical, major, minor, informational, unknown) \${_TIM} : タイムスタンプ (YYYY-MM-DD-HH.MM.SS)
[スケジュール設定] タブ	→「● スケジュール設定 (各アクション共通の設定)」(P.172)

### POINT

- ▶ ポップアップは自ホストにのみ表示されます。他のホストにポップアップを表示させることはできません。

## ● プログラム実行

「■ アクションの新規作成」(→ P.165) で「プログラム実行」をアクションとして選択した場合の設定について説明します。各項目を設定後、[適用] をクリックすると、設定内容が保存されます。



表：プログラム実行の設定画面

項目	説明
[プログラム実行設定] タブ	
アクション名	アクション名を入力します。この項目に日本語は使用できません。
コマンド	実行するコマンドを入力します。
作業用フォルダ（オプション）	実行するコマンドが存在するディレクトリを入力します。
スケジュール	アクションを実行する時間帯を、スケジュール設定から選択します。
[スケジュール設定] タブ	→ 「● スケジュール設定（各アクション共通の設定）」(P.172)

### 重要

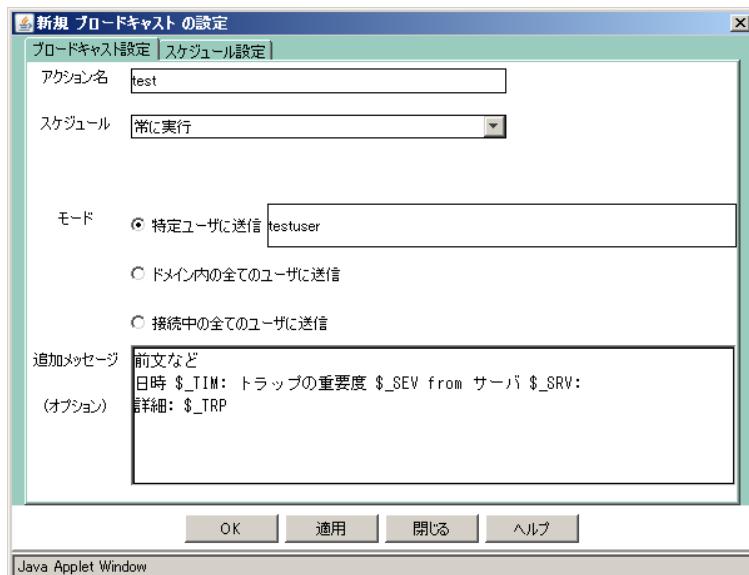
- ▶ Windows Server 2008 の場合、プログラム実行で利用できるコマンドは CUI コマンドに限られます。

## ● ブロードキャスト

「■ アクションの新規作成」(→P.165) で「ブロードキャスト」をアクションとして選択した場合の設定について説明します。

「ブロードキャスト」は複数の端末にポップアップ、またはメッセージを表示します。

各項目を設定後、[適用] をクリックすると、設定内容が保存されます。

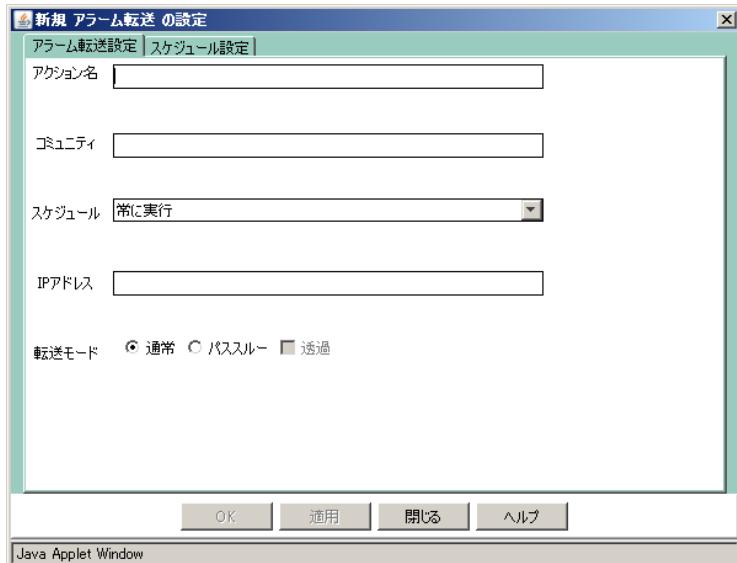


表：ブロードキャストの設定画面

項目	説明
[ブロードキャスト設定] タブ	
アクション名	アクション名を入力します。この項目に日本語は使用できません。
スケジュール	アクションを実行する時間帯を、スケジュール設定から選択します。
モード	ブロードキャストのモードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定ユーザに送信 特定のユーザ 1 人だけに情報が通知されます。「モード」横のフィールドに、ユーザ名を入力してください。</li> <li>・ ドメイン内の全てのユーザに送信 (Windowsのみ) 転送を実行するドメインと同じドメインに属しているユーザ全員に情報が通知されます。</li> <li>・ 接続中の全てのユーザに送信 転送を実行するセッションを介して接続されているユーザ全員に情報が通知されます。</li> </ul>
追加メッセージ (オプション)	ブロードキャストに付加するメッセージを入力します。 サーバの情報を追加するための以下のマクロを使用できます。 \${_SRV} : サーバ名 \${_TRP} : トラップテキスト \${_IPA} : サーバの IP アドレス \${_IPX} : サーバの IPX アドレス \${_CTY} : サーバのコミュニティ \${_SEV} : トラップの重要度 (critical, major, minor, informational, unknown) \${_TIM} : タイムスタンプ (YYYY-MM-DD-HH.MM.SS)
[スケジュール設定] タブ	→ 「● スケジュール設定 (各アクション共通の設定)」(P.172)

## ● アラーム転送

「■ アクションの新規作成」(→ P.165) で「アラーム転送」をアクションとして選択した場合の設定について説明します。各項目を設定後、[適用] をクリックすると、設定内容が保存されます。

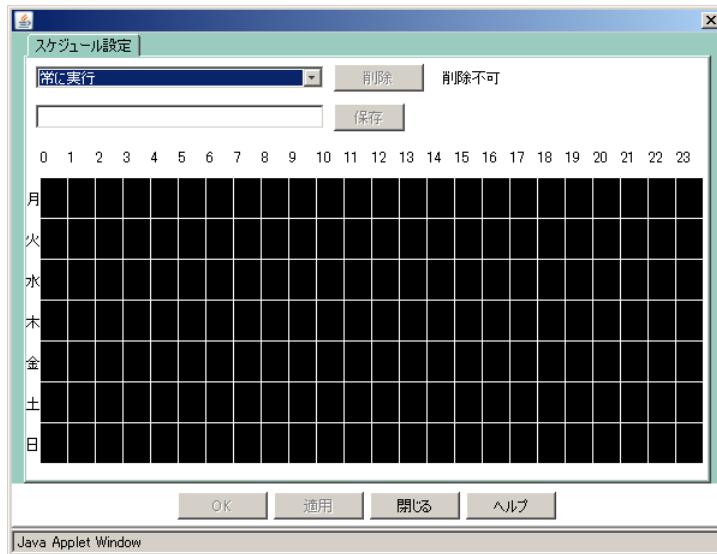


表：アラーム転送の設定画面

項目	説明
[アラーム転送設定] タブ	
アクション名	アクション名を入力します。この項目に日本語は使用できません。
コミュニティ	転送先ステーションのコミュニティを入力します。
スケジュール	アクションを実行する時間帯を、スケジュール設定から選択します。
IP アドレス	転送先の IP アドレスを入力します。
転送モード	転送モードを選択します。
通常	SpecificCode 700 のトラップとして転送します。転送先ではトラップ発信元のサーバ名とトラップ名などが varbind で確認できます。 varbind : sniServerViewServerName, sniServerViewTrapTime, sniServerViewOrigServerName, sniServerViewOrigTrapName
パススルー	SpecificCode 703 のトラップとして転送します。転送元の転送先ではアラームサービスで表示されていた「アラームの詳細メッセージ」が varbind で確認できます。 varbind : sniServerViewServerName, sniServerViewTrapTime, sniServerViewOrigServerName, sniServerViewOrigTrapName, sniServerViewOrigTrapDetails
パススルー (透過モード)	オリジナルの UDP パケットをそのまま転送します。転送先にてトラップ発信元から直接受信形式での転送が可能です。
[スケジュール設定] タブ	→ 「● スケジュール設定（各アクション共通の設定）」(P.172)

## ● スケジュール設定（各アクション共通の設定）

各アクションには動作する時間帯を設定する【スケジュール設定】タブがあります。



プルダウンメニューから設定したい動作時間帯を選択できます。

時間帯のマトリクスをクリックすると、新たなスケジュールを作成できます。

黒の時間帯はアクションの稼動を、グレーの時間帯はアクションの停止を意味しています。

### 3.5.5 アラーム設定（フィルタルールの設定）

アラームのフィルタリングを行う場合のルールを設定することができます。フィルタは、以下の設定が行えます。

- サーバのフィルタ

登録したサーバからのアラームを受信しないようにします。

→「■ サーバのフィルタ」(P.173)

- アラームのフィルタ

アラームの種類や頻度などの条件を設定し、その条件に応じてアラーム受信しないようにします。

→「■ アラームのフィルタ」(P.174)

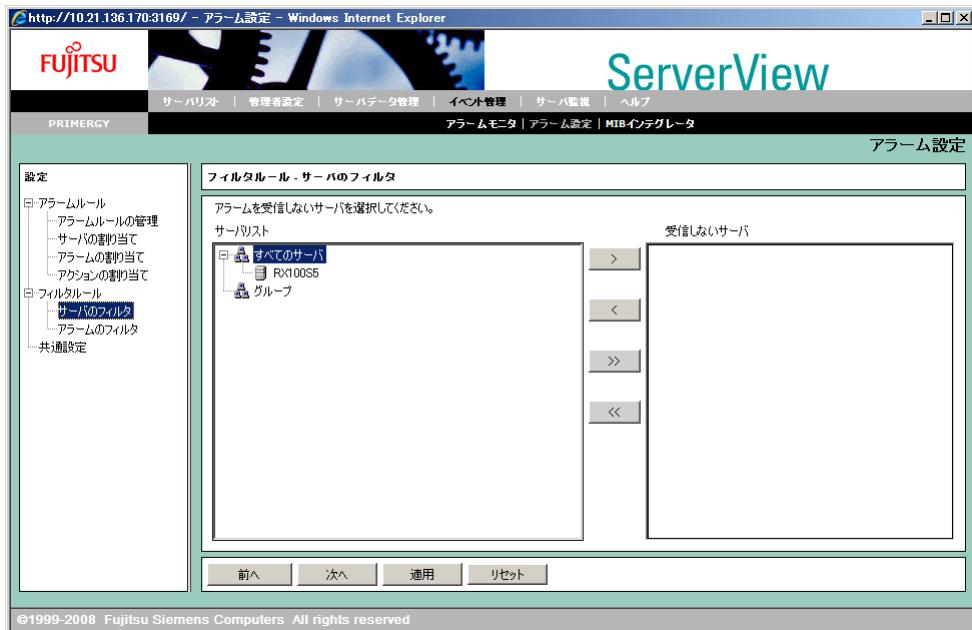
#### POINT

- ▶ フィルタルールはアラームルールに優先します。  
発信されたアラームがフィルタを通過できなかった場合、そのアラームに設定されたアラームルールは実行されません。

画面の各ボタンの機能などについては、「■ アラーム設定の起動と基本操作」(→ P.153) を参照してください。

## ■ サーバのフィルタ

画面左のツリー表示から「サーバのフィルタ」を選択すると以下の画面が表示されます。

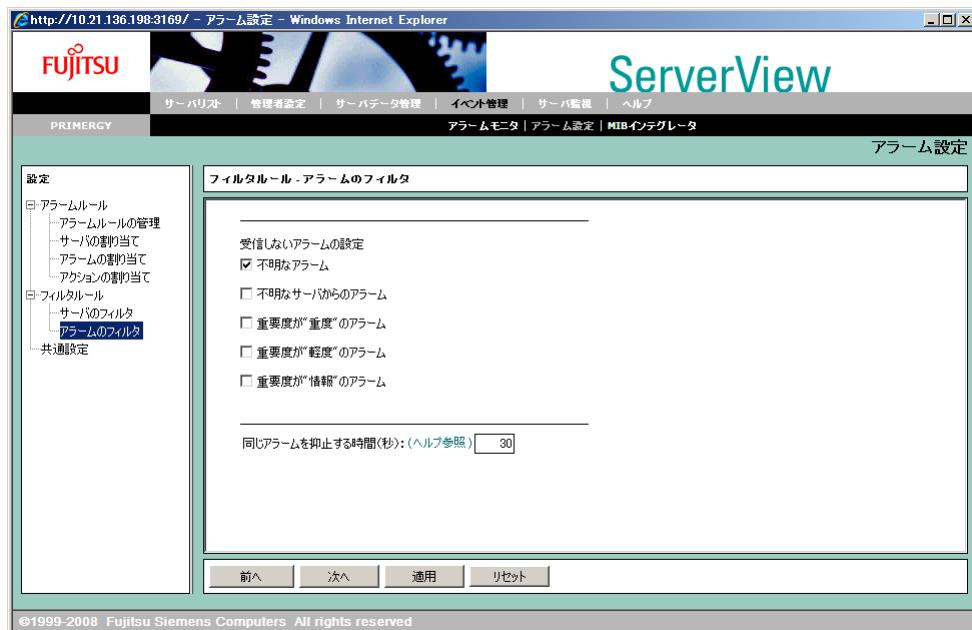


「アラームを受信しないサーバ」としてフィルタを設定する場合は、画面左の「サーバリスト」からサーバを選択し、[>] をクリックします。「アラームを受信しないサーバ」として登録され、画面右の「受信しないサーバ」欄に表示されます。

登録されたサーバからのアラームはフィルタリングされ、受信されません。

## ■ アラームのフィルタ

画面左のツリー表示から「アラームのフィルタ」をクリックすると以下の画面が表示されます。



アラームの種類や頻度によってアラームのフィルタリングを行います。

条件を満たしていないアラームはフィルタリングされ、受信されません。

表：アラームのフィルタ設定

項目	説明
受信しないアラームの設定	受信しないアラームとして、以下の5つのカテゴリが存在します。
不明なアラーム	不明アラームを受信しません。不明なアラームとはMIBファイル上に定義されていないSnmpトラップを意味します。
不明なサーバからのアラーム	不明サーバからのアラームを受信しません。不明なサーバとはサーバリスト上に登録されていないサーバを意味します。
重要度が"重度"のアラーム	重要度が「重度」のアラームを受信しません。
重要度が"軽度"のアラーム	重要度が「軽度」のアラームを受信しません。
重要度が"情報"のアラーム	重要度が「情報」のアラームを受信しません。
同じアラームを抑止する時間(秒)	<p>「同じアラームが多数発生すること」を抑止するためのフィルタです。同じアラームが複数回発生され、その時間間隔がフィルタ間隔以下の場合には、アラームは受信されません。 アラームの重要度が高いほど、フィルタ間隔は短くなります。 フィルタの間隔は以下の式で決定されます。</p> $\text{フィルタ間隔 (秒)} = \text{本設定値 (秒)} \times \text{重要度の値}$ <p><b>注意事項 :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本設定を「0 (秒)」に設定した場合は、このフィルタは無効となります。そのため、同一アラームが発生しても、時間間隔によってフィルタされなくなります。</li> </ul>

## POINT

- 「同じアラームを抑止する時間（秒）」に30秒を設定した場合、重要度ごとのフィルタ間隔は以下のようになります。

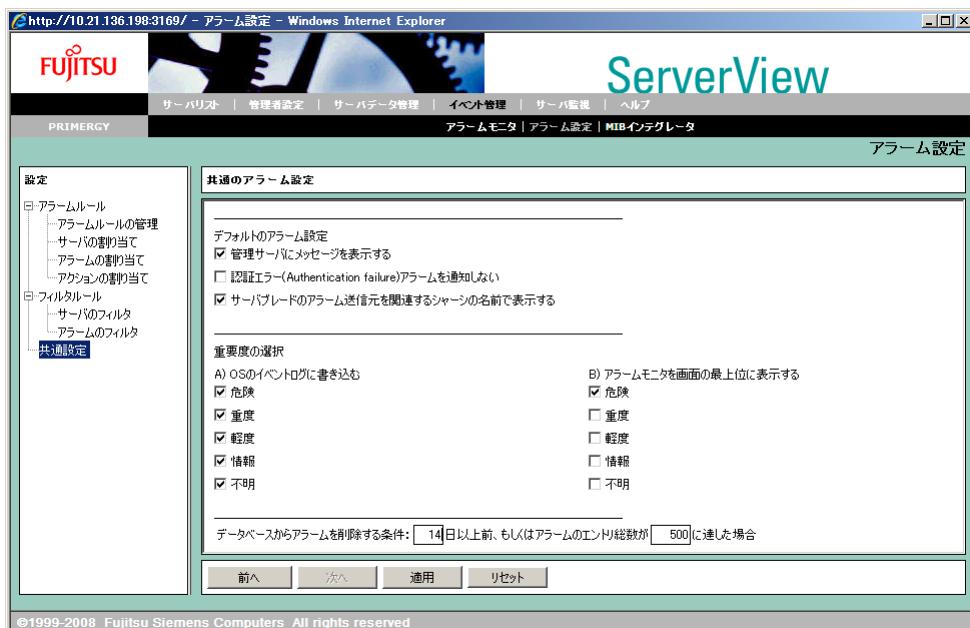
表：重要度ごとのフィルタ間隔

アラームの重要度	重要度の値	フィルタ間隔を求める式	フィルタ間隔
危険	1	30秒 × 1	30秒
重度	2	30秒 × 2	60秒
軽度	3	30秒 × 3	90秒
情報	4	30秒 × 4	120秒

### 3.5.6 アラーム設定（共通設定）

すべてのアラームに共通する設定を行うことができます。

画面左のツリー表示から「共通設定」をクリックすると以下の画面が表示されます。



画面の各ボタンの機能などについては、「■ アラーム設定の起動と基本操作」(→ P.153) を参照してください。

表：共通のアラーム設定

項目	説明
デフォルトのアラーム設定	
管理サーバにメッセージを表示する	管理サーバ上でアラームごとにメッセージポップアップを行います。
認証エラー (Authentication failure) アラームを通知しない	認証エラー (Authentication failure) アラームの通知を行いません。
サーバブレードのアラーム送信元を関連するシャーシの名前で表示する	サーバブレードからのアラームについて、アラームを発信したサーバブレードのホスト名から、該当サーバブレードを搭載しているブレードシャーシの名前に変換して表示します。 ・無効の場合 "ServerView received the following alarm from server <サーバブレードのホスト名>:<メッセージ>" ・有効の場合 "ServerView received the following alarm from server <シャーシ名>:<メッセージ>"
重要度の選択	アラームの重要度ごとに動作を選択できます。
A) OS のイベントログに書き込む	チェックを受けた重要度のアラームを受信すると、アラームをOSのイベントログに記載します。
B) アラームモニタを画面の最上位に表示する	チェックを受けた重要度のアラームを受信するたびにアラームモニタのウィンドウを画面の最上位に表示します。 動作するためにはアラームモニタが開かれている必要があります。
データベースからアラームを削除する条件	受信したアラームを一定の条件で削除します。 アラームがログされた時点から設定した時間（日単位）が経過するか、または、エントリ数が設定値（個数）に達すると、ログ時間の一番古いアラームから順に削除されます。 保持期間：365、最大エントリ数：10000まで設定可能です。

POINT

- 共通設定によるイベントログへの書き込みはアラームルールとは無関係に動作します。  
設定によっては同じアラームに対して2つのログ書き込みが行われる場合もあります。

### 3.5.7 アラーム設定例

アラーム設定の一般的な設定例を以下に示します。

#### ● 目的

サーバ「ALARMTEST」上で「重要度：危険（Critical）」に相当するイベントが起こった場合に、管理者（admin@test.co.jp）にメールを送信する。

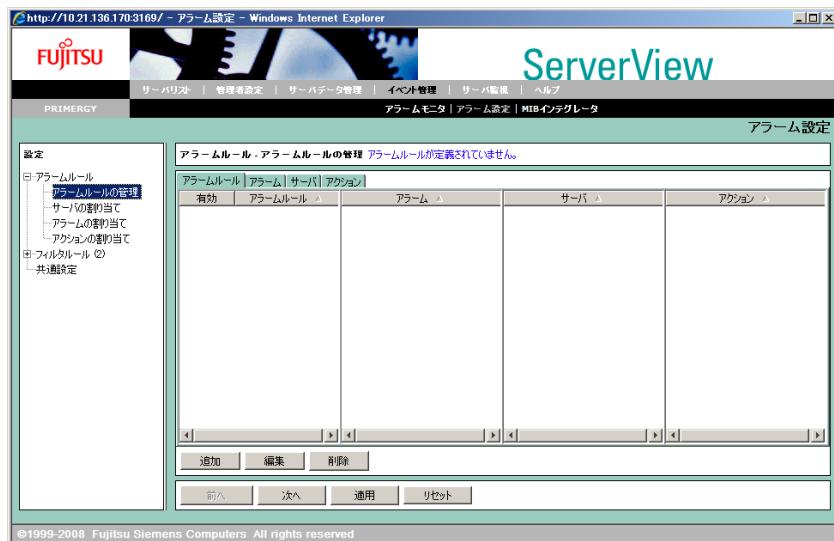
#### ● 前提

- サーバ上で ServerView エージェントが稼動しており、同じネットワーク上の ServerView S2 に管理対象として登録されていること。
- ServerView エージェントから ServerView S2 へのテストトラップが正常に実行されること。
- 稼働中の SMTP サーバ（192.168.1.20）に対して ServerView S2 からのアクセスが可能であること。

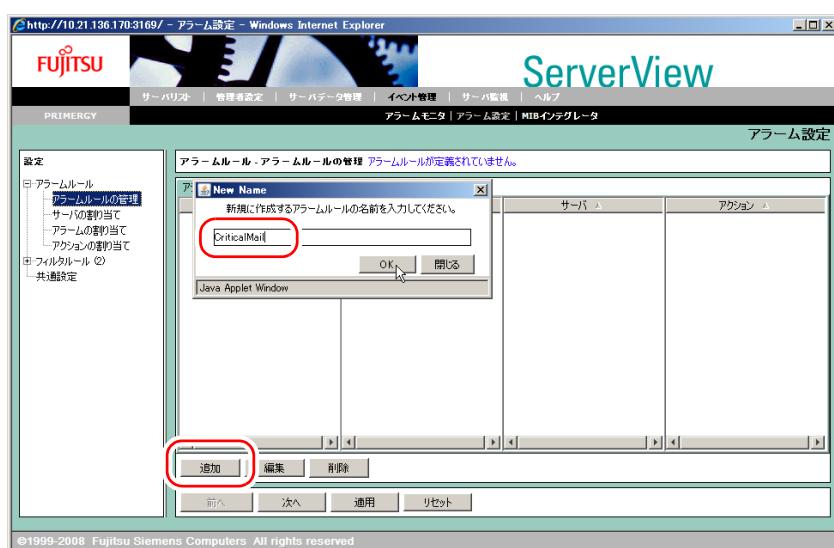
## ● 設定方法

- 1** ServerView S2 のメニューから「イベント管理」→「アラーム設定」をクリックします。

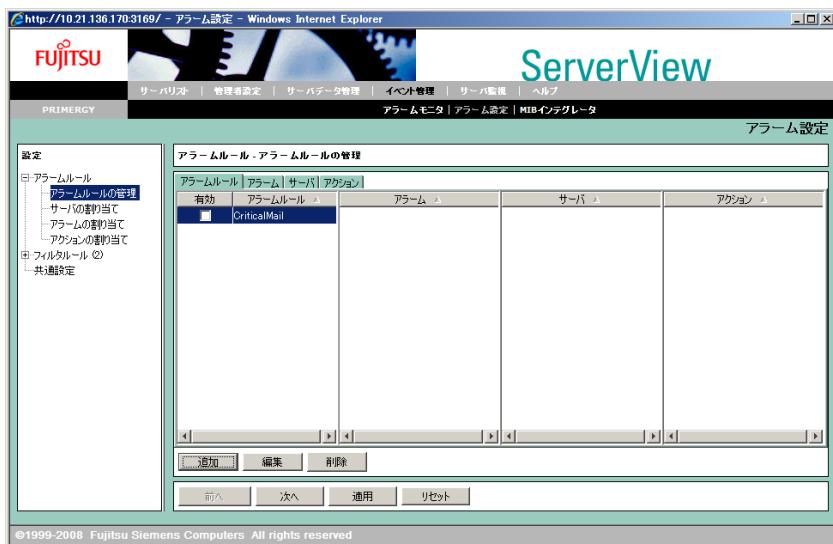
「アラームルールの管理」画面が表示されます。



- 2** [追加] をクリックし「CriticalMail」と入力します。



**3 [OK] をクリックします。**



**4 [適用] をクリックし [次へ] をクリックします。**

「サーバの割り当て」画面が表示されます。



**5 サーバ「ALARMTEST」を選択し、[>] をクリックします。**

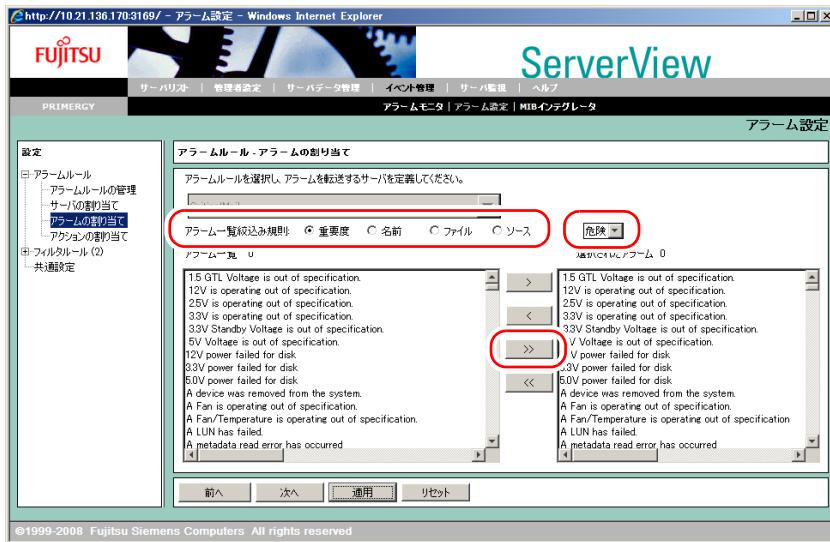


**6 [適用] をクリックし [次へ] をクリックします。**

「アラームの割り当て」画面が表示されます。



- 7 「アラーム一覧絞込み規則」から「重要度」を選択し、プルダウンメニューから「危険」を選び [>>] をクリックします。

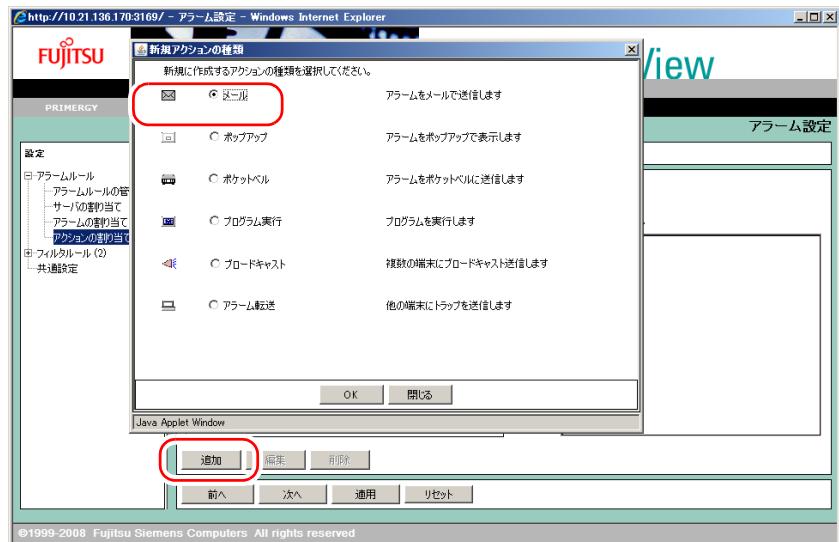


- 8 [適用] をクリックし [次へ] をクリックします。

「アクションの割り当て」画面が表示されます。



**9 [追加] をクリックし、「メール」を選択します。**



**10 [OK] をクリックします。**

メールの設定画面が表示されます。

**11 各項目を入力します。**

アクション名は「MailSet」とします。

--	--

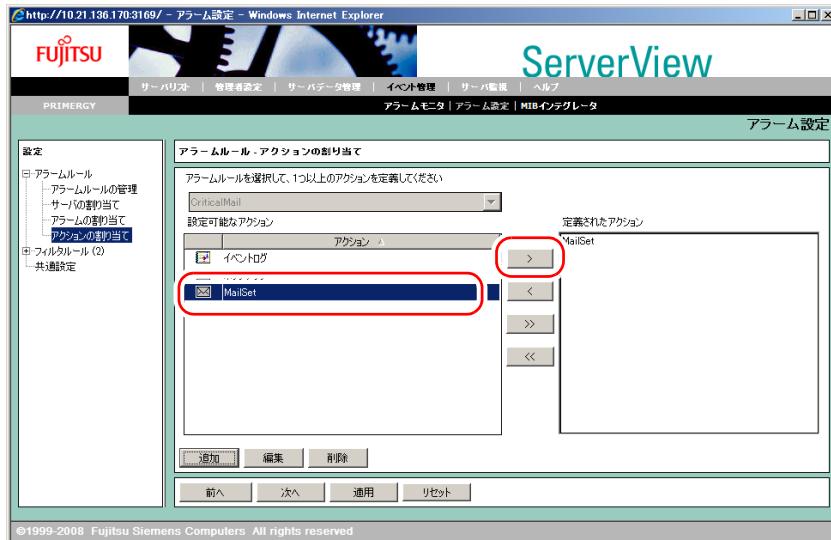
サーバ「ALARMTEST」から、管理者（admin@test.co.jp）にメールを送信する設定を行います。

**12 [適用] をクリックし [テスト送信] をクリックします。**

「テスト送信」が成功したら [OK] をクリックします。

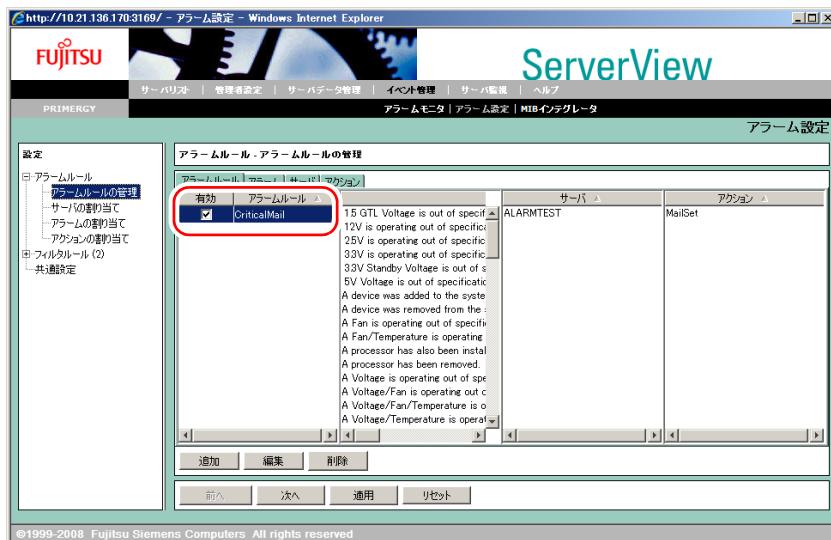
「アクションの割り当て」画面に戻ります。

**13** 作成した「MailSet」を選択し、「>」をクリックします。



**14** [適用] をクリックし、画面左のツリー表示から「アラームルールの管理」をクリックします。

**15** アラームルールの「有効」にチェックを付けます。



以上で、アラームルールが有効になりました。

必要に応じて、「3.5.5 アラーム設定（フィルタルールの設定）」(→ P.172) や「3.5.6 アラーム設定（共通設定）」(→ P.175) を行います。

### 3.5.8 MIB の登録 (MIB インテグレータ)

ServerView S2 に MIB ファイルを登録します。

#### 重要

- ▶ TRAP-TYPE の記述形式は以下のようなフォーマットである必要があります。  
(例) テストトラップの TRAP-TYPE

```
testTrap TRAP-TYPE
ENTERPRISE sniServerMgmt
VARIABLES {
trapServerName,
trapTime
}
DESCRIPTION
"Test trap to verify trap connection."
--#TYPE "Test trap"
--#SUMMARY "Test trap from server %s (no error)."
--#ARGUMENTS { 0 }
--#SEVERITY INFORMATIONAL
--#TIMEINDEX 1
--#HELP "Note: This is no error condition."
--#HELIPTAG
--#STATE OPERATIONAL
::= 600
```

- ▶ 日本語表記を含む MIB ファイルは未サポートです。
- ▶ MIB ファイルの encode は Shift-jis 形式である必要があります。
- ▶ TRAP-TYPE が複数の Enterprise で記述された MIB ファイルは未サポートです。

- 1 ServerView S2 のメニューから「イベント管理」メニュー → 「MIB インテグレータ」をクリックします。

MIB ファイルの登録画面が表示されます。



- 2 [参照] をクリックし、MIB ファイルを指定します。

**3** [Upload] をクリックします。

MIB ファイルが登録されます。

**4** システムサービスを再起動します。

OS が Windows の場合

1. コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
2. [サービス] アイコンをクリックします。
3. サービス一覧で「Fujitsu ServerView Service」を選択します。
4. 「操作」メニュー → 「停止」の順にクリックします。  
Fujitsu ServerView Service が停止します。
5. 「操作」メニュー → 「開始」の順にクリックします。  
Fujitsu ServerView Service が開始されます。

OS が Linux の場合

以下のコマンドを入力します。

```
# /etc/init.d/sv_fwdserver stop  
# /etc/init.d/sv_fwdserver start
```

## 3.6 パフォーマンスマネージャ

パフォーマンスマネージャは、しきい値やレポートの設定、適用、管理などを行います。

### ● しきい値

一部のパラメータに、任意の値を設定できます。これをしきい値といい、上限や下限、相対しきい値、ポーリング間隔などが設定できます。

### ● レポート

レポートを作成すると、サーバを長期的に監視するときに役立ちます。  
レポートセットで選択した値は、一定の期間、定期的に測定記録されます。

### POINT

#### しきい値セットとレポートセットで利用できるリソース

- ▶ リソースは SNMP オブジェクトと CIM オブジェクトで、あらかじめ登録されています。これらのオブジェクトには、ノーマルオブジェクトとテーブルオブジェクトがあり、テーブルオブジェクトからは 1 つのカラムが利用できます（たとえば、CPU テーブルでは CPU アイドル時間が利用できるなど）。リソースの詳細については、「D.5 パフォーマンスマネージャにおけるリソースについて」（→ P.300）を参照してください。

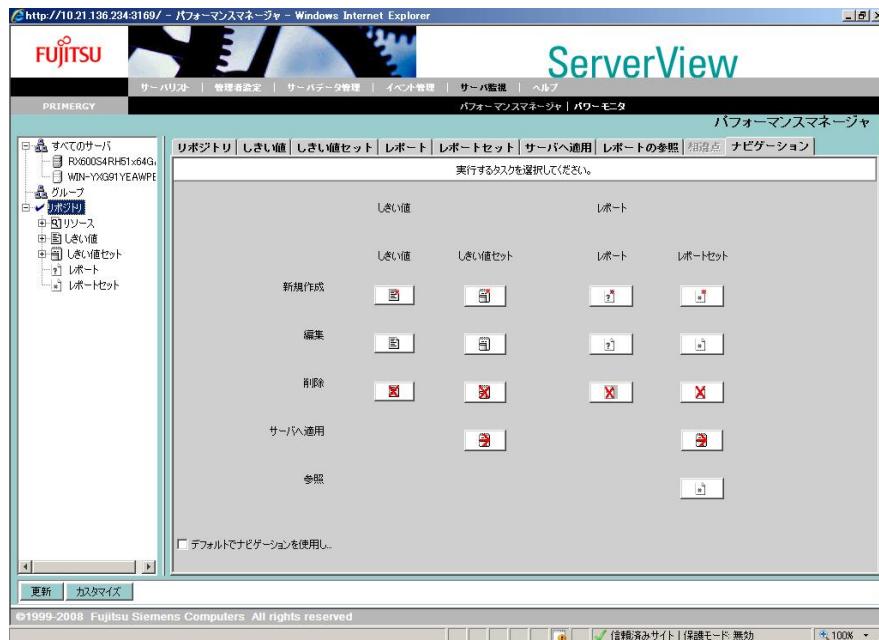
### 重要

- ▶ パフォーマンスマネージャは、それぞれ以下のバージョンで利用可能です。
    - ・ Windows の場合 : NT Agent V4.00.05 以降
    - ・ Linux の場合 : Linux Agent V4.30 系以降
- Agent のバージョンは「■ エージェントステータス」（→ P.109）のエージェントビューで確認してください。

### 3.6.1 パフォーマンスマネージャの起動

- 1 ServerView S2 のメニューから「サーバ監視」メニュー → 「パフォーマンスマネージャ」をクリックします。

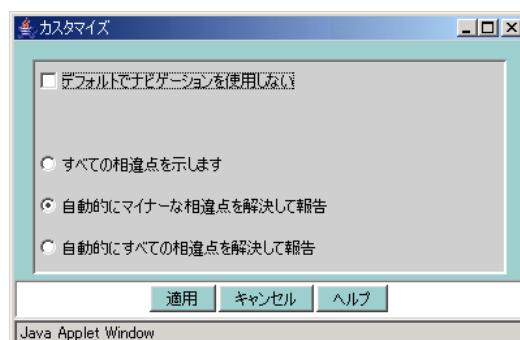
「パフォーマンスマネージャ」画面が表示されます。



画面左のツリー表示に、サーバ、サーバのグループ、およびリポジトリが表示されます。起動時の操作対象は「リポジトリ」です。

右フレームには、[ナビゲーション] タブが表示され、目的に応じて実行したい機能を選択できます。

[カスタマイズ] をクリックすると、以下のカスタマイズ設定画面が表示されます。



ナビゲーションを使用しない場合は、「デフォルトでナビゲーションを使用しない」をチェックします。次回以降パフォーマンスマネージャ起動時には、リポジトリビュー画面が最初に表示されます。

## POINT

- ▶ 最新セッションの取得後に、他のパフォーマンスマネージャによって設定が変更された場合などは、最新セッションのリポジトリデータベース情報と現在のサーバ設定との間に、差異が見つかることがあります。すべての差異は、タイムスタンプ付きでデータベースとサーバの両方に記録されます。以下を選択することができます。
  - ・すべての相違点を示します
  - ・自動的にマイナーな相違点を解決して報告
  - ・自動的にすべての相違点を解決して報告

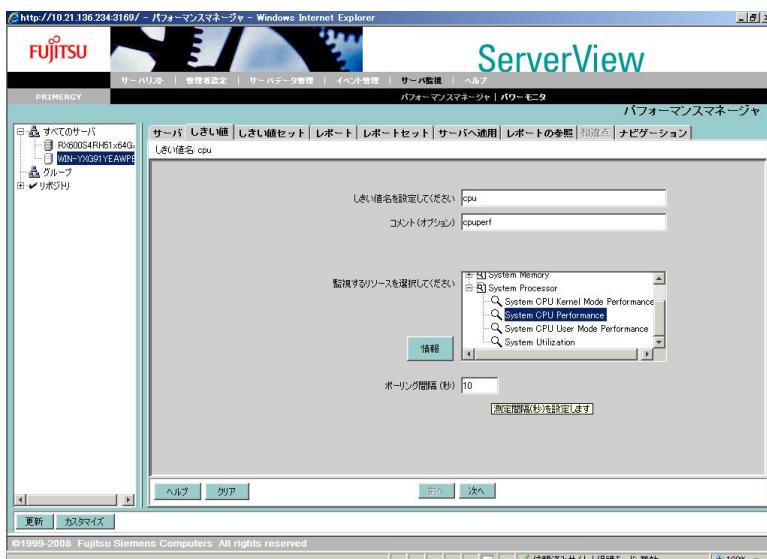
表：各タブの機能

タブ	機能概要
概略タブ	画面左のツリー表示から詳細情報を表示したい項目を選択すると、タブ名が選択した項目の名称に切り替わり、詳細情報を表示します。選択した項目により、タブ名称、表示内容が切り替わります。
[しきい値] タブ	「しきい値」を作成／編集します。
[しきい値セット] タブ	「しきい値セット」を作成／編集します。
[レポート] タブ	「レポート」を作成／編集します。
[レポートセット] タブ	「レポートセット」を作成／編集します。
[サーバへ適用] タブ	設定した「しきい値セット」や「レポートセット」をサーバに適用します。
[レポートの参照] タブ	レポートを参照します。
[相違点] タブ	サーバ上の設定値と、リポジトリ上の設定との間に相違点が存在する場合、このタブが有効になり、相違点を確認できます。
[ナビゲーション] タブ	目的に応じて機能を選択できます。

### 3.6.2 しきい値の定義／変更

#### 1 パフォーマンスマネージャ画面から [しきい値] タブをクリックします。

しきい値の定義画面が表示されます。



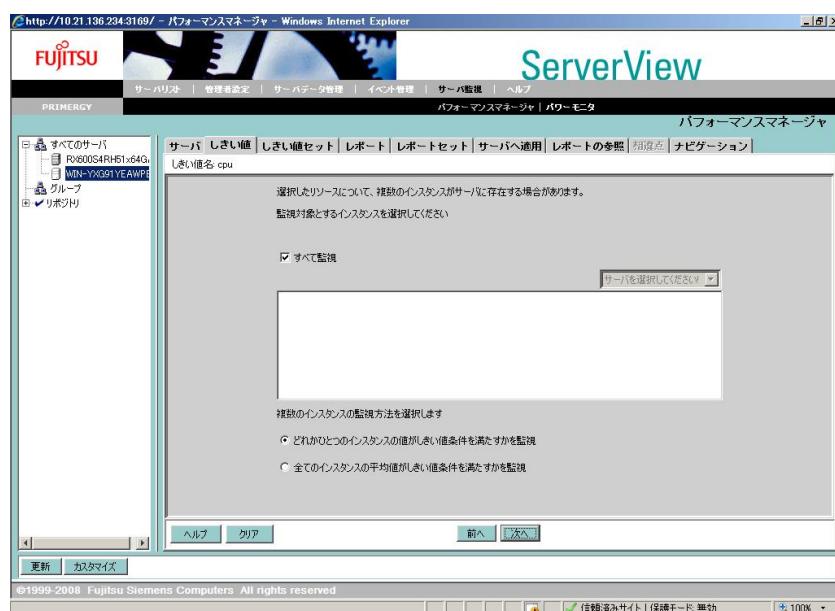
## 2 しきい値名を入力し、監視するリソース、ポーリング間隔を設定します。

表：しきい値定義の設定項目

項目	説明
しきい値	しきい値名を入力します。
コメント	しきい値に関するコメントを入力します。省略することもできます。
監視するリソース	監視対象のリソースを1つ選択します。
[情報]	選択したリソースの詳細情報が表示されます。
ポーリング間隔	測定間隔を入力します。

## 3 [次へ] をクリックします。

選択したリソースが複数のインスタンスを持っている場合は、監視対象を選択する画面が表示されます。



通常は、すべてのリソースを監視するため「すべて監視」がチェックされています。特定のリソースのみを監視対象とする場合は、「すべて監視」のチェックを外して、コンボボックスからサーバを選択し、表示されたリストからリソースを選択してください。また、複数インスタンスの監視方法（インスタンスの平均値、または任意のインスタンス値）を選択します。

#### 4 [次へ] をクリックします。

条件を設定する画面が表示されます。



条件を設定します。

表 : 条件設定

項目	説明
測定対象	どのような測定を行うか設定します。
单一の値	しきい値条件を満たすかどうか、毎回値をチェックします。
一定期間の平均値	しきい値条件を満たすかどうか、一定期間内の平均値をチェックします。
イベントの生成条件	イベントの生成を行う条件を設定します。
しきい値条件を一回満たした時	しきい値条件を一回でも満たせばイベントが生成されます。
しきい値条件を一定期間満たした時	一定期間しきい値条件を満たせばイベントが生成されます。
しきい値条件を一定期間内に一定回数満たした時	一定期間内に一定回数しきい値条件を満たせばイベントが生成されます。
ポーリングサイクル	イベント生成条件（一定期間）を算出するため、ポーリングサイクルを秒単位で設定します。
カウント	イベント生成条件（一定回数）を設定します。
判定条件	設定したしきい値に対する判定条件を次のものから選択します。「超過」／「以上」／「未満」／「以下」／「等しい」／「等しくない」／「範囲内」／「範囲外」
しきい値	しきい値を設定します。
上限／下限	しきい値の最大値／最小値を設定します。
サーバの現在値を取得する	しきい値設定の参考として、現在のサーバのリソース値を表示します。
サーバ選択ボックス	現在値を表示するサーバを選択します。
更新ボタン	選択したサーバの現在値を更新します。
現在値表示域	選択したサーバの現在値を表示します。

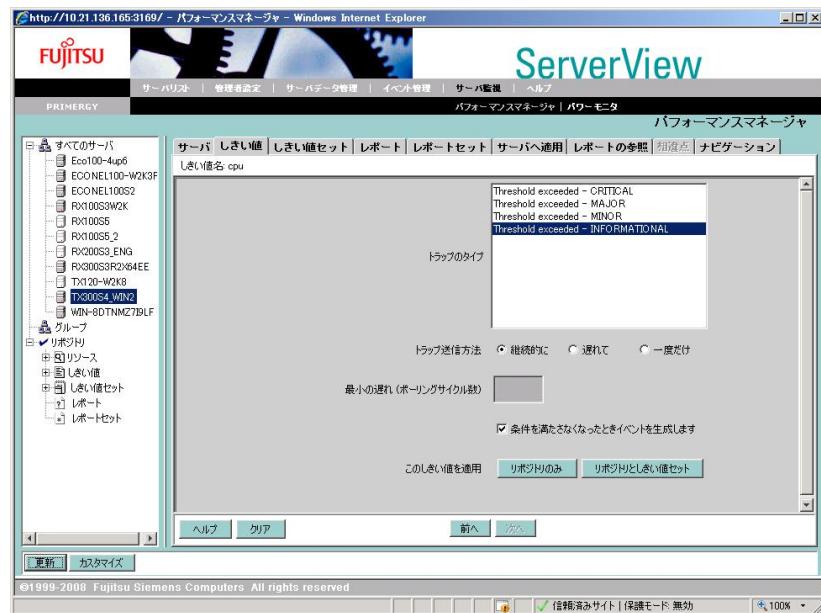
以下はCPU利用率管理の例です。

サーバの実効値が表示された場合は、[更新] をクリックすると値が更新されます。



## 5 [次へ] をクリックします。

トラップのタイプを選択する画面が表示されます。



## 6 リストからトラップの形式を選択し、送信方法を「継続的に」、「遅れて」、「一度だけ」のいずれかを指定します。

「遅れて」を選択した場合は、「最小の遅れ」も入力してください。

## 7 しきい値を格納します。

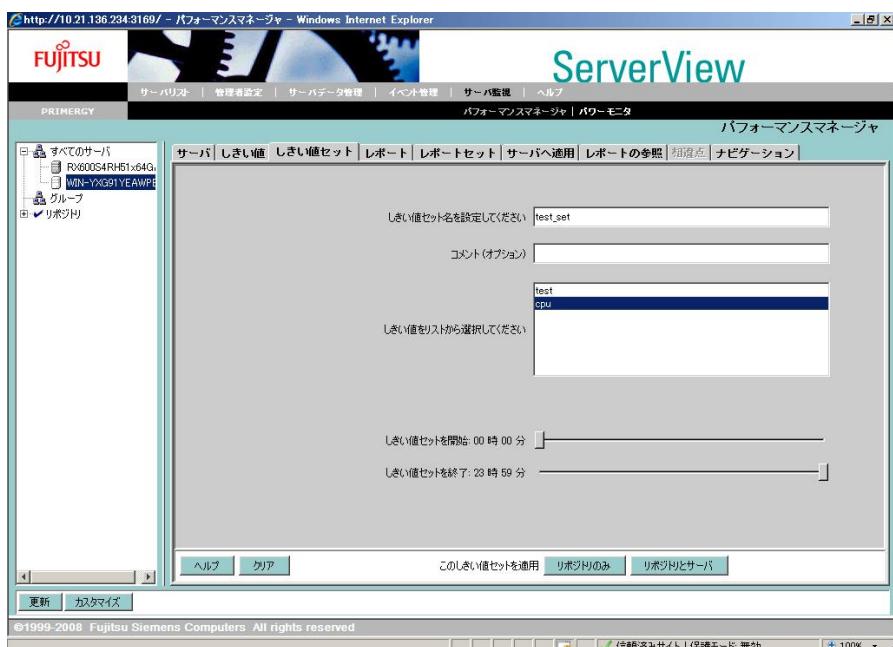
[リポジトリのみ]：リポジトリに格納されます。

[リポジトリとしきい値セット]：リポジトリに格納され、[しきい値セット] タブが開きます。

### 3.6.3 しきい値セットの新規作成／編集

しきい値セットを新規作成／編集できます。

- 1 パフォーマンスマネージャ画面の [しきい値セット] タブをクリックします。  
しきい値セット画面が表示されます。



しきい値セットは、しきい値の集合体です。1つのサーバに複数のしきい値セットを適用することができますが、同一期間内では1つだけが有効となります。しきい値セットは、名前、しきい値（複数選択可）、および開始 / 停止時刻で定義されます。

- 2 しきい値セット名を入力し、しきい値セットに登録するしきい値を選択します。

「コメント」は必要に応じて入力してください。

- 3 しきい値監視を実施する時間の範囲（開始時間・終了時間）を設定します。

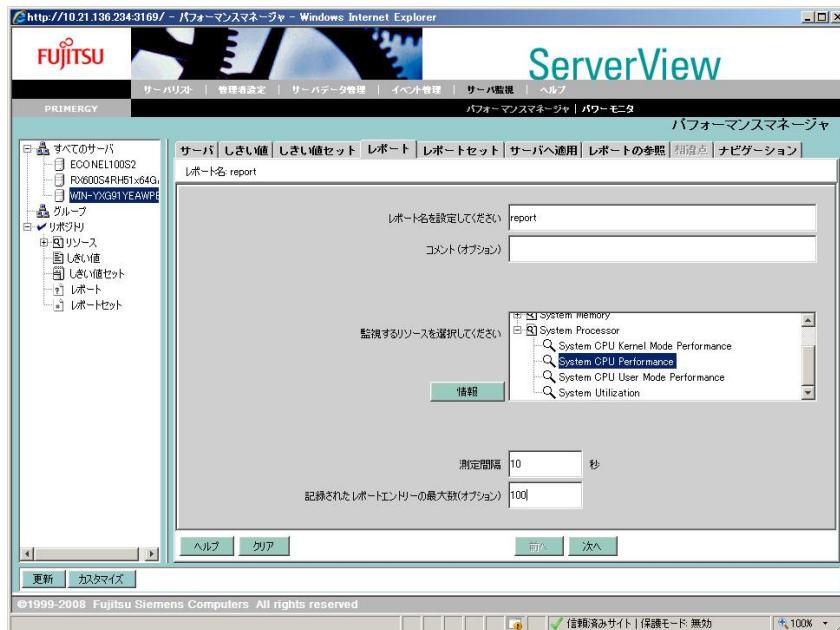
- 4 しきい値セットを適用する範囲を選択します。

[リポジトリのみ]：リポジトリに格納されます。

[リポジトリとサーバ]：リポジトリに格納され、[サーバへ適用] タブが開きます。

### 3.6.4 レポートの定義／変更

- 1** パフォーマンスマネージャ画面の【レポート】タブをクリックします。  
レポート内容を設定する画面が表示されます。



- 2** レポート名を入力し、監視するリソース、測定間隔を設定します。

表：レポート定義の設定項目

項目	説明
レポート名	レポート名を入力します（半角英数字）。
コメント	レポートに関するコメントを入力します。省略することもできます。
監視するリソース	監視対象のリソースを、1つ選択します。
測定間隔	2つのレポートの間の間隔を、秒単位で設定します。
レポートエントリの上限値	エントリされるレポートの最大数を設定します。エントリ数が設定された最大数になった場合は、古い順に削除されます。

#### 重要

- 「レポートエントリの上限値」が設定されていない場合は、レポートのエントリは削除されません。レポートエントリサイズは無限に大きくなります。

### 3 [次へ] をクリックします。

監視するインスタンスを設定する画面が表示されます。



### 4 監視するインスタンスを設定します。

選択したリソースのうち、特定のインスタンスを監視したい場合は、「すべてのインスタンスをレポート」のチェックを外したあと、コンボボックスからサーバを選択し、表示されたリストから監視するインスタンスを選択してください。

通常は、「すべてのインスタンスをレポート」のチェックを外す必要はありません。

「すべてのインスタンスをレポート」にチェックが付いている場合は、すべてのインスタンスの平均がレポートされます。

### 5 測定方法を選択します。

「選択されたインスタンスをレポート」または「すべてのインスタンスの平均値をレポート」を選択します。

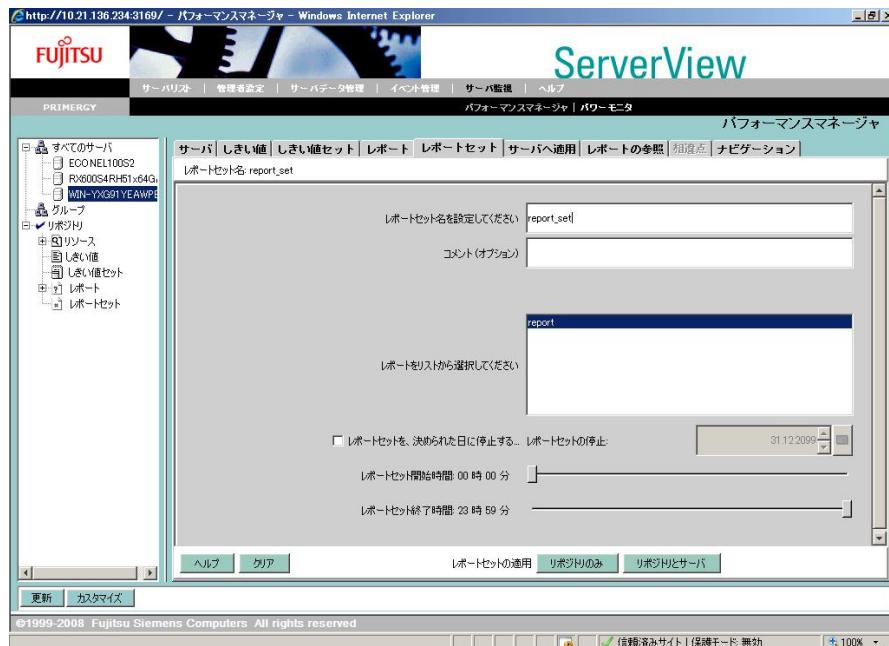
### 6 レポートを格納します。

[リポジトリのみ]：リポジトリに格納されます。

[リポジトリとレポートセット]：リポジトリに格納され、[レポートセット] タブが開きます。

### 3.6.5 レポートセットの新規作成／編集

- 1** パフォーマンスマネージャ画面の【レポートセット】タブをクリックします。  
レポートセット画面が表示されます。



- 2** レポートセットを設定または変更します。

いくつかのレポートをリストから選択して、レポートセットに追加できます。  
また、任意でレポートを終了する日付を定義したり、毎日の実行時間を設定したりで  
きます。設定された範囲の時間内のみデータを取得します。

#### POINT

▶ レポートセットには、半角英数字で入力してください。

- 3** レポートセットを格納します。

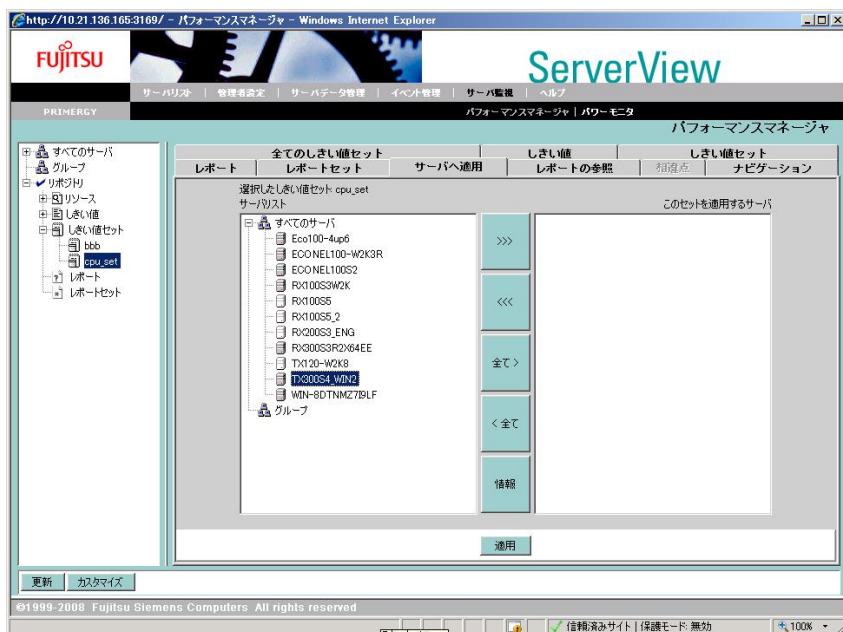
[リポジトリのみ]：リポジトリに格納されます。  
[リポジトリとサーバ]：リポジトリに格納され、[サーバへ適用] タブが開きます。

## 3.6.6 サーバへの適用

しきい値セットやレポートセットをサーバへ適用します。

- 1 パフォーマンスマネージャ画面の【サーバへ適用】タブをクリックします。

サーバへ適用画面が表示されます。



左側「サーバリスト」欄には、サーバツリーが表示されます。右側「このセットを適用するサーバ」欄には、選択されたしきい値セット、レポートセットが適用されているサーバが表示されます。

- 2 [>>>] [<<<] ボタンにより、適用するサーバを設定します。

[全て >] [＜全て] ボタンで、すべてのサーバを一度に設定することが可能です。

- 3 【適用】をクリックします。

セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理者権限のユーザー名とパスワードが必要です。ログイン認証後、「しきい値セット」または「レポートセット」の内容がサーバに適用されます。

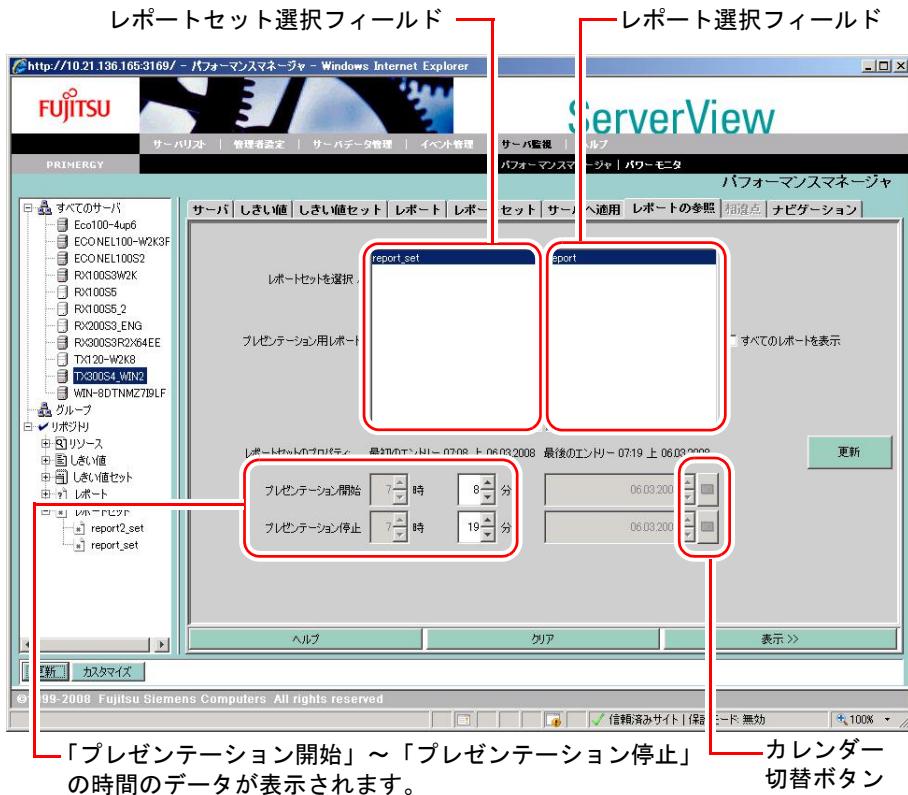
## 3.6.7 レポートの参照／設定

レポートの内容を確認することで、サーバのパフォーマンス状態が確認できます。

- 1 画面左のツリー表示から、レポートを表示したいサーバを選択します。

- 2 【レポートの参照】タブをクリックします。

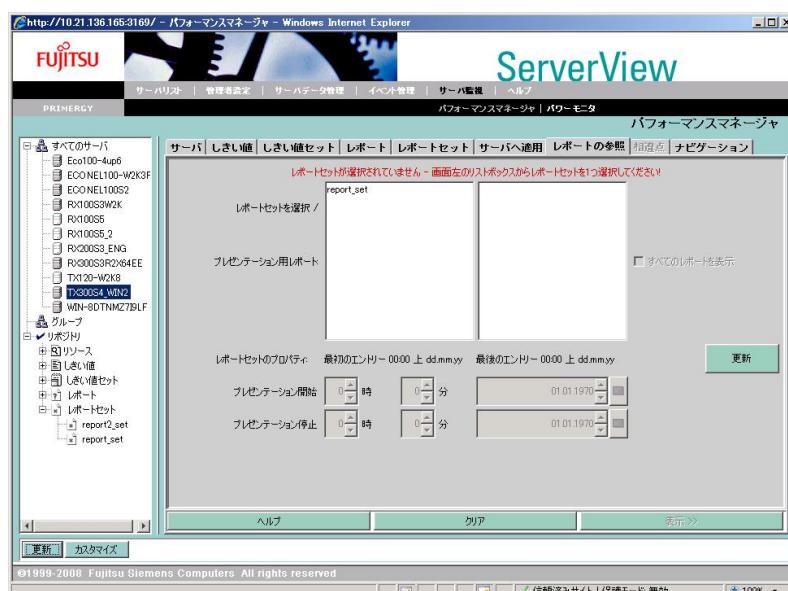
レポートセットの選択画面が表示されます。



以下の手順で参照するレポートを選択します。

#### 1. 「すべてのサーバ」よりサーバを選択します。

サーバに適用済みのレポートセットが画面左のリストボックスに表示されます。



## 2. レポートセットを選択します。

レポートセットにセット済みのレポートが画面右のリストボックスに表示されます。



## 3. レポートを選択します。

「すべてのレポートを表示」にチェックが付いている場合は、設定されているすべてのレポート情報が表示されます。チェックが付いていない場合は、表示するレポートを選択できます。



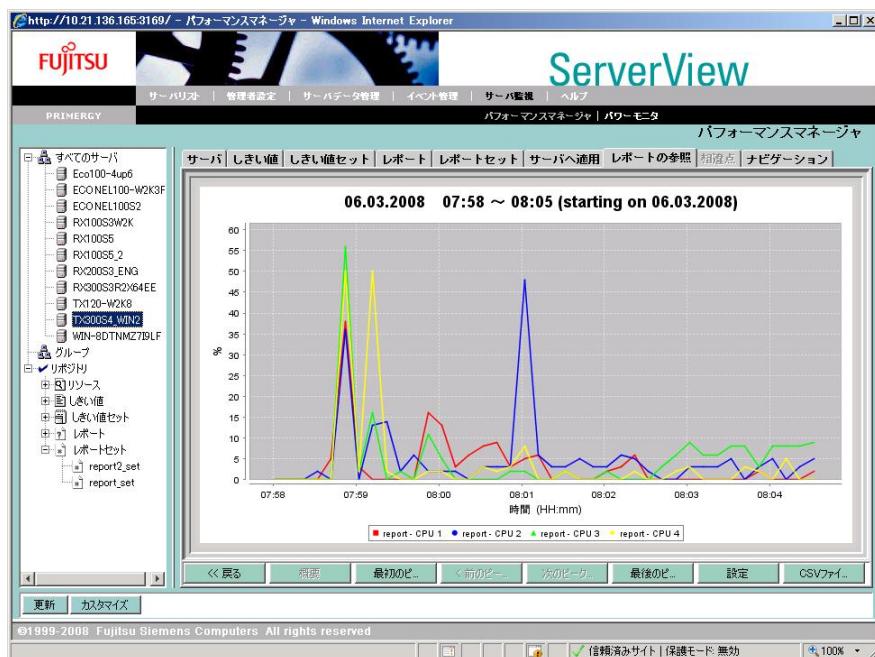
4. レポートの結果内容を出力する時間帯を設定します。

参照可能な時間および日付が、「プレゼンテーション開始」、「プレゼンテーション停止」に表示されます。

開始の日付／時間と、終了の日付／時間は、時間スライダと日付フィールドにより設定できます。日付は「カレンダー切り替え」ボタンをクリックして表示されたカレンダーから選択することもできます。

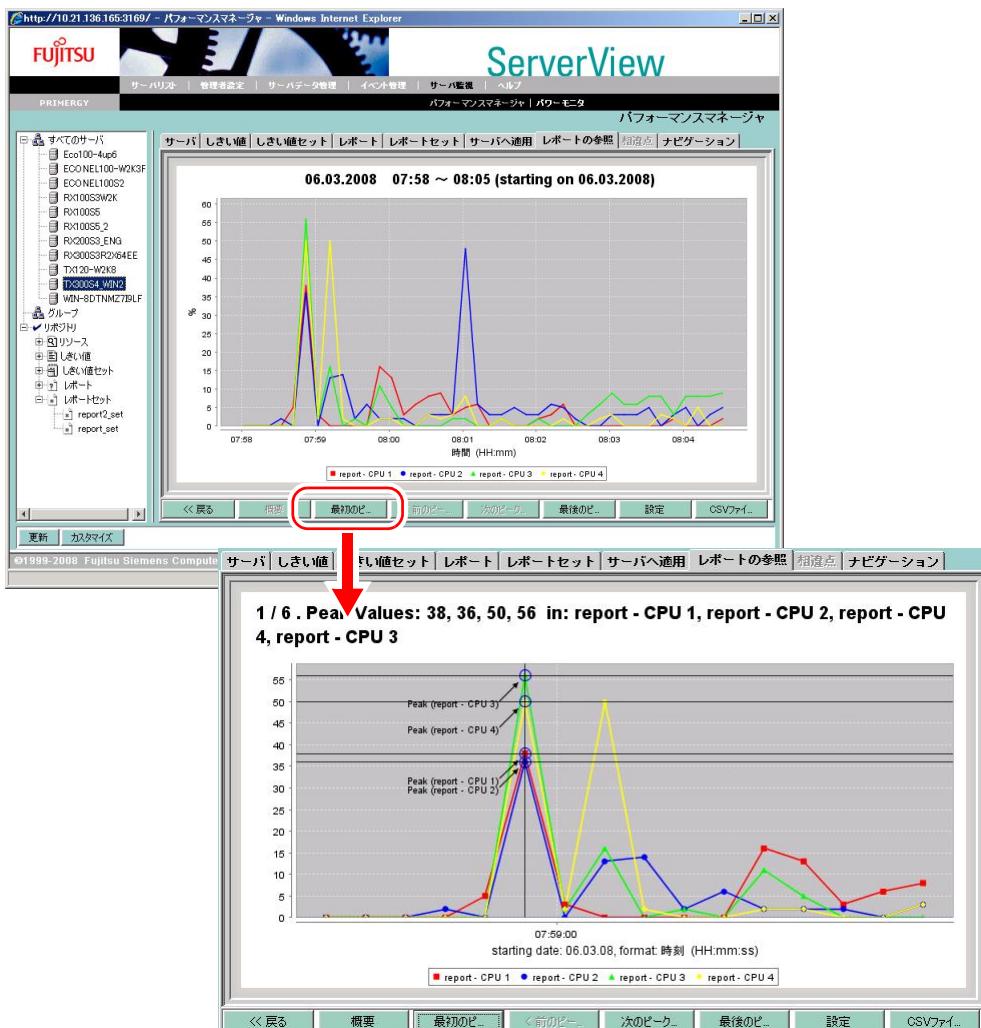
**3 [表示 >>] をクリックします。**

レポートデータが表示されます。



レポートデータの表示画面での操作方法については、「■ レポートデータの表示画面」  
（→ P.199）を参照してください。

## ■ レポートデータの表示画面



レポートデータの表示画面には、以下のボタンがあります。

表：レポートデータの表示画面のボタン説明

ボタン名	説明
[<< 戻る]	レポートセットの選択画面に戻ります。
[概要]	ピーク画面からレポートデータの表示画面に戻ります。ピーク画面を表示しているときに有効になります。
[最初のピーク]	ピーク画面に切り替わり、最初のピーク値を表示します。
[<前のピーク]	前のピーク値を表示します。最初のピーク値表示以外のときに有効になります。
[次のピーク >]	次のピーク値を表示します。最後のピーク値表示以外のときに有効になります。
[最後のピーク]	最後のピーク値を表示します。
[設定]	[設定] 画面を表示します。ピーク値の表示や表示レイアウトの設定を行うことができます。→「● 設定画面」(P.200)
[CSVファイルへのエクスポート]	[CSVファイルへのエクスポート] 画面を表示します。→「● CSVファイルへのエクスポート画面」(P.203)

## ● 設定画面

ピーク値の表示や表示レイアウトの設定を行うことができます。  
[適用] をクリックすると設定が反映されます。

### [グラフタイプ] タブ

レポートデータの表示レイアウトを選択します。



表 : [グラフタイプ] タブの設定項目

項目	説明
折れ線グラフ	レポートデータを折れ線グラフで表示します。
棒グラフ	レポートデータを棒グラフで表示します。

### [リソースインスタンス] タブ

表示するインスタンスを選択します。

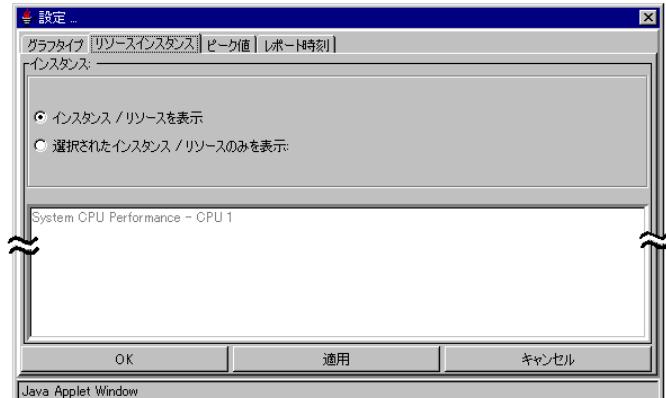


表 : [リソースインスタンス] タブの設定項目

項目	説明
インスタンス / リソースを表示	すべてのリソースの計測されたインスタンスを表示します。
選択されたインスタンス / リソースのみを表示	リストから表示するインスタンスを選択できます。

## [ピーク値] タブ

ピーク値の設定を行います。

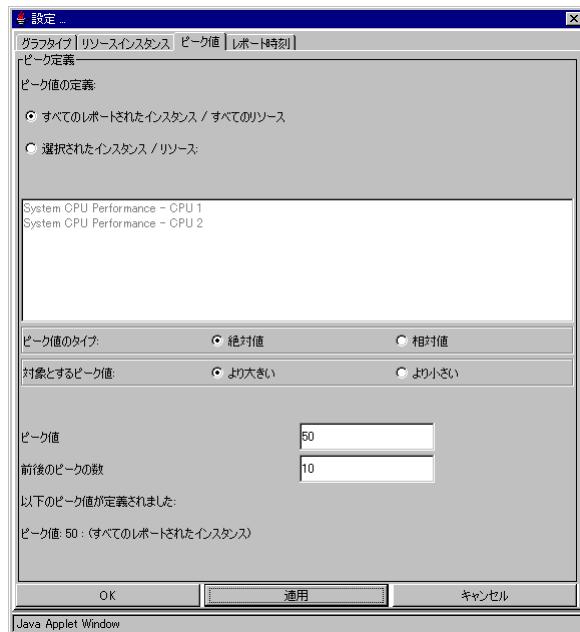


表 : [ピーク値] タブの設定項目

項目	説明
ピーク値の定義	検索するインスタンスを選択します。
すべてのレポートされたインスタンス /すべてのリソース	すべてのインスタンス上のピークを検索します。
選択されたインスタンス / リソース	リストから選択したインスタンス上のピークを検索します。
ピーク値のタイプ	値を絶対値とするか相対値とするかを選択します。
対象とするピーク値	基準となるピーク値よりどの値を対象とするか選択します。
より大きい	基準となるピーク値より大きい値を対象とします。
より小さい	基準となるピーク値より小さい値を対象とします。
ピーク値	基準となるピーク値を指定します。
前後のピーク数	表示するピークの数を指定します。

## [レポート時刻] タブ

レポート表示を行う時間を指定します。

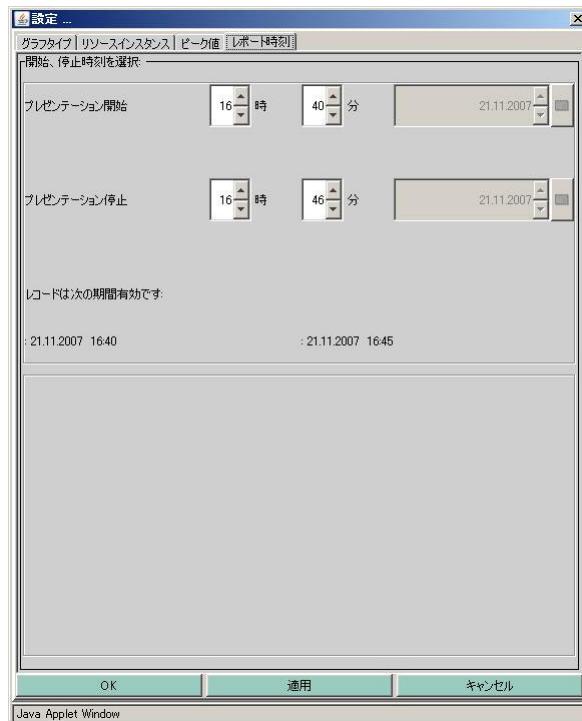


表 : [レポート時刻] タブの設定項目

項目	説明
プレゼンテーション開始	指定した時刻以降に記録された内容を表示します。
プレゼンテーション停止	指定した時刻以前に記録された内容を表示します。

## ● CSV ファイルへのエクスポート画面

レポートデータを CSV ファイルに出力するための設定を行います。

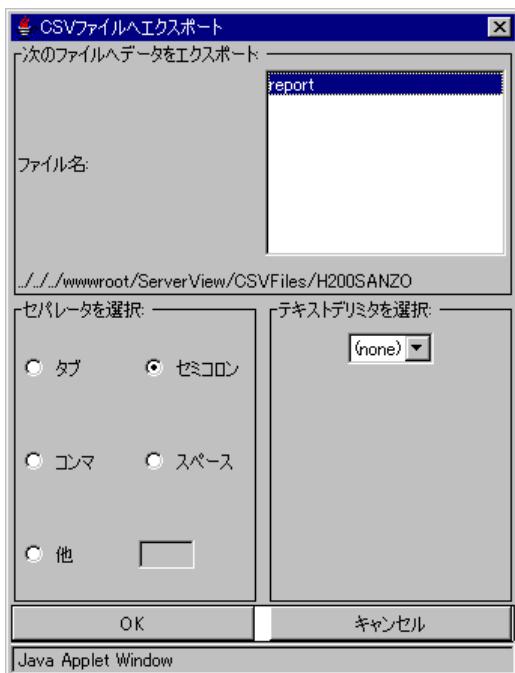


表 : [CSV ファイルへのエクスポート] 画面の設定項目

項目	説明
次のファイルへデータをエクスポート	ファイル名をリストから選択します。
セパレータを選択	コンマやタブなど、セパレータとして使用する記号を選択します。
テキストデリミタを選択	テキストデリミタを選択します。

[OK] をクリックすると、出力結果が以下のディレクトリに格納されます。

- Windows の場合

- ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース) の場合  
 [システム ドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services  
 ¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥ [サーバ名] ¥

- IIS の場合

[システム ドライブ] :¥Inetpub¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥ [サーバ名] ¥

- Linux の場合

/var/www/html/ServerView/CSVFiles/ [サーバ名]

### 3.6.8 相違点の確認と解消

設定したしきい値／レポートと、サーバ上の設定に相違点が存在する場合は、[相違点] タブが有効になります。相違点タブが有効になった場合は、相違点を解消してください。

**1 パフォーマンスマネージャ画面の [相違点] タブをクリックします。**

相違点画面が表示されます。



複数種類の相違点が存在する場合は、もっとも優先度の高い相違点のみが表示されます。相違点の種類には、新規リソース、新規しきい値／レポート、存在しないしきい値／レポート、異なるしきい値／レポート、新規しきい値セット／レポートセット、存在しないしきい値セット／レポートセット、異なるしきい値セット／レポートセット、有効／無効、タイムスタンプがあります。

**2 リポジトリの設定を有効とする場合は、[データベースの値を取得] をクリックします。**

サーバの値を有効とする場合は、[サーバの値を取得] をクリックします。

相違点が解消されます。次の相違点が表示された場合も、本操作を繰り返します。

相違点が表示されなくなるまで繰り返してください。

#### 重要

- ▶ パフォーマンスマネージャのしきい値／レポートを設定したまま ServerView をアンインストールすると、コンソール -Agent 間に設定の差異が生じます。ServerView をアンインストールする前に、必ずしきい値／レポートの設定を解除してください。

## 3.7 アーカイブデータの管理

アーカイブデータの作成や管理について説明します。

### 3.7.1 アーカイブマネージャの起動

アーカイブマネージャを使用して、サーバのアーカイブデータの作成、表示、比較、削除を行います。

#### POINT

- アーカイブマネージャの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

- ServerView S2 のメニューから、「サーバデータ管理」メニュー → 「アーカイブマネージャ」をクリックします。  
「アーカイブマネージャ」画面が表示されます。

名前	グループ	スケジュール	前回のアーカイブ	次回実行	ジョーナライズ
すべてのサーバ		なし	なし	なし	no
RX600S4RH51x64GA		なし	なし	なし	no
MIN-YXG91YEAWPB		なし	なし	なし	no

 At the bottom of the page, there are buttons for '更新' (Update), 'タスク管理' (Task Management), '開始' (Start), and '停止' (Stop). The status bar at the bottom indicates '©1999-2008 Fujitsu Siemens Computers All rights reserved' and shows the browser's zoom level as 100%."/>

#### POINT

- 【設定】タブは、タスクが開始・停止されるたび、またはアーカイブ設定が変更されるたびに自動的に更新されます。サーバの一覧やタスク情報を含む Web ページ全体を更新するには、[更新] をクリックしてください。

## 3.7.2 アーカイブデータを作成する

**1 [設定] タブをクリックします。**

アーカイブデータを作成するサーバーの情報が表示されます。

表：アーカイブデータを作成するサーバーの情報

項目	説明
名前	オブジェクトの名前が表示されます。
グループ	タスクが設定されているグループ名が表示されます。
スケジュール	タスクスケジュールが表示されます。
前回のアーカイブ	直前に作成されたアーカイブが表示されます。
次回実行	アーカイブタスクが次回実行される時間が表示されます。
ジャーナライズ	ジャーナライズ情報が表示されます。

**2 表示されたリストからアーカイブデータを作成するサーバー（グループ）を選択します。サーバーは複数選択できます。**

**3 [開始] をクリックします。**

選択したサーバーのアーカイブデータの作成が開始されます。

### POINT

- ▶ [停止] をクリックすると、現在実行中のアーカイブ取得を中止します。
- ▶ アーカイブデータが格納されるディレクトリは以下のようになります。
  - ・ ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース) 使用の場合  
[システムドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥wwwroot¥ServerView¥Archive¥ [サーバ名] ¥

- ・ IIS 使用の場合  
[システムドライブ] ¥inetpub¥wwwroot¥ServerView¥Archive¥ [サーバ名] ¥
- ・ Red Hat Linux の場合  
/var/www/html/ServerView/Archive/ [サーバ名] /
- ・ Suse Linux の場合  
/srv/www/htdocs/ServerView/Archive/ [サーバ名] /

### 3.7.3 アーカイブデータ取得のタスク設定

- 1** タスク設定を行うサーバ（グループ）を選択し、[タスク管理] をクリックします。

以下の画面が表示されます。



- 2** [新規] をクリックします。



- ▶ 新規に追加した設定は、あとから編集、削除できます。  
あらかじめ設定されている「一度のみ直ちに」は、編集、削除できません。

以下の画面が表示されます。

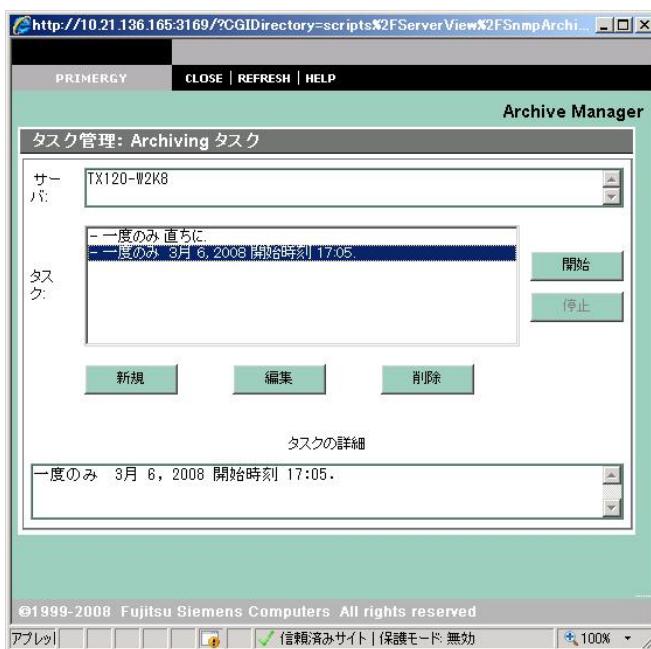


### ③ スケジュールタスクを設定します。

「一度」「月ごと」「週ごと」「日ごと」を選択し、それぞれに設定に必要な開始時間、または指定日などを設定します。

### ④ [開始] をクリックします。

新しいタスクが設定されます。



### 3.7.4 アーカイブデータの表示／比較／削除

アーカイブデータの表示／比較／削除は、[アーカイブ] タブ画面で行います。

No.	名前	アーカイブ
1	RX600S4RH51x64GA	2008/03/04, 14:57:28
1	WIN-YXG91YEAWPB	2008/03/04, 14:57:28

#### ■ アーカイブデータの表示

アプリケーションのアーカイブデータを表示します。

**1** [アーカイブ] タブをクリックし、対応するアーカイブを選択します。

**2** 表示したいアーカイブデータを選択します。

**3** コンポーネント一覧で表示したい項目にチェックを付けます。

[自動選択] をクリックすると、選択したアーカイブに適応した項目が自動的に選択されます。

#### 4 表示形式を選択し、[表示] をクリックします。

選択したアーカイブデータが表示されます。

##### HTML 形式の場合

The screenshot shows the ServerView interface in HTML format. At the top, there's a banner with the Fujitsu logo and the word "ServerView". Below it, a navigation bar includes links for "PRIMERGY", "アーカイブ 1.", "アーカイブ 2.", and "アーカイブ 3.". The main content area has two tabs: "システム情報" (System Information) and "ステータス" (Status). The "システム情報" tab displays a table of system details:

名前	WIN-YXG91YEAWPB
モデル	PRIMERGY TX150 S8
プロセッサ タイプ	Intel(R) Core(TM)2 Duo CPU E4600 2400 MHz, step 13
プロセッサ/カット数	1 / 1
メモリ 合計 (MB)	1536
キャッシュ (KB)	2048
オペレーティングシステム	Windows Server 2008 (x64 Edition) Service Pack 1, v.744 Revision 6.0
場所	kawasaki
連絡先	PC-SV
システム稼働時間	5 days, 03:57:50
エージェントバージョン	4.61.00

The "ステータス" tab shows a table with one row:

ステータス	サブシステム	コンボネット
ok	System Status	

At the bottom, there's a copyright notice: "©1999-2008 Fujitsu Siemens Computers All rights reserved" and a message: "アプレット SVTest started".

##### テキスト形式の場合

The screenshot shows the ServerView interface in text format. It starts with "Basic Archive Information" followed by a table:

ArchiveID	Server Name	Archive Creation Date	Archive Creation Time
A1	TX120-W2K8	06.03.2008	16:53:07

Below this is a section titled "システム情報" (System Information) with a table:

名前	TX120-W2K8
モデル	PRIMERGY TX120
プロセッサ タイプ	Intel(R) Core(TM)2 CPU 6300 1866 MHz, step 5
プロセッサ/カット数	1 / 1
メモリ 合計 (MB)	512
キャッシュ (KB)	2048
オペレーティングシステム	Windows Server 2008 Service Pack 1, v.744 Revision 6.0
場所	n.a.
連絡先	n.a.
システム稼働時間	0 days, 06:10:49
エージェントバージョン	4.61.00

Finally, there's a "ステータス" (Status) section with a table:

ステータス	サブシステム	コンボネット
ok	System Status	
ok	MassStorage	
ok	Systemboard	Disk S.M.A.R.T. status
ok		System Board Voltages

## ■ アーカイブデータの比較

サーバのアーカイブデータを比較します。

**1** [アーカイブ] タブをクリックし、対応するアーカイブを2つ選択します。

**2** コンポーネント一覧で比較したい項目にチェックを付けます。

**3** 表示形式を選択し、[比較] をクリックします。

比較結果が表示されます。

以下の内容で区別されて表示されます。

- どちらか一方のアーカイブデータのみにある内容
- 両方のアーカイブデータにあるが、値が異なる内容

### HTML 形式の場合

項目	値 (Archive 1)	値 (Archive 2)				
ステータス詳細	ok					
フロントア	unknown					
筐体開放状態	closed					
電源	on					
前回の電源切断要因	software-off					
電源異常後アクション	remain-off					
ボード ID	S26361-D2550-A10					
マネジメントコントローラタイプ	IRMC					
ファームウェアバージョン	1.01.01340041					
温度センサ						
番号	ステータス	用途	値 (°C)	警告上限レベル	危険上限レベル	危険時のアクション
0	ok	Systemboard	41	60	65	continue
1	ok	CPU	47	70	75	continue
			46			
2	ok	Ambient	27	37	42	continue

©1999-2008 Fujitsu Siemens Computers All rights reserved  
アプレット SVTest started 信頼済みサイト | 保護モード: 無効 100%

相違点は第1カラムで識別され、2つの異なる色で表示されます。

## テキスト形式の場合

http://10.21.136.165:3169/ServerView/SnmpArchive/svtmpdir/TX120-W2K8-20080306173837-TX120-W2K8 - Windows Internet Explorer

\*\*\*\*\*  
名前 PRIMERGY TX120  
ホビットタイプ Standalone Server  
ホビットID 0  
筐体カウフ TX120F  
識別番号 YBxxxxxxxx  
スケーリング ok  
スケーリング詳細 ok  
プロトコル unknown  
筐体開放状態 closed  
電源 on  
前回の電源切断要因 software-off  
電源異常後のアクション remain-off  
ポートID S26361-02550-A10  
スロットコントローラタイプ iRMC  
ファームウェアバージョン 1.01.01340041  
温度センサ  

番号	ステータス	用途	値 (°C)	警告上限レベル	危険上限レベル	危険時のアクション
0	ok	Systemboard	41	60	65	continue
<A1> 1	ok	CPU	47	70	75	continue
<A2>			46			
2	ok	Ambient	27	37	42	continue

Fans  

番号	ステータス	用途	回転率(定格r.p.mに対する%)	異常時のアクション	シャットダウン遅延時間(秒)
0	ok	FAN CPU	430	continue	5
1	ok	FAN1 SYS	256	continue	5
2	ok	FAN2 SYS	290	continue	5
3	ok	FAN PSU	281	continue	3

電源供給スケーリング ok  
電源供給余剰 n.a.  
ハッパリネット unknown  
電源アラート

相違点は <A1>、<A2> で識別されます。

## ■ アーカイブデータの削除

サーバのアーカイブデータを削除します。

- 1** [アーカイブ] タブをクリックし、対応するアーカイブを選択します。
  - 2** [削除] をクリックします。
- アーカイブデータが削除されます。

### 3.7.5 アーカイブデータのログ

アーカイブデータのログを一覧表示します。

- [ログ] タブをクリックします。

ログが一覧表示されます。

The screenshot shows the 'Archive Manager' section of the ServerView interface. On the left, there's a tree view with 'すべてのサーバ' (All Servers) expanded, showing 'グループ' (Group) and 'アーカイブ' (Archive). The main area is titled 'アーカイブ ログ' (Archive Log) and contains a table with two rows of data. The columns are labeled '時間' (Time), '名前' (Name), 'アーカイブ' (Archive), 'グループ' (Group), and 'スケジュール' (Schedule). The first row shows '2008/03/04, 14:57:29' for time, 'RX600S4RH51-64QA' for name, 'すべてのサーバ' for group, and '一度のみ 直olini' for schedule. The second row shows '2008/03/04, 14:57:29' for time, 'WIN-YXG91YEAWPB' for name, 'すべてのサーバ' for group, and '一度のみ 直olini' for schedule. At the bottom of the log table, there are '更新' (Update) and '削除' (Delete) buttons.

表：アーカイブマネージャのログ一覧

項目	説明
時間	アーカイブ取得日時が表示されます。
名前	オブジェクトの名前が表示されます。
アーカイブ	アーカイブ名が表示されます。
グループ	タスクが設定されているグループ名が表示されます。
スケジュール	アーカイブ取得形式が表示されます。
エラー	エラーが発生した場合、その内容が表示されます。

### 3.7.6 インポートアーカイブ

アーカイブファイルをインポートします。

- 1 ServerView S2 の「サーバリスト」画面上で、メニューから「サーバリスト」メニュー → 「アーカイブをインポート」をクリックします。  
「インポートアーカイブ」画面が表示されます。



- 2 [参照] をクリックして、インポートするアーカイブファイルを指定します。
- 3 [インポート] をクリックします。

確認のダイアログが表示されます。



- 4 [OK] をクリックします。

アーカイブデータがインポートされます。

## 3.8 パワーモニタ

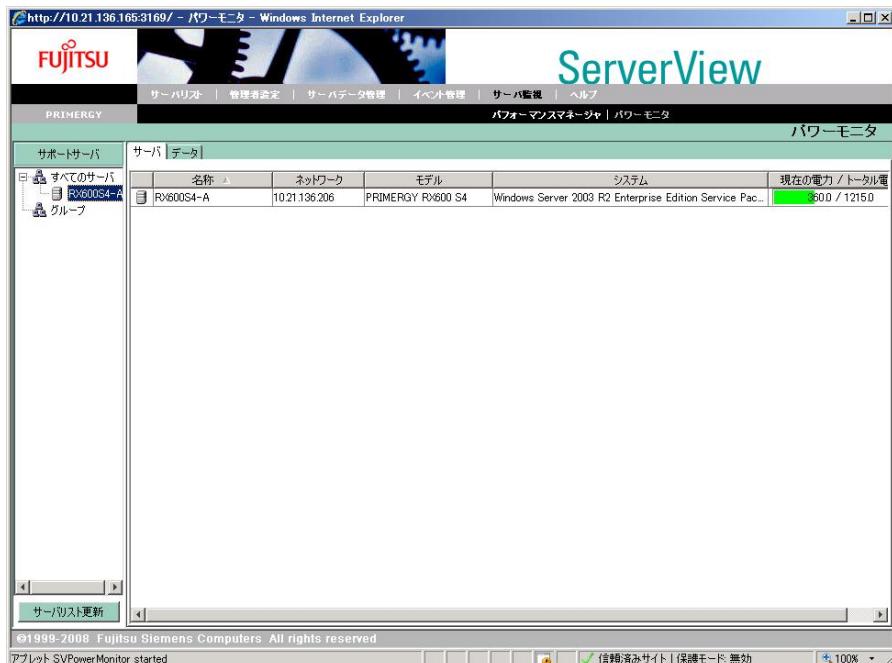
サーバの電力消費の状態を表示します。

### POINT

- ▶ パワーモニタ機能は特定の機種のみでサポートされます。  
本機能で表示される消費電力量は 20% 程度の誤差を含む可能性があります。

- 1 ServerView S2 のメニューから、「サーバ監視」メニュー → 「パワーモニタ」をクリックします。  
「パワーモニタ」画面が表示されます。

- 2 画面左のツリー表示から、電力消費状態を表示したいサーバを選択します。



表：パワーモニタ画面ー【サーバ】タブに表示される情報

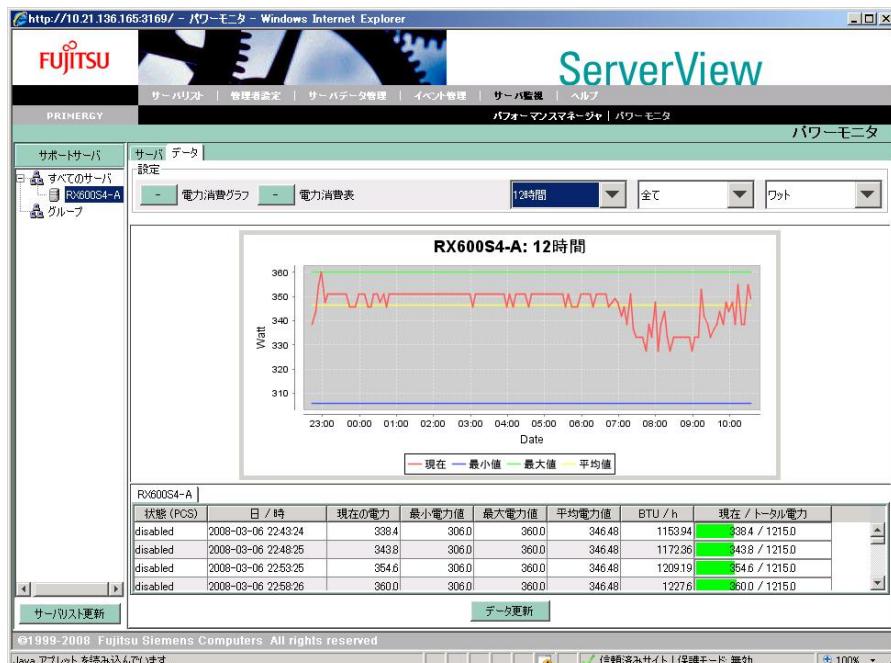
項目名	説明
名称	オブジェクトの名前が表示されます。
ネットワーク	オブジェクトの IP アドレスが表示されます。
モデル	オブジェクトのモデル名が表示されます。
システム	オブジェクトのシステムタイプが表示されます。
現在の電力／トータル電力	現在の電力量／最大消費電力量が表示されます。

## POINT

- ▶ 画面左のツリーには監視対象サーバの中で、パワーモニタ機能をサポートする機種のみが表示されます。
- ▶ 画面左のツリーから監視対象サーバを複数選択して、同時に電力消費状態を参照することができます。

### 3 [データ] タブをクリックします。

電力消費の履歴が表示されます。



表：パワーモニタ画面ー [データ] タブに表示される情報

項目名	説明
電力消費グラフ	電力消費グラフの表示 / 非表示を切り替えます。
電力消費表	電力消費表の表示 / 非表示を切り替えます。
メッセージ	メッセージの表示 / 非表示を切り替えます。通常は表示されません。
データ更新	電力消費のデータを更新します。

#### 4 必要に応じて、グラフィカル表示の設定を変更します。

電力消費グラフと電力消費表のグラフィカル表示について、ドロップダウンメニューで設定できます。



##### プロット間隔

電力消費値は、毎分取得されます。

プロット間隔を設定することで、取得した値の中から特定の間隔ごとの値を抜き出して表示できます。

表 : パワーモニタ画面 - プロット間隔

プロット間隔	値の数	説明
1 時間	60 (計測した値すべて)	毎分の電力消費値
12 時間	144 (計測した値の 5 回のうちの 1 つ)	5 分ごとの電力消費値
24 時間	144 (計測した値の 10 回のうちの 1 つ)	10 分ごとの電力消費値
1 週間	168 (計測した値の 60 回のうちの 1 つ)	1 時間ごとの電力消費値
1 ヶ月	180 (計測した値の 240 回のうちの 1 つ)	約 4 時間ごとの電力消費値
6 ヶ月	180 (計測した値の 1440 回のうちの 1 つ)	約 1 日 (24 時間) ごとの電力消費値
12 ヶ月	180 (計測した値の 2880 回のうちの 1 つ)	約 2 日 (48 時間) ごとの電力消費値

##### 電力消費値を表示

表示する電力消費値の値を選択できます。

表 : パワーモニタ画面 - 電力消費値

電力消費値	説明
現在値	現在の電力消費値を、選択された間隔で表示します。
最小値	最小電力消費値を、選択された間隔で表示します。
最大値	最大電力消費値を、選択された間隔で表示します。
平均値	平均電力消費値を、選択された間隔で表示します。平均値を計算する際、電力消費値が「0」の場合は、計算に含めません。
全て	上記すべての値を、選択された間隔で表示します。

##### 単位設定

ワット (W) もしくは BTU (British Thermal Unit) が選択できます。

## 3.9 ServerView コンソールのシステムサービス

ServerView コンソールのシステムサービスの使用方法について説明します。

### 3.9.1 ServerView コンソールのシステムサービスの起動方法

ServerView コンソールのシステムサービスの起動方法について説明します。

#### ■ Windows の場合

Fujitsu ServerView Service と、Web サーバ「Apache2」または「IIS」を開始します。

Web サーバは、インストール時に、「ServerView Web-Server」または「Apache2」を選択した場合は「Apache2」、「IIS」を選択した場合は「IIS」を使用します。

#### POINT

- ▶ Fujitsu ServerView Service、Apache2 は、デフォルトで「スタートアップの種類」が「自動」に設定されていますので、本操作を行わなくてもサーバ起動時に自動的に起動します。
- ▶ IIS のデフォルト設定では、本操作を行わなくてもサーバ起動時に自動的に起動します。
- ▶ Windows Server 2008 では「スタートアップの種類」に「自動（遅延開始）」がありますが、ServerView のサービスを「自動（遅延開始）」へ変更することは未サポートです。

#### ● Fujitsu ServerView Service の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [サービス] アイコンをクリックします。
- 3 サービス一覧で「Fujitsu ServerView Service」を選択します。
- 4 「操作」メニュー → 「開始」の順にクリックします。  
Fujitsu ServerView Service が開始されます。

#### ● Apache2.0 / Apache2.2 の場合

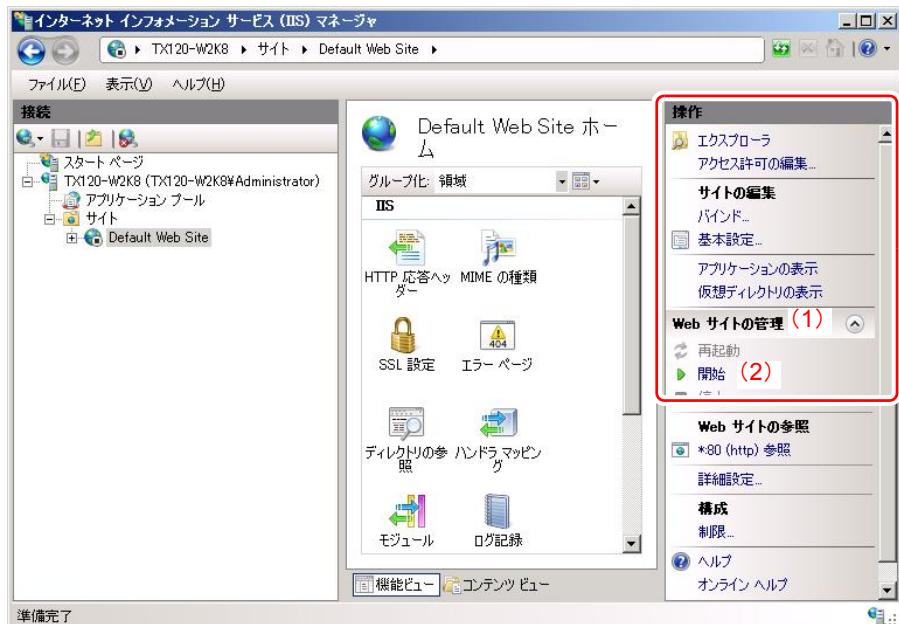
- 1 コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [サービス] アイコンをクリックします。
- 3 サービス一覧で「Apache2」または「Apache2.2」を選択します。
- 4 「操作」メニュー → 「開始」の順にクリックします。  
Apache2 が開始されます。

### ● IIS (Windows Server 2008) の場合

- 1** コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2** [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] アイコンをクリックします。
- 3** 画面左の「接続」メニューから「ローカルコンピュータ」(1) → 「サイト」(2) → 「Default Web Site」(3) の順にクリックします。



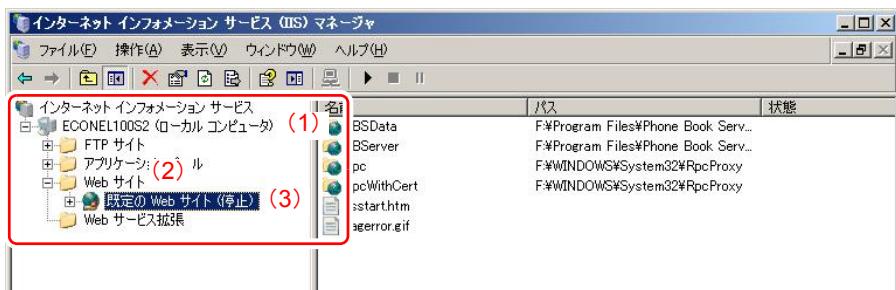
- 4** 画面右の「操作」メニューから「Web サイトの管理」(1) → 「開始」(2) の順にクリックします。



IIS が開始されます。

## ● IIS (Windows Server 2003 / Windows 2000 Server / Windows XP) の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] アイコンをクリックします。
- 3 画面左のツリー表示から「ローカルコンピュータ」(1) → 「Web サイト」(2) → 「既定の Web サイト」(3) の順にクリックします。



- 4 「操作」メニュー → 「開始」の順にクリックします。



IIS が開始されます。

## ■ Red Hat Linux の場合

「sv\_ainit」、「sv\_archivd」、「sv\_exportd」、「sv\_fwdserver」、「sv\_serverlistservice」、「sv\_inventoryd」、「sv\_bmcservice」、「sv\_DBServer」と Web サーバ「httpd」を開始します。

### POINT

- ▶ 「sv\_ainit」、「sv\_archivd」、「sv\_exportd」、「sv\_fwdserver」、「sv\_serverlistservice」、「sv\_inventoryd」、「sv\_bmcservice」、「sv\_DBServer」は、デフォルトで自動起動するように設定されていますので、本操作を行わなくてもサーバ起動時に自動的に起動します。
- ▶ /usr/bin/sv\_services を使用すれば、「httpd」を除く上記のサービスすべてが一度の操作で起動できます。以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/bin/sv_services start
```

- ▶ httpd は、「httpd サービスの自動起動設定」(→ P.38) で自動起動設定が行われていれば、本操作を行わなくてもサーバ起動時に自動的に起動します。

### 1 次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/sv_ainit start
# /etc/init.d/sv_archivd start
# /etc/init.d/sv_exportd start
# /etc/init.d/sv_fwdserver start
# /etc/init.d/sv_serverlistservice start
# /etc/init.d/sv_inventoryd start
# /etc/init.d/sv_bmcservice start
# /etc/init.d/sv_DBServer start
# /etc/init.d/httpd start
```

## ■ SUSE Linux の場合

「sv\_ainit」、「sv\_archivd」、「sv\_exportd」、「sv\_fwdserver」、「sv\_serverlistservice」、「sv\_inventoryd」、「sv\_bmcservice」、「sv\_DBServer」と Web サーバ「apache2」を開始します。

### POINT

- ▶ 「sv\_ainit」、「sv\_archivd」、「sv\_exportd」、「sv\_fwdserver」、「sv\_serverlistservice」、「sv\_inventoryd」、「sv\_bmcservice」、「sv\_DBServer」は、デフォルトで自動起動するように設定されていますので、本操作を行わなくてもサーバ起動時に自動的に起動します。
- ▶ apache2 は、「apache2 サービスの自動起動設定」(→ P.39) で自動起動設定が行われていれば、本操作を行わなくてもサーバ起動時に自動的に起動します。

### 1 次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/sv_ainit start
# /etc/init.d/sv_archivd start
# /etc/init.d/sv_exportd start
# /etc/init.d/sv_fwdserver start
# /etc/init.d/sv_serverlistservice start
# /etc/init.d/sv_inventoryd start
# /etc/init.d/sv_bmcservice start
# /etc/init.d/sv_DBServer start
# /etc/init.d/apache2 start
```

## 3.9.2 ServerViewコンソールのシステムサービスの停止方法

ServerViewコンソールのシステムサービスの停止方法について説明します。

### ■ Windowsの場合

Fujitsu ServerView Serviceと、Webサーバ「Apache2」または「IIS」を停止します。

Webサーバは、インストール時に、「ServerView Web-Server」または「Apache2」を選択した場合は「Apache2」、「IIS」を選択した場合は「IIS」を使用します。

#### POINT

- ▶ Webサーバ「Apache2」または「IIS」は、ServerViewコンソールのみが使用するサービスではありませんので、必要に応じて停止してください。

### ● Fujitsu ServerView Serviceの場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[管理ツール]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [サービス]アイコンをクリックします。
- 3 サービス一覧で「Fujitsu ServerView Service」を選択します。
- 4 「操作」メニュー→「停止」の順にクリックします。

Fujitsu ServerView Serviceが停止します。

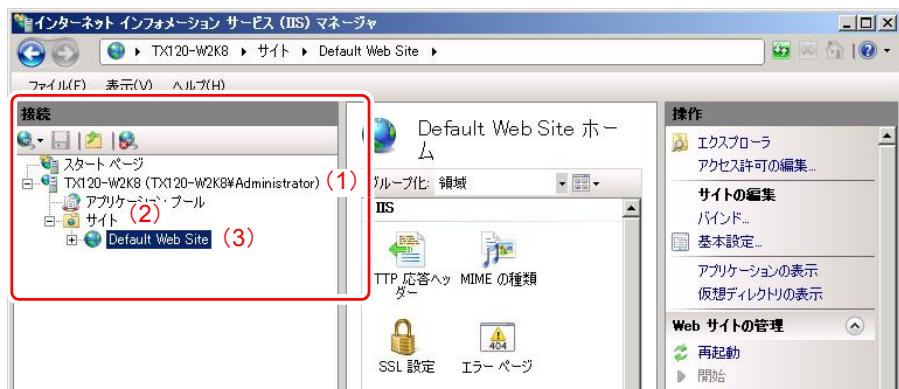
### ● Apache2.0／Apache2.2の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[管理ツール]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [サービス]アイコンをクリックします。
- 3 サービス一覧で「Apache2」または「Apache2.2」を選択します。
- 4 「操作」メニュー→「停止」の順にクリックします。

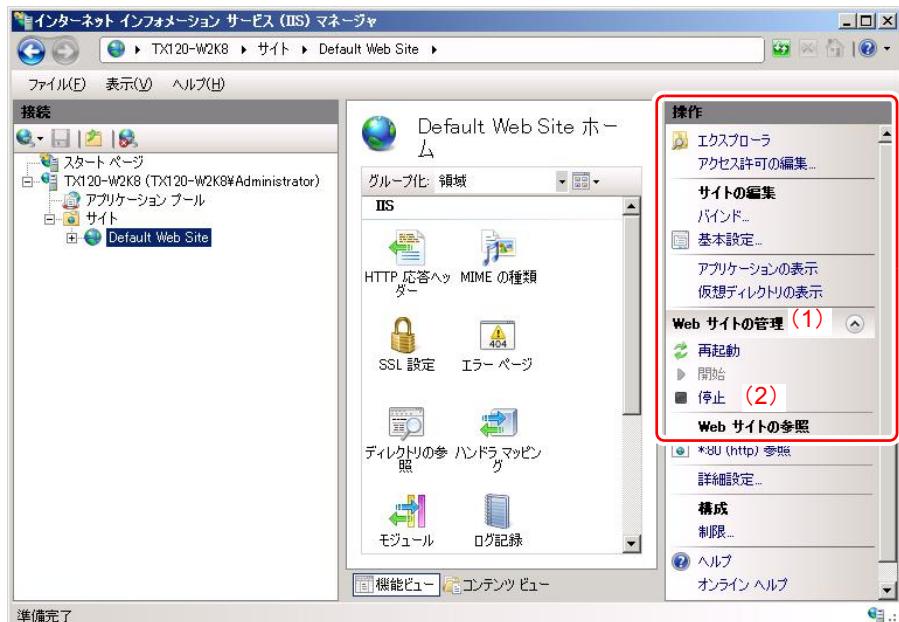
Apache2が停止します。

## ● IIS (Windows Server 2008) の場合

- 1** コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2** [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] アイコンをクリックします。
- 3** 画面左の「接続」メニューから「ローカルコンピュータ」(1) → 「サイト」(2) → 「Default Web Site」(3) の順にクリックします。



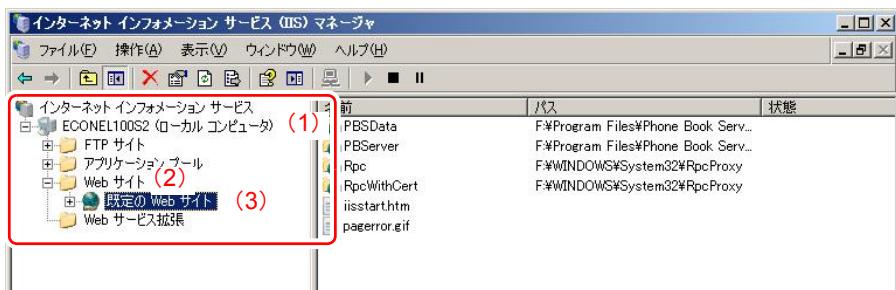
- 4** 画面右の「操作」メニューから「Web サイトの管理」(1) → 「停止」(2) の順にクリックします。



IIS が停止します。

## ● IIS (Windows Server 2003 / Windows 2000 Server / Windows XP) の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] アイコンをクリックします。
- 3 画面左のツリー表示から「ローカルコンピュータ」(1) → 「Web サイト」(2) → 「既定の Web サイト」(3) の順にクリックします。



- 4 「操作」メニュー → 「停止」の順にクリックします。



IIS が停止します。

## ■ Red Hat Linux の場合

「sv\_ainit」、「sv\_archivd」、「sv\_exportd」、「sv\_fwdserver」、「sv\_serverlistservice」、「sv\_inventoryd」、「sv\_bmcservice」、「sv\_DBServer」と Web サーバ「httpd」を停止します。

### POINT

- ▶ /usr/bin/sv\_services を使用すれば、「httpd」を除く上記のサービスすべてが一度の操作で停止できます。以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/bin/sv_services stop
```

- ▶ Web サーバ「httpd」は、ServerView コンソールのみが使用するサービスではありませんので、必要に応じて停止してください。

### 1 次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/httpd stop
# /etc/init.d/sv_ainit stop
# /etc/init.d/sv_archivd stop
# /etc/init.d/sv_exportd stop
# /etc/init.d/sv_fwdserver stop
# /etc/init.d/sv_serverlistservice stop
# /etc/init.d/sv_inventoryd stop
# /etc/init.d/sv_bmcservice stop
# /etc/init.d/sv_DBServer stop
```

## ■ SUSE Linux の場合

「sv\_ainit」、「sv\_archivd」、「sv\_exportd」、「sv\_fwdserver」、「sv\_serverlistservice」、「sv\_inventoryd」、「sv\_bmcservice」、「sv\_DBServer」と Web サーバ「apache2」を停止します。

### POINT

- ▶ Web サーバ「apache2」は、ServerView コンソールのみが使用するサービスではありませんので、必要に応じて停止してください。

### 1 次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/apache2 stop
# /etc/init.d/sv_ainit stop
# /etc/init.d/sv_archivd stop
# /etc/init.d/sv_exportd stop
# /etc/init.d/sv_fwdserver stop
# /etc/init.d/sv_serverlistservice stop
# /etc/init.d/sv_inventoryd stop
# /etc/init.d/sv_bmcservice stop
# /etc/init.d/sv_DBServer stop
```



## 第4章

# 他のソフトウェアとの連携

4

この章では、他のソフトウェアとの連携について説明します。

4.1 Systemwalker 連携 .....	228
4.2 Network Node Manager (hp OpenView／日立 JP1) 連携 .....	237
4.3 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理） .....	243
4.4 RAID Manager 連携 .....	252

## 4.1 Systemwalker 連携

Systemwalker と連携すると、ServerView での監視結果を Systemwalker の統合管理サーバに送信したり、Systemwalker から ServerView コンソールを起動したりできます。

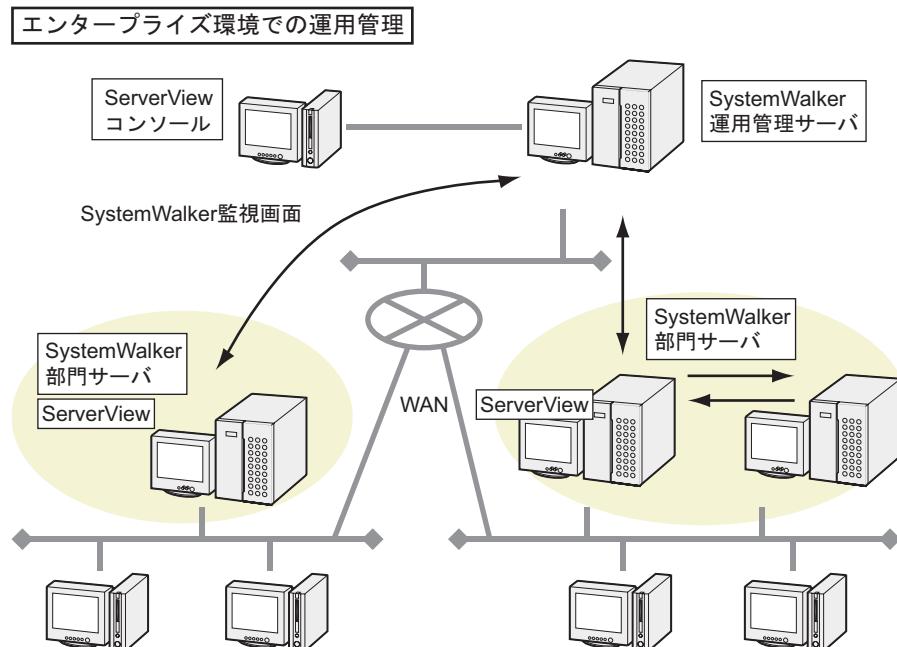
### 4.1.1 Systemwalker と ServerView 連携による管理

#### ■ Systemwalker CentricMGR との連携

Systemwalker CentricMGR は、エンタープライズ環境における、システム、ネットワーク、アプリケーションなどの統合運用管理製品です。ServerView の SNMP トラップ連携により、各部門サーバが受信した ServerView からの異常通知が運用管理サーバへ通知されます。この通知により、各部門（単一セグメント）において ServerView が監視しているサーバのハード異常を、エンタープライズ環境において統合管理することができます。

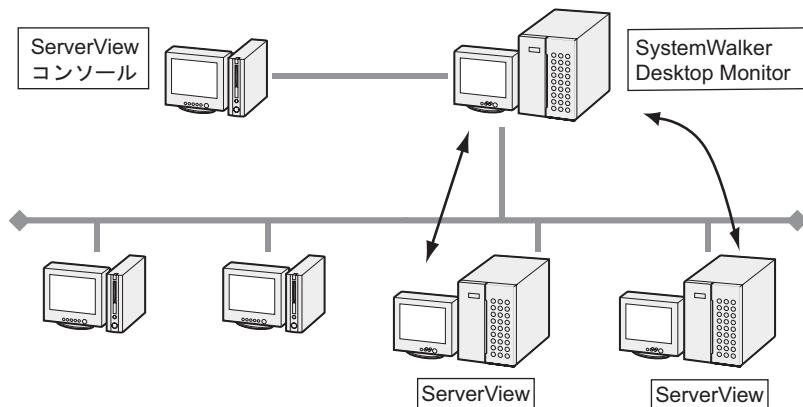
#### 重要

- 統合管理が行えるサーバは、運用管理サーバのみです。



## ■ Systemwalker Desktop Monitor との連携

Systemwalker Desktop Monitor は、LAN 環境における、コンピュータ、サーバなど LAN に接続された機器の稼動監視を行います。ServerView との連携により、ServerView からの異常通知を Desktop Monitor へ通知することで、被監視 PRIMERGY サーバのハード異常を監視することができます。



## 4.1.2 Systemwalker との連携による機能

### ■ Systemwalker CentricMGR との連携による機能

#### ● Systemwalker による ServerView からのトラップイベントの監視

各部門サーバが受信した ServerView からのトラップメッセージが、解読可能なメッセージテキストに変換され、Systemwalker の監視画面に表示されます。

#### ● Systemwalker による トラップイベントの絞り込み監視

ServerView で受信したサーバからのメッセージを、条件で絞り込んで監視できます。

#### ● Systemwalker 画面からの ServerView 画面の起動

Systemwalker の監視画面の操作メニューから、「ServerView」画面を起動することができます。異常の発生したサーバに対して、即座に ServerView 画面から対処できます。

### 重要

- ▶ SNMP トラップの連携を行う場合、OS の SNMP サービスにおいて、トラップ先に運用管理サーバの設定を行う必要があります。この設定が行われていない場合、運用サーバがトラップ通知を受信できないため、トラップ連携処理は動作しません。

## ■ Systemwalker Desktop Monitor との連携による機能

### ● Systemwalker による ServerView からのトラップイベントの監視

各部門サーバが受信した ServerView からのトラップメッセージが、解読可能なメッセージテキストに変換され、Systemwalker の監視画面に表示されます。



- ▶ Systemwalker Desktop Monitor では、ServerView 画面の起動、ServerView からのトラップイベントの絞り込み、サーバの MIB 値の取得、MIB しきい値監視機能は使用できません。

## 4.1.3 Systemwalker との連携手順

### ● Systemwalker CentricMGR 連携の場合

Systemwalker CentricMGR 連携を行う場合は、以下の流れで各設定を行います。

各操作の詳細な手順については、それぞれの参照先をご覧ください。

- 1 ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換 (NTC) 定義を行います。  
→ 「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換 (NTC) 定義」 (P.231)
- 2 手順 1 のイベントのフィルタリング定義を行います。  
→ 「■ イベントフィルタリング定義」 (P.233)
- 3 ServerView からの SNMP Trap 受信を設定します。  
→ 「■ SNMP Trap 受信設定」 (P.234)
- 4 ServerView の操作メニューへ登録します。  
→ 「■ 操作メニューへの登録」 (P.235)



- ▶ Linux、Solaris OE 版、Systemwalker Centric Manager との連携手順については、Systemwalker Centric Manager 『PRIMERGY 運用管理ガイド』を参照してください。

### ● Systemwalker Desktop Monitor 連携の場合

Systemwalker Desktop Monitor 連携を行う場合は、以下の流れで各設定を行います。

各操作の詳細な手順については、それぞれの参照先をご覧ください。

- 1 ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換 (NTC) 定義を行います。  
→ 「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換 (NTC) 定義」 (P.231)  
手順内の MIB 拡張操作は必要ありません。

## 2 ServerView からの SNMP Trap 受信を設定します。

→ 「■ SNMP Trap 受信設定」(P.234)

### ■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換 (NTC) 定義

ServerView からの SNMP トラップを、監視者が解読可能なメッセージにするための変換定義を行います。変換後のメッセージテキストは「Systemwalker」画面に表示されます。

#### POINT

- ▶ 変換定義されたメッセージテキストには、ServerView からのメッセージだと判別できるように、メッセージテキストの先頭に、「[ServerView]」のキーワードが埋め込まれます。

例：ServerView からの SNMP トラップが変換されて、表示される場合

AP: MpApLink: ERROR: 106: [ServerView] SMART predicts failure on disk .....

## 1 トラップ変換ファイルを Systemwalker に適用します。

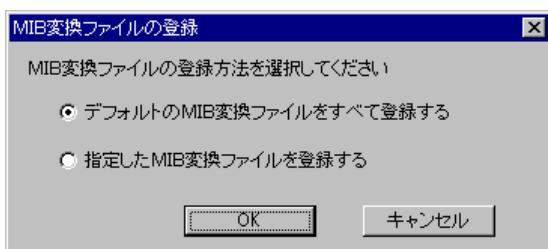
1. 以下の変換定義適用コマンドを実行します。

[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥WinSVConsole  
¥Tools¥Systemwalker¥F5FBSW01.exe

または

[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥LinuxSVConsole  
¥Tools¥Systemwalker¥F5FBSW01.exe

以下の画面が表示されます。



2. 「デフォルトの MIB 変換ファイルをすべて登録する」をクリックし、[OK] をクリックして適用します。

登録が終了すると、確認メッセージが表示されます。

3. [OK] をクリックします。

#### POINT

- ▶ 変換定義適用コマンドを実行したときにエラーメッセージが表示された場合は、「■ Systemwalker 連携のトラブルシューティング」(→ P.275) を参照してください。

## 2 Systemwalker CentricMGR 連携の場合は、トラップ変換で使用される OID をキャラクタ表記させるために、MIB 拡張操作を行います。

## 3 Systemwalker Desktop Monitor 連携の場合は操作の必要はありません。手順 3 に進んでください。

1. 「操作」メニュー → 「MIB 拡張操作」の順にクリックします。

## 2. 「MIB 拡張操作」画面で登録操作を行います。

拡張 MIB ファイルは以下に格納されています。

[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥WinSVConsole  
¥Tools¥Systemwalker¥mib

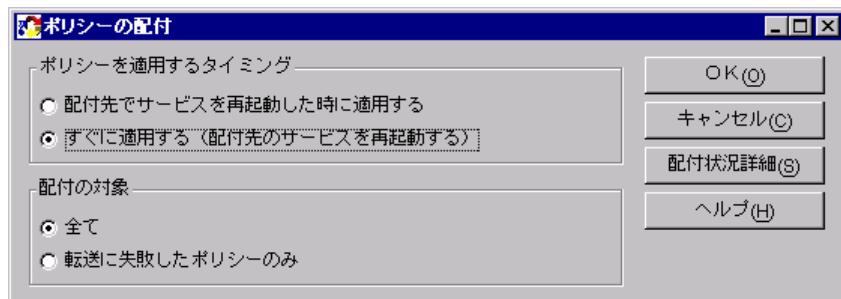
または

[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥LinuxSVConsole  
¥Tools¥Systemwalker¥mib

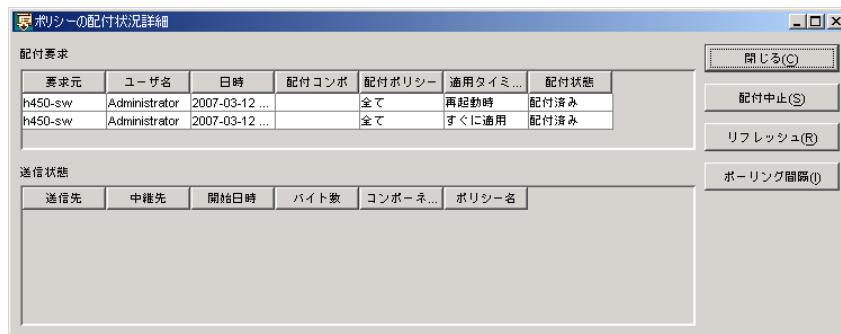


#### 4 Systemwalker に適用されたトラップ変換ファイルを、各部門サーバ、運用管理サーバへ配付します。

1. 「ポリシー」メニュー → 「ポリシー配付」の順にクリックします。  
「ポリシーの配付」画面が表示されます。
2. 「すぐに適用する」をクリックし、[OK] をクリックします。



ポリシー配付で失敗した場合、ポリシーの配付状況の画面を参照し、以下の手順で本ポリシーの適用結果を確認してください。



- 配付済み（配付成功）に MpCNappl がある場合  
本ポリシーの適用は成功しています。
- 配付失敗に MpCNappl がある場合  
MpCNappl を選択して表示される右側のリストで、適用コマンドのエラー内容が、失敗（0x3e5）のときは、一時的なシステム負荷によりサービスの再起動待ちでタイムアウトが発生したことを示します。  
本エラーの場合は、その後正常にサービスが起動してポリシーが適用されているため、特に対処は必要ありません。

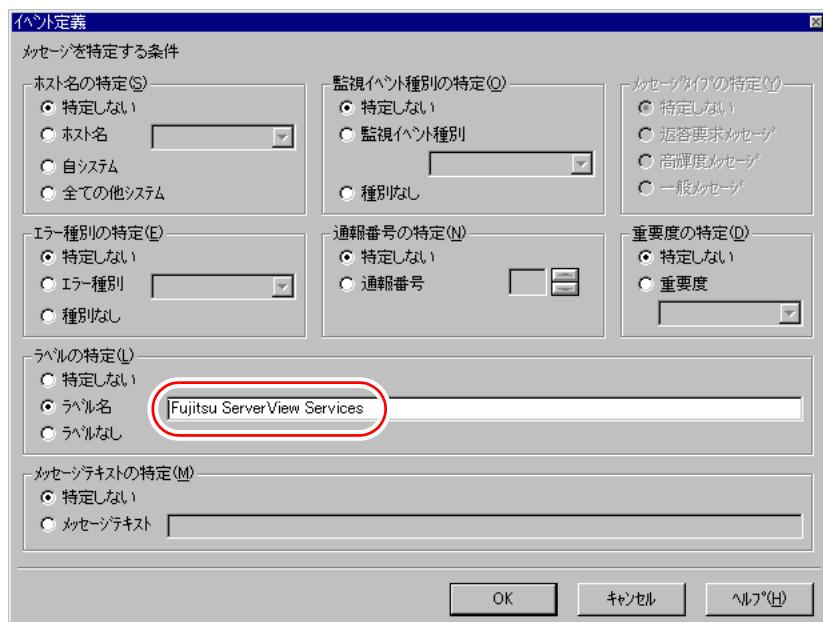
上記以外で配付に失敗した場合は、「ポリシーの配付」画面より配付の対象を「転送に失敗したポリシーのみ」を選択して再配付してください。

## ■ イベントフィルタリング定義

ここでは、おおよその操作方法を記載しています。

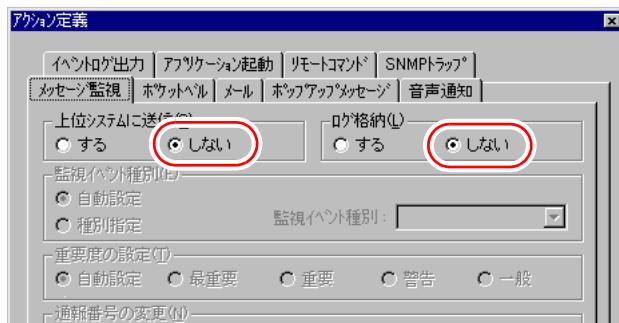
操作方法の詳細については、Systemwalker/CentricMGR のマニュアルを参照してください。

- SNMP トラップの連携を行う場合、ServerView AlarmService が格納する NT イベントログに対するフィルタリング定義を行います。
  - 「ポリシー」メニュー → 「ポリシーの定義」 → 「イベント」 → 「フォルダ」の順にクリックします。
  - 「イベント監視の条件定義」画面の「イベント」メニューから「イベント追加」を選択します。
  - 「ラベルの特定」内の「ラベル名」に「Fujitsu ServerView Services」を指定します。また、ServerView V3.10 L10 より前のサーバを同時に監視する場合には、「Fujitsu AlarmService」も指定してください。



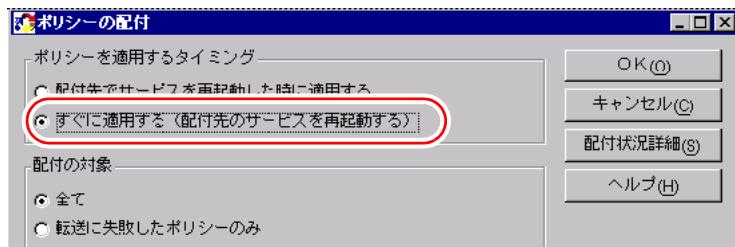
## 2 イベントログ発生時のアクション定義を行います。

1. 「イベント監視の条件定義」画面で「アクション」メニュー → 「アクションの設定」 → 「アクション定義」の順にクリックします。
2. 「上位システムに送信」、「ログ格納」を「しない」に指定します。



## 3 イベントフィルタリング定義を、各部門サーバ、運用管理サーバへ配付します。

1. 「ポリシー」メニュー → 「ポリシー配付」の順にクリックします。  
「ポリシーの配付」画面が表示されます。
2. 「すぐに適用する」をクリックし、[OK] をクリックします。



## ■ SNMP Trap 受信設定

### 1 コマンドプロンプト画面で以下のコマンドを実行します。

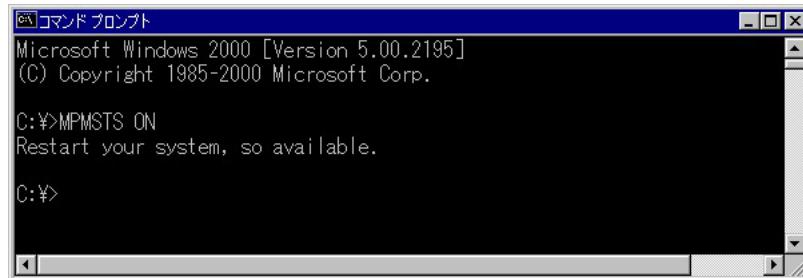
MPMSTS ON

コマンド実行後、以下のようなメッセージが表示されます。

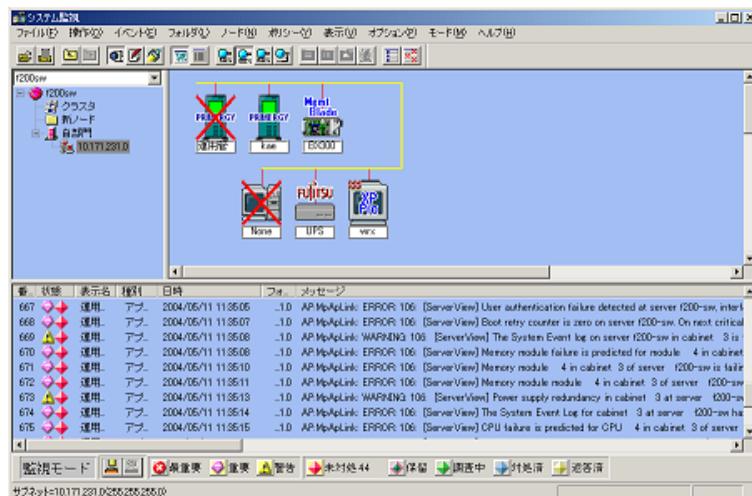
Systemwalker CentricMGR V5.0L30 以前の場合



Systemwalker CentricMGR V10.0L10 以降の場合、または  
Systemwalker Desktop Monitor の場合



システムの再起動後からトラップイベントがメッセージテキストに変換されて、監視画面に表示されるようになります。



## ■ 操作メニューへの登録

Systemwalker の操作メニューに、ServerView コンソールの起動を行うメニューを登録します。

- 「操作」メニュー → 「操作メニュー登録」の順にクリックします。



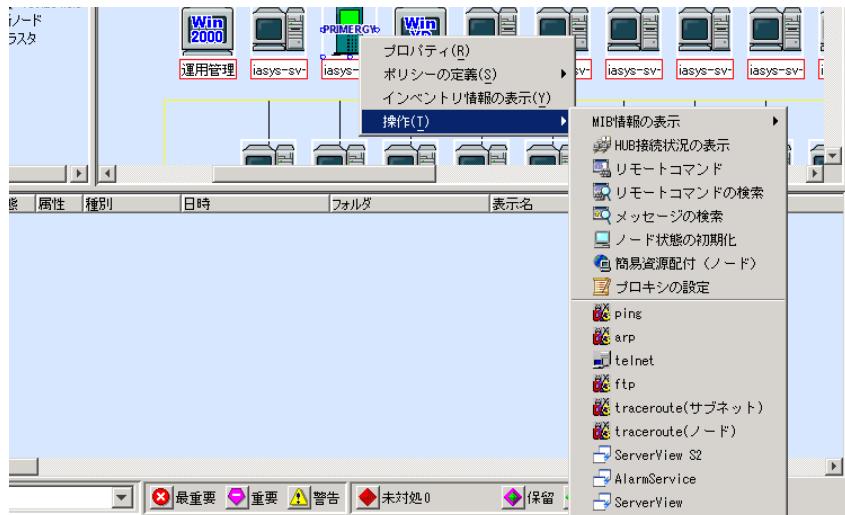
**2** 以下の項目を指定して、[OK] をクリックします。



表：操作メニューの登録内容

設定項目	設定内容
メニュー項目	ServerView S2
コマンドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>IIS の場合 "http://127.0.0.1/sv_www.html"</li> <li>Apache の場合 "http://127.0.0.1:3169/sv_www.html"</li> </ul> コマンドは必ず前後を"（ダブルクオーテーション）で囲んでください。
アイコンファイル	任意

**3** 登録後、サーバノードアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「操作」→「ServerView S2」の順にクリックします。



ServerView コンソールが起動します。

## 4.2 Network Node Manager (hp OpenView／日立 JP1) 連携

Network Node Manager (hp OpenView／日立 JP1)（以降、NNMと表記します）と連携すると、ServerViewでの監視結果を NNMに送信したり、NNMから ServerView コンソールを起動したりできます。

### 重要

- ▶ NNMとServerViewを同時インストールする場合は、必ず先に NNMをインストールしてください。
- ▶ ServerViewをインストール後に、監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示されたり、接続テストにおいてAddress Typeが「Not found: No such name.」と表示される場合があります。
- ▶ この場合は、以下の確認項目を確認してから、監視対象サーバのモデル名とAddressTypeが正常に表示されるまで「Restart ServerView Base Services」を実行してください。
  - ・「SNMP EMANATE Adapter for NT」／「SNMP EMANATE Master Agent」サービスが起動していることを確認してください。
  - ・「■ SNMP コミュニティの設定」(→ P.241)、「■ SNMP トラップ送信先の設定」(→ P.242)が正しく行われていることを確認してください。
  - ・設定を変更した場合は、OSの再起動を行うか、「SNMP EMANATE Adapter for NT」／「SNMP EMANATE Master Agent」サービスを再起動してください。
- ▶ 「Restart ServerView Base Services」については、「● Windows 起動時に、SWITCH: TIMEOUT のエラーがイベントビューアに記録される」(→ P.278)を参照してください。

### 4.2.1 連携できる NNM のバージョン

連携できる NNM のバージョンは、以下のとおりです。

- hp OpenView Network Node Manager 6.2／6.31／6.41／7.01／7.51
- 日立 JP1 Version 6i／7i／8i  
JP1/Cm2/Network Node Manager

### 4.2.2 概要

#### ■ NNM 連携で実現できる機能

##### ● NNM による ServerView からのトラップイベントの監視

ServerView から送信されるトラップメッセージが、監視者がわかるようなメッセージテキストに変換され、NNM の監視画面に表示されます。

##### ● 「OpenView NNM」画面からの「ServerView」画面の起動

NNM の監視画面の操作メニューから、「ServerView」画面を起動できます。  
異常の発生したサーバに対して、即座に ServerView 画面から対処できます。

### 4.2.3 NNMとの連携手順

NNM連携を行うための流れは、以下のとおりです。

各操作の詳細な手順については、それぞれの参照先をご覧ください。

- 1 メッセージテキスト変換ファイル（trapd\_conf）を登録します。**  
→「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd\_conf）登録」（P.238）
- 2 拡張 MIB 定義ファイルを登録します。**  
→「■ 拡張 MIB 定義ファイルの登録」（P.240）
- 3 ServerView の操作メニューへ登録します。**  
→「■ 操作メニューへの登録」（P.235）
- 4 SNMP コミュニティを設定します。**  
→「■ SNMP コミュニティの設定」（P.241）
- 5 SNMP トラップ送信先を設定します。**  
→「■ SNMP トラップ送信先の設定」（P.242）

#### ■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd\_conf）登録

ServerViewからのSNMPトラップを、監視者が解読可能なメッセージにするための、メッセージテキスト変換ファイル（trapd\_conf）登録を行います。変換後のメッセージテキストは、「ServerView ブラウザ監視」画面で確認できます。

- 1 以下の変換定義適用コマンドを実行します。**

```
[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥WinSVConsole  
¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV01.bat
```

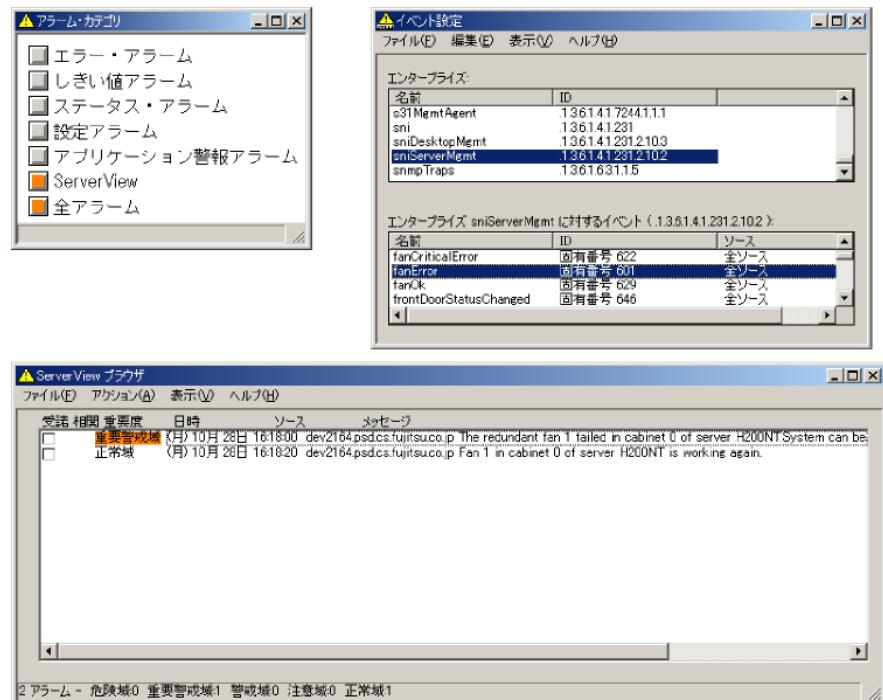
または

```
[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥LinuxSVConsole  
¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV01.bat
```

コマンド実行は、NNMをインストールしたサーバ上で行ってください。

また、カレントフォルダを適用コマンドの格納フォルダに移動して実行してください。

変換ファイル、およびアラームカテゴリ (ServerView) の登録が行われ、以下の画面が表示可能となります。



## ■ 拡張 MIB 定義ファイルの登録

OID をキャラクタ表記するために、拡張 MIB 定義ファイルのロード操作を行います。

### 1 以下の拡張 MIB 定義適用コマンドを実行します。

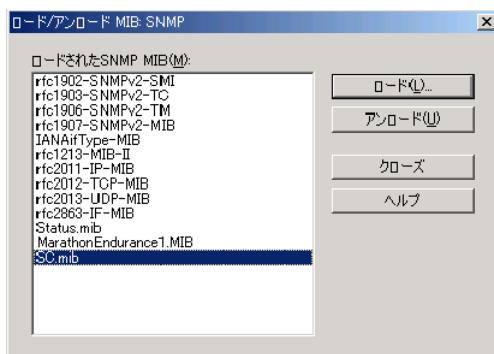
```
[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥WinSVConsole
¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV02.bat
```

または

```
[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥LinuxSVConsole
¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV02.bat
```

コマンド実行は、NNM をインストールしたサーバ上で行ってください。

また、カレントフォルダを適用コマンドの格納フォルダに移動して実行してください。  
ServerView で使用する拡張 MIB ファイルの登録が行われます。



## ■ 操作メニューの登録

NNM から ServerView を起動できるように、操作メニューに ServerView コンソールを登録します。

### 1 以下の登録ファイルを指定フォルダにコピーします。

- 登録ファイル

```
[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥WinSVConsole
¥Tools¥OVNNM¥ServerView
```

または

```
[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥LinuxSVConsole
¥Tools¥OVNNM¥ServerView
```

- 指定フォルダ

NNM インストールフォルダ ¥registration¥Japanese\_Japan.932

### POINT

- 登録ファイルでは、使用する Web サーバが Apache 用（ポート 3169）に設定されています。  
IIS をお使いの場合には、登録ファイルを IIS 用に変更してください。

## 2 ServerView コンソールを起動します。

メニューバー、およびポップアップメニューに ServerView メニューが追加されます。登録された操作メニューから、ServerView を選択すると起動できます。



## ■ SNMP コミュニティの設定

本設定は、NNM と ServerView を同時インストールしている場合に必要です。

ServerView 管理コンソールから監視サーバへの設定を有効にするために、以下の手順で SNMP コミュニティの設定を行います。

### 1 SNMP サービスに設定した SNMP コミュニティを確認します。

「2.2.1 [Windows] TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」(→ P.26) で設定した SNMP コミュニティを確認してください。

### 2 ファイル (snmpd.conf) を編集します。

以下は、手順 1 で確認した SNMP コミュニティが「public」の場合の編集例です。

ファイル : NNM インストールフォルダ ¥conf¥SNMPAgent¥snmpd.conf

・編集前

```
get-community-name: public
#set-community-name: # enter community name
```

・編集後

```
#get-community-name: public
set-community-name: public
```

### 3 設定後は、SNMP サービスまたはサーバを再起動してください。

#### 重要

- ▶ SNMP コミュニティは任意に設定できます。SNMP コミュニティを変更する場合は、SNMP サービスと、NNM の snmpd.conf の SNMP コミュニティを必ず同時に変更してください。また、ServerView S2 から ServerView の設定を行いたい場合は、ServerView S2 に「set-community-name」に設定した SNMP コミュニティを設定してください。ServerView S2 の設定については、「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」(→ P.93) の「[ネットワーク／SNMP] タブ」を参照してください。

## ■ SNMP トラップ送信先の設定

監視サーバから NNM／ServerView 管理コンソールをインストールしたサーバに対して、SNMP トラップを送信するための設定を、以下の手順で行います。

### 1 「SNMP Service」を設定します。

監視サーバにおいて、「2.2.1 [Windows] TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」(→ P.26) を参照して、SNMP トラップ送信先に NNM／ServerView 管理コンソールをインストールしたサーバの IP アドレスを設定してください。

### 2 ファイル (snmpd.conf) を編集します。

本設定は、NNM と ServerView を同時インストールしている場合に必要です。以下は、NNM／ServerView 管理コンソールをインストールしたサーバの IP アドレスが「10.20.30.40」の場合の編集例です。

ファイル：NNM インストールフォルダ\conf\SNMPAgent\snmpd.conf

・編集前

```
#trap-dest: # enter trap destination
```

・編集後

```
trap-dest: 10.20.30.40
```

### 3 設定後は、SNMP サービスまたはサーバを再起動してください。

## 4.3 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理）

信号灯制御プログラムとの連携により、ラックに搭載された PRIMERGY サーバの状態を信号灯（パトライト製）に表示し、視覚的にサーバの状態管理が行えます。複数サーバ、複数ラックの管理も行えます。

### ● 使用できる信号灯について

信号灯制御プログラムとの連携に使用できる信号灯は、パトライト製の信号灯です。また、信号灯の型名は「PHN-3FB」のみです。それ以外の信号灯での動作は保証しておりません。信号灯は、株式会社パトライト、またはその代理店から購入できます。信号灯の詳細については、パトライト社のホームページ (<http://www.patlite.co.jp/>) を参照してください。

また、パトライト社の代理店としては、以下があります。

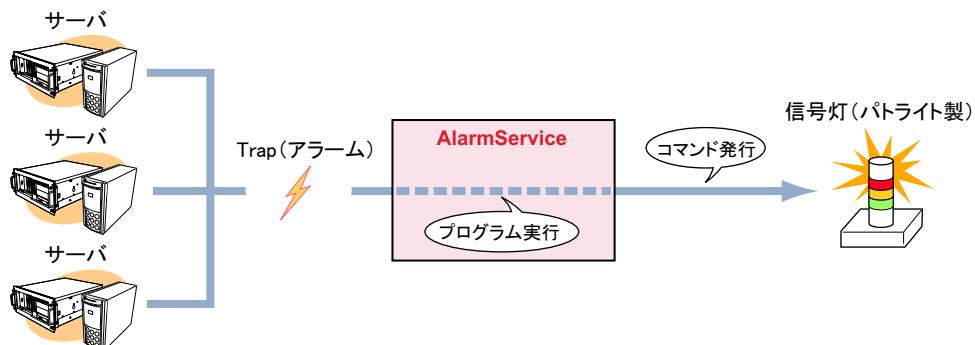
スズデン株式会社 (<http://www.suzuden.co.jp/>)

### 4.3.1 概要

#### ■ 信号灯制御プログラムの動作

サーバからのトラップが ServerView コンソールのアラームサービスに通知されると、信号灯制御プログラムが実行され、受け取ったトラップに対応する信号灯が点灯します。

トラップの重要度により信号灯の色を設定できるので、サーバの状態を視覚的に確認できます。これにより、より早くサーバの異常を発見できます。



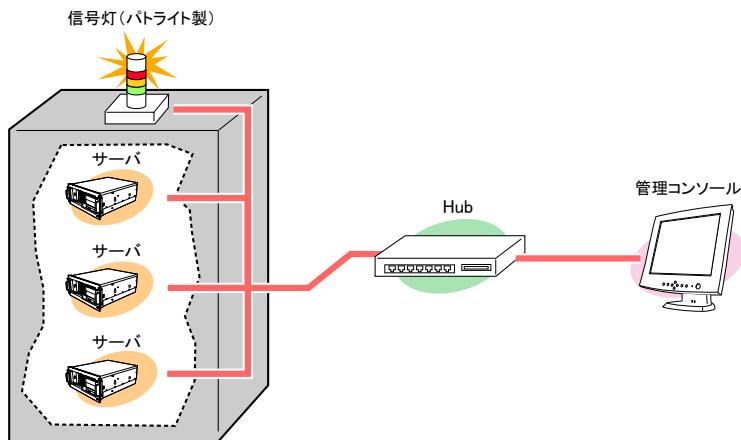
#### POINT

- 監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンで ServerView コンソール（アラームサービス）を起動していない場合は、アラームサービスのプログラム実行が動作しないため、信号灯の制御はできません。

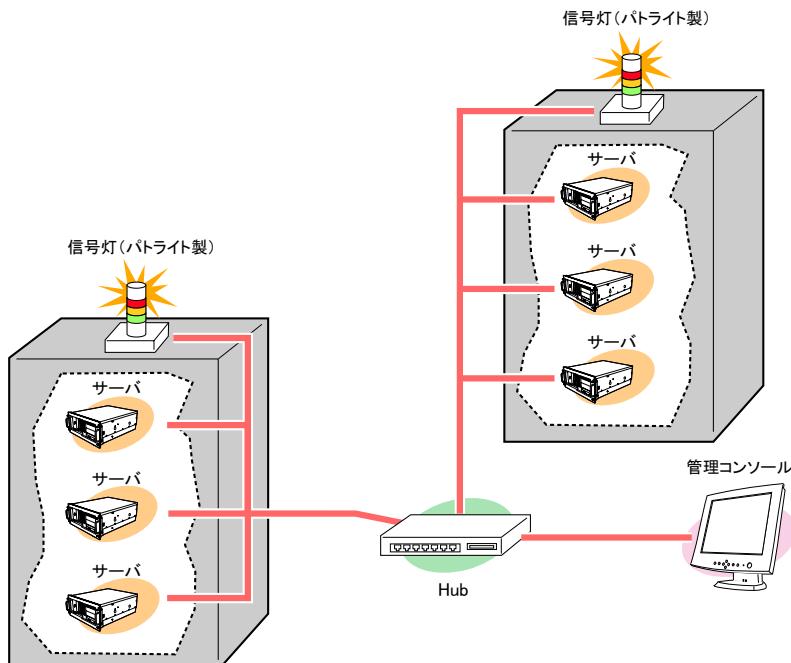
## ■ 構成例

LAN に接続した信号灯をネットワークに接続し、ServerView のアラームサービス機能を利用して信号灯を制御します。制御プログラムは Windows 版のみサポートしています。信号灯を設置してサーバ管理を行う構成例を以下に示します。

### ● 1 ラックの場合



### ● 複数ラックの場合



### 重要

- ▶ ラックの上に信号灯を設置する場合は、地震などで転倒、落下しないように、転倒防止対策を行ってください。

## ■ 信号灯制御プログラム連携のための設定

以下の流れで設定を行ってください。

各操作の詳細な手順については、それぞれの参照先をご覧ください。

### 1 信号灯制御プログラムを設定します。

→「4.3.2 信号灯制御プログラムの設定」(P.245)

### 2 ServerView 監視対象へ信号灯を追加または設定します。

→「4.3.3 ServerView 監視対象への信号灯追加／設定」(P.246)

### 3 アラームサービスを設定します。

→「4.3.4 アラーム設定」(P.247)

## 4.3.2 信号灯制御プログラムの設定

---

信号灯を設置し、信号灯制御プログラムを設定します。ServerView の設定を行う前に設定してください。

### 1 信号灯を設置し、信号灯の設定を行います。

信号灯の設置、および設定については、信号灯に添付のパトライト社のマニュアルを参照してください。

### 2 制御プログラムをコピーします。

以下の制御用プログラムを、ServerView 管理端末の以下フォルダにコピーします。

- コピー元フォルダ  
[CD/DVD ドライブ] :¥PROGRAMS¥Japanese2¥SVMANAGE¥WinSVConsole  
¥Tools¥PHN\_3FB
- 制御プログラム  
F5FBPT00.BAT、F5FBPT01.EXE
- コピー先フォルダ  
[システムドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01

### 3 バッチプログラムファイルを開き、信号灯のIPアドレスを設定します。

コピーした「F5FBPT00.BAT」ファイルをテキストエディタなどで開き、以下の場所にIPアドレスを書き込んで保存します。

```
~  
rem -----  
  
rem ★★★ユニットIP、ユニットポート番号設定★★★  
rem パトライト 信号灯(PHN-3FB)の  
rem ユニットIP、ユニットポート番号を設定してください。  
rem 例) set F5FBPT01_IP=10.10.10.10  
rem 例) set F5FBPT01_PORT=10000  
  
set F5FBPT01_IP=  
set F5FBPT01_PORT=10000  
set F5FBPT01_CTRL=  
  
~
```

#### POINT

- ▶ ファイル内に、設定方法が記述されています。利用環境に応じてカスタマイズしてください。信号灯を複数使用する場合は、バッチプログラムファイルをコピーし、名前を変更して使用するか、IPアドレスを引数として渡すようにバッチプログラムファイルをカスタマイズする必要があります。

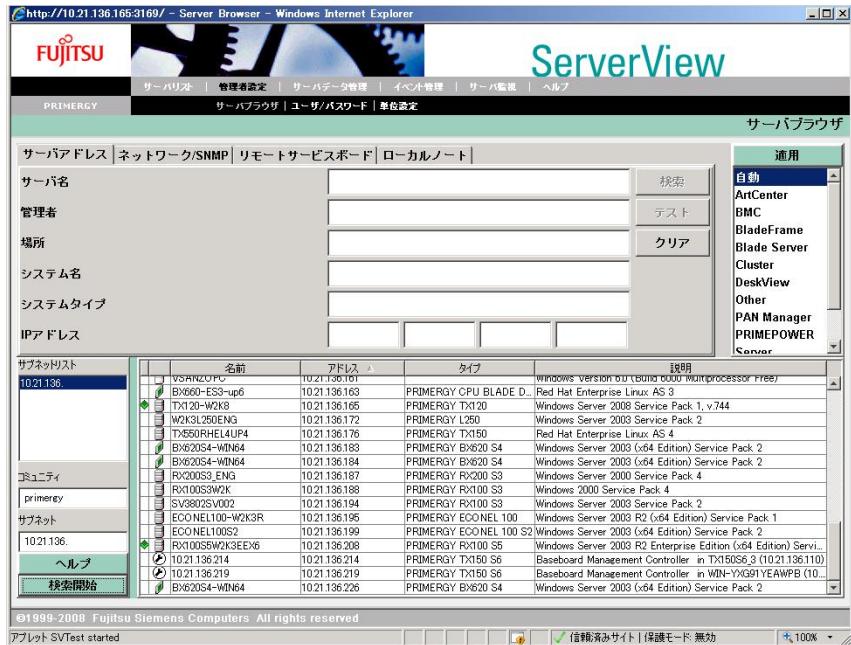
### 4.3.3 ServerView 監視対象への信号灯追加／設定

ServerView の監視対象に、信号灯を追加します。

- 1 「管理者設定」メニュー → 「サーバブラウザ」の順にクリックします。または、サーバリスト上で右クリックして、表示されたメニューから「新しいサーバ」をクリックします。  
「サーバブラウザ」画面が表示されます。

#### POINT

- ▶ 「サーバの一覧」画面に、監視対象とするサーバおよび信号灯が表示されていることを確認してください。一覧に表示されていない場合は、「3.1.3 監視対象サーバの登録」(→ P.90) を参照し、監視対象とするサーバおよび信号灯を追加してください。



- 2** 信号灯の「サーバ名」、「IP アドレス」を入力します。
- 3** サーバタイプリストから、サーバのタイプ「Other」を選択して、[適用] をクリックします。  
必要に応じて各タブ画面の項目を設定してください。

#### 4.3.4 アラーム設定

アラーム設定を起動し、アラームルールの作成、プログラム実行の設定を行ってください。信号灯ごとに、アラームルールを作成します。

詳細については、「3.5.4 アラーム設定（アラームルールの作成）」（→ P.156）を参照してください。

なお、アラーム設定の詳細については、「3.5.3 アラーム設定の起動と操作の流れ」（→ P.152）以降の説明を参照してください。

- 1** 「イベント管理」メニュー → 「アラーム設定」の順にクリックします。  
「アラーム設定」画面が表示されます。

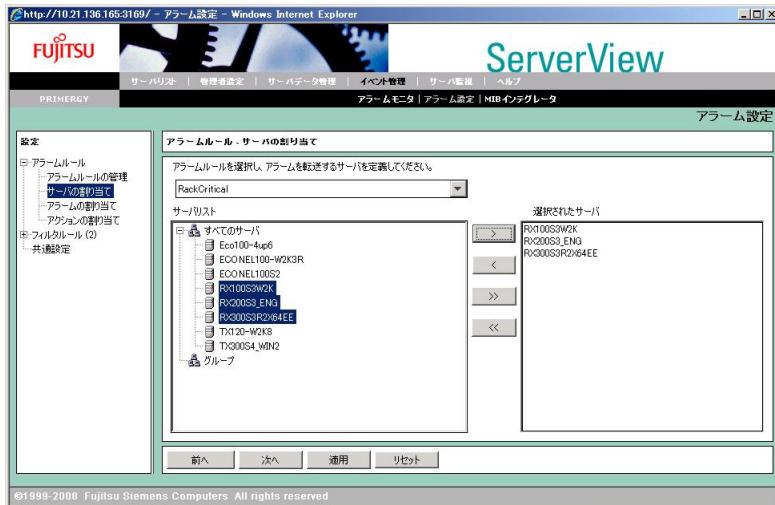
##### POINT

- ▶ アラームルールは、危険（Critical）、重度（Major）、軽度（Minor）で作成することをお勧めします。信号灯を複数使用する場合には、信号灯ごとにアラームグループを作成する必要があります。

- 2** [追加] をクリックして、アラームルール名を設定します。  
アラームルール名は、任意の名前を入力してください。

### 3 [次へ] をクリックします。

「サーバの割り当て」画面が表示されます。

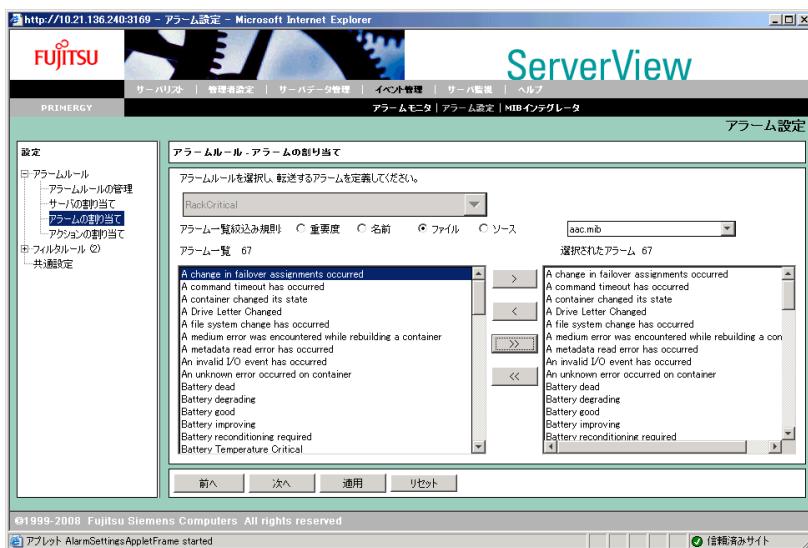


### 4 アラームルールにサーバを割り当てます。

1. 「サーバリスト」から、ラックに搭載されているすべてのサーバを選択し、[>] をクリックします。  
「選択されたサーバ」に設定されます。
2. 「適用」をクリックして設定を保存します。

### 5 [次へ] をクリックします。

「アラームの割り当て」画面が表示されます。



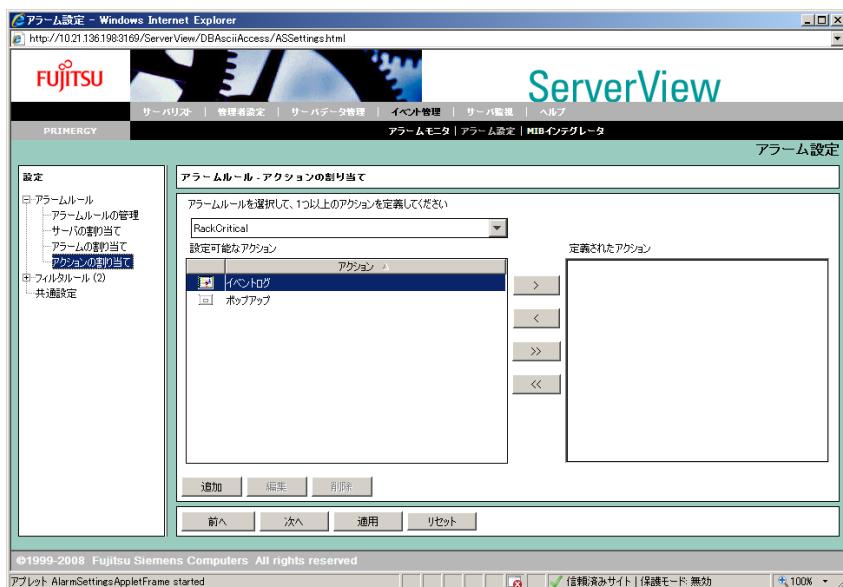
### 6 アラームルールにサーバを割り当てます。

1. 「アラームの一覧」から、対象とするトラップを選択し、[>] をクリックします。  
「選択されたアラーム」に設定されます。

2. 「適用」をクリックして設定を保存します。

## 7 [次へ] をクリックします。

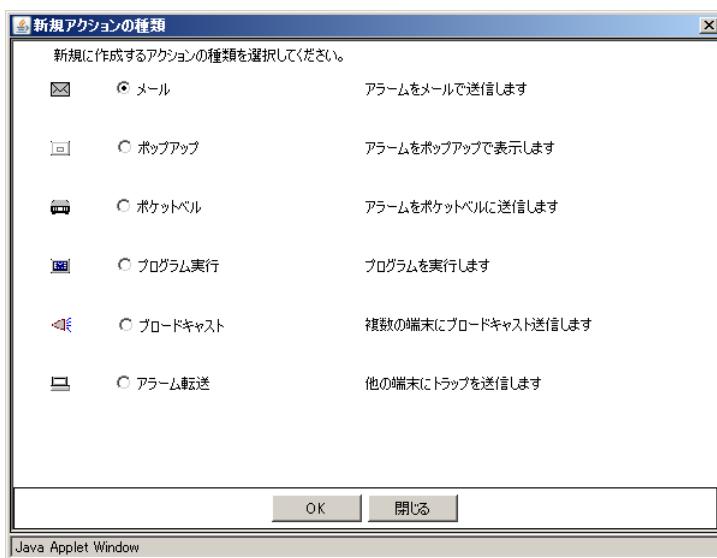
「アクションの割り当て」画面が表示されます。



## 8 アラームルールにアクションを割り当てます。

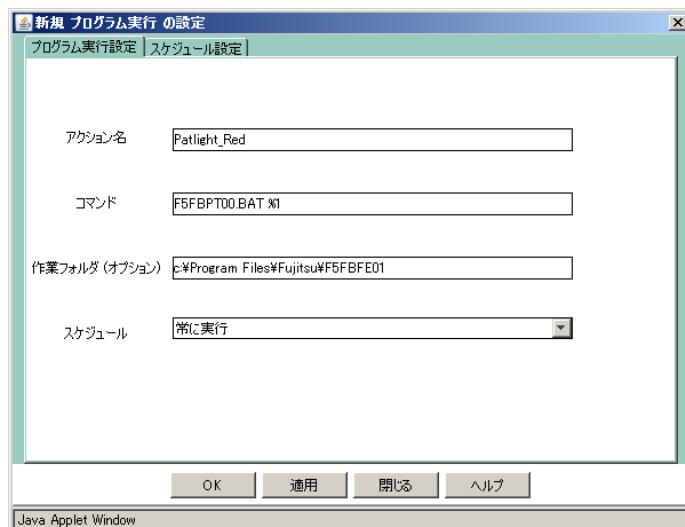
### 1. [追加] をクリックします。

「新規アクションの種類」画面が表示されます。



2. 「プログラム実行」を選択して [OK] をクリックします。

設定画面が表示されます。



3. 以下のとおり設定を行い、[OK] をクリックします。

表 : 「プログラム実行」設定項目

設定項目	説明
アクション名	任意の名前を入力してください。
コマンド	F5FBPT00.BAT %1 (%1 : 点灯制御パラメータとして 1 ~ 3 を指定)
作業フォルダ (オプション)	[システム ドライブ] : \Program Files\Fujitsu\F5FBFE01

「アクションの割り当て」画面に戻ります。

9 「定義されたアクション」に作成したコマンド名が表示されていることを確認して [適用] をクリックします。

The screenshot shows the 'ServerView' interface for alarm rule configuration. On the left, there's a sidebar with options like 'PRIMERGY', 'サーバリスト', '管理者設定', etc. The main area is titled 'アラームルール - アクションの割り当て' (Assigning Actions to Alarm Rules).

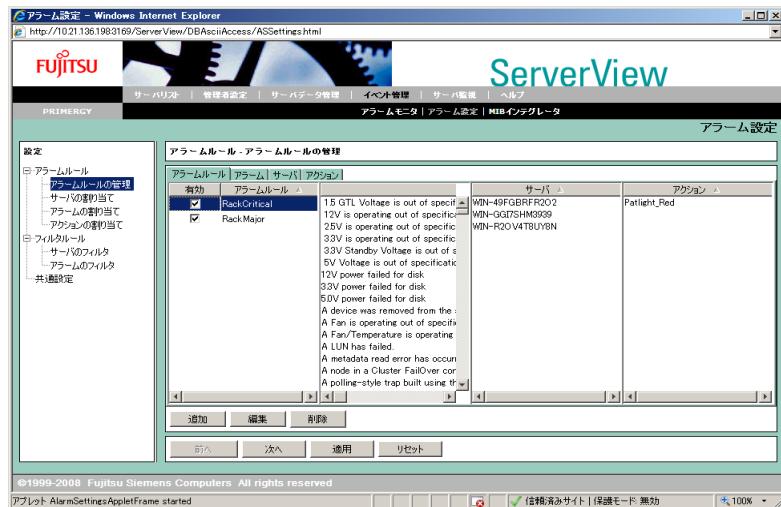
In the center, there's a list of actions under '定義可能なアクション' (Available Actions):

- Patlight\_Red
- イベントログ
- ネットワーク

To the right, under '定義されたアクション' (Defined Actions), 'Patlight\_Red' is listed. Below these lists are buttons for '追加' (Add), '編集' (Edit), and '削除' (Delete).

At the bottom of the page, there are navigation buttons: 前へ (Previous), 次へ (Next), 通用 (General), and リセット (Reset).

- 10** 手順2～9を繰り返して、すべての信号灯色のアラームルールを作成します。
- 11** すべてのアラームルールにコマンドが設定できたら、画面左のツリー表示から「アラームルールの管理」をクリックします。  
「アラームルールの管理」画面が表示されます。



- 12** 設定内容を確認してアラームルールの「有効」チェックボックスにチェックを付け、[適用] をクリックします。
- 13** 「アラーム設定」画面を閉じます。

### 4.3.5 信号灯の消灯

点灯したパトライト信号灯を消灯する場合は、以下のバッチプログラムファイルを起動してください。

[システムドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥F5FBPT00.BAT

## 4.4 RAID Manager 連携

ServerView S2 の RAID Manager 連携について説明します。

なお、RAID Manager 連携を行うためには、監視対象サーバに各アレイコントローラ用の管理ソフトウェア（以降 RAID Manager と呼びます）がインストールされている必要があります。

各 RAID Manager のインストール、および使用方法については、各アレイコントローラ または 各サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。

### 4.4.1 RAID Manager 連携の概要

#### ■ 連携できる RAID Manager

連携できる RAID Manager は以下のとおりです。

- ServerView RAID
- GAM (Global Array Manager)
- Storage Manager
- PROMISE Fasttrak
- PAM (PROMISE ARRAY MANAGEMENT)

#### ■ RAID Manager 連携の機能

RAID Manager 連携の機能は以下のとおりです。

##### ● ServerView RAID Manager (Web クライアント) の起動

ServerView S2 から ServerView RAID Manager (Web クライアント) を起動することができます。

起動方法については、「4.4.2 ServerView RAID Manager (Web クライアント) の起動方法」(→ P.253) を参照してください。

##### POINT

###### RAID Manager (ServerView RAID Manager 以外のクライアントソフトウェア) の起動

- ▶ ServerView S2 からは、RAID Manager (ServerView RAID Manager 以外のクライアントソフトウェア) は起動できません。管理端末に使用する RAID Manager (クライアントソフトウェア) をインストールしてから、起動してください。

##### ● 詳細情報表示

RAID Manager から提供された詳細情報を、ServerView S2 が用意している詳細情報表示画面に表示することができます。詳細情報表示については、「● RAID デバイスビュー」(→ P.119) を参照してください。

## ● ト ラッ プ 監 視

RAID Manager からのト ラッ ピ イベントをアラームサービスで監視することができます。

## ● アイコン変化

RAID Manager から異常が通知されると、ServerView S2 のステータスアイコンが変化し、異常を認識することができます。

### 4.4.2 ServerView RAID Manager (Web クライアント) の起動方法

ServerView RAID Manager (Web クライアント) の起動方法について説明します。

#### POINT

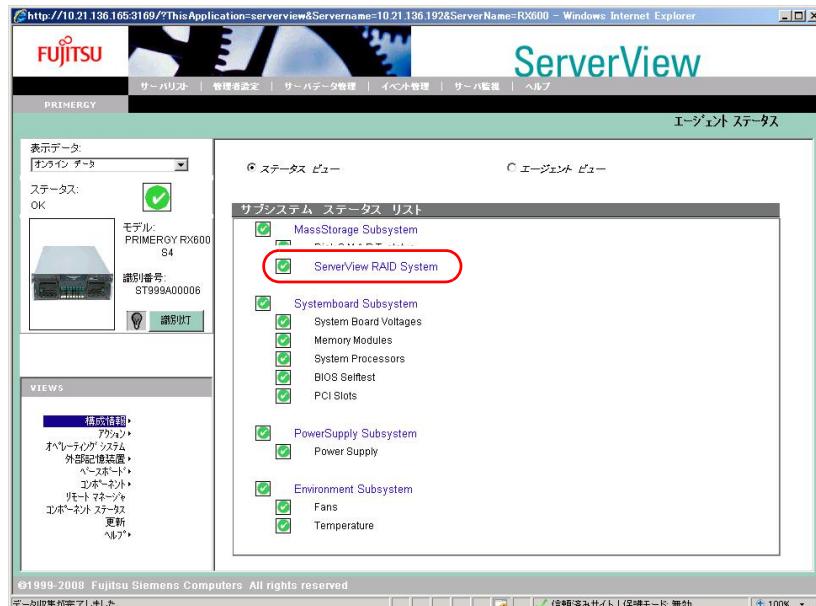
- ▶ ServerView RAID Manager (Web クライアント) を起動できる ServerView S2 のバージョンは、「ServerView Console for Windows/Linux V4.20.xx 以降」です。

#### ■ ServerView S2 (構成情報) からの起動方法

ServerView S2 から、ServerView RAID がインストールされた監視対象サーバの「構成情報」画面を表示します。構成情報については、「3.2.3 構成情報の表示」(→ P.109) を参照してください。

- 1 「サブシステム ステータス リスト」 – 「MassStorage Subsystem」 – 「ServerView RAID System」をクリックします。

ServerView RAID がインストールされていない場合は、「ServerView RAID System」は表示されません。



## ■ ServerView S2（外部記憶装置）からの起動方法

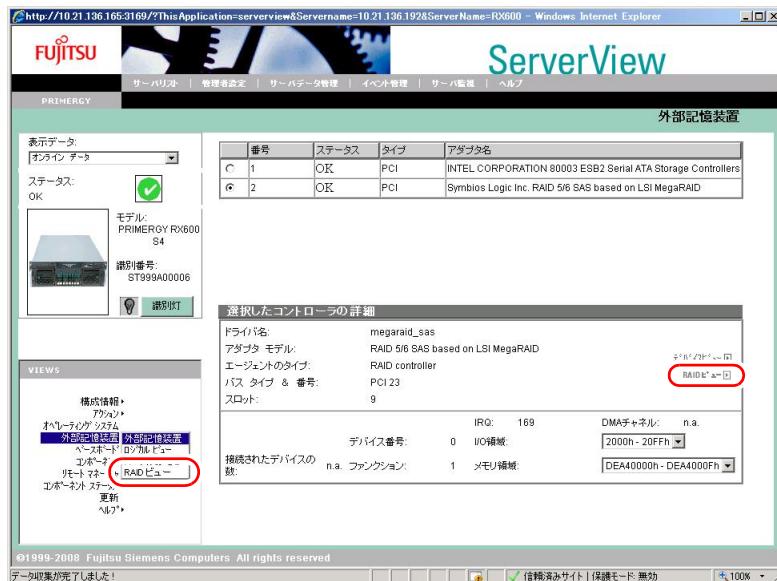
ServerView S2 から、ServerView RAID がインストールされた監視対象サーバの「外部記憶装置」画面を表示します。外部記憶装置については、「3.2.6 外部記憶装置の状態確認」(→ P.117) を参照してください。

**1 「外部記憶装置」メニュー → 「RAID ビュー」の順にクリックします。**

または

「選択したコントローラの詳細」の「RAID ビュー」をクリックします。

ServerView RAID がインストールされていない場合、または ServerView RAID 未対応のコントローラを選択した場合は、「RAID ビュー」は表示されません。



## 付録

この章では、トラブルシューティングやアンインストール方法など補足情報について説明しています。

A	トラブルシューティング .....	256
B	アイコンリスト .....	279
C	トラップリスト .....	286
D	技術情報 .....	287

# A トラブルシューティング

ServerView を使用する上での留意事項や、エラーメッセージなどについて説明します。

## A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング

インストールスクリプトは、インストールエラーを検出すると、エラーメッセージを表示して終了します。

以下の対処方法で解決しない場合は、「■ 手動での ServerView Linux コンソールのインストール」(→ P.59) を参照して、インストールスクリプトを使用しないインストールを実施してください。

表：インストールスクリプトのエラーメッセージ

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
1000	<p>XXXX is not running. サービス「XXXX」が起動していません。以下のコマンドを実行してください。 # /etc/init.d/XXXX start</p>
1001	<p>login user is not root! Please try again as root. ログインユーザがスーパーユーザではありません。 スーパーユーザでログインし直してから、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。</p>
2001 ~ 2999	<p>"***" package is not installed. ServerView のインストールに必須の RPM パッケージがインストールされていません。 Red Hat Linux の CD-ROM から "***" の RPM パッケージを再インストールしたあと、 ServerView のインストールスクリプトを実行してください。</p>
6001 ~ 6008	<p>"***" installation failed. "***" のインストールに失敗しました。以下の内容を確認して、ServerView のインストールスクリプトを再度実行してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• SELINUX の設定が disabled になっていることを確認してください。</li> <li>• ServerView に同梱されているデータベース (PostgreSQL) とポート番号 (9212) が競合していないことを確認してください。</li> <li>• シェルに "Bash" 以外を使用していないことを確認してください。</li> <li>• PostgreSQL のフォルダ (/opt/SMAWPlus) が残っていないことを確認してください。</li> </ul> </p>

## ● その他の表示されるメッセージ

- SELINUX が無効になっていない場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

```
[root@hostname LinuxSVConsole]# ./inssv
(中略)
install ServerView, please wait...
SELinux must be disabled for ServerView installation.
Please disable SELinux and reboot server. Then restart the installation.
Installation is being stopped.
ERROR : 600x : "<package>" installation failed.
(中略)
ServerView's RPMs are installed failed.
[root@hostname LinuxSVConsole]#
```

- スーパーユーザのログインシェル、またはインストールスクリプトを実行したシェルが "Bash" でない場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

```
[root@hostname LinuxSVConsole]# ./inssv
(中略)
install ServerView, please wait...
ServerView installation requires /bin/bash as shell.
Installation will be terminated.
ERROR : 600x : "<package>" installation failed.
(中略)
ServerView's RPMs are installed failed.
[root@hostname LinuxSVConsole]#
```

## A.2 ServerView S2 のトラブルシューティング

---

### ■ ServerView S2 に関する Q&A

#### ● 監視するサーバを指定するには？

TCP/IP を通して通信するサーバを設定する必要があります。

アプリケーションを起動すると、最初に「サーバの一覧」画面が表示されます。

「サーバの一覧」画面で「新しいサーバ」をクリックすると、サーバを設定できます。

続いて、サーバの IP アドレスと名前を入力する画面が表示されます（「3.1.3 監視対象サーバの登録」（→ P.90）参照）。

#### ● 電源 OFF/ON のスケジューリング機能はできますか？

監視対象サーバでは、スケジューリング運転を行うことができます。

設定については、「■ [電源 ON/OFF] タブ」（→ P.141）を参照してください。

## 重要

- ▶ この機能は、すべてのサーバでサポートされているわけではありません。
  - ▶ この設定は、スケジューリングを行うサーバの BIOS にも記憶されます。
- スケジューリングを行っているサーバから ServerView をアンインストールする場合は、事前に必ず、スケジューリングを無効にしてください。スケジューリングを有効にしたまま ServerView をアンインストールすると、スケジューリングによる電源 OFF 処理において、サーバの OS をシャットダウンせずに電源 OFF される危険性があります。

## ■ ServerView S2 のトラブルシューティング

### ● ServerView S2 が起動しない

Windows Server 2003において、LAN 接続しない状態で、ServerView S2 をインストールした場合は、以下の手順を行ってください

- 1 サーバの LAN を接続します。
- 2 サーバの IP アドレスを設定します。
- 3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ChangeComputerDetails」の順にクリックし、新しいコンピュータ情報を設定します。
- 4 サーバを再起動します。

### ● 画面のプロパティでサーバの図が正しく表示されない

画面のプロパティで画面の色を 256 色以下に設定した場合、ServerView S2 の画面に表示されるサーバの図が正しく表示されないことがあります。

正しく表示するには、65536 色以上の環境でご使用ください。なお、256 色の場合でも、サーバの写真的表示が色落ちするだけで、動作には問題ありません。

### ● サーバが管理不可能と表示される

サーバが管理不可能と表示された場合は、以下の項目を確認してください。

#### ネットワーク環境の確認項目

- LAN ケーブルが正しく接続されていますか？  
LAN ケーブルを正しく接続してください。
- ネットワーク機器（ルータ、HUB など）は正常に動作していますか？  
ネットワーク機器を確認してください。
- 「監視対象サーバ」←→「ServerView コンソールをインストールしたサーバ／パソコン」間のネットワーク機器において、SNMP プロトコルの通信ポート（udp 161 番および udp 162 番）が遮断されていませんか？  
遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。

## ServerView コンソール（Windows／Linux）をインストールしたサーバ、またはパソコンの確認項目

### < Windows／Linux 共通 >

- 監視対象サーバに対して、ping が通りますか？  
ping が通らない場合、ネットワーク周りの設定を確認してください。
- 監視対象サーバの IP アドレスは正しいですか？  
監視対象サーバの IP アドレスを確認し、正しい IP アドレスを設定してください。詳細については、「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」（→ P.93）を参照してください。
- 監視対象サーバで設定されている SNMP コミュニティが、「サーバのプロパティ」－ [ネットワーク／SNMP] タブ－「コミュニティ名」に設定されていますか？  
コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。  
また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。詳細については、「2.4.7 SNMP 設定の変更方法」（→ P.76）を参照してください。
- ネットワークあるいはコンピュータの負荷が高い場合、時間内に処理が終了せず、[管理不可能] アイコンが表示される場合があります。  
この場合は、以下の手順でポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔を変更し、負荷の低下、タイムアウト値の延長を行うことができます。
  - 「サーバの一覧」から問題があるサーバを右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」→ [ネットワーク／SNMP] タブの順にクリックします。
  - 環境に合わせて設定値を変更します。

表：ネットワーク／SNMP の設定値

項目	説明
ポーリング間隔	サーバをポーリングする時間の間隔です。ここで指定した間隔ごとに、システムの情報をサーバに要求します（デフォルト 60 秒）。
タイムアウト	要求に対するサーバからの応答に待機する時間です（デフォルト 5 秒）。
更新間隔	表示内容を更新する間隔です（デフォルト 60 秒）。

### ※ 重要

- これらの項目の適切な値は、負荷の状況によって異なります。何度か設定を試してみて最適な値を決定してください。
- タイムアウト値に大きすぎる値を設定すると、本当に管理不可能な場合の反応も遅れてしまします。大きすぎる値（12 秒以上）は設定しないようにしてください。

## 監視対象サーバ（Windows）の確認項目

- ファイアウォールにより、SNMP ポート（udp 161 番）が遮断されていませんか？  
遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- ServerView Windows エージェントがインストールされていますか？  
インストールされていない場合は、インストールしてください。詳細については、『ServerView ユーザーズガイド（Windows エージェント編）』の「第 2 章 インストール」を参照してください。

- ServerView コンソールで、「サーバのプロパティ」に設定した SNMP コミュニティ名が、『SNMP Service』のプロパティに設定されていますか？  
コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。  
また、同じコミュニティ名が設定されている場合でも、前後に空白が設定されている可能性もあります。不要な空白は削除してください。詳細については、「2.4.7 SNMP 設定の変更方法」(→ P.76) を参照してください。
- ServerView Windows エージェント (SNMP Service、Server Control Service) が起動していますか？  
起動していない場合、起動してください。  
詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (Windows エージェント編)』の「3.1 ServerView Windows エージェントの使用方法」を参照してください。
- ServerView Windows エージェント (SNMP Service、Server Control Service) が正常動作していない可能性があります。  
ServerView Windows エージェントを再起動してください。  
詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (Windows エージェント編)』 - 「3.1.3 ServerView Windows エージェントの再起動方法」を参照してください。  
再起動しても、解決しない場合は、ServerView Windows エージェントを再インストールしてください。
- SNMP を使用する他製品の影響により、管理不可能となっている可能性があります。  
他製品の SNMP を無効化してください。

## 監視対象サーバ (Linux) の確認項目

- ファイアウォールにより、SNMP ポート (udp 161 番) が遮断されていませんか？  
遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。  
ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルを参照してください。なお、OS 標準のファイアウォール (パケットフィルタ) としては、iptables, tcpwrapper などがあります。
- ServerView Linux エージェントがインストールされていますか？  
インストールしていない場合は、インストールしてください。  
詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』の「第 2 章 インストール」を参照してください。
- ServerView コンソールで、「サーバのプロパティ」に設定した SNMP コミュニティ名が、SNMP サービスのプロパティに設定されていますか？  
コミュニティ名が異なる場合、コミュニティ名を合わせてください。  
詳細については、「2.4.7 SNMP 設定の変更方法」(→ P.76) を参照してください。
- ServerView Linux エージェント (snmpd, eecd\_mods\_src, eecd, srvmagt, srvmagt\_scs) が起動していますか？  
詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』の「3.1 ServerView Linux エージェントの使用方法」を参照してください。

- ServerView Linux エージェント (snmpd, eecd\_mods\_src, eecd, srvmagt, srvmagt\_scs) が正常動作していない可能性があります。

ServerView Linux エージェントを再起動してください。再起動手順は以下のとおりです。

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/srvmagt_scs stop
# /etc/init.d/eecd stop
# /etc/init.d/snmpd stop
# /etc/init.d/eecd_mods_src stop
# /etc/init.d/eecd_mods_src start
# /etc/init.d/snmpd start
# /etc/init.d/eecd start
# /etc/init.d/srvmagt_scs start
# /etc/init.d/srvmagt start
```

再起動しても、解決しない場合は、ServerView Linux エージェントを再インストールしてください。

- snmpd.conf の中に「com2sec svSec localhost <SNMP コミュニティ>」行がない可能性があります。

この行がない場合は追加してください。

詳細については、『ServerView ユーザーズガイド (Linux エージェント編)』の「2.4.5 SNMP 設定の変更」を参照してください。

追加後、以下の手順で、ServerView Linux エージェントを再起動してください。

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/srvmagt_scs stop
# /etc/init.d/eecd stop
# /etc/init.d/snmpd stop
# /etc/init.d/snmpd start
# /etc/init.d/eecd start
# /etc/init.d/srvmagt_scs start
# /etc/init.d/srvmagt start
```

- RHEL-AS3(x86)/RHEL-AS3(IPF)/RHEL-ES3(x86) を除く Linux において、snmpd.conf の中に以下の行がない可能性があります。

この行がない場合は追加してください。

- ServerView Linux エージェント V4.52 以降の場合

```
master agentx
```

- ServerView Linux エージェント V4.50 以前の場合

```
master agentx
agentxsocket /var/agentx/master
```

追加後、以下の手順で、ServerView Linux エージェントを再起動してください。

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/srvmagt_scs stop
# /etc/init.d/eecd stop
# /etc/init.d/snmpd stop
# /etc/init.d/snmpd start
# /etc/init.d/eecd start
# /etc/init.d/srvmagt_scs start
# /etc/init.d/srvmagt start
```

## ● 監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示される

ServerView S2 画面において、監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示される場合があります。その際は、しばらく時間をおいてから ServerView S2 画面の〔更新〕をクリックしてください。

上記の操作を行っても「Unknown」と表示される場合は、以下の手順で ServerView エージェントを再起動するか、OS の再起動を行ってください。

- 監視対象サーバが Windows の場合

ServerView Windows エージェントの再起動方法については、『ServerView ユーザーズガイド (Windows エージェント編)』の「3.1.3 ServerView Windows エージェントの再起動方法」を参照してください。

- 監視対象サーバが Linux の場合

以下の手順で、ServerView Linux エージェントを再起動してください。

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/srvmagt_scs stop
# /etc/init.d/eecd stop
# /etc/init.d/eecd rescan
# /etc/init.d/srvmagt_scs start
# /etc/init.d/srvmagt start
```

ServerView エージェントの再起動を行っても復旧しない場合は、ハードウェア異常の可能性があります。担当保守員に連絡してください。

## ● アーカイブファイル、レポートファイルが作成されない

アーカイブファイルにデータが格納されていない、またはファイルが不完全な場合は、ディスクに空き領域がなくなったか、または ServerView によってディスクに空き領域がなくなったと判断された可能性があります。

Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01 内のエラーログファイル「ArchErr.log」で、アプリケーションに何らかのエラーが起きていないかどうかを確認します。ディスクに空き領域がないことが原因で ServerView が ArchErr.log ファイルに書き込みを行えない場合は、エラーダイアログが表示されます。

ディスクの空き領域がなくなった場合は、一部のファイルを移動することで問題を解決できます。ディスクに空き領域が残っている場合は、ServerView を再起動します。また、ファイルをチェックしてコンピュータを再起動する方法も有効です。

レポートファイルにデータが格納されていない場合も、上記と同じ理由が考えられます。

## ● リモートサービスボードを搭載したが ServerView に認識されない

ServerView をインストールした直後、またはリモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。OS を再起動してください。

## ● 「電源／環境」画面で情報が正しく表示されない

「電源／環境」画面では、情報が正しく表示されるまでに多少時間がかかる場合があります。しばらく時間をおいてから、再度操作してください。

## ● エラーメッセージバッファの内容が表示されない

「アクション」画面で、エラーメッセージバッファの内容が表示されない場合があります。しばらく時間をおいてから、再度操作してください。

## ● ServerView の起動に問題が発生した

ServerView の起動に問題が発生した場合は、ServerView ディレクトリの「CTTxxxx.tmp」(xxxx = 0000 ~ FFFF) ファイルを削除してください。

## ● デバイスの表示ができない

外部記憶装置のアダプタ名「Adaptec/DPT SCSI Raid 3200 Controller」を選択して「デバイスの表示」を行う場合は、各スロットの表示を確認してください。  
「デバイスの表示」画面の「アダプタ上のシステムドライバ」の表示は、サポートしていません。

## ● ServerView でのリビルドの状況が表示されない

RAID0+1 構成において、ServerView でのリビルド状況は表示されません（0% 表示）。RAIDmanager を使用して確認してください（StorageManager）。

## ● [システム識別灯表示] が表示されない

監視対象とする機種が以下の機種の場合には、システム識別灯はありません。

PRIMERGY BX600	PRIMERGY ECONEL 30	PRIMERGY C150
PRIMERGY BX660	PRIMERGY ECONEL 40	PRIMERGY RX800
PRIMERGY BX620 S2	PRIMERGY ECONEL 100	
PRIMERGY BX620 S3	PRIMERGY ECONEL 100 S2	
PRIMERGY BX620 S4		

### 監視対象機種が上記の機種以外の場合

以下の手順でエージェントを再起動することにより、[システム識別灯表示] が表示されるようになります。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Service」の順にクリックします。  
「Restart Services」画面が表示されます。

- 2** [Restart] をクリックします。
- 3** 再起動が完了すると「Restart Services completed successfully!」と表示されるので、[Exit] をクリックしてください。

### ☞ 重要

- ▶ 通常は「Restart ServerView Base Services」を起動しないでください。

### ● GAM クライアントの二重起動

SCSI アレイコントローラカード (PG-142E) の GAM クライアントを開いている状態で、ServerView S2 から GAM クライアントを開こうとした（外部記憶装置画面の【設定】をクリック）場合、次のメッセージが表示されます。動作に問題はありませんので、本メッセージウィンドウを閉じてください。

Can't write Profile for error #123

- 意味：ファイル名、ディレクトリ名、またはボリュームラベルの構文が間違っています。

### ● 電圧／環境グループのステータスアイコンが正常にも関わらず、個々の電圧センサや温度センサのステータスが異常（電圧：下限を超えています／上限を超えています、温度：黄／赤）を示すことがある

電圧／温度センサ値が、異常値から正常値（しきい値内）に復帰した場合でも、ある一定値以内に戻るまでセンサのステータスはそのまま異常状態を表示し続けます。これは、しきい値付近で電圧／温度値が遷移した場合に、頻繁に電圧／温度異常イベントや、電圧／温度正常イベントが頻発するのを防ぐための処置です（一般的にこの一定値をヒステリシスと呼びます）。

一方、電圧／環境グループのアイコンは、電圧／温度センサ値がしきい値内であれば、ヒステリシスに関係なく正常アイコンを表示するため、このような現象が発生します。

本現象が起きた場合、電圧／温度値は正常のため特に問題ありません。

## ■ ServerView S2 の留意事項

### ● ServerView S2 の終了操作について

ServerView S2 を終了するときは、開いているすべての ServerView S2 画面を終了してください。

### ● メモリモジュールのマルチビットエラーについて

メモリモジュールでマルチビットエラー (UnCorrectable) が発生した場合、発生した場所、タイミングによっては OS が動作できなくなるため、エラーが報告されない場合があります。

### ● ハードディスクキャビネットに対するアクション設定について

ハードディスクキャビネットに対するファン、および温度センサ異常時のアクション設定は無効です。

## ● UPS (無停電電源装置) 監視について

高機能無停電電源装置 (NetpowerProtect シリーズ) の監視において、UPS 装置管理に使用している管理ソフトウェア (NetpowerView F) のバージョンが V4.8 以前の場合、以下のことに注意してください。

- UPS Configuration で UPS 接続設定を行うと、電源ウィンドウ中に UPS の図が表示されますが、正常状態においても、電源ケーブルが常に赤色（異常）表示となります。
- UPS の状態は、UPS 装置に添付されている管理ソフトウェア (NetpowerView F) で確認してください。

## ● 「アクション」画面について

再起動オプションで、「リスタート」または「シャットダウン & Off」を選択し、「0 分」（即時にシャットダウン）を指定した場合、直後に Abort Shutdown を実行しても無効になります。

## ● WOL (Wakeup On LAN) 機能について

WOL (Wakeup On LAN) 機能によって、クライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を入れた場合、「アクション」画面内の「電源投入要因」が「N/A」表示になる場合があります。

## ● 「オペレーティングシステム」画面について

OS が Windows の場合、「オペレーティングシステム」画面の「グローバル情報」の「現在のセッション」と「ピークセッション」は未サポートです。

## ● 「ASR のプロパティ」画面での操作について

「ファン」設定において、任意の「ファン」を選択し、「シャットダウン - 電源断」を指定する場合、すべての有効なファンについて設定を行ってください。

## ● ServerView のステータスアイコン表示について

以下の条件をすべて満たすとき、ステータスアイコンが故障状態になる場合があります。

- 監視対象サーバにおいて
- OS の起動時
- ServerView 監視プログラムがすべて起動するまでの間

監視対象サーバが正常な場合、ServerView 監視プログラムがすべて起動されると、アイコンは正常に表示されます。

## ● 「外部記憶装置」画面について

- 「接続スロットアダプタ」が正常に表示されない場合があります。しばらく時間をおいてから、画面を再表示してください。
- 「接続されたデバイス数」が正しく表示されない場合があります。「デバイスの表示」画面で、「接続されたデバイス数」を確認してください。

## A.3 アラームサービスのトラブルシューティング

### ■ アラームサービスに関する Q&A

#### ● Microsoft の Virtual Machine 以外の VM と共存しても大丈夫ですか？

Microsoft Virtual Machine（バージョン 5.0.3309 以上）と他の Virtual Machine（たとえば、Sun Java VM）が同じマシンに共存していても、ServerView は正常に動作します。

#### ● プロキシを使用したい場合、例外に「localhost」を登録してもアラームサービスは正常動作しますか？

「localhost」を指定してもシステムによっては正常動作します。ただし、自マシンの IP アドレスを入力するようにしてください。

#### ● メール送信テストのエラーコードはどんな意味ですか？

AlarmService でメール送信テストを行い、エラー復帰した場合は、以下を参照してください。復帰エラーコードが以下以外の場合は、弊社にお問い合わせください。

表：送信テストでのエラー

エラーコード	内容
1:	SMTP server error
2:	Mail server error, wrong from or to address ?
4001:	Malloc failed (possibly out of memory).
4002:	Error sending data.
4003	Error initializing gensock.dll.
4004:	Version not supported.
4005:	The winsock version specified by gensock is not supported by this winsock.dll.
4006:	Network not ready.
4007:	Can't resolve (mailserver) hostname.
4008:	Can't create a socket (too many simultaneous links?)
4009:	Error reading socket.
4010:	Not a socket.
4011:	Busy.
4012:	Error closing socket.
4013:	Wait a bit (possible timeout).
4014:	Can't resolve service.
4015:	Can't connect to mailserver (timed out if winsock.dll error 10060)
4016:	Connection to mailserver was dropped.
4017:	Mail server refused connection

#### ● ServerView S2 をアンインストールする前にアラーム設定を退避できますか？

アラーム設定の退避、復元はサポートしていません。

アンインストールする前にアラーム設定を控えておいてください。

再インストール後、アラーム設定を設定してください。

## ● 特定の重要度のアラームのみをポップアップ通知するように設定できますか？

アラームの重要度に応じて、ポップアップ通知するように設定できます。

以下は「危険」のアラームのみをポップアップ通知するための設定例を記述しています。

この設定を行うと、アラームの重要度が「重度」、「軽度」、「情報」、「不明」の場合にはポップアップ通知は行われません。

各設定画面の詳しい説明は、「3.5.3 アラーム設定の起動と操作の流れ」（→ P.152）、または「3.5.6 アラーム設定（共通設定）」（→ P.175）を参照してください。

- 1** ServerView S2 のメニューから「イベント管理」→「アラーム設定」をクリックします。
- 2** 画面左のツリーから「共通設定」を選択します。
- 3** 「管理サーバにメッセージを表示する」のチェックを外し、[適用] をクリックします。
- 4** 画面左のツリーから「アラームルールの管理」を選択します。
- 5** [追加] をクリックしアラームルール名を入力し、[OK] をクリックします。
- 6** [適用] をクリックし [次へ] をクリックします。  
「サーバの割り当て」画面が表示されます。
- 7** サーバリストからサーバを選択し、[>] をクリックします。
- 8** [適用] をクリックし [次へ] をクリックします。  
「アラームの割り当て」画面が表示されます。
- 9** 「アラーム一覧絞込み規則」から「重要度」を選択し、プルダウンメニューから「危険」を選択し、[>>] をクリックします。
- 10** [適用] をクリックし [次へ] をクリックします。  
「アクションの割り当て」画面が表示されます。
- 11** 「ポップアップ」を選択し、「>」をクリックします。
- 12** [適用] をクリックし、画面左のツリー表示から「アラームルールの管理」を選択します。
- 13** 作成したアラームルールを選択し、「有効」にチェックを付け、[適用] をクリックします。

以上で、設定は完了です。

## ■ アラームサービスのトラブルシューティング

### ● アラームサービスが起動しない

以下の場合にアラームサービスが起動できなくなります。

#### コンピュータ名またはIPアドレスを変更した場合

アラームサービスをインストール後に、システムのコンピュータ名またはIPアドレスを変更した場合、アラームサービスは正しく動作しません。

「スタート」ボタンから「Change Computer Details」を実行してください（「2.4.6 インストール後のコンピュータ情報変更」（→ P.75）参照）。

#### プロキシサーバを設定している場合

Webブラウザでプロキシサーバを使用する設定になっている場合、アラームサービスの画面が表示されない場合があります。管理用のサーバまたは管理端末では、自分自身への接続にプロキシサーバを使用しないよう、Webブラウザの設定で「例外」にIPアドレスを登録してください。

#### LANを接続しない状態でアラームサービスをインストールした場合（Windows Server 2003の場合のみ）

以下の手順を行ってください。

- 1** サーバのLANを接続します。
- 2** サーバのIPアドレスを設定します。
- 3** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ChangeComputerDetails」の順にクリックし、新しいコンピュータ情報を設定します。
- 4** サーバを再起動します。

### ● テストトラップがタイムアウトになってしまふ

テストトラップがタイムアウトした場合、以下の設定を確認してください。

#### ServerViewコンソール（Windows／Linux）をインストールしたサーバ、またはパソコンの確認項目

##### < Windows／Linux 共通 >

- タイムアウト時間が短い  
ネットワークの状態によっては、デフォルトのタイムアウト時間では短い場合が考えられます。ネットワーク環境を確認した上で、タイムアウト時間を延ばしてください。  
タイムアウト時間設定については、「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」（→ P.93）－「[ネットワーク／SNMP] タブ」のタイムアウト値を参照してください。

- アラームモニタの「除外アラーム一覧」において、テストトラップが除外されていませんか？

除外されている場合、[除外アラーム一覧] より、「Test trap」(テストトラップ) を選択後、[削除] をクリックして消してください。アラーム除外設定の詳細については、「3.5.2 アラームモニタ」(→ P.145) – 「■ アラームの除外／除外一覧」(→ P.148) を参照してください。

#### < Windows >

- ファイアウォールにより、SNMP トラップ受信ポート (udp 162 番) が遮断されていませんか？

遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。

ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルを参照してください。

- 「Fujitsu ServerView Services」および、「SNMP Trap Service」が停止していませんか？  
停止している場合は、サービスを起動してください。

また、停止していなくても、異常な状態になっている可能性が考えられますので、サービスを再起動してください。起動方法については、「3.9 ServerView コンソールのシステムサービス」(→ P.218) を参照してください。

- Systemwalker がインストールされていませんか？

Systemwalker がインストールされている場合、SNMP トラップが受信できない場合があります。この場合は、コマンドプロンプトで、以下のコマンドを実行してください。

```
> mpmsts ON
```

なお、コマンドの場所については、ファイル検索を行うか、Systemwalker のマニュアルを参照してください。また、コマンドの詳細については、Systemwalker のマニュアルを参照してください。

#### < Linux >

- ファイアウォールにより、SNMP トラップ受信ポート (udp 162 番) が遮断されていませんか？

遮断されている場合は、遮断解除設定を行ってください。

ファイアウォールの詳細については、インストールしているファイアウォールソフトウェアのマニュアルを参照してください。なお、OS 標準のファイアウォールとしては、iptables, tcpwrapper などがあります。

- 「sv\_fwdserver (アラームサービス)」および、「snmptrapd」が停止していませんか？  
停止している場合は、サービスを起動してください。

また、停止していなくても、異常な状態になっている可能性が考えられますので、サービスを再起動してください。起動方法については、「3.9 ServerView コンソールのシステムサービス」(→ P.218) を参照してください。

## 監視対象サーバ（Windows）の確認項目

- SNMP サービスのセキュリティ設定において、ご使用のコミュニティに対する権利が、以下の設定になっていることを確認してください。
  - Windows Server 2008 / Windows Server 2003 / Windows XP の場合  
「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」
  - Windows 2000 Server の場合  
「READ\_WRITE」または「READ\_CREATE」  
詳細については、『ServerView ユーザーズガイド（Windows エージェント編）』の「2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」を参照してください。
- SNMP サービスのトラップ送信先設定に、ServerView コンソールがインストールされているサーバまたはパソコンの IP アドレスが設定されていますか？  
設定されていない場合は、設定を行ってください。  
詳細については、『ServerView ユーザーズガイド（Windows エージェント編）』の「2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」を参照してください。

## 監視対象サーバ（Linux）の確認項目

- snmpd.conf の snmp アクセス設定において、write が許可されていますか？  
snmpd.conf 内の「access」行の write 権限設定を確認してください。  
例) access 行の write 部分に view 行で設定している「svView」が設定されていること

```
# name incl/excl subtree mask(optional)
view svView included .1

#       group      context sec.model sec.level prefix read     write    notif
access svGroup   ""        any        noauth    exact    svView svView none
                                ↑ この部分
```

- snmpd.conf の トラップ送信先設定に、ServerView コンソールがインストールされているサーバまたはパソコンの IP アドレスが設定されていますか？  
設定されていない場合は、設定を行ってください。  
詳細については、『ServerView ユーザーズガイド（Linux エージェント編）』 - 「2.4.5 SNMP 設定の変更」 - 「■ トラップ送信先の変更」を参照してください。

### ● アラームモニタが自動更新されない

自動更新がチェックされているか確認してください。  
また、チェックされているにもかかわらず、アラームモニタの画面が更新されない場合は、アラームモニタを再起動、またはブラウザの更新機能で再読み込みを行ってください。

## ■ アラームサービスの留意事項

### ● アラームの削除について

「共通設定」画面で、指定した経過日数以上のアラームを削除するように設定できますが、この削除は指定日数経過後、新たにアラームを受信したときに実行されます。

## ● ウィンドウの操作について

各画面において、[画面の最大化]、[標準に戻す] を操作しないでください。画面が乱れる場合があります。乱れが生じた場合には、その画面を閉じて再度起動してください。

## ● メール転送について

MAPI によるメール転送はサポートしていません。

## ● 処理中の画面を終了するときの注意

処理中の画面（たとえば、アラームモニタで多くのアラームを削除するような処理を行った場合など）は、処理が完全に終了するまで画面を終了しないでください。

処理が完全に終了する前に画面を終了すると、処理が中止され正常に動作しません。

## ● RomPilot トランプについて

RomPilot トランプに関するアラームにおいて、MAC アドレスが正しく表示されない場合があります。

## ● イベントログ格納

以下のすべての条件にあてはまる場合に、アラームが発生し続けることがあります。

- システムに ServerView S2 がインストールされている場合
- 自サーバを監視対象としている場合
- アラームの設定において、以下のいずれかの設定となっている場合
  - ・「共通設定」画面の「重要度の選択」で「A) OS のイベントログに書き込む」のいずれかの重要度が有効
  - ・アラームルール設定で、自サーバからのアラームに対するアクションとして「イベントログ」が有効

アラームの設定において、上記設定を無効にすることで回避できます。

## ● AC 切断／投入時のアラームについて

AC 切断／投入（UPS によるスケジュール運転を含む）によるシステム起動で、メッセージが表示されたり、イベントログ（エラー）が格納されたりする場合があります。システム動作には影響ありません。

表示されるメッセージは、以下のとおりです。

```
Alarm received from server ServerName
An error was recorded on server ServerName.
See server management event / error log
(Recovery)
for detailed information
```

格納されるイベントログは、以下のとおりです（ソース：ServerView Server Control）。

```
An error was recorded on server N400. See server
management event / error log (Recovery) for
detailed
information.
```

## ● ブロードキャスト転送について (Windows Server 2003 / Windows 2000 Server / Windows XP の場合)

ご使用の Windows Messenger サービスの問題により、ブロードキャスト転送が正しく実行されない場合があります。

このサービスが正しく動作しているかどうかをテストするためには、コマンドプロンプトを開いて、以下のコマンドを実行してください。

- ドメインの全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send * <message>
または
net send /domain:<yourdomain> <message>
```

- セッション中の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send /users <message>
```

- 特定の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send <user> <message>
```

これらのテストが 1 つでも失敗した場合は、ネットワークを確認してください。

### 重要

- テスト結果のメッセージが正常終了であった場合でも、ドメインのアドミニストレータに対する「net send」は常に動作しないように見えます。

## ● アラーム転送の転送モードについて

アラーム転送の転送モードは、「通常」と「パススルー」の 2 種類が指定できます。

「パススルー」指定時は、転送先のアラームモニタには、転送したアラームタイプが表示されます。

## ■ 認証についてのメッセージ「Unauthorized message received」について

認証メッセージ「Unauthorized message received」は、サーバ上の SNMP サービスが「許可されていないアクセス」を受けたことを表しています。

SNMP サービスは「許可されていないアクセス」を受けたことを SNMP トランプによって通知します。このトランプは通常の SNMP トランプと同様に処理されます。

ServerView S2 でこのトランプが受信された場合は、イベントログ /syslog に「Unauthorized message received」が記録されます。

## ● SNMP サービスのアクセス許可について

SNMP サービスのアクセス許可に関しては以下の 2 つの要因があります。

- IP アドレス、またはホスト名
- SNMP コミュニティ名

アクセス許可／不許可は以下のようになります。

- アクセス許可  
「許可された IP アドレス、またはホスト」からのアクセスであり、かつ「許可されたコミュニティ名」によるアクセス
  - アクセス不許可  
「許可されていない IP アドレス、またはホスト」もしくは「許可されていないコミュニティ名」によるアクセス
- 以下はアクセス許可設定のデフォルト値の詳細です。

表：アクセス許可設定のデフォルト値

項目	Windows	Linux
確認する箇所	SNMP サービスのプロパティの「セキュリティ」タブ	/etc/snmp/snmpd.conf の「com2sec」行
IP アドレス	「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」 (すべての IP アドレス／ホストからのアクセスを許可)	「localhost」と「default」
SNMP コミュニティ名	「public」	「public」

SNMP 管理ソフトウェアは、SNMP コミュニティ名にデフォルト値「public」を使用してアクセスします。SNMP サービスの設定を以下のように変更すると、認証メッセージが表示される可能性が高くなります。

- 特定の IP アドレスからのアクセスのみを許可する
- 「public」以外の SNMP コミュニティ名によるアクセスのみを許可する

## A.4 その他

---

### ■ 一般的な Q&A

#### ● 「Fujitsu Server Control」って何ですか？

ServerView Windows エージェント、または RAS 支援サービスをインストールすると、同時にインストールされるソフトウェアです。ServerView および RAS 支援サービスを正しく操作するためには、「Fujitsu Server Control」が必要です。

ServerView Windows エージェントのアンインストールでは、初期状態で「Fujitsu Server Control」がインストールされていた場合、アンインストール処理後に、「Fujitsu Server Control」を再インストールしています。これは RAS 支援サービスで「Fujitsu Server Control」が必要となるためです。

#### ● 「ServerView Server Control Service」って何ですか？

「Fujitsu Server Control」をインストールしたときに、インストールされるサービスです。

## ● Systemwalker と共に存させる場合、Systemwalker を先にインストールする必要があるですか？

どちらが先にインストールされても問題はありません。ただし、同一マシン上に Systemwalker と ServerView を共存させる場合には、コマンドプロンプトで MPMSTS ON を実行してください。実行しない場合は、Systemwalker と ServerView とともに、そのマシン上でトラップを受信できなくなります。

## ● ServerView をインストールすると、C:\Winnt\Temp 内に「svtmpdir」というフォルダが作成されますが、これをインストールしたあとに消すことは可能ですか？

当フォルダにはデバック情報ファイルが格納されます。

当フォルダを削除しても問題ありませんが、システム（Fujitsu ServerView Service）を再起動すると、当フォルダは再作成されます。

## ● ServerView S2 から監視できるサーバの数は何台ですか？

インストールされているデータベースにより監視できるサーバの数が異なります。

「MSDE 2000」、または「Microsoft SQL Server 2005 Express」がインストールされている場合、500 台以下のサーバを監視するのに適しています。

「Microsoft SQL Server 2000」、または「Microsoft SQL Server 2005」がインストールされている場合、監視できるサーバの数に制限はありません。

ServerView S2 は、サーバを監視する際、SNMP サービスを使用して情報を採取しています。そのため、監視対象サーバの台数が増加すると、それに応じてネットワークの負荷が大きくなります。

## ● SMM（サーバモニタモジュール）をサポートしていますか？

サポートしていません。

ServerView がインストールされるサーバには、SMM を搭載することはできません。

ServerView では、リモートサービスボード（RSB）は連携して、SMM と同等の機能を実現できます。

## ● ServerView S2 をインストールすると、At\*（ID 番号）の名前で登録されるタスクは何の役割をしていますか？

WebServer に ServerView Web-Server を選択して ServerView S2 のインストールを行った場合、タスクスケジューラに At\*（ID 番号）の名前でタスクが登録されます。

このタスクでは、WebServer のログファイルの肥大化を抑止しています。

タスクのスケジューラを無効にする場合には、定期的に以下のファイルサイズに注意してください。

[システム ドライブ] :\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services  
  \WebServer\logs\access.log

## ■ Systemwalker 連携のトラブルシューティング

Systemwalker/CentricMGR 連携を行うために SNMP トランプル変換ファイルを登録したときに、以下のメッセージが表示されることがあります。この場合は、Windows ディレクトリに保存されているログファイル（例：C:\WINNT\F5FBSW01.log）を添えて、システムエンジニア(SE) にご連絡ください。

表：Systemwalker 連携のエラーメッセージ

エラーコード	エラーメッセージ／解説	対処
2006	error detected in CNSetCnfMg.exe(Systemwalker). Systemwalker のコマンド (CNSetCnfMg.exe) でエラーが発生しました。	システムエンジニア(SE) に連絡してください。
2008	fail to launch CNSetCnfMg.exe(Systemwalker) Systemwalker のコマンド (CNSetCnfMg.exe) の起動に失敗しました。Systemwalker がインストールされているフォルダに、CNSetCnfMg.exe が存在するか確認してください。	
上記以外	上記以外のエラーメッセージ	

## ■ ブラウザのトラブルシューティング

ブラウザは常に正常に動作するとは限りません。多数の原因が考えられ、その影響もさまざまです。

### ● ServerView により、現在電源が入っているコンピュータしか検出されない

Microsoft Windows ネットワークの走査中に一部のネットワーク情報が検出されないことがあります。

この現象は、ネットワーク情報を取得するために Windows が使用している方法（ブロードキャスト方法の使用）により発生します。

- セキュリティポリシーの設定により、ドメインにアクセスできない
- ドメインサーバにアクセスできないために、ドメインにアクセスできない
- 他のネットワークシステム（NetWare サービスなど）がアクセスできない

タイムアウトの期限を超えたあと、ブラウザ操作がキャンセルされます。ただし、これには数分かかることがあります。

### ● ブラウザが完全に失敗し、ブラウザウィンドウを数分間ブロックしている

ブラウザウィンドウがブロックされたり、ブラウザ処理中に ServerView アプリケーション全体がブロックされたりすることがあります。この現象は、Windows NT ドメインに問題がある場合や、ネットワークパフォーマンスが非常に悪い場合に発生します。

この場合は、そのブラウザ機能を使用しないでください。

## ● IP アドレスに対するコンピュータ名の解決に時間がかかる

ログインコンピュータで Windows Internet Name Services (WINS) または Domain Name System (DNS) が正しくセットアップされていない可能性があります。プライマリ WINS サーバやセカンダリ WINS サーバのアドレス、または DNS サーバのアドレスが有効でない可能性があります。WINS プロトコルが正しく起動されていない場合、IP アドレス解決では非常に低速の名前クエリブロードキャストが使用されます。WINS や DNS は、ネットワーク設定の TCP/IP プロパティで設定できます。

## ● IP アドレスが見つからなかった

以下のようないくつかの原因が考えられます。

- ・ リモートコンピュータに TCP/IP がインストールされていない。
- ・ ログインしているコンピュータで WINS が有効でない。
- ・ LAN に WINS サーバ、DNS 情報、または LMHOSTS ファイルがない。
- ・ WINS データベースが更新されていない。

## ● WINS、DNS、またはいずれかの LMHOSTS ファイルを用いてアドレスを解決できなかった

名前クエリブロードキャストが使用中です。このブロードキャストは、たとえばドメインのルータによって名前クエリブロードキャストが送信されない場合に、ネットワークトポジやパフォーマンスの問題により失敗することがあります。

# ■ 全般的な留意事項

## ● アンインストール時の注意

アンインストール中にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、システム動作に問題はありません。

## ● ログファイル

ServerView をインストールすると、ログ情報格納フォルダ（「C:\svtmpdir」、「C:\winnt\Temp\svtmpdir」など）が作成されます。

ログ情報は正常動作時にも作成／更新されます。ディスクの空き容量が少なくなった場合などに、ログ情報を削除することができます。

ログ情報の削除は、ServerView を終了し、サービス画面から Fujitsu ServerView Service を停止してから行ってください。Fujitsu ServerView Service を停止時にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、システム動作に問題はありません。

## ● ServerView Web-Server と SSL について

インストール時に Web サーバとして ServerView WebServer を選択し、「SSL と認証を有効にする」を有効にした場合、ServerView Web-Server とともに ModSSL と OpenSSL がインストールされます。この場合、URL として「http:」の代わりに「https:」、ポート番号として「3169」の代わりに「3170」を使用することで SSL 接続が可能になります。SSL を使用するには、セキュリティ証明書を取得する必要があります。デフォルトでインストールされるセキュリティ証明書はテスト目的に限定して使用してください。

詳しい情報は、以下の OpenSSL のサイト (<http://www.openssl.org/>) を参照してください。また、SSL を使用した URL は、接続時に認証が求められるようになります。ユーザを追加するには、以下の操作を行ってください。

**1 コマンドプロンプトから、以下の 2 つのコマンドを続けて実行します。**

```
cd "[システムドライブ] :\Program Files\Fujitsu\¥F5fbfe01\ServerView Services\¥WebServer\¥bin"
htpasswd passwd <ユーザ名>
```

**2 新しいパスワードを入力します。**

```
Automatically using MD5 format on Windows.
New password:
```

**3 確認のため、再度パスワードを入力します。**

```
Re-type new password:
```

パスワードが一致した場合、以下のメッセージが表示され、ユーザが追加されます。

```
Adding password for user <ユーザ名>
```

以下のメッセージが表示された場合は、パスワードが間違っています。コマンドの実行からやりなおしてください。

```
htpasswd: password verification error
```

ユーザを削除するには、以下のファイルをテキストエディタで開き、削除したいユーザ名が含まれる行を削除してください。

```
[システムドライブ] :\Program Files\Fujitsu\¥F5fbfe01\ServerView Services\¥WebServer\¥bin\passwd
```

デフォルトでは、ユーザは「admin」、パスワードは「admin」が設定されています。安全のため、このユーザを削除して、独自のユーザを追加してください。

### ● BootRetryCounter について

異常によるシャットダウン処理が発生した場合、正常に起動しても、「再起動リトライ回数の最大値」は減ったままで、自動的には回復しません。

この値を回復するには、以下の手順を行ってください。

**1 ServerView で該当するサーバを選択します。**

**2 右クリックし、「ASR のプロパティ」をクリックします。**

「ASR のプロパティ」画面が表示されます。

**3 [再起動設定] タブをクリックします。**

**4 「再起動リトライ回数の最大値」の右側にある [デフォルト] をクリックします。**

該当サーバへ一度もログイン作業を行っていない場合、ログインが要求されます。

## ● UPS 使用時の注意事項

UPS による復電またはスケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるために、サーバ本体に BIOS 設定が必要です。

サーバ本体の BIOS 設定については、サーバ本体の『ユーザーズガイド』を参照してください。

## ● Windows 起動時に、SWITCH: TIMEOUT のエラーがイベントビューアに記録される

Windows 起動時、イベントビューアのアプリケーションログ内に以下のエラーが記録されることがあります。

```
イベントの種類: エラー  
イベント ソース: Server Control  
イベント カテゴリ: なし  
イベント ID: 0  
説明: SWITCH: TIMEOUT - extension module EM_xxx did not start  
within yyy seconds.
```

以下の手順で ServerView Windows エージェントを再起動するか、Windows の再起動を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Services」の順にクリックします。
- 2 「Search for management hardware」を有効にして、[Restart] をクリックします。

### 重要

- ▶ 通常は「Restart ServerView Base Services」を起動しないでください。

# B アイコンリスト

各画面に表示されるアイコンのリストとその意味について説明します。

アイコンは、1つまたは複数のオブジェクトのステータスやその変化が一目でわかるように表示されます。

## B.1 Server List

Server List ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：Server List ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	すべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	1つまたは1つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	1つまたは1つ以上のコンポーネントでエラーが発生しています。
	サーバが反応せず、管理不可能です。
	リモートマネジメントコントローラで管理可能です。
	リモートマネジメントコントローラで管理可能ですが、1つまたは1つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	リモートマネジメントコントローラで管理可能ですが、1つまたは1つ以上のコンポーネントエラーが発生しています。
	リモートマネジメントコントローラからの応答がない、またはユーザ名／パスワードの不正により管理不可能です。
	リモートマネジメントコントローラにアクセスできません。リモートマネジメントコントローラがネットワークに接続されているか確認してください。
	サーバにアクセスできません。サーバがネットワークに接続されているか、またはサーバがServerViewに正しく設定されているかを確認してください。
	未サポートです。
	サーバ状況を調査中です。
	TCP/IPプロトコルによるサーバ通信が可能です。
	ServerViewエージェントは応答していませんが、標準-SNMPが応答している状態です。
	アーカイブデータが作成されています。

表 : Server List ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータス（すべてのブレードのステータス）は正常です。
	ブレードサーバのステータスを調査中です。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも1つのブレードのステータス）が悪化しています。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも1つのブレードのステータス）でエラーが発生しています。
	ブレードサーバが応答せず、管理不可能です。
	ブレードサーバにアクセスできません。

## B.2 ServerView メニュー

ServerView メニューに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

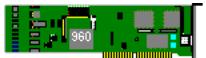
表 : ServerView メニューに表示されるアイコンのリスト

アイコン	意味
	メモリモジュール
	温度（赤色：危険、緑色：稼働中、黄色：スタンバイ状態、青色：センサが故障、灰色：不明）
	ファン（赤色：故障、緑色：稼働中、黄色：スタンバイ状態、灰色：不明）
	サーバのドアが閉じられている
	サーバのドアが開いている
	サーバのケースが閉じられている
	サーバのケースが開いている

## B.3 Mylex の Device View ウィンドウ

Device View ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表 : Device View ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	Mylex コントローラ
MB または GB の能力	Mylex 赤色の文字 : 停止中 黄色の文字 : スタンバイモード 緑色の文字 : OK で稼働中 赤紫色の文字 : S.M.A.R.T. が故障 青色の文字 : 不明な状態または再構築状態
	ホスト

## B.4 DPT Disk Array Devices ウィンドウ

DPT Disk Array Devices ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表 : DPT Disk Array Devices ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	ステータス : 最適 (緑色)
	ステータス : 調査、警告、ステータス悪化、再構築、調査終了 (黄色)
	ステータス : エラー、デバイスのフォーマット中、デバイスのセットアップ中 (赤色)
	ステータス : 無効、欠落、セットアップされていない、消去済み (青色)

## B.5 ネットワークインターフェースウィンドウ

ネットワークインターフェースウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：ネットワークインターフェースウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	イーサネットネットワークカード
	ファストイーサネットネットワークカード
	イーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)
	ファストイーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)
	トークンリングネットワークカード
	FDDI ネットワークカード
	統計情報の入力
	統計情報の出力

## B.6 バスとアダプタウィンドウ

バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	システムボード上のスロットの位置：スロット 1 が一番下
	システムボード上のスロットの位置：スロット 1 が一番上
	選択レベルの分岐が開いている
	選択レベルの分岐が閉じられている
	最低位置の選択レベル、これ以上選択できない

## B.7 アラームモニタ画面

アラームモニタ画面に表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：アラームモニタ画面に表示されるアイコン

アイコン	意味
	赤色のアラーム：危険
	ピンク色のアラーム：重度
	黄色のアラーム：軽度
	青色のアラーム：情報
	白色のアラーム：不明
	ユーザのエントリによりアラームは確定済みである。
	このアラームにより、ほかの実行可能プログラムが起動された。
	このアラームに対してブロードキャストメッセージが送信された。
	このアラームに対してメールが送信された。
	このアラームにより、ポケットベル呼び出しが起動された（未サポート）。
	このアラームは、マネージャまたは管理ステーションに送信される。
	このアラームは、ローカル NT イベントログに送信される。
	緑色：転送を確認。
	黄色：転送を完了。
	赤色：転送あり（まだ動作中）。

## B.8 ブレードサーバのステータス

ブレードサーバのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

表：ブレードサーバのステータスアイコン

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータス（すべてのブレードのステータス）は正常です。
	ブレードサーバのステータスを調査中です。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）が悪化しています。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）でエラーが発生しています。

表：ブレードサーバのステータスアイコン

アイコン	意味
	ブレードサーバが応答せず、管理不可能です。
	ブレードサーバにアクセスできません。

## ■ ブレードサーバのステータス LED

ブレードサーバのステータス LED アイコンとその意味は、以下のとおりです。

表：ブレードサーバのステータス LED アイコン

アイコン	意味
	点灯中
	消灯中
	点滅中 (システム異常を示します)

## ■ ブレードの種類

ブレードサーバ内の各ブレードの種類は、以下のとおりです。

表：ブレードサーバ内の各ブレード

アイコン	意味
	マネジメントブレード (マスター)
	マネジメントブレード (スレーブ)
	スイッチブレード
	ファイバチャネル パススルーブレード
	LAN パススルーブレード
	KVM ブレード
	ファイバチャネルスイッチブレード
	サーバブレード

## B.9 その他のアイコン

特定のウィンドウに対応付けられないアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：特定のウィンドウに対応付けられないアイコン

アイコン	意味
	CD/DVD ドライブ (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	CPU (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	ジューケボックス、自動 CD-ROM チェンジャー (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	MOD (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	プリンタ (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	スキャナ (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	テープドライブ装置 (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	WORM 装置 (Write Once Read Many) (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	ハードディスク (赤色：故障、緑色：OK)
	不明デバイス (赤色：エラー、緑色：オンライン、黄色：スタンバイ、青色：不明)
	初期設定、環境 [<サーバ>]、または電源 [<サーバ>]
	ネットワーク関連のすべてのウィンドウ： ネットワークインターフェース [<Server>]、トークンリング 統計情報 [<Server>]、イーサネット MAC 統計情報 [<Server>]、FDDI MAC 統計情報 [<Server>]
	外部記憶装置関連のすべてのウィンドウ： 外部記憶装置 [<Server>]、デバイスの表示 [<Server>]、外部記憶装置：パーティションビュー [<Server>]、外部記憶装置：ロジカルビュー [<Server>] Mylex ディスクアレイ ウィンドウ： デバイスピュー [<Server>]、アダプタビュー [<Server>]、物理デバイスピュー [<Server>]
	システム情報 (特に OS)
	ベースボード [<Server>]

## C トラブルリスト

トラブルは、SNMP エージェントから送信される SNMP Protocol Data Unit アラームです。これは、エラーメッセージや、選択したしきい値レベルを超えていために発生するステータスの変化など、予期しなかったイベントを管理ステーションに通知するためのものです。

アラーム設定の「共通設定」画面で、アラームの重要度（危険／重度／軽度／情報）ごとにログ／ポップアップの設定を選択できます。

「共通設定」画面の「重要度の選択」で設定を行います。

→「3.5.6 アラーム設定（共通設定）」（P.175）

- ログ
  - A) OS のイベントログに書き込む  
受信トラブルを OS イベントログに格納します。
- ポップアップ
  - B) アラームモニタを画面の最上位に表示する  
トラブル受信時にアラームモニタ画面を最上位に表示します。

ServerView が SNMP トラブルを受信したときに表示するメッセージ形式の一覧表については、『ServerView トラブルリスト』を参照してください。

トラブルは、カテゴリごとに分類され、カテゴリ内では Specific Code 順に分類されています。

AlarmService が受信格納したトラブルのイベントログは、以下のように記録されます。

### ■ Windows (OS イベントログ) の場合

- ソース名 : Fujitsu ServerView Service

また、格納したイベントログには、以下のメッセージが先頭に記録されます。

- ServerView received the following alarm from server <サーバ名>:

### ■ Linux (syslog (/var/log/messages)) の場合

- ソース名 : FSC ServerView Service
- フォーマット : 日付 ホスト名 FSC ServerView Service [プロセス ID] : (重要度) 詳細メッセージ  
例)

```
Sep 19 20:13:44 host01 FSC ServerView Service [32500]:(warning)
ServerView received the following alarm from Server host01: Station
reinitialized.
```

### ■ トラブル一覧

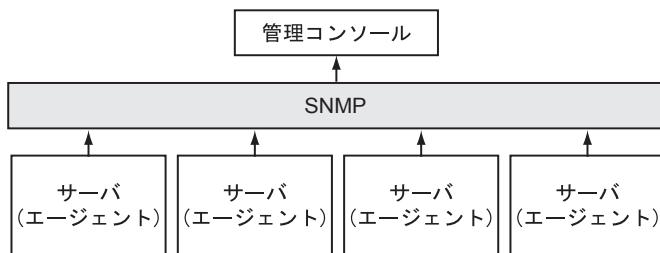
トラブル一覧の詳細は、『ServerView トラブルリスト』を参照してください。

# D 技術情報

ServerView を構成する各種技術について説明します。

## D.1 エージェントと ServerView コンソール

ネットワーク、システム、およびアプリケーションの管理は、ServerView S2、および Alarm Service を含んだ「ServerView コンソール」というソフトウェアパッケージを使って行います。ServerView コンソールは、ネットワークコンポーネントから提供される管理情報にアクセスできます。つまり、ネットワーク、システム、およびアプリケーションに関連する情報はすべて、ServerView コンソールによって提供されます。



ServerView コンソールとネットワークコンポーネントとの間で交換される情報は、以下の 2 つのカテゴリに分類することができます。

- ServerView コンソールがネットワークコンポーネントに送信するジョブ。たとえば、アクションの開始やシステム利用のクエリを実行する命令など。
- ネットワークコンポーネントから ServerView コンソールへ送信される自発的メッセージ。たとえば、コンポーネントのステータスを ServerView コンソールに通知するメッセージなど。

この管理情報のレイアウトと管理情報の交換規則を正式に定義する必要があります。この定義を管理プロトコルと呼びます。SNMP (Simple Network Management Protocol) が標準の管理プロトコルです。

ServerView コンソールでは、このプロトコルに基づいて通信できる監視対象ネットワークコンポーネント側に、同じような機能を持つものを必要とします。この ServerView コンソールと同様の機能を持っているものがエージェントです。エージェントは、ローカルのリソースとコンポーネントにアクセスでき、プロトコルを使用すると情報にもアクセスできます。この ServerView コンソールとエージェントとの相互関係は、ServerView コンソールとエージェントの原則とも呼ばれます。

エージェントは、OS 依存のソフトウェアで、ネットワークのサーバすべてにインストールする必要があります。エージェントには以下の特性があります。

- プログラムとしては、きわめて小さく効果的である必要がある。エージェントの存在がコンポーネントそのものに影響を与えないように、大量のシステムリソースの使用は許されていない。
- 標準機能として、ServerView コンソールと通信する基本的な機能を備えている。

- ServerView コンソールに対しては、影響を受けるネットワークコンポーネントとそれに関する特性の代理となる。
- ネットワークの管理コンセプトに簡単に統合できる。

## D.2 Management Information Base

ServerView コンソールとエージェントとの通信では、共通の管理プロトコルの実装が必要です。また、ServerView コンソールとそれに対応するエージェントは、どの情報の提供および要求が可能であるか、合意していかなければなりません。したがって、リソース監視用の管理モデルが一致している必要があります。

管理モデルが一致すると、ServerView コンソールからエージェントに送信されたジョブが、受信したエージェントによって実行できることも保証されます。逆に言えば、ServerView コンソールは、ネットワークの特定のイベントに関連しているエージェントからのメッセージを正しく解釈できる必要があります。

したがって、両方の通信相手が、自由に使用できる共通の情報ベースを持っている必要があります。この共通の情報ベースは、Management Information Base (MIB) とも呼ばれます。

ネットワークのどのエージェントも MIB を提供しています。その結果、MIB により該当するコンポーネントの抽象データモデルが構成されます。

MIB の特殊な面としては、エージェントが MIB から提供された特別なリソースとして動作し、MIB を使ってエージェントが自身を設定できるという側面があります。これは、たとえば、Fujitsu エージェントが個々の MIB オブジェクトのしきい値の監視に使用される場合に行われます。

MIB に含める値を記述するには、正式な記述言語である ASN.1 (Abstract Syntax Notation One) を使用します。ASN.1 は、国際標準規格 ISO 8824 および ISO 8825 で定義されています。

自分自身の担当範囲を認識するだけで済むエージェントとは反対に、ServerView コンソールでは、そのタスクを実行するために、ネットワーク全体の完全な情報ベースを必要とします。したがって、ネットワークでエージェントから提供されるすべての MIB ファイルが、ServerView コンソールシステムに存在する必要があります。

MIB 記述の以下の 2 つのカテゴリが、エージェントにとって重要です。

- 国際標準化委員会によって承認された標準 MIB ファイル。  
たとえば、このような標準 MIB ファイルの 1 つが「MIB II」ファイルであり、インターネットのあらゆるネットワークコンポーネントでその使用が義務づけられています。MIB II ではすでにシステムとルータの管理用の適切なデータモデルが規定されています。
- メーカ独自の拡張が含まれているプライベート MIB ファイル。  
通常、ネットワークコンポーネントの新製品を発売するメーカは、標準 MIB の適用範囲を超えた、コンポーネントの管理面を記述するプライベート MIB ファイルを規定しています。

## D.3 SNMP の基本原理

ServerView プログラムでは、Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用します。

SNMP は Internet Engineering Task Force (IETF) によって承認された標準プロトコルで、TCP/IP ネットワークの管理用に世界中で使用されています。

### ■ SNMP のデータ要素

MIB に含まれている情報の個々の部分は、MIB 独自のオブジェクトによって記述されます。各オブジェクトでは、世界中で一意のオブジェクト識別子を受け取ります。アクセスタイプも指定されます。

### ■ SNMP のプロトコル要素

情報はプロトコル要素を使用してネットワーク上を転送されます。SNMP では、管理情報に含まれている値の要求、設定、および表示に、4 つの異なるプロトコル要素を必要とします。5 つ目のプロトコル要素 (trap) を使用すると、エージェントは非同期で重要なイベントをレポートできます。

表 : SNMP のプロトコル要素

プロトコル要素	タイプ	機能
GetRequest PDU	0	ServerView コンソールからの MIB オブジェクト要求を読み込む
GetNextRequest PDU	1	ServerView コンソールからの以下の MIB 要求を読み込む (エンティティ ID 別)
GetResponse PDU	2	要求された値または設定された値が含まれている内容をエージェントから応答する
SetRequest PDU	3	ServerView コンソールからの MIB オブジェクトの要求を書き込む
Trap PDU	4	特別なイベント発生時の非同期メッセージ

SNMP メッセージは SNMP ヘッダと PDU (プロトコルデータ単位) で構成されます。ヘッダにはバージョン識別コードと認証チェック用のコミュニティストリングが含まれています。PDU そのものは、PDU タイプ (表を参照) と「変数のバインド」のリストです。変数のバインドとは、MIB オブジェクトに値を割り当てることです。このリストは、MIB オブジェクトの名前と割り当てる値で構成されます。

### ■ コミュニティ

コミュニティとは、SNMP を使用して相互通信する複数のシステム (ServerView コンソールとエージェント) を 1 つのグループにまとめたものです。グループは、グループ用のコミュニティストリングで一意に識別されます。同じコミュニティに属するシステムのみが相互に通信可能です。1 つのシステムが複数のコミュニティに属していることもあります。

ServerView コンソールとエージェントが相互通信する場合、このコミュニティストリングがパスワードのように使用されます。エージェントは、ServerView コンソールからコミュニティストリングを取得してからでなければ、エージェントシステムで情報提供はできません。この制限は、SNMP パケットごとに適用されます。

読み取り専用または読み書き可能など、実行可能なアクセスタイプは、MIB のオブジェクトごとに定義されます。ServerView コンソールのエージェント情報に対するアクセス権も、コミュニティストリングにバインドされます。コミュニティストリングにバインドされたアクセス権によって、MIB アクセスタイプをさらに制限できます。これらのアクセス権の拡張はできません。読み取り専用アクセス権をオブジェクトに定義するように MIB 定義で規定されている場合、コミュニティストリングが読み書きアクセス権にバインドされていたとしても、そのオブジェクトを読み書き可能で使用することはできません。

コミュニティストリングとアクセス権の使用方法を以下の例で説明します。

## ● 例

ある SNMP エージェントが、public という名前のコミュニティに属し、読み取り専用アクセス権を持っています。public コミュニティには ServerView コンソールも含まれていて、この ServerView コンソールは public コミュニティストリングを使用して対応するメッセージを送信することにより、この SNMP エージェントからの情報を要求できます。同時に、この SNMP エージェントは、net\_5 という名前の 2 つ目のコミュニティにも属しており、このコミュニティには読み書きアクセス権が関連付けられています。net\_5 コミュニティには、もう 1 つ ServerView コンソールが含まれています。この例では、2 つ目の ServerView コンソール、つまり net\_5 コミュニティの ServerView コンソールに、SNMP エージェントを介して書き込み操作を実行する権限が与えられます。

## ■ トラップ

特別なイベントがネットワークコンポーネントで発生した場合、SNMP エージェントは 1 つ以上の ServerView コンソールにメッセージを送信してそのイベントの発生を通知できます。このメッセージのことを SNMP ではトラップと呼んでいます。ServerView コンソールは、受け取ったトラップに基づいて、ネットワークで発生したイベントに対処できます。ServerView コンソールが SNMP トラップを受け取ったことは、コミュニティストリングでも表示されます。SNMP エージェントがトラップメッセージを ServerView コンソールに送信する場合には、ServerView コンソールがメッセージを受け取るために必要なトラップのコミュニティストリングを使用する必要があります。

ServerView トラップについては、「付録 C トラップリスト」(→ P.286) を参照してください。

## ■ Fujitsu サーバ管理

サーバ管理の背後には、ServerView コンソールがネットワークにあるサーバの管理情報にアクセスするという基本的な考え方があります。

この機能を実現するために、それに合わせてサーバのハードウェアとファームウェアが設計されています。

エージェントは既存情報にアクセスし、SNMP を使用して ServerView コンソールがその情報にアクセスできるようにします。

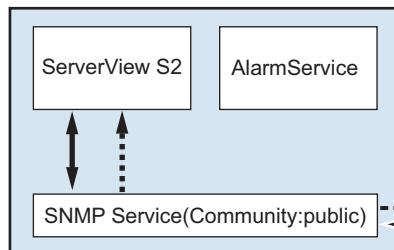
## ■ ServerView の構成

使用する OS により、サーバにインストールするコンポーネントが異なります。管理端末には ServerView Windows コンソールをインストールします。各図の破線部分は SNMP プロトコルによる通信です。

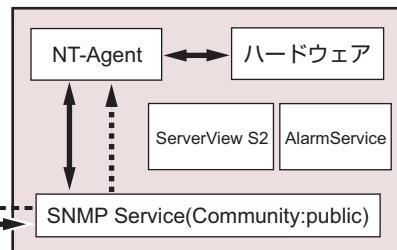
## ● Windows の場合

サーバに ServerView Windows エージェントをインストールします。

管理端末（コンソール）



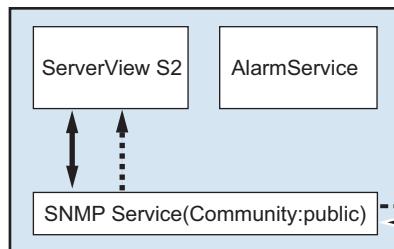
サーバ



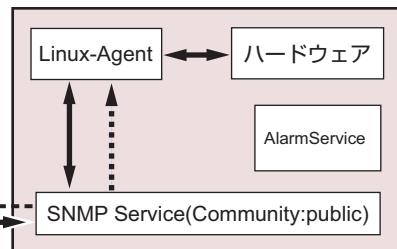
## ● Linux の場合

サーバに ServerView Linux エージェントと AlarmService をそれぞれインストールします。

管理端末（コンソール）



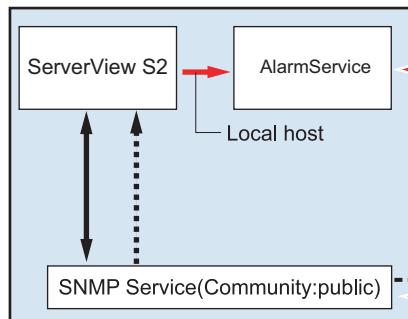
サーバ



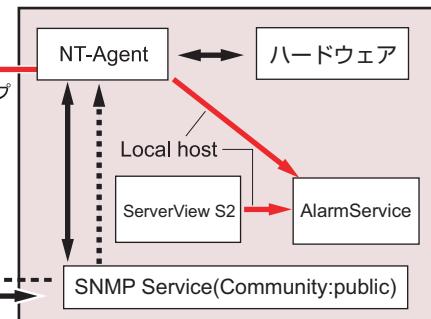
## ● トランプ送信について

トランプは、SNMP サービスのプロパティ設定によって設定された IP アドレスに送信されます。通常のトランプ送信では、サーバの NT-Agent のトランプをコンソールの AlarmService で受信します。コンソールで自分自身からのトランプを受信するためには localhost の設定が必要です。サーバの AlarmService で自分自身のトランプを受信する場合も localhost の設定が必要です。

管理端末（コンソール）



サーバ (Windows)



## ■ 監視機能

### ● ウォッチドッグ

ソフトウェアウォッチドッグにより、ServerView エージェントの機能が監視されます。

ServerView エージェントが BIOS に接続されると、ソフトウェアウォッチドッグが起動されます。

ServerView エージェントは、ウォッチドッグタイム設定により定義された間隔でサーバ管理ファームウェアに報告する必要があります。ServerView エージェントがサーバ管理ファームウェアへの報告を停止すると、システムが正常に実行していないと見なされ、その後、定義済みのアクション（再起動する、継続稼動する、または Off/On する）が起動されます。

時間間隔は、「待ち時間」において分単位で設定できます。時間の妥当性は、ServerView コンソールとエージェントで確認されます。指定できる最小時間は 1 分です。

設定可能な値は「1 ~ 120」分です。なお、「1 ~ 120」分以外が設定されている場合、

ServerView での表示は「N/A」となります。エージェントが停止すると（SNMP コマンドの net stop などによる）、ウォッチドッグが自動的に停止し、予定外の再起動が行われないようになります。

### ● 起動監視

ブートウォッチドッグにより、システムが起動してから、ServerView エージェントが利用可能になるまでの間隔が監視されます。ServerView エージェントにより、定義された期間内にサーバ管理ファームウェアとの接続が確立されないと、ブートアッププロセスが失敗したと見なされ、定義済みのアクション（再起動する、継続稼動する、または Off/On する）が起動されます。時間間隔は「待ち時間」において分単位で設定できます。設定可能な値は「1 ~ 120」分です。なお、「1 ~ 120」分以外が設定されている場合、ServerView での表示は「N/A」となります。

## D.4 アクセス権設定

ServerView S2 / AlarmService に対するアクセス権設定について説明します。

ServerView S2 / AlarmService は、Apache / IIS を利用した Web ブラウザベースのコンソールです。ServerView コンソールに対するアクセス権は、使用する WebServer の設定に依存します。

### ※ 重要

- ▶ ここでは、ServerView コンソールを使用する上での最小限の設定について説明しています。さらに詳細な設定が必要な場合は、各 WebServer のマニュアルを参照してください。

## ■ Apache についての設定（Linux）

Linux では、各ディストリビューションにより ServerRoot ／ DocumentRoot が異なります。以下では、Red Hat Enterprise Linux AS/ES v.4 を設定例として記述します。

### ● 接続ホストによるアクセス制限

この設定では、接続可能なホストを「192.168.0.2」のみに制限しています。設定ファイル「/etc/httpd/conf/httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "/var/www/cgi-bin/ServerView">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Directory>
<Directory "/var/www/html/ServerView">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Directory>
<Directory "/var/www/html/AlarmService">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Directory>
<Files "sv_www.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Files>
<Files "AlarmService.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Files>
<Files "svagent.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Files>
```

## ● ユーザ認証によるアクセス制限

ServerView コンソールに接続するとユーザ認証を要求されます。以下のコマンドを実行して、ユーザの作成とパスワード設定を行います。

```
# htpasswd -c /etc/httpd/conf/svpasswd websvuser
New password: *****
Re-type new password: *****
Adding password for user websvuser
```

さらに「/etc/httpd/conf/httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "/var/www/cgi-bin/ServerView">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile /etc/httpd/conf/svpasswd
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "/var/www/html/ServerView">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile /etc/httpd/conf/svpasswd
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "/var/www/html/AlarmService">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile /etc/httpd/conf/svpasswd
    Require user websvuser
</Directory>
```

## ■ Apache についての設定 (Windows)

### ● SSL 有効でインストールを実施した場合

ServerView インストール時に SSL 有効を選択した場合、設定ファイルとして「ssl.conf」が有効となります。この場合、デフォルトの設定で WebServer 全体に対してパスワードによる制限が有効となっています。以下の設定をすると、デフォルトのパスワード設定は無効となります。

#### 接続ホストによるアクセス制限

この設定では、接続可能なホストを「192.168.0.2」のみに制限しています。

設定ファイル 「C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\conf\ssl.conf」 の以下の記述をコメントアウトします。

```
# settings for user/password authentication:  
# wwwroot  
<中略>  
#</IfDefine>
```

さらに 「C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\conf\ssl.conf」 に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">  
    Order deny,allow  
    deny from all  
    Allow from 192.168.0.2  
</Directory>  
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">  
    Order deny,allow  
    deny from all  
    Allow from 192.168.0.2  
</Directory>  
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">  
    Order deny,allow  
    deny from all  
    Allow from 192.168.0.2  
</Directory>  
<Files "sv_www.html">  
    Order deny,allow  
    Deny from all  
    Allow from 192.168.0.2  
</Files>  
<Files "AlarmService.htm">  
    Order deny,allow  
    Deny from all  
    Allow from 192.168.0.2  
</Files>  
<Files "svagent.html">  
    Order deny,allow  
    Deny from all  
    Allow from 192.168.0.2  
</Files>
```

## ユーザ認証によるアクセス制限

ServerView コンソールに接続するとユーザ認証を要求されます。コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、ユーザの作成とパスワード設定を行います。

```
C:\>cd C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\bin
C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\bin
>htpasswd -c svpasswd websvuser
New password: *****
Re-type new password: *****
Adding password for user websvuser
```

設定ファイル「C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\conf\ssl.conf」の以下の記述をコメントアウトします。

```
# settings for user/password authentication:
# wwwroot
<中略>
#</IfDefine>
```

さらに「C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\conf\ssl.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/
svpasswd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/
svpasswd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/
svpasswd"
    Require user websvuser
</Directory>
```

## ● SSL 無効でインストールを実施した場合

ServerView インストール時に SSL 無効を選択した場合、「ssl.conf」が有効となりません。この場合、デフォルトの設定で WebServer に対してパスワードによる制限は行われていません。

### 接続ホストによるアクセス制限

この設定では、接続可能なホストを「192.168.0.2」のみに制限しています。

設定ファイル「C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\conf\httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Directory>
<Files "sv_www.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Files>
<Files "AlarmService.htm">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Files>
<Files "svagent.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from 192.168.0.2
</Files>
```

### ユーザ認証によるアクセス制限

ServerView コンソールに接続するとユーザ認証を要求されます。以下のコマンドを実行して、ユーザの作成とパスワード設定を行います。

```
C:>cd C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\bin
C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\bin
>htpasswd -c svpasswd websvuser
New password: *****
Re-type new password: *****
Adding password for user websvuser
```

設定ファイル「C:\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\WebServer\conf\httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/
svpasswd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/
svpasswd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/
svpasswd"
    Require user websvuser
</Directory>
```

## ■ IISについての設定（Windows）

ここでは、Windows Server 2003 で IIS に設定を変更していない場合を例として記述します。ServerView のインストール前に IIS の DocumentRoot の変更などを行っている場合は、それに準じた設定を行ってください。  
「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「インターネット情報マネージョンサービス（IIS）マネージャ」の順にクリックして、IIS マネージャを起動します。

### ● 接続ホストによるアクセス制限

以下の 3 つのフォルダに対して設定を行います。

- 既定の Web サイト ¥scripts¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥AlarmService

- 1** 各フォルダのプロパティから「ディレクトリセキュリティ」を開き、「IP アドレスとドメイン名の制限」の [編集] をクリックします。
- 2** 「拒否する」を選択し、接続を許可したい IP／ドメイン名のみを追加します。
- 3** 「既定の Web サイト」配下の以下のファイルに対しても、同様のアクセス制限を行います。  
AlarmService.htm、AlarmService.html、svagent.htm、sv\_www.html

## POINT

- ▶ 「既定の Web サイト」に ServerView 以外のコンテンツを格納しない場合、「既定の Web サイト」そのものにアクセス制限を設定することもできます。

### ● ユーザ認証によるアクセス制限

以下の 3 つのフォルダに対して設定を行います。

- 既定の Web サイト ¥scripts¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥AlarmService

- 1 各フォルダのプロパティから「ディレクトリセキュリティ」を開き、「認証とアクセス制御」の【編集】をクリックします。
- 2 「匿名アクセスを有効にする」のチェックを外し、「認証済みアクセス」において実施したい認証を追加します。
- 3 「既定の Web サイト」配下の以下のファイルに対しても、同様のアクセス制限を行います。

AlarmService.htm、AlarmService.html、svagent.htm、sv\_www.html

## D.5 パフォーマンスマネージャにおけるリソースについて

パフォーマンスマネージャにおけるしきい値監視／レポート機能のリソースについて説明します。以下のリソースは、しきい値監視／レポート機能のどちらにも共通です。

### ■ リソースカテゴリ

以下のリソースカテゴリが存在します。

表：リソースカテゴリ

カテゴリ名	説明
Filesystem	ファイルシステムに関するリソースが格納されています。
Network	ネットワークに関するリソースが格納されています。
System Memory	メモリに関するリソースが格納されています。
System Processor	プロセッサに関するリソースが格納されています。

### ■ リソース

それぞれのカテゴリには以下のリソースが含まれます。リソースによっては複数のインスタンスを保有します。

#### ● Filesystem

表：Filesystem のリソース

リソース名	説明
System Filesystem Load	システム上のファイルシステムの使用率を監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。システム上のファイルシステム数に応じたインスタンスを保持します。

#### ● Network

表：Network のリソース

リソース名	説明
System Network Bytes In	システム上のネットワークノードにおけるデータ流入量を監視します。リソースは KB/s で監視されます。システム上のネットワークノード数に応じたインスタンスを保持します。
System Network Bytes Out	システム上のネットワークノードにおけるデータ流出量を監視します。リソースは KB/s で監視されます。システム上のネットワークノード数に応じたインスタンスを保持します。
System Network Bytes Total	システム上のネットワークノードにおけるデータの総量を監視します。リソースは KB/s で監視されます。システム上のネットワークノード数に応じたインスタンスを保持します。
System Network Performance	システム上のネットワークノードの使用率を監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。システム上のネットワークノード数に応じたインスタンスを保持します。

## ● System Memory

表 : System Memory のリソース

リソース名	説明
System Memory Physical Kbytes available	システム上の使用可能な物理メモリ量を監視します。リソースは Kbyte 単位で監視されます。
System Memory Physical Usage	システム上の物理メモリの使用率を監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。
System Memory Total Kbytes available	システム上の使用可能な総メモリ量を監視します。リソースは Kbyte 単位で監視されます。
System Memory Total Usage	システム上の総メモリの使用率を監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。

## ● System Processor

表 : System Processor のリソース

リソース名	説明
System CPU Kernel Mode Performance	システム上の CPU のカーネルによる使用率を監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。システム上の論理／物理 CPU 数に応じたインスタンスを保持します。
System CPU Performance	システム上の CPU のパフォーマンスを監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。システム上の論理／物理 CPU 数に応じたインスタンスを保持します。
System CPU User Mode Performance	システム上の CPU のユーザによる使用率を監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。システム上の論理／物理 CPU 数に応じたインスタンスを保持します。
System CPU Utilization	システム上の CPU の使用率を監視します。リソースはパーセンテージで監視されます。システム上の論理／物理 CPU 数に応じたインスタンスを保持します。

## D.6 ServerView コンソールのプロセス（デーモン）について

ServerView コンソールをインストールすることにより、OS 起動中にそれぞれ以下のモジュールが動作します。

表 : Windows の場合

プロセス名	説明
Apache.exe	ServerView コンソールで使用する Web サーバです。[注 1]
AlarmService.exe	SNMP トランプのログ履歴を作成します。
SVFwdServer.exe	SNMP トランプを受信して、イベントログ格納、メール送信、ポップアップなどのアクションを実行します。
SVArchiveServer.exe	定期的に監視サーバと通信して、ServerView の各データを収集します。
SVBmcService.exe	定期的に BMC と通信して情報を収集します。
SVServerListService.exe	ServerView コンソールに登録されている各監視サーバの管理を行います。
ExportServer.exe	エクスポートデータの作成、およびファイル出力を行います。[注 2]
SVDataProvider.exe	データベース関連を制御します。
SVDBServer.exe	定期的にデータベースと通信して情報を収集します。
SVInventoryServer.exe	インベントリ情報の収集を行います。[注 2]
SnmpTrapListen.exe	SNMP トランプを受信して、フィルタリング処理やフォワード処理を行う別モジュールに引き渡します。
SnmpListMibValue.exe	MIB 情報の一覧を採取します。
SnmpGetMibValue.exe	MIB 情報の一覧より値を獲得します。

[注 1] : IIS 環境では存在しません。

[注 2] : プロセスとして存在しますが、ServerView コンソールの機能としては動作しません。

表 : Linux の場合

プロセス名	説明
sv_ainit	ServerView 関連のファイルを削除するサービスです。
sv_fwdserver	SNMP トランプを受信して、イベントログ格納、メール送信、ポップアップなどのアクションを実行します。
sv_archivd	定期的に監視サーバと通信して、ServerView の各データを収集します。
sv_bmcservice	定期的に BMC と通信して情報を収集します。
sv_serverlistservice	ServerView コンソールに登録されている各監視サーバの管理を行います。
sv_exportd	エクスポートデータの作成、およびファイル出力を行います。[注 1]
sv_DBServer	定期的にデータベースと通信して情報を収集します。
sv_inventoryd	インベントリ情報の収集を行います。[注 1]

[注 1] : デーモンとして存在しますが、ServerView コンソールの機能としては動作しません。

# 索引

## あ

### アーカイブ

アーカイブデータのインポート	214
アーカイブデータの削除	212
アーカイブデータの作成	206
アーカイブデータの比較	211
アーカイブデータの表示	209
アーカイブデータのログ	213
アーカイブマネージャ	205
タスク設定	207
アーカイブ機能	15
アイコンリスト	279
アクセス権設定	292
アラームグループ	
アクションの設定	165
アラームサービス	143
起動	143
アラームの設定	152
アラームモニタ	145
トラブルシューティング	268
Q&A	266
アンインストール	
ServerView Windows コンソール	79

## い

異常発生の通知	15
インストール	
Java 2 Runtime Environment Standard	
Edition	66
ServerView AlarmService	48
ServerView Windows コンソール	40
Web ブラウザ	65
データベースエンジン	33
ServerView Linux コンソール	55
SNMP サービス	26
TCP/IP プロトコル	26
Web サーバ	36
インストールスクリプト	57
インポート	
アーカイブ	214

## え

エージェント	287
エージェントビュー	109
お	
オプション装置の割り込み（MIB）情報	68

## か

外部記憶装置	117
--------	-----

## こ

コンポーネントステータス	131
--------------	-----

## さ

サーバ状況の確認	15
----------	----

### サーバの構成情報

アクション情報	112
エージェントステータス	109
外部記憶装置情報	110
拡張ボードの情報	111
システム情報	110
ネットワーク インタフェースの情報	111
ファン&温度センサの情報	112
MIB-II 情報	113
サーバの再起動	115
サーバの再検出	
すべてのサーバ	103
選択したサーバ	103
サーバのシャットダウン／電源切断	115

### サーバの状態確認

外部記憶装置	117
コンポーネント	126
電源	127
ベースボード	122
構成情報	109
詳細確認	104
状態表示アイコン	101
接続確認	102

## し

しきい値	15
自動再構築＆再起動	16
シャットダウンの中止	115
手動インストール	59
消費電力表示機能	16
信号灯制御プログラム	243
使用できる信号灯	243
連携の概要	243

## す

ステータスビュー	109
----------	-----

そ	
ソフトウェアウォッチドッグ	142
た	
単位設定	98
て	
電源制御	98
と	
トラップリスト	286
トラブルシューティング	
アラームサービス	268
インストールスクリプト	256
ブラウザ	275
は	
バージョン管理機能	15
ハードウェアの監視	13
バインド順序	32
パフォーマンスマネージャ	185
起動	186
サーバへの適用	195
しきい値	187
しきい値の設定	191
リソース	300
レポートの参照／設定	195
レポートの設定	194
レポートの定義	192
パワーモニタ	215
ふ	
ブレードサーバの状態確認	
環境	134
電源	135
り	
リモート管理	16
リモートサービスボード	17
リモートマネージャ	130
リモートマネジメントコントローラ	17
れ	
レポートティング機能	16
A	
Apache	36
apache2	36, 37
サービスの自動起動設定	39

ASR（異常発生時の対処方法）	16, 136
ウォッチドッグ	141
温度センサ	139
再起動設定	140
電源 ON/OFF	141
ファン	139

## B

BOOT ウォッチドッグ	142
--------------	-----

## C

CSS	131
-----	-----

## H

httpd	36, 37
サービスの自動起動設定	38

## M

Management Information Base	288
Microsoft Internet Information Server	36

## N

Network Node Manager 連携	237
-------------------------	-----

## P

PostgreSQL	36
------------	----

## R

RAID Manager 連携	252
概要	252
起動	253
RemoteControlService	16
RSB	17

## S

ServerView	
概要	12
機能	13
コンポーネント	18
留意事項	17
ServerView AlarmService	
インストール	48
ServerView Linux エージェント	
システム要件	21
ServerView Linux コンソール	
アンインストール	81
システム要件	20
インストール	55

ServerView S2 .....	13
監視対象サーバの登録 .....	90
起動 .....	84
使用方法 .....	84
設定の確認／変更 .....	93
メニュー .....	88
MIB の登録 .....	183
ServerView Web-Server .....	36
ServerView Windows エージェント	
システム要件 .....	21
ServerView Windows コンソール	
アンインストール .....	79
システム要件 .....	19
インストール .....	40
ServerView エージェント .....	12
ServerView コンソール .....	12, 287
Q&A .....	257
Service Pack の適用 .....	33
SNMP .....	289
Systemwalker 連携 .....	228
トラブルシューティング .....	275
Systemwalker CentricMGR 連携 .....	229
Systemwalker Desktop Monitor 連携 .....	230

---

**ServerView ユーザーズガイド**

B7FH-5511-01 Z0-00

**発行日 2008年5月**

**発行責任 富士通株式会社**

---

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。